

山梨県北杜市  
西ノ原B遺跡

2009  
北杜市役所建設部  
北杜市教育委員会







山 梨 県 北 杜 市  
にしおのはら B いせき  
西ノ原 B 遺跡

2009  
北杜市役所建設部  
北杜市教育委員会

## 例　　言

1. 本報告書は、山梨県北杜市高根町村山西割 1887-1 番地ほかに所在する西ノ原 B 遺跡の発掘調査報告書である。
2. 西ノ原 B 遺跡は、遺跡番号 3-089、集落跡 繩文時代、古墳時代、平安時代として北杜市遺跡台帳に記載され、周知されている。
3. 調査は、北杜市役所建設部建築住宅課が所管する公営住宅整備事業市営西ノ原団地新築工事に伴い、平成 17 年度から平成 20 年度に北杜市教育委員会が記録保存のために実施した。
4. 調査期間は現地調査が平成 17 年 10 月 18 日から平成 20 年 7 月 18 日までの間に実施した。整理作業は現地調査終了後、平成 21 年 3 月 31 日まで発掘調査報告書作成のための調査記録、出土品の整理作業を実施した。
5. 本調査は、西ノ原 B 遺跡における第 2 次、3 次、4 次調査と呼称する。
6. 本調査は、北杜市役所が山梨県地域住宅交付金の交付を受けて調査経費を負担し、北杜市教育委員会が実施した。
7. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体　北杜市教育委員会教育長 小清水淳三（平成 19 年 10 月まで）

桜井 義長（平成 19 年 11 月から）

井出 武男（平成 20 年 11 月から）

調査担当　2 次調査 北杜市教育委員会生涯学習課文化財担当 坂口広太

3 次・4 次調査 同 上 副主幹 佐野隆

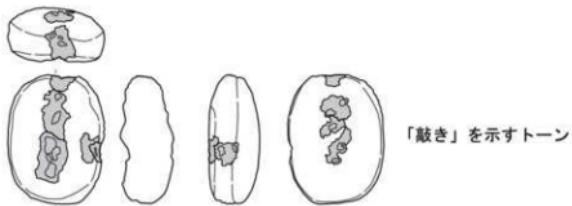
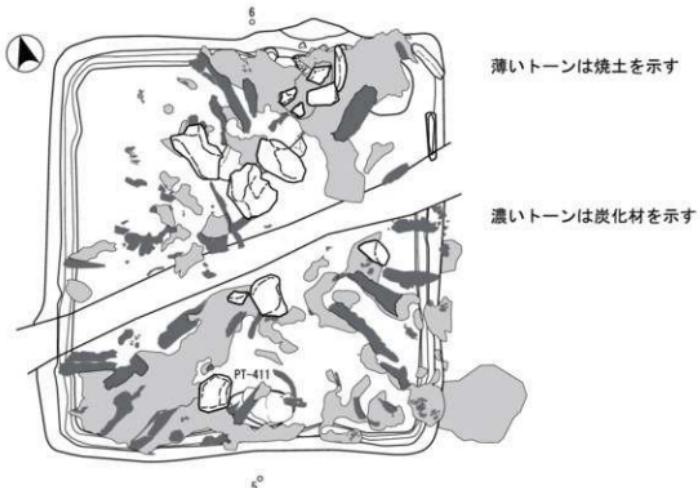
調査事務局 北杜市教育委員会生涯学習課

8. 本書の執筆、編集は、佐野があたった。
9. 現地調査において、石器実測業務を株式会社アルカ、空中写真撮影を株式会社スカイサーベイ、炭化材樹種同定業務をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
10. 本調査による調査記録および出土品は、北杜市埋蔵文化財センターが保管している。
11. 調査参加者（五十音順・敬称略）

浅川なみ子、浅川みのり、浅野好生、厚芝金夫、栗沢美香、石原すみゑ、石渡節子、井上町子、大橋晴子、小澤久恵、小野由江、長田重子、小野一英、片山和江、柏木恵美、風間まゆみ、河手寿子、川村みゆき、小松原千津、小松原俊一、酒巻正道、佐野菜津子、清水さゆり、清水貞子（明野町）、清水貞子（高根町）、清水洋江、清水ヤス子、清水泰倫、鈴木節夫、鈴木照香、高木聰美、田代武士、田中彰、壱屋てる子、西川大、野崎美智江、畠山己幸、藤原喜美子、三井照平、三井喜満、三井つや子、森脇つや子、八巻まさ子、八巻久子、八巻光子、山路理恵、山田雅子、山中敏夫、山本忠江、吉田誠一

## 凡　　例

1. 報告書中の地図は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 数値地図『甲府』、北杜市役所発行『北杜市全図』、旧高根町発行『高根町全図』、北杜市役所地理情報システム収録図を用いた。
2. 報告書中の土壤および土器胎土の色調は、『新版標準土色帖』財団法人日本色彩研究所に拠った。
3. 報告書中の遺構図面および遺物実測図の網掛けは、右図のとおりである。



例言

凡例

目次

第1章 遺跡の概要と調査に至る経緯 .....	1
第1節 遺跡の概要 .....	1
第2節 調査に至る経緯と調査の経過 .....	1
第3節 調査の方法 .....	3
第2章 遺跡の概要 .....	3
第1節 遺跡の概要 .....	3
第2節 地理環境 .....	4
第3節 周辺の遺跡 .....	4
第3章 調査の方法 .....	8
第4章 調査された遺構と遺物 .....	19
第1節 縄文時代前期の遺構と遺物 .....	19
第2節 縄文時代中期の遺構と遺物 .....	22
第3節 古墳時代の遺構と遺物 .....	27
第4節 平安時代の遺構と遺物 .....	31
第5節 時期不明の遺構と遺物 .....	33
第5章 西ノ原B遺跡の石器の属性観察 .....	139
第1節 石器の選択と整理の方法 .....	139
第2節 各時期の石器の特徴 .....	140
第3節 石器の同時性及び廃棄の問題 .....	146
第4節 黒曜石の原産地分析について .....	147
第6章 出土黒曜石の産地推定 .....	148
第7章 総括 .....	151

## 第1章 遺跡の概要と調査に至る経緯

### 第1節 遺跡の概要

西ノ原B遺跡は、山梨県北杜市高根町村山西割 1887-1 番地とその周間に所在する、縄文時代前期、中期、古墳時代前期、平安時代の集落跡である。

以前より土器等が採集できることから周知の埋蔵文化財包蔵地として知られ、昭和60年度には、水田の圃場整備事業に伴い高根町教育委員会（当時）が一部を発掘調査し、古墳時代前期の住居跡1軒と土坑10基を検出している（第1次調査）。

遺跡は、八ヶ岳南麓の標高 710m 付近に所在する。周囲は山麓を流れた小河川が形成した谷地形と尾根とが交互に連続する地形で、遺跡は比較的広い尾根上に展開する。昭和60年度の調査地点は、圃場整備工事で尾根東端を切土造成するために実施したもので、遺跡の東端に相当する。

本報告書で報告する平成17年度と19年度、20年度の第2次～4次調査では、尾根上を4,000 m<sup>2</sup>にわたりて発掘調査を実施し、縄文時代前期前葉の住居跡5軒、前期前葉の住居跡1軒、中期初頭から末葉の住居跡14軒、古墳時代前期の住居跡10軒と掘立柱建物跡5棟、方形周溝墓1基、平安時代の住居跡6軒と掘立柱建物跡3棟、時期不明の溝跡3条、道路跡1条、杭列1条、各時期の土坑約350基などが検出されている。各時期の集落跡は、これらの調査区域のさらに周辺に広がっている。

### 第2節 調査に至る経緯と調査の経過

西ノ原B遺跡が展開する尾根上には、昭和34年から47年にかけて、高根町（当時）が町営住宅29戸を建設整備していた。これらの町営住宅は老朽化が著しいことから、平成16年度に合併して発足した北杜市は、市内の公営住宅を順次、建替しつつ統合整備する公営住宅建設事業を計画し、平成17年度から19年度までの3ヵ年計画で、旧町営西原住宅29戸を解体撤去し、3棟の集合住宅を建設することとなった。

平成17年度の住宅整備計画は、従前の町営住宅敷地の北側の畠地を買収し造成して、最初の住宅棟を建設するものであった。そこで、事業担当課である北杜市建設部住宅建築課は、市教育委員会生涯学習課文化財担当に埋蔵文化財の有無を照会し、文化財保護法第94条による通知を提出するとともに、生涯学習課は、用地買収した畠地において埋蔵文化財所在確認のための試掘調査を実施した。

試掘調査は、平成17年6月6日より6月14日まで、新たに用地買収した高根町村山西割1924番地、1926-1番地、1926-2番地の畠地3筆、計2,050 m<sup>2</sup>を対象に実施した。試掘溝18本を発掘して、縄文時代の住居跡11軒、古墳時代前期の住居跡3軒などを検出し、用地全面に埋蔵文化財が所在することを確認した。

この調査結果を受けて、市住宅建築課と生涯学習課とで協議し、公営住宅整備事業山梨県交付金の交付内示が見込まれる平成17年9月以降に、用地全面において、調査予算4,000千円で発掘調査を実施することとした。

発掘調査は、平成17年10月18日に着手した。当初計画した用地2,050 m<sup>2</sup>の一部において、旧地権者と事業担当課の間で土地明け渡しを時期の錯誤があったことから、発掘調査は、1,202 m<sup>2</sup>を対象に実施することとなった。昭和60年度の最初の発掘調査から数えて、第2次調査となる。

発掘調査に着手して間もなく、多数の遺構が複雑に重複して分布する状況が確認され、調査経費は4,000千円を上回ることが確実となつたため、建築住宅課と生涯学習課とで再協議し、調査経費を増額して7,800千円とすることを合意し、調査を継続した。

平成17年度の発掘調査は、平成18年2月8日から3月13日までの中断期間をはさんで、平成18年3月29日まで実施し、縄文時代の住居跡19軒、古墳時代の住居跡4軒、掘立柱建物跡4棟、土坑約300基を調査した。この間、土地明け渡しを巡る錯誤で未調査となっていた土地の一部617 m<sup>2</sup>も調査対象とした。調査経費は、当初計画額の7,800千円で、うち45%に山梨県地域住宅交付金を充当した。

平成18年度は、最初の住宅棟の建設工事が、平成17年度発掘調査区域で施工されたため、埋蔵文化財の発

掘調査等は発生しなかった。

平成 19 年度は、平成 17 年度において未調査となっていた 1924 番地の一部 231 m<sup>2</sup>において、旧地権者が構造物等を撤去したため、発掘調査を実施することとした。この第 3 次となる発掘調査は、隣接地で最初の住宅棟の建設工事が進むなか、平成 19 年 5 月 29 日に着手し、6 月 15 日に完了した。検出された遺構は、縄文時代中期初頭から前葉の住居跡 5 軒、古墳時代前期の住居跡 1 軒、掘立柱建物跡 1 棟、土坑 26 基、ピット 47 基である。調査経費は 1,265,861 円で、全額を北杜市が負担した。

この調査と併行して、平成 19 年度には旧町営住宅を解体撤去し、埋蔵文化財の発掘調査を実施することとしていたが、入居者への事業説明、立ち退き依頼の事務手続きが遅延し、解体工事の着手が大幅に遅れて、年度内の埋蔵文化財調査の着手完了が困難となった。このため、平成 19 年度当初予算に計上した調査費 12,000 千円は、そのまま繰越明許費として平成 20 年度に繰り越すこととした。

平成 19 年度末には、旧町営住宅 29 戸の解体撤去工事が施工され、平成 20 年 3 月 17 日から 3 月 19 日に、更地となつた 1887-1 番地と 1887-2 番地 2 箇 5,551 m<sup>2</sup>を対象として、試掘調査を実施した。これまでの発掘調査成果から埋蔵文化財が所在することは明らかであったため、遺構の分布密度と範囲を確認するために、用地を南北に縦断する試掘坑 5 本を発掘した。

試掘調査の結果、縄文時代の遺構は、平成 17 年度調査区域から南側にはもはや分布しないこと、古墳時代と平安時代の遺構が用地のほぼ全体に疎らに分布すること、検出された遺構は、旧町営住宅の建設工事の結果と思われる削平により保存状態が悪いこと、2 次調査区と 4 次調査区の間は旧町営住宅敷地の造成により削平されて遺構が失われていること、が明らかとなった。

また、新たな住宅棟 2 棟の工事と併行して、住宅から周辺集落へとつながる市道の新築工事が計画されていたため、市道建設用地でも試掘調査を実施した。道路用地はすでに農地として造成・削平されており、古墳時代の住居跡 1 軒がからうじて保存されているのみであった。こうして、遺構が保存されている範囲 2,130 m<sup>2</sup>を絞込んで調査区域とし、発掘調査を実施した。

平成 20 年度の調査で検出された遺構は、縄文時代中期末葉の住居跡 1 軒、古墳時代の住居跡 5 軒と方形周溝墓 1 基、平安時代の住居跡 5 軒と掘立柱建物跡 4 棟、中世以降の溝跡 3 条、道路跡 1 条、杭列 1 条、土坑約 20 基である。

平成 20 年度は、上記の現地発掘調査後に、これまでの調査記録と出土品の整理作業と資料化、発掘調査報告書の作成、刊行作業を実施した。現地調査とあわせた調査経費は、12,000 千円で、45% が山梨県地域住宅交付金である。

以上、平成 17 年度から 20 年度にかけて実施した第 2 次から 4 次までの調査は、調査面積合計が 4,180 m<sup>2</sup>、調査経費は整理作業費まで含んで 21,065,861 円である。

以下に西ノ原 B 遺跡の発掘調査に関連する公文書を掲げておく。

平成 17 年 6 月 3 日 北杜建住第 314 号	埋蔵文化財発掘の通知
平成 17 年 6 月 20 日 北杜生学事務連絡	市営西原田地建替工事にともなう埋蔵文化財所在確認調査（試掘調査）の調査結果報告について
平成 17 年 6 月 21 日 教学文第 724 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）
平成 20 年 3 月 18 日 北杜生学第 1214-1 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について（試掘調査）
平成 20 年 3 月 21 日	埋蔵文化財立会・試掘調査結果報告書
平成 20 年 6 月 16 日 北杜生学第 329-1 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 20 年 7 月 24 日 北杜生学第 329-2 号	埋蔵物発見届
平成 20 年 7 月 24 日 北杜生学第 329-3 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 20 年 7 月 24 日 北杜生学第 329-4 号	埋蔵文化財保管証
平成 20 年 7 月 24 日 北杜生学第 329-5 号	埋蔵文化財保管請証

### 第3節 調査の方法

調査の方法を記しておく。前節に記したとおり調査は工事計画に従い、平成17年度(第2次調査)、平成19年度(第3次調査)、平成20年度(第4次調査)に分割して実施した。第2次調査区は調査着手前には畠地であった。第3次調査は宅地、第4次調査は旧町営住宅であった。

まず0.7t重機を用いて表土を剥ぎ取った。地表から20cm程度で土器等が出土し始める。これらを取り上げながら、搅乱が少なく遺構が確認できる深さまで慎重に掘り下げる。遺構の保存状態から全ての調査区で最低でも数十cm以上、最大では1m以上が削平されていると推測される。

表土剥作業と併行して、調査に伴う測量の基準点を設置した。基準点は市営住宅工事のために設置された公共座標系に基づく基準点を用い、必要に応じて下位基準点を設置した。遺構の形状、遺物の出土位置などは光波測量器を用いて、公共座標系により測量、記録した。調査の記録写真は中判カラーネガフィルムと35mm判デジタルカメラにより撮影した。

出土遺物は、作業の能率を勘案し、概ね3cm以上の土器破片、石器、石材は、全点を光波測量器をもって出土位置を記録した。3cm未満の土器破片、黒曜石などの微小な剥片は、遺構一括、遺跡一括として取り上げた。

測量の都合上、遺構と遺物の出土位置は以下の略記号をもって表現した。遺物は以下の遺構記号の下位に遺物番号を付した。遺物の注記は、2次調査は西ノ原Bの略NHBに、3次調査と4次調査は西ノ原B遺跡のコード番号「3-89」に、以下の遺構記号、さらに遺物番号を記載した。「3-89 PJ-041 0001」は、西ノ原B遺跡 41号住居 取り上げ番号1を意味する。

PJ-000 繩文時代の住居跡

PK-000 古墳時代の住居跡

PH-000 平安時代の住居跡

HO-000 挖立柱建物跡

HB-000 方形周溝墓

DK-000 土坑

PT-000 ピット

MZ-000 溝跡

KI-000 杭列(柵列)

IG-000 遺構外出土遺物

必要に応じ遺構の微細図を作成した。作図は1/10、1/20を基本とし、作図原点は光波測量器をもちいて測量記録した。

整理作業では、遺構図面、土器および石器等の実測図を作成した。遺構図面は光波測量器を用いて作図した測量原図をAdobe社製Illustratorで編集加工し作成した。作業員による遺構微細図、遺物実測図も同じソフトを用いてデジタルトレースし、報告書原稿とした。報告書中の遺構、遺物の時期については、山梨県史に従った(今福1999、坂本1999)。報告書に掲載した遺物は、図版番号順に整理し、市理藏文化財センターが収蔵保管している。

### 第2章 遺跡の概要

#### 第1節 遺跡の概要

西ノ原B遺跡では、繩文時代前期前葉、中越式期の住居跡5軒、前期末葉の住居跡1軒、中期初頭から中葉の住居跡13軒、中期末葉曾利式期の住居跡1軒、古墳時代前期の住居跡10軒、方形周溝墓1基、掘立柱建物5棟、平安時代の住居跡6軒、掘立柱建物3棟、中世以降の道路跡1条、溝跡5条、柵列1条が検出されている。

第1章に記したとおり、本調査着手前の遺跡は、2次調査区が畠地、3次調査区が宅地、4次調査区が旧町営住宅として利用されていた。こうした土地利用により遺跡の表層は削平され、全体に遺構の保存状態は不良である。下図に遺跡の基本層序図を掲げる。基本層序は4次調査区南東角部、2号溝南端付近で記録したものである。1層から6層まで1.5m以上にわたり水田として利用されていた頃の鉄分の沈着層、耕作土層、町営住宅敷地造成のための盛土層が連続していて、遺構確認面は大きく削平されていることがうかがえる。このような状況でも先述のとおり複数時期の遺構が検出されている。

縄文時代前期前葉の中越式期には、釜無川沿いの北杜市白州町上北田遺跡、板橋遺跡などで大規模な集落跡が知られ、八ヶ岳南麓では小規模な遺跡が比較的多く検出されている。本遺跡も前期集落の全体像は確認できないが、一定以上の住居跡が検出されている。今後、釜無川沿いの地域と八ヶ岳南麓との比較検討が期待される。

八ヶ岳南麓での方形周溝墓の検出は、北杜市長坂町北村遺跡、頭無A遺跡を含めて3例目であり、遺跡周辺が古墳時代前期の開発拠点のひとつであることをうかがわせる。平安時代には11世紀後半の集落跡が確認された。八ヶ岳南麓の平安時代集落は9世紀後半に出現して大規模な集落を形成するものの10世紀には急減し、11世紀代の遺跡はほとんど知られていないだけに、貴重な事例である。



## 第2節 地理環境

西ノ原B遺跡は、八ヶ岳の南麓、標高710m付近に所在する。広大な八ヶ岳の裾野には、豊富な湧水と雨水を水源とする多数の小河川が流れ、大小の河谷と旧河道を刻んでいる。河谷と旧河道との間には大小の尾根筋が南北に走り、特に西ノ原B遺跡がある標高700m付近から低い地点では、尾根筋と河谷との比高差が大きく、起伏に富んだ地形となっている。尾根筋は、河谷の発達状況により、標高の低い地点ほど、二筋、三筋と侵食分割されている。遺跡付近には、甲川、西川、雲雀沢川とその支流が流れ、遺跡は、東西を河谷と旧河道に挟まれた幅100mほどの尾根筋に展開している。

遺跡の東に走る雲雀沢川の支流が形成した河谷は、幅200mほどで、遺跡との比高差は10m程度であり、現在は水田となり、支流も農業用水路のようになっている。遺跡の西側には、この支流がさらに西側を流れる甲川が形成したと思われる旧河道地形があり、畑地や山林となっている。

遺跡が展開する尾根筋は、幅100m程度であるが、現状では比較的平坦で、南に向かって緩やかに傾斜している。周辺には小規模な民間工場、住宅、畠地、山林が分布している。

## 第3節 周辺の遺跡

前章で触れたとおり、西ノ原B遺跡では、縄文時代前期、中期、古墳時代、平安時代の集落跡が確認された。以下には、各時期ごとの周辺遺跡の状況を紹介する。

### 縄文時代前期の周辺遺跡

土器の細分型式による西ノ原B遺跡の縄文時代前期集落の時期は、前期前葉の中越式後半期、関山式の併行期

と思われる。八ヶ岳南麓の当該時期の遺跡は少なく、発掘調査により詳細が判明している遺跡は、酒呑場遺跡、小屋敷遺跡、甲ヶ原遺跡、山崎第4遺跡、金生遺跡があるに過ぎない。さらに周辺に目を転じると、八ヶ岳西麓と釜無川流域で阿久遺跡、阿久尻遺跡、坂平遺跡、上北田遺跡、板橋遺跡、黒沢遺跡があり、塩川流域から茅ヶ岳西麓で、津金御所前遺跡、原の前遺跡、寺前遺跡を挙げることができる。

以下には、西ノ原B遺跡の理解に資すると思われるこれらのほか同時期の各遺跡について、その時期と遺構の内容を確認しておきたい。

#### 酒呑場遺跡

酒呑場遺跡は、西ノ原B遺跡の西南西約4kmの北杜市長坂町長坂上条地内に所在する。山梨県農務部農業試験場の施設更新に伴い、平成6年度の第1次調査から平成13年度の第4次調査まで、山梨県埋蔵文化財センターにより広範囲にわたって発掘調査が実施された。前期後葉から中期末葉までの環状集落を主体とし、長期にわたり継続的に営まれた大規模な集落遺跡である。

前期前葉の中越式期では、酒呑場遺跡B区、C区で住居跡が1軒ずつ確認されている。前期後葉以降の遺構と重複して遺物量が少ないためか、報告書に図示された遺物が限られるが、中越II式（渋谷2008）以降に位置づけられるようである。遺構外遺物では、渋谷昌彦がさらに古く前期初頭に位置づけられるとする、口縁部直下にタガ状の隆帯を巡らせた坂平式土器らしき破片もある（渋谷2006）。

このように細分時期は不明確であるものの、前期初頭から中越式後半に及ぶ集落經營が想定されよう。

#### 小屋敷遺跡

小屋敷遺跡は、西ノ原B遺跡の西北西約2kmの北杜市長坂町大八田地内に所在する。平成3年度に県営圃場整備事業に伴い、また平成11年度には宅地造成開発に伴い、長坂町教育委員会（当時）による発掘調査が実施されている。

前期前葉の遺構は、平成11年度のE地区発掘調査で住居跡2軒が確認されている。小破片ばかりであるが、細分時期は木島V式（渋谷1991）前後と神ノ木台式もしくは坂平式期である。2軒の住居跡は柱穴が不明瞭で、中越式期の4本主柱穴が明瞭なそれとは異なる。

#### 甲ヶ原遺跡

甲ヶ原遺跡は、西ノ原B遺跡の北北西約2kmの北杜市大泉町西井出地内に所在する。県道須玉・八ヶ岳公園線の新築工事に伴い平成2年度から平成9年度まで山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、縄文時代前期後葉、中期全般の集落跡が確認された。時期が異なる複数の環状集落が、ほぼ同一地点に継続的に営まれた大規模な集落跡である。

前期初頭から前葉では、第3次調査で木島V～IX式、中越式と思われる土器を伴う方形で床炉をもつ住居跡1軒、第5次調査で神ノ木式期の住居跡1軒が確認されている。調査対象面積は、新築道路の幅員のみであるが一定規模があり、それでも2軒のみしか住居跡が確認されていないということは、本来的に小規模な集落であったか、もしくは前期後葉以降の遺構と重複して消滅してしまったのかどちらかと思われる。遺構外出土遺物にどのくらいの前期初頭から前葉の遺物があったのか報告書には記載されていないので、判断できない。

#### 山崎第4遺跡

山崎第4遺跡は、西ノ原B遺跡の北西約3kmの北杜市大泉町西井出地内に所在する。公営住宅建設のために平成元年から4次にわたる発掘調査が実施され、縄文時代前期初頭から中葉の住居跡9軒、前期後葉の住居跡11軒、中期初頭から末葉の住居跡9軒、平安時代の住居跡3軒などが検出されている。

調査成果が未報告であることから前期初頭から前葉の住居跡に伴う土器型式ははつきりしないが、薄手の木島式と思われる土器破片、繊維を多量に含む無文土器で指頭圧痕が顕著なもの、客観的に縄文が施文されるものが

出土しているということから（山梨県 1998 山梨県史資料編 1 原始・古代 1）、中越式と関山式、木島式などが共伴する段階の集落跡と予想される。

八ヶ岳南麓でこれまでに発掘調査された遺跡では、西ノ原B遺跡とともに比較的規模の大きな集落跡といふことができる。

#### 金生遺跡

金生遺跡は、西ノ原B遺跡の北西約 2.5km の北杜市大泉町谷戸地内に所在する。昭和 55 年に県営圃場整備事業に伴い発掘調査が実施されて縄文時代後晩期の配石遺構を伴う集落跡が確認され、昭和 58 年に一部が国史跡に指定されている。

長方形で地床炉をもつ 2 号住居は、出土土器から前期初頭に位置づけられている。坂平式と思われる隆帯を口縁部に巡らせた土器、前半段階の木島式と思われる薄手の土器、纖維を多量に含む縄文施文の土器などの破片が報告されている。これらの土器から見る限り、西ノ原B遺跡よりは古い時期の遺構である。

#### 阿久遺跡

阿久遺跡は、西ノ原B遺跡の北西約 24km の長野県諏訪郡原村に所在する。中央自動車道建設に伴い昭和 51 年から 54 年にかけて発掘調査された縄文時代前期を主体とする集落跡である。昭和 54 年に国史跡指定されたが、中央自動車道の路線変更が困難であることから、道路下に埋設保存されることとなった。周知のとおり、阿久遺跡は当該時期の八ヶ岳西麓から南麓一帯でも最大規模の集落跡で、検出された遺構等は報告書によると次のとおりである。

前期初頭の花積下層式併行期（中越 I 式）では住居 1 軒、前期前葉の関山式併行期（中越 II ～ IV 式）では住居 30 軒、方形柱列、前期中葉の有尾式期では住居 19 軒、前期後葉の諸磯式期では住居 14 軒、方形柱列、集石群が検出されている。阿久遺跡は、先述のとおり遺跡の現状保存方針が決められたため、前期後葉の遺構検出面で調査が修了したこともあり、前期前葉段階の遺構の全容は必ずしも明らかではない。

#### 阿久尻遺跡

阿久尻遺跡は、阿久遺跡の西 300m ほどの阿久遺跡から連続する尾根上、長野県茅野市金沢木舟地内に所在する。県営工業団地造成工事に伴い平成 2 年と 3 年に茅野市教育委員会が発掘調査を実施し、前期前葉の中越式期の住居 31 軒、方形柱穴列 20 棟が検出されている。阿久遺跡では必ずしも明らかでない前期前葉の集落構造が明らかにされた遺跡で、その一部は現状保存されている。

阿久尻遺跡で注目すべきは、通常の竪穴住居跡と方形柱穴列の分布域が異なっている点である。これをどう解釈するか。これら建物跡の機能や構築時期に係る問題である。

#### 坂平遺跡

坂平遺跡は、長野県諏訪郡富士見町上萬木地区に所在する。西ノ原B遺跡からは、北西に約 12km である。土地改良事業に伴い平成 8 年度に富士見町教育委員会が発掘調査を実施した。この発掘調査は、切土造成部分のみを対象とした限定期的なものであったが、縄文時代前期初頭から前葉の住居跡 63 軒と方形柱穴列 6 棟などを検出し、この遺跡が阿久遺跡などと並ぶ大規模な生活址であることを明らかにした。

下吉井式、花積下層式、関山式、木島式、中越式、仲ノ木式などの土器が出土しており、西ノ原B遺跡よりも縦縫時期が長期にわたる。土器型式的にも「典型」的なそれらの土器型式と、「在地」系のそれとの識別などが問題提起されていて、西ノ原B遺跡の土器型式組成を考える上でも重要な視点を示してくれている。

#### 上北田遺跡・新居道上遺跡

上北田遺跡と新居道上遺跡は、西ノ原遺跡の西南西約8km、北杜市白州町横手地内に、隣接して所在する。平成2年度と平成3年度に土地改良事業に伴い旧白州町教育委員会が発掘調査を実施した。両遺跡は、それぞれ別個の遺跡として遺跡台帳に記載されているが、同一の屋根上に広がり、縄文時代前期前葉の集落跡としては一体とみてよい。

上北田遺跡では、縄文時代前期前葉の住居跡22軒が検出され、中越II式から中越IV式、木島式、神ノ木式、在地系の無文土器などが伴う。滑石製の垂飾などの装身具が出土している。クリ、クヌギの炭化堅果が出土している。新居道上遺跡では、上北田遺跡と同時期の住居跡1軒が検出されている。両遺跡合わせると23軒の住居跡が確認されているが、方形柱穴列は未検出である。阿久尻遺跡のように別地点に方形柱穴列が集中するのか、本来的に存在しないのかが問題となろう。

#### 板橋遺跡

板橋遺跡は、西ノ原B遺跡のほぼ西側、約9kmの北杜市白州町下教来石地内に所在する。民間工場工事に合わせて平成元年に旧白州町教育委員会が1,000m<sup>2</sup>を対象に発掘調査を実施した。縄文時代前期前葉の住居跡3軒などが検出されている。出土土器は木島式、中越式、在地系の無文土器である。繊維を含む土器が全体の6割を占めるという。また、羽状縄文を施した土器破片は1点も出土していないといふ。

調査地点は遺跡の北端に相当すると思われるが、主体となる地点は明治43年に旧鳳来小学校を建設する際の造成工事で削平されているといふ。しかし、この報告書を執筆している時点で新たな民間工場建設計画が生じたため試掘調査を実施したところ、平成元年調査地点の南側の、約8000m<sup>2</sup>に方形柱穴列を含む多数の遺構が分布していることが明らかになった。上北田遺跡と同等かそれ以上の規模の集落跡であるらしい。

#### 黒沢遺跡

黒沢遺跡は、西ノ原B遺跡の南西6.5km、北杜市武川町黒沢地内に所在する。縄文時代中期が主体となる小規模な集落跡であるが、平成9年度と10年度に個人住宅建設に伴い旧武川村教育委員会が実施した発掘調査で、前期前葉の住居跡1軒が検出されている。

住居跡はプランが不明瞭であるが隅丸方形であろうか。神ノ木式土器、無文土器が出土している。

#### 御所前遺跡・原の前遺跡

御所前遺跡は、西ノ原B遺跡の北東約4km、北杜市須玉町下津金地内に所在する。出産文土器で著名な中期を主体とする集落跡であるが、前期前葉の土器を伴う住居跡1軒が検出されている。土器は繊維を含む無文土器が主体で、中越式か木島式と思われる薄手、無繊維で粗い格子目文を施した土器などが伴う。

原の前遺跡は、御所前遺跡と連続する中期主体の集落跡で、繊維が混じる土器破片が出土しているといふ。

#### 寺前遺跡

寺前遺跡は、西ノ原B遺跡の南東4.5km、北杜市明野町上神取地内に所在する。土地改良事業に伴い平成11年度と12年度に旧明野町教育委員会が73,000m<sup>2</sup>にわたって発掘調査を実施した。縄文時代前期中葉と後葉、中期末葉、平安時代、中世を主体とする遺跡であるが、前期前葉の住居跡2軒が検出されている。木島IV式、無文土器が伴う。寺前遺跡が所在する塩川左岸の河岸段丘には、草創期から早期の神取遺跡も知られている。

西ノ原B遺跡の周辺に知られる縄文時代前期前葉、中越式併行期の遺跡の状況を概観した。大まかな傾向として、西ノ原B遺跡を含むハケ岳南麓の当該時期遺跡の規模は概して大きくなり、西ノ原B遺跡、山崎第4遺跡などが比較的住居数の多い遺跡である。方形柱穴列は確認されていない。また、出土土器の組成中における中越式の比率は低く、無文土器が多い。これに対して釜無川沿いには、阿久遺跡、阿久尻遺跡、坂平遺跡、板橋遺跡、上北田遺跡など住居数が数十軒にも及ぶ規模の大きな遺跡が多く、阿久遺跡、阿久尻遺跡、坂平遺跡、板橋遺跡

では、方形柱穴列を伴う。

ほぼ同時期でありながら、八ヶ岳南麓と釜無川沿いの両地域で、集落経営のあり方、土器に象徴される文化要素の系統に差異があったものと想定される。本報告書では、こうした差異の実態を少しでも明らかにする観点から、西ノ原B遺跡の土器組成、石器組成、住居形式などに配慮した記載を心がけたい。

#### 参考文献

- 渋谷昌彦 1991「中越式土器の研究」『縄文時代』第2号  
渋谷昌彦 2006「坂平式土器の設定」『長野県考古学会誌118』  
渋谷昌彦 2008「坂平式土器」小林達夫編『縄文土器』IMプロモーション

### 第3章 調査の方法

本章では、試掘調査と発掘調査の方法を記載する。

#### 試掘調査

発掘調査地は、公営住宅と畑地であった。公営住宅の敷地は、平成20年度に古い住宅建物を撤去した後に、また畑地は平成17年度に、耕作物の収穫後に、それぞれ小型重機を用いて試掘溝25本を発掘し、人力で試掘溝内を精査し、遺構の有無、遺構密度、遺構が分布する範囲を確認して、本発掘調査のための遺跡情報を取得した。この試掘調査で出土した遺物は、全て試掘溝単位で一括して取り上げた。試掘調査の結果、新しい公営住宅用地のほぼ全面に遺構が分布することが判明した。

#### 発掘調査

新しい公営住宅建物の工事が平成17年度から19年度までの第1期工事、平成20年度から21年度までの第2期工事とに分かれることから、発掘調査も平成17年度、19年度、20年度の3カ年度にわたり、公営住宅敷地を3分割して実施した。

表土は大型重機を用いて剥ぎ取った。この際、調査員1名と作業員若干名が立会い、表土に含まれる遺物を回収するとともに、精査を行い、遺構を確認した。排出された表土は公営住宅敷地内で遺構が分布しない区域に集積した。

確認された遺構は、住居跡、土坑、溝跡などの種類に応じて、調査方法を選択した。

住居跡は、竪穴の保存状態に応じて、埋土観察のためのセクションベルトを2本ないし1本を設定し、人力により発掘調査した。竪穴の保存状態が悪く、埋土厚が10cmに満たない場合は、セクションベルトを設けずに入発掘調査した。

出土品は、概ね3cm四方程度の大きさより大きな土器破片と石器は、光波測量器を用いて出土位置を記録しながら個別に取り上げ番号を付して取り上げ、それ以外の小さな土器破片、石材の剥片類は遺構一括で取り上げた。

住居跡内の柱穴、炉跡等の出土品は、それぞれの遺構単位の一括で取り上げた。また、出土状況を微細図に記録する必要がある場合には、実測図を作図し、実測図において遺物番号を付し、出土位置、高さを記録して取り上げた。

住居跡は床面が明瞭に検出された場合は、床面以上の調査を終了した後に、床面を剥ぎ取り、住居掘り方を調査した。ただし、全般に良好な床面が検出されなかつたことと、床面が検出された場合でも住居掘り方に顕著な特徴が認められなかつたため、古墳時代前期の24号住居などを除き、明瞭な掘り方は確認できなかつた。

住居跡内で確認された柱穴は、柱痕を確認するため確認面から10cm程度掘り込んで、半截して埋土断面を観

察した。必要な場合には埋土断面の写真を撮影し、微細図を作図した。柱痕が確認されなかった場合は、埋土を観察表に記載するに留めた。

調査の過程で、遺構の検出状況、遺物の出土状況、埋土断面、柱穴、焼跡等の検出状況など、必要に応じて記録写真を撮影した。撮影に用いた機材は、6×7判カメラ、35mm判デジタル一眼レフカメラである。フィルムはカラーネガフィルムを採用した。また、株式会社スカイサーベイに遺跡立地と周辺景観を記録する空中写真撮影を委託した。

遺構の形状、遺物の出土位置等は、公共座標（世界測地系）値をもつ4級相当基準点とともに、光波測量器を用いて測量し、測量データをキャドソフトにて編集図化した。

土坑、溝跡などの遺構も基本的に住居跡の調査方法に準じて実施した。土坑、ピットの埋土観察所見は観察表に記載した。

#### 整理作業

出土品は全て人力にて水洗し、専用インクジェットプリンターと小筆を用いて注記した。年度により調査担当者が異なったため、注記事項に若干の差異がある。平成17年度調査に相当する第2次調査の出土品の注記事項は、「遺跡名略号」、「出土遺構名」、「取り上げ番号」、「出土層位を示す記号」である。平成19年度と20年度の第3次調査と第4次調査の出土品には、「遺跡番号」、「調査次元」、「出土遺構名」、「取り上げ番号」、「出土層位を示す記号」を注記した。遺跡コード番号は、北杜市遺跡台帳に記載された番号で、西ノ原B遺跡は「3-89」である。遺跡略号は「NBB」とした。第3次調査と第4次調査の遺構外出出土品には、略号「IG」を記載した。第2次調査の場合は、単に遺跡略号のみを記載している。「出土層位を示す記号」とは、「床」、「床下」などである。先述したとおり、遺物を埋土層位ごとに取り上げていなかったため、第〇層などとは注記していない。

土器破片の接合は、基本的に遺構単位で実施し、遺構間の接合は重複する場合のみに確認した。また作業対象の遺構が試掘構と重なっている場合には試掘構遺物との接合を確認した。また、遺構周辺の遺構外出出土遺物との接合も確認した。接合は木工用ボンドを用い、空隙を埋めるために合成樹脂を用いた。

土器と石器の一部の実測は、整理作業員が行い、調査担当者が図面を確認した。打製石器、剥片石器、剥片の実測と観察は、株式会社アルカに委託した。実測対象とする土器、石器の抽出は、調査担当者と実測業務の受託者とで行った。土器の場合は、当該遺構の時期、土器型式の系統、出土位置による土器型式差などに注意して抽出した。石器の場合は、当該遺構で出土した石器の組成、製作技法を示す剥片等に注目して抽出した。本報告書の打製石器等の観察所見は、受託者が納品した観察所見の報告書を元に調査担当者が記載している。

実測図のトレースと報告書原稿の作成はすべてコンピューターを用いた。使用したソフトはAdobe社製Illustrator、PhotoshopとIn Designである。

報告書に掲載する遺物は詳細な観察所見を観察表に記載した。

西ノ原B遺跡の第29号住居跡は、平安時代の火災住居であることから、現地調査において主要な建築部材の炭化材を回収した。これらの樹種を同定するためパリノ・サーヴェイ株式会社に同定業務を委託した。その結果は、第4章に報告する。

報告書の執筆は、第3次調査と第4次調査の調査担当者が行った。本報告書を作成した平成20年度には、第2次調査の担当者がすでに退職していたためである。

報告書は、指名競争入札により落札した印刷製本業者に印刷製本を発注し、300部を印刷製本した。うち約200部を関東中部地方を中心に、都道府県立埋蔵文化財センター、法人組織埋蔵文化財センター、市町村教育委員会もしくは市町村立埋蔵文化財センター、国立国会図書館、公立歴史系博物館等、考古学研究室を有する大学などに配布し、調査成果の公開と活用を期した。

出土品は、北杜市埋蔵文化財センターにて、遺構単位で、また報告書掲載分とそれ以外とに分別整理したうえで収蔵管理し、今後の活用に備えている。



第1図 西ノ原B遺跡と周辺遺跡の位置図(1/50,000)

### 縄文前期初頭

遺跡番号	遺跡名	遺構数
2-108	桑原南	縄文前期初頭と前葉で住居2軒。
2-113	御屋敷西	堅穴住居(縄文前期初頭 1・縄文 1・平安 2)。
3-184	薬師堂	時期不明の土坑63基(縄文早期～中世)。
4-064	小屋敷	堅穴住居2軒。堅穴造構2基。縄文と平安の土坑30基(木島式 1・前期初頭以前 1を含む)とビット55基。
5-054	金生	堅穴住居1軒。
5-063	甲ヶ原	縄文前期初頭～平安までの住居113軒(前期初頭 1・諸磯 22・五領ヶ台 7・落沢新道 9・藤内井戸尻 31・井戸尻～曾利 1・曾利 22・中期 6・中期末～後期初頭 1・平安 4・不明 9)、掘建柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曾利 3・不明 2)。諸磯～曾利までの土坑669基(諸磯 29・五領ヶ台 2・落沢、新道 3・藤内、井戸尻 21・曾利 50・中期 7)。

### 縄文前期前葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
2-108	桑原南	縄文前期初頭と前葉で住居2軒。
2-110	津金御所前	堅穴住居1軒と時期不明の土坑群。(二次調査)
3-089	西ノ原B	堅穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)。
1-030	薬師堂	諸磯～井戸尻までの石組と時期不明の土坑1基。時期不明の焼土3基とビット群。
4-092	清春白樺美術館南	土坑181基(うち前期末葉13基)。溝1条。
5-045	山崎第4	堅穴住居2軒(前期末葉～中期初頭)。土坑257基(前期初頭～中期後葉)(整理中)。
6-041	雑木	ビット1基。
6-060	西之久保	堅穴住居1軒。時期不明の堅穴状造構4基と溝状造構5条。
8-006	沢の田	縄文時代の住居6軒(井戸尻 1・縄文 5)。縄文時代の土坑10基(前期末葉 1・中期初頭 1)。

### 縄文中期初頭

遺跡番号	遺跡名	遺構数
1-030	薬師堂	諸磯～井戸尻までの石組と時期不明の土坑1基。時期不明の焼土3基とビット群。
3-089	西ノ原(B)	堅穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)。
3-169	日影田	堅穴住居(五領ヶ台 3・曾利 1・不明 1)。縄文中期～中近世までの土坑113基。堅穴造構4基(うち五領ヶ台 1)・ビット群(縄文中期～中近世)。
3-195	持井	堅穴住居1軒。縄文と中世の土坑11基(中世 1・時期不明 10)と溝1条。
4-062	柳坪	堅穴住居1軒。14基の土坑(中期後葉 1・中期後葉～後期初頭 1・縄文 5)。
4-063		
4-064	小屋敷	堅穴住居1軒。土坑30基(縄文～中世)。堅穴造構2基(縄文～中世)。溝状造構4基(縄文～中世)。
4-100	高松	堅穴住居(縄文中期初頭～後葉8)。土坑13基・溝1条(縄文中期初頭～後葉)。
4-182	柳坪北	堅穴住居3軒。土坑7基(中期初頭～後葉)。屋外埋甕2基(中期初頭～後葉)。
5-017	東原	縄文時代の黒曜石原石埋納土坑1基。
5-042	寺所第2	堅穴住居7軒。屋外埋甕2基。土坑約19基。
5-043	天神	堅穴住居9軒。土坑6基(五領ヶ台 3・十三苦提羅在3)。
5-044	天神	堅穴住居3軒。土坑(曾利 1を含む時期不明の16基)(A・B区)。
5-063	甲ヶ原	縄文前期初頭～平安までの住居127軒(前期初頭 1・諸磯 23・五領ヶ台 8・落沢新道 10・藤内井戸尻 341・井戸尻～曾利 1・曾利 24・中期 6・中期末～後期初頭 1・繩文 10・平安 4・不明 10)、掘建柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曾利 3・不明 2)。諸磯～曾利までの土坑765基(諸磯 33・五領ヶ台 2・落沢、新道 9・藤内、井戸尻 23・曾利 54・中期 7)。
5-068	谷戸氏館跡	縄文住居2軒。縄文～近世の土坑114基(中期初頭 1・中世～近世 16・近世以降 7)。
5-073	小坂	堅穴住居3軒。縄文時代の23基の土坑(中期初頭 15)。
4-211	上条宮久保	集石土塁1基。土坑18基(井戸尻 2・曾利 6・時期不明)。

周辺遺跡地名表

### 縄文中期前葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
1-023	寺前	竪穴住居1軒。
1-030	薬師堂	諸磯～井戸尻までの石組と時期不明の縄文時代の土坑1基。時期不明の焼土3基とビット群。
2-110	津金御所前	竪穴住居4軒と時期不明の土坑群。(二次調査含む)
3-089	西ノ原B	竪穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3・)
3-127	梅の木	竪穴住居1軒。
3-162	社口	竪穴住居1軒、土坑・ビット約300基(うち中期前葉1・中期後葉23・堀之内 19・加曾利B1・後期 26・平安 6)。
3-195	持井	埋甕2基。縄文と中世の土坑11基(中世1・時期不明 10)と溝1条。
4-049	小和田館跡	竪穴住居(中期前葉2・平安 19・時期不明 1)、時期不明の土坑・ビット多数。
4-069	石原田北	竪穴住居(諸磯1・中期前葉6・中葉9・前葉4・中葉1・平安 19・中世 1・平安か中世 1・不明 2)。縄文～中世の土坑・ビット289基(早期～前期 1・諸磯 2・前期後葉～中期前葉1・中期前葉1・藤内 1・縄文中期 1・中世 2・近世 1)。
4-100	高松	竪穴住居(縄文中期初頭～後葉8)。土坑13基・溝1条(縄文中期初頭～後葉)。
4-182	柳坪北	竪穴住居2軒。土坑7基(中期初頭～後葉)。屋外埋甕2基(中期初頭～後葉)。
5-042	寺所第2	竪穴住居18軒。土坑6基。
5-063	甲ヶ原	縄文中期初頭～平安までの住居128軒(前期初頭1・諸磯 23・五領ヶ台 8・洛沢新道 11・藤内井戸尻 34・井戸尻～曾利 1・曾利 24・中期6・中期末～後期初頭 1・縄文5・平安 4・不明 10)。掘立柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曾利 3・不明 2)。前期中葉～後期後葉までの土坑859基(前期中葉1・諸磯 35・五領ヶ台2・洛沢・新道 9・藤内・井戸尻 23・曾利 54以上)の土坑群・中期 7)。
4-211	上条宮久保	竪穴住居2軒。土坑18基(井戸尻 2・曾利 6・時期不明)。
4-147	原町農業高校前(下原)	縄文～平安時代の土坑749基(早期前半 17・中期前葉3・中期中葉23・中期後葉18・後期初頭 8・後期前葉1・後期中葉3・中期143・時期不明 234)。
5-038	原田	前期後葉～中期前葉の土坑5基(前期後葉～中期前葉)。
5-068	谷戸氏館跡	竪穴住居2軒。

### 縄文中期中葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
1-014	諏訪原	藤内・井戸尻・曾利の住居が100軒を超える癪状集落。
1-030	薬師堂	諸磯～井戸尻までの石組と時期不明の縄文時代の土坑1基。時期不明の焼土3基とビット群。
2-110	津金御所前	竪穴住居8軒と時期不明の土坑群。(二次調査含む)
2-203	西川(1次)	竪穴住居1軒。時期不明の焼土遺構・L型溝状遺構・中世を中心とした時期不明の土坑(中世2基)・ビット數十基。
2-503	下平	石圓炉4基(中期中葉～後葉)。
3-040	野添	竪穴住居1軒。時期不明の土坑多数。
3-089	西ノ原B	竪穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3・)
3-098	海道前C	竪穴住居(縄文中期中葉9・後葉8・時期不明 4)。縄文中期～後葉の土坑68基(うち中期後葉 10・中葉 2)。
3-114	官尾根C	竪穴住居1軒。土坑群。
3-162	社口	竪穴住居1軒。土坑88基(縄文中期中葉～後葉)。単独埋甕2基・溝1条(縄文中期中葉～後葉)。
3-170	上の原	竪穴住居1軒。土坑約200基(井戸尻～称名寺)。単独埋甕2基(井戸尻～称名寺)。
3-171	藏原東久保	竪穴住居2軒。土坑40基。
4-069	石原田北	縄文時代の住居30軒(縄文中期中葉～後葉)。土坑50基以上。
4-100	高松	竪穴住居(縄文中期初頭～後葉)。土坑13基・溝1条(縄文中期初頭～後葉)。
4-157	上日野B	竪穴住居1軒。土坑11基(縄文中期 1・縄文 2・時期不明 5)。時期不明の溝7条。
4-182	柳坪北	竪穴住居3軒。土坑7基(中期初頭～後葉)。屋外埋甕2基(中期初頭～後葉)。
4-195	紺屋	竪穴住居2軒。土坑25基(藤内 1・縄文 4・中世10・時期不明 10)。縄文～中世までの時期不明の竪穴状遺構1基・溝1条・ビット7基。
4-211	上条宮久保	中期中葉～後葉の住居6軒・土坑10基・集石土坑1基・屋外埋甕1基。
5-042	寺所第2	竪穴住居37軒。土坑12基。埋設土器3基。
5-054	金生II	集石 1基。

周辺遺跡地名表

5-080	古林第4	堅穴住居20軒。土坑約200基(半分は中近世)。小ビット數十基。 小林第4号跡上でカウント済。
2-109	原の前	堅穴住居(中期中葉 2・平安 1・時期不明 7)。
2-202	川又南	堅穴住居(中期中葉 2・中期後葉 3・平安 5・時期不明 8)。埋甕(称名寺1・曾利8・中期末～後期初頭2基を含む14基)。
4-062	柳坪	堅穴住居(藤内、井戸尻 2・曾利 18・繩文 2・弥生前期 1・古墳前期 1・古墳後期 7・平安 12)。藤内と曾利を含む繩文中葉の土坑29基。
4-063		繩文の堅穴住居100軒(中期中葉43・中期後葉 34・中葉～後葉 10・中期 13)。繩文～平安までの土坑149基(早期前半17・中期前葉2・中期中葉 98中期後葉19・後期初頭9・後期前半1・後期中葉3・中期 1・不明234)。時期不明の溝1条。
4-147	原町農業高校前(下原)	土坑(井戸尻 1・曾利 8を含む52基)。時期不明の溝1条。
4-208	段道	
5-063	甲ヶ原	繩文前期初期～平安までの住居127軒(前期初頭 1・諸磯 23・五領ヶ台 8・路沢新道 10・藤内井戸尻 34・井戸尻～曾利 1・曾利 24・中期 6・中期末～後期初頭 1・繩文 6・平安 4・不明 10)。掘建柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曾利 3・不明 2)。諸磯～曾利までの土坑765基(諸磯 33・五領ヶ台・路沢、新道 9・藤内、井戸尻 23・曾利 54・中期 7)。

### 繩文中期後葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
1-023	寺前	堅穴住居約30軒。
2-110	津金御所前	堅穴住居1軒(時期不明の土坑群)。
2-202	川又南	堅穴住居(中期中葉 2・中期後葉 3・平安 5・時期不明 8)。埋甕(称名寺1・曾利8・中期末～後期初頭2基を含む14基)。
2-207	飯米	堅穴住居4軒。中期後葉と思われる石圓炉 <sup>1</sup> 10基。時期不明の(堅穴遺構49基・土坑74基・集石遺構2基・溝2条・石積遺構1基)。
2-503	下平	石圓炉4基(中期中葉～後葉)。
3-040	野添	堅穴住居3軒。時期不明の土坑多数。
3-089	西ノ原B	堅穴住居(繩文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・繩文3)。
3-098	海道前C	堅穴住居(繩文中期中葉 9・後葉 8・時期不明 4)。繩文中期～後葉の土坑68基(うち中期後葉1基・中葉 2)。屋外埋甕1基。燒土跡1基。
3-114	宮尾根C	堅穴住居23軒。
3-118	新井	堅穴住居2軒。時期不明土坑2基。集石土坑1基。
3-155	小池神の前	繩文中期の円形堅穴遺構24基。
3-159	斜	堅穴住居3軒。土坑4基。
3-170	上の原	堅穴住居6軒。石圓炉 <sup>1</sup> 3基。土坑約200基(井戸尻～称名寺)。單独埋甕2基(井戸尻～称名寺)。
3-171	蔵原東久保	繩文時代の住居30軒(繩文中期中葉～後葉)。土坑50基以上。
3-175	米田	堅穴住居1軒。時期不明の土坑5基(繩文)。
3-176	米田北	堅穴住居1軒。土坑17基(中世基・時期不明)。
3-187	原家の前	繩文と中近世の土坑173基(繩文中期後葉・後期初頭を含む)。
3-188	宮の前	堅穴住居(繩文中期後葉 1・平安 2・繩文 1)。時期不明の土坑53基・ビット103基・燒土跡16基・集石2基・溝21条。
4-211	上条宮久保	堅穴住居4軒。屋外埋甕1基。土坑18基(井戸尻 2・曾利 6・時期不明)。
5-008	大和田	堅穴住居7軒。繩文と中近世の土坑68基(うち曾利 3・中近世 1)。
5-011	方城第1	堅穴住居7軒。繩文時代の配石3基(うち曾利 2)。繩文時代の土坑106基(うち曾利 13)。繩文時代の集石3基。
5-015	姥神	堅穴住居12軒。中期後葉～後期中葉の土坑30基(うち曾利 4・称名寺 1・堀之内 2・加曾利 8)。單独埋甕2基(曾利 1・後期 1)。
5-016	東姥神B	堅穴住居(繩文中期後半1・平安 8・不明 1)。繩文・平安・中世の土坑66基(うち中期後葉 1・加曾利1または堀之内 1・平安 3・中世 14)。
5-042	寺所第2	堅穴住居22軒。土坑18基。單独埋甕2基。配石。伏甕。方形石團状遺構。
5-063	甲ヶ原 第5地点	前期中葉～中期後葉の土坑94基(前期中葉 1・前期後葉 2・中期後葉の土坑群)。
5-074	大和田第2	旧河床付近に中期後葉の遺物含有層。
1-014	諏訪原	藤内・井戸尻・曾利の住居が100軒を超える環状集落。
2-208	宮田・笠張	堅穴住居2軒。時期不明の土坑群3ヶ所。
3-134	川又坂上	堅穴住居(中期後葉 2・後期初頭 4・古墳後期 1・平安 2)。土坑(中期後葉 4・中期中葉～後葉 4・後期初頭 4・中期か後期 1・不明 6)。
3-137	石堂B	繩文中期後葉～晚期前半の堅穴住居8軒(うち敷石住居 3)。集石遺構4基。祭壇状遺構9基。石積状遺構14基。階段状遺構1基。土坑18基。
3-140	西原	堅穴住居1軒。土坑5基(近世 2・時期不明)と溝1条。
3-147	西の入	土坑1基。時期不明の溝1条。

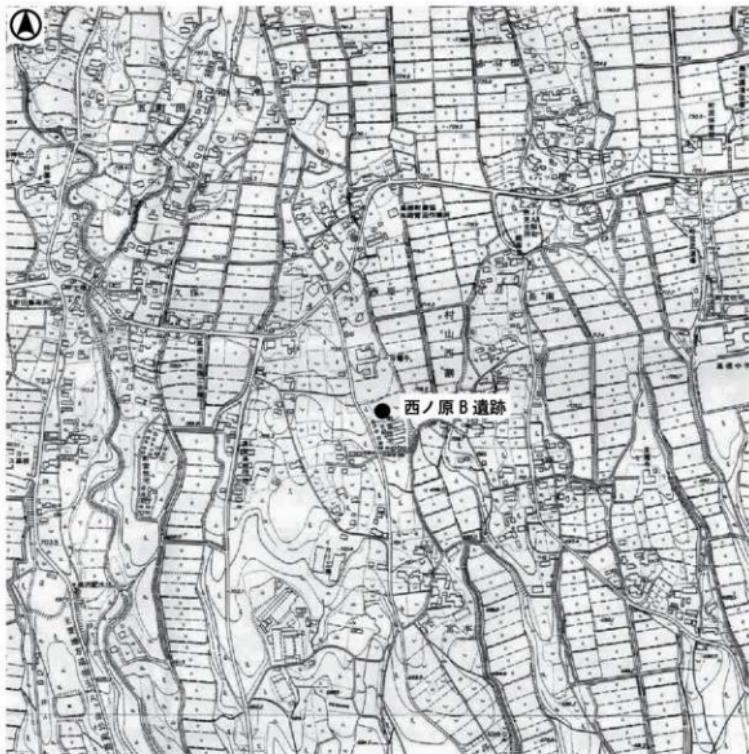
周辺遺跡地名表

3-149	下風呂	堅穴住居2軒。
3-160	次郎構	堅穴住居1軒。土坑186基。埋設土器4基。
3-162	社口	堅穴住居4軒。土坑・ビット約390基(うち中期前葉1・中期後葉23・堀之内19・加曾利B1・後期26・平安6)。単錐理甕2基・溝1条(縄文中期中葉～後葉)。
3-169	日影田	堅穴住居(五箇台1・曾利1・不明1)。縄文中崩～中世までの土坑113基。堅穴遺構4基(うち五箇台1)・ビット群(縄文中期～中世)。
4-011	輶屋敷	堅穴住居(藤内1・曾利26・縄文2・弥生前期1・古墳前期1・古墳後期7・平安12)。藤内と曾利を含む縄文中期の土坑29基。
4-062	柳坪	堅穴住居(藤内1・曾利26・縄文2・弥生前期1・古墳前期1・古墳後期7・平安12)。藤内と曾利を含む縄文中期の土坑29基。
4-063		中期終末の約150基の土坑群。土坑30基(縄文～中世)。堅穴状遺構2基(縄文～中世)。溝状遺構4基(縄文～中世)。
4-064	小屋敷	堅穴住居(藤内1・曾利26・縄文2・弥生前期1・古墳前期1・古墳後期7・平安12)。藤内と曾利を含む縄文中期の土坑29基。
4-100	高松	堅穴住居(縄文中期初頭～後葉8)。土坑13基・溝1条(縄文中期初頭～後葉)。
4-117	頭無A	堅穴住居2軒。炉跡1基。土坑(中期後葉11・弥生中期1・時期不明55)。ビット(中期後葉1・不明129)。時期不明の甕と堅穴遺構、集石遺構。
4-129	官久保	堅穴住居(縄文中期末～後期初頭2軒)。土坑101基(うち中期末～後期初頭1・堀之内2・後期2)。時期不明のビット921基(堀之内5)。
4-147	原町農業高校前(下原)	縄文の堅穴住居103軒(中期中葉42・中期後葉38・中葉～後葉10・中期13)。縄文～平安までの土坑947基(早期前半17・中期前葉2・中期中葉98・中期後半29・後期初頭9・後期前葉1・後期中葉3・中葉～後葉1・後葉～後期初頭1・中期1・後期10・不明377以上)。時期不明の溝1条。
4-182	柳坪北	堅穴住居3軒。掘立柱建物1棟。理甕1基。土坑1基。
4-186	山本	堅穴住居2軒。土坑7基(中期初頭～後葉)。屋外理甕2基(中期初頭～後葉)。
4-208	段道	堅穴住居6軒。配石遺構1基。土坑(井戸戸1・曾利8を含む52基)。室外理甕1基。時期不明の溝1条。
4-211	上条宮久保	中期中葉～後葉の住居6軒・土坑10基・集石土坑1基・屋外理甕1基。
5-017	東原	縄文時代の黒曜石原石埋納土坑1基。
5-041	寺所	堅穴住居1軒。縄文前期～弥生の生活用水に使用された湧き水跡。
5-044	天神	堅穴住居5軒(A区)。理甕4基(A区)。土坑(曾利1を含む時期不明の16基)(A・B区)。
5-052	城下	土坑2基(曾利1)。
5-054	金生II	堅穴住居2軒。中期後葉～晩期後半の土坑7基。
5-063	甲ヶ原	縄文前期初頭～平安までの住居127軒(前期初頭1・諸磯23・五箇台8・路沢新道10・藤内井戸戸34・井戸戸～曾利1・曾利24・中期6・中期末～後期初頭1・縄文5・平安4・不明10)。掘立柱建物1棟(藤内井戸戸1・曾利3・不明2)。諸磯～曾利までの土坑765基(諸磯33・五箇台2・路沢、新道9・藤内・井戸戸23・曾利54・中期7)。

### 古墳前期

遺跡番号	遺跡名	遺構数
1-088	大日川原	堅穴住居1軒。方形周溝墓12基。土坑2基(古墳前期1・時期不明1)。
3-089	西ノ原B	堅穴住居10軒。掘立柱建物5棟。方形周溝墓1基。
3-089	西ノ原B	堅穴住居1軒。土坑10基。
3-107	後原	堅穴住居4軒。土坑4基・ビット4基。
3-114	宮尾根C	堅穴住居20軒。
3-155	小池神の前	堅穴住居11軒。時期不明の堅穴遺構120基と土坑群。
4-062	柳坪(A地区・B地区)	堅穴住居(藤内1・曾利18・縄文2・弥生前期1・古墳前期1・古墳後期7・平安12)。藤内と曾利を含む縄文中期の土坑15基。
4-063		堅穴住居2軒。時期不明の集石遺構・土坑・溝。
4-117	頭無A	堅穴住居(弥生末～古墳初頭1・古墳前期1・平安3)。時期不明の土坑47基(縄文～中世)とビット3基・溝17条。
4-138	北村	方形周溝墓6基。
4-210	蟻塚	堅穴住居3軒。
4-169	竜角西	堅穴住居6軒。掘立柱建物1棟。堅穴状遺構1基。土坑(うち曾利1・縄文4・弥生1・古墳前期1を含む252基)。時期不明のビット629基。溝14条(中世3・古墳以降2)。

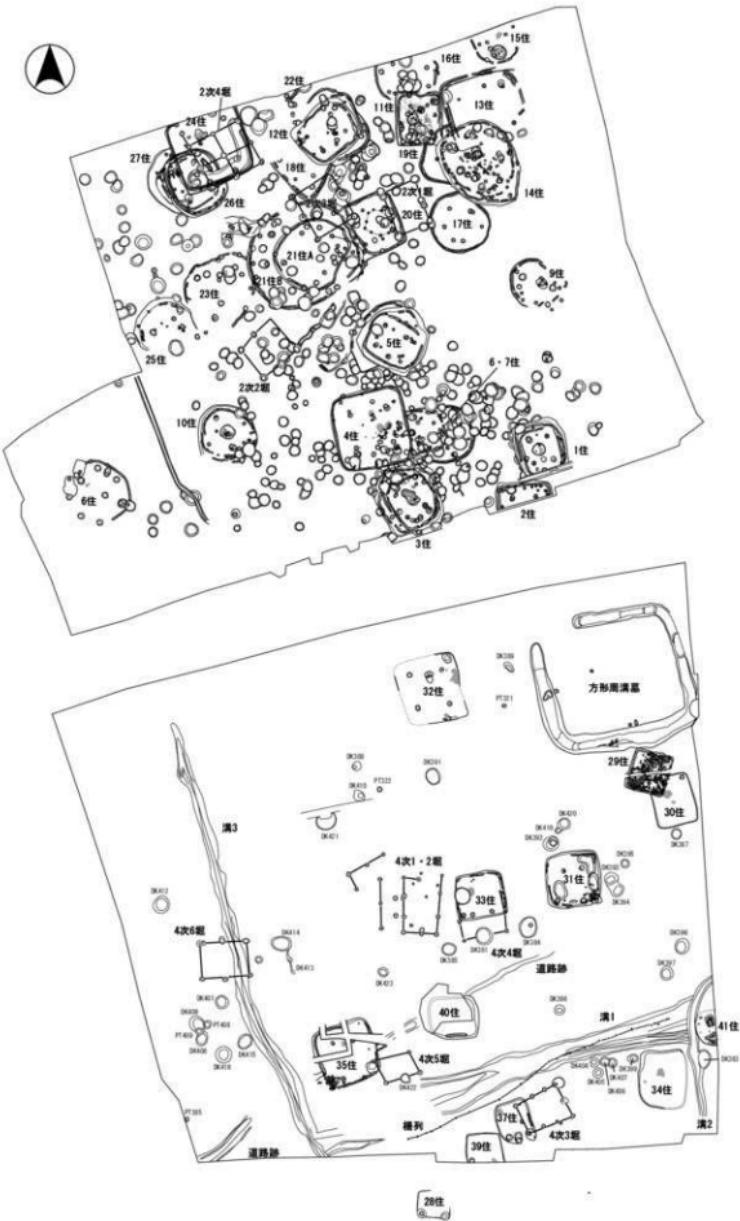
周辺遺跡地名表



第2図 遺跡位置図 (1/10,000)



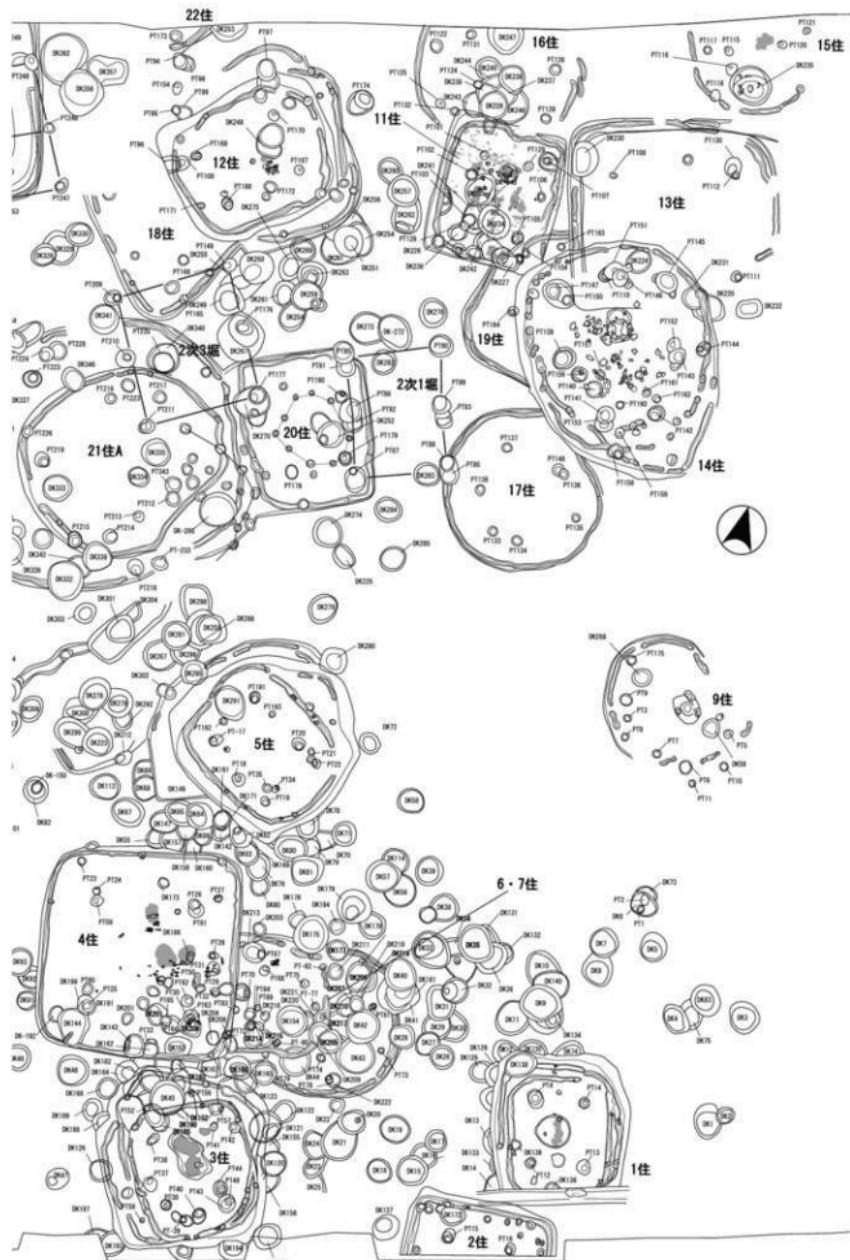
第3図 調査区位置図 (1/2,500)



第4図 遺構配置図 (1/400)



第5図 土坑・ピット位置図 (1/150)



第6図 土坑・ピット位置図 (1/150)

## 第4章 調査された遺構と遺物

### 第1節 繩文時代前期の遺構と遺物

第1章第1節で触れたとおり、西ノ原B遺跡では9軒の繩文時代前期前葉と末葉の住居跡が検出されている。以下に遺構ごとに調査成果を報告する。各遺構の出土品、土坑、ピットの詳細な観察所見は本書添付の①に収録した。なお繩文時代中期の25号住居に重複して前期の住居が検出されている。これは第2節で報告する。

#### 1号住居跡（第7～9図、写真図版2）

本住居跡は、第2次調査区の南端で検出された。長軸長は推定4.6m、短軸長4.3m、壁内側（下端線以内を指す。以下同じ）の床面積は、推定15.8m<sup>2</sup>の隅丸方形で、竪穴は最大で深さ50cmが残る。住居跡の南端は、調査区を東西に走る溝跡に切られている。住居跡北西角には、住居跡と同時期の土器を伴う138号土坑が検出され、調査担当者はこの土坑を貯蔵穴と判断した。埋土は自然埋没を示すレンズ状堆積を呈し、77号土坑等が本住居埋土を掘り込んでいる様子が観察された。

柱穴は4本で、4号、12号、13号、14号の各ピットである。いずれのピットにも太さ15cm～20cmの柱痕が確認された。周溝が二重に検出されており、1回の拡張が想定される。住居中央に浅い円形のくぼみがあり、地床炉の南側には台石と思われる扁平の円礫が置かれていた。

出土した土器の総量は250gである。前期前葉の土器破片が1,977g、中期の土器破片が529gである。報告書には器形の復元ができる大型土器破片、文様、口縁部形状などが分かる土器破片を掲載した。それぞれの土器の出土位置、観察所見は表を参照されたい。

住居もしくは第138号土坑に伴うと思われる土器もしくは大型破片3個体分は、いずれも無文尖底土器で、第8図2の胎土には纖維が混じる。第8図3の口縁部には4単位の小突起がある。第8図4と第8図5は、粗雑な格子目文が施文され、中越式と思われる。中越式でも新しい段階であろうか。第8図6は、纖維が混じる胎土の土器破片で、口縁部下に粗雑な爪形文が施文される。清水ノ上II式土器が在地化したものと理解すべきであろうか。第8図7は、本住居埋土に混入した中期中葉の土器円盤である。

報告書に掲載しなかった前期前葉の土器破片の多くが胎土に纖維を含む無文の尖底土器である。纖維を含まない土器破片は、2点25gに限られ、第8図3を足しても223gであるから、概ね1割程度となる。文様から中越式と認識できる土器破片は図化報告した2点のみである。木島式、神ノ木式などの土器破片は確認されていない。

石器と剥片類は、総量50点2,303.4gで、内訳は、未成品1点を含む石礫3点3.6g、削器類2点198.7g、石匙1点8.2g、打製石斧1点71.8g、楔形石器1点43.1g、磨石類4点1,694g、石核ブランク1点139.1g、黒曜石剥片36点69g、礫1点76gである。石材種類などは表を参照されたい。地床炉付近で出土した台石は、顯著な使用痕が認められなかつたため、取り上げなかつた。

第9図4の削器などに使用されている珪質頁岩は、北杜市内の塙川上流域で採取できる石材で、八ヶ岳南麓の繩文時代中期遺跡でも使用されている。頁岩、ホルンフェルス、磨石類の安山岩も在地石材である。第9図5の削器に用いられた緑灰色チャートは非在地の搬入石材と思われる。肉眼観察による限りであるが、この種の油脂っぽい光沢をもつチャートは、長野県の奈良井川、木曾川上流域で採取されるものに類似している。

以上の調査所見から、本住居は繩文時代前期前葉、中越式期に属すると思われる。

#### 3号住居跡（第10～11図、写真図版2）

本住居跡は、2次調査区南端に位置する。住居跡は、同一地点で3回ないし4回程度の建替えを繰り返しており、大きさは不明瞭であるが、最小規模の住居は周溝の状況から長軸長4.2m、短軸長3.7m。最大規模の住居は5m四方程度の大きさと思われる。最小規模の周溝が明確な住居の周溝内側の床面積は14.5m<sup>2</sup>で、竪穴は最大で深さ43cmが残る。

住居跡プランが押疊な最小規模の住居の主柱穴は、36号、38号、41号、44号ピットの4本と思われる。また40号、42号、52号、58号ピットの4本が別プランの住居跡の主柱穴を構成すると思われる。こうした主柱穴配置から、最小規模の住居跡は西側へ2度拡張し、さらに主軸方向を違えてやや大型の住居跡が建替えもしくは重複したと判断することができよう。

住居の中央付近の広い範囲に焼土が検出された。これは数軒分の地床炉が重複しているものであろう。

出土した土器の総量は4387gである。縄文時代前期の土器破片が4,268g、中期の土器破片が113g、古墳時代の土器破片が6gである。縄文時代中期と古墳時代の土器破片は混入の結果である。図示した土器の観察所見は表を参照いただきたい。文様が施された土器破片には、中越式の格子目文が見出されたが、他の土器型式は確認されなかった。4,268gの前期土器破片の大半は、胎土に纖維が混入した器壁の厚い無文土器の破片であり、纖維が混じらない薄手の土器破片は593gにとどまる。

石器類は総量72点1,453.8gで、内訳は、未成品を含む石鏃5点7.8g、削器類2点10.1g、石匙2点21.3g、磨石類2点1,061g、黒曜石剥片57点113.6g、礫4点240gである。小型石器の素材は黒曜石が多いが、第11図13の横型石匙は在地石材の珪質頁岩製である。珪質頁岩は、長野県富士見町坂平遺跡の小型石器にも使用されているが、縄文時代中期の石器が混入した可能性にも注意が必要である。

以上の調査所見から、本住居跡は縄文時代前期の中越式期に属すると思われる。

## 5号住居跡（第12～17図、写真図版2）

本住居跡は、2次調査区中央のやや南寄りに位置する。調査区内の表土の置場確保のために、2次調査区を南北に分割して調査したため、この住居も南北に分割して調査することとなった。

明瞭に確認された長方形の周溝プランと住居の上端線とが合致せず、かつ北側には円形プランの壁と周溝が検出された。本住居の建替えか、別造構の重複なのか、発掘調査で確認することはできなかった。縄文時代中期のまとまった土器が出土することはなかったため、どちらにしても縄文時代前期の住居跡どうしの重複と思われる。最も内側の周溝から想定される住居跡は長軸長5m、短軸長4m程度の隅丸方形で、窓穴は最大で深さ50cmが残る。

住居全体図からすぐに気づく主柱穴は19号、20号、35号、191号の4ピットである。さらに21号、34号、193号、18-2号の4基のピットも方形に組み合わせることができる。また、17号、18号、22号、192号、191-2号、193-2号の6基のピットが亀甲形に組み合う。これは、もっとも外側のプランの柱穴であろうか。4本の主柱穴に側柱穴が足された亀甲形の柱穴配置は、坂平遺跡14号住居址でもみられる。18号、19号、20号、191号、192号、193号、194号ピットでは太さ15cmほどの柱痕が検出された。

住居中央に浅いくぼみと焼土、安山岩片3点を伴う地床炉が検出された。焼土下から小さなピットが検出されたが、その機能は不明である。

出土した土器の総量は7,956gである。縄文時代前期の土器破片6,415g、中期の土器破片1,510g、古墳時代前期の土器破片31gがその内訳である。遺物のほとんどは埋土からの出土で、床面に遺棄された出土状況を示すものはなかった。第14図3、第14図7のような格子目文の中越式と思われる土器、第14図4の異条斜縄文による幾何学文様を施した関山式か、関山式に影響を受けた土器、第14図6の付加条原体による羽状縄文を施した関山式のような土器などがある。

縄文時代前期の土器破片は、胎土に纖維が混じる厚手の無文土器がほとんどで、纖維が混じらない薄手の土器破片は735gにとどまる。

本住居で出土した石器類は多く、総量206点4,381.6gで、内訳は、未成品3点を含む石鏃8点12.4g、石錐1点0.7g、削器3点37.5g、石匙4点97g、石匙状の異形石器1点10g、使用痕のある剥片2点21.6g、頁岩などの剥片4点60.2g、楔形石器4点27.8g、石核・ブランク4点100.6g、水晶原石1点3g、打製石斧1点139g、黒曜石剥片163点438.8g、磨製石斧2点300g、磨石6点3,079g、礫2点54g、である。

第17図3の黒曜石石核プランクは、風化してざらついた角礫状の礫面を残し、遺跡に持ち込まれた原石のサ

イズをとどめている。黒曜石は、肉眼観察から原産地もしくは採取地が異なるものが搬入されていると思われるが、坂平遺跡、板橋遺跡などで出土している黒曜石に較べると小型原石が多いようである。

以上の調査所見から、本住居は中越式期で、関山式と併行する中越Ⅲ式以降、おそらく中越Ⅳ式期に属するとと思われる。

#### 10号住居跡（第18～19図、写真図版2）

本住居跡は、2次調査区西端に位置する。住居跡はややくびつな円形で、南北長5m程度、東西長4.8m、壁内側の床面積は推定18.4m<sup>2</sup>、竪穴は最大で深さ13cmが残る。住居の中央部に地床炉が検出された。主柱穴は45号、46号、47号、48号ピットである。54号ピットと55号ピットは地床炉をはさんで対称的な位置にある。これら住居の構造に係る可能性がある。計6本の柱穴全てから径15cmほどの柱痕が確認されている。周溝が2重にめぐるため1回の建替えが想定される。7基の土坑が本住居に重複する。195号土坑と198号土坑は柱穴46号ピットに切られている。そのほかの土坑はいずれも住居より新しい。

出土した土器の総量は700gである。若干の縄文時代中期の土器が混入しているが、656gが縄文時代前期の土器破片である。第19図1は厚手の無文尖底土器で胎土に繊維を含む。第19図2は崩れた格子目文を施した土器破片で繊維が含まれる。石器類は総量4点485gで、内訳は、石鏃2点1.4g、石核1点28g、磨石類1点458gである。

以上の調査所見と出土遺物から、本住居は中越式期に位置づけられる。

#### 12号住居跡（第20～22図、写真図版2）

本住居跡は、2次調査区中央北端に位置する。検出されたプランと周溝から住居跡は3回ないし4回の建替え、重複を繰り返している。それぞれの居住期の住居プランは不明瞭であるが、もっとも竪穴が深い居住期のプランで長軸5.1m、短軸4.4mほどの隅丸方形、深さは35cmである。外側の周溝とプランで確認される住居は竪穴が浅く、深い住居との新旧関係は確認できなかった。主柱穴は167号、168号、169号、170号ピットの4本が明瞭で、いずれも直径15cm程度の柱痕が確認されている。もっとも深い住居の主柱穴であろう。171号、172号ピットでも柱痕が確認されているが、172号ピットは床面からの深さが浅い。これらは床面レベルが高い住居の柱穴であろう。住居内で検出されたほかのピットにも柱穴があるものと思われる。住居中央に床面からややくぼんだ地床炉が検出され、地床炉の脇に焼窯がまとまって検出されている。焼窯は床面から若干浮いており、床面上に集積されたものではない。

出土した土器の総量は3,806gで、縄文時代前期の土器が1,525g、中期で2,185g、古墳時代の土器破片96gが内訳である。出土量は多いものの無文土器破片が主である。第21図1から第21図3は関山式、第21図4から第21図7は中越式である。

石器類は総量22点1,817gで、内訳は、石鏃3点、削器類3点、打製石斧と思われる石器2点、石匙2点、石錐1点、磨石類2点、楔形石器3点、水晶原石、剥片などである。

出土土器には中期の土器片が多いものの住居構造から本住居跡は前期、中越式に位置づけられると判断される。関山式が破片ながら出土しているところから中越Ⅲ式からⅣ式期であろう。関山式は関山Ⅱ式と思われること、12-4の退化した格子目文からⅣ式期の可能性が高い。

#### 16号住居跡（第23図、写真図版6）

本住居跡は、2次調査区北東端に位置する。周溝と柱穴が検出され住居と認定したが、出土遺物が少なく、明確な時期は不明である。出土した土器の総量は287gで、縄文時代前期の土器が156gを占めるため、前期の遺構と判断した。122号、125号、127号、128号ピットの4基が柱穴と思われ、円形プランの住居であろう。住居と重複してまとめて土坑が検出されたため、地床炉は確認されていない。石鏃未成品1点が出土している。

### 23号住居跡（第23～24図、写真図版3）

本住居跡は、2次調査区と3次調査区の境界に位置する。保存状態が悪く、かろうじて周溝が確認されたのみで、ピットが検出されたものの柱穴と判断するには至らなかった。わずかに出土した土器と石器は、中越式の小破片、石鏃、打製石斧である。打製石斧はその形状から縄文時代中期の所産と思われるが、出土土器から本住居は前期、中越式と位置づけておく。

### 17号住居跡（第25～26図、写真図版3）

本住居跡は、2次調査区中央北東寄りに位置する。保存状態は不良で竪穴がほとんど残らず、排水管による搅乱もある。しかし、周溝が全周し柱穴、埋甕印も検出されている。周溝から判明する規模は、南北長5m、東西長4.9m、壁内側の床面積は推定18.8m<sup>2</sup>の丸円形で、竪穴は最大で深さ9cmである。プラン内で7基のピットが検出され柱穴と判断される。住居中央に深鉢を正位に埋設した埋甕印が検出された。

出土した土器の総量は1277gで、前期土器が43g、中期が1,234gである。中期の土器が多く混入するのは14号住居などが隣接するためであろう。石器は石鏃、打製石斧、水晶が出土している。

以上の調査所見と炉体土器から本住居は縄文時代前期末葉・十三菩提式併行期の後半段階に位置づけられると思われる。炉体土器を中期初頭とみる向きもあるかと思われるが、後述する中期初頭の住居とは若干の時期差があるとみてよいように思う。

### 185号土坑（第26図）

2次調査区南端、3号住居の北西部分に重複して検出された土坑である。土坑プラン内に3号住居に属すると思われる柱穴状のピットが重複して検出されている。土坑底面から中越式の尖底深鉢破片がまとまって出土している。土坑が検出された地点は縄文時代中期中葉頃の土坑が密集していること、当地域の中越式の土坑はごく少ないと、土坑理土には焼土が検出されているが、3号住居には焼土がまったく検出されておらず、3号住居の付属施設とも考えにくいこと、などから、出土土器にも拘らず、前期前葉の土坑と判断してよいものか躊躇する。しかし、出土土器はかなりの程度まで復元できることから、ここに報告しておく。

## 第2節 縄文時代中期の遺構と遺物

西ノ原B遺跡では、時期がはつきりしないものを含め14軒の縄文時代中期の住居跡と多数の土坑が検出されている。以下に住居跡の詳細と土坑の代表例を報告する。出土遺物、土坑、ピットの詳細は添付CDに収録した諸表に記載する。

### 6号住居跡（第27図、写真図版4）

本住居跡は、2次調査区西端に位置する。保存状態の悪い住居で周溝とピット、炉跡がかろうじて検出されたのみである。炉跡は住居プランのやや北寄りで検出され、床面がややぼろみ、炉底は焼土化して硬化していた。8基の柱穴らしいピットが検出されている。

出土した土器の総量は993gで、縄文時代前期の土器片が138g、中期が778g、古墳時代の土器片が77gである。土器片はいずれも小破片のみであるが、図示したとおり藤内式と思われるものが多い。石器は出土していない。

### 7号住居跡（第28～29図、写真図版4）

本住居跡は、2次調査区南端に位置する。東側で8号住居と重複し、西側で古墳時代の4号住居に切られる。

周溝により8号住居と分離されるが、保存状態が悪いため、両者が拡張建替えの関係にある構造なのか、単に重複しただけかは、はつきりしない。炉跡は4号住居との接点で検出された。床面が掘りくぼめられ被熱して硬化している。棒状の礫1点が検出された。柱穴らしいビットも検出されているが、組み合わせは不明である。本住居の周辺は土坑が多数分布していて、本住居とも重複している。

出土した土器の総量は3,687gで、前期の土器81gが混入する。石器類は使用痕のある剥片などが出土したに過ぎない。図示した土器から本住居は縄文時代中期中葉、藤内式期に位置づけられる。

#### 8号住居跡（第28～29図、写真図版4）

本住居跡は、7号住居東側に位置する。7号住居と同じく保存状態が悪く、新旧関係もはつきりしない。多数の土坑が重複し、炉跡も確認されなかった。出土した土器の総量は414gで、前期の土器107gを含む。本住居が帰属する時期は不明であるが、ここに報告しておく。

#### 9号住居跡（第30図、写真図版3～4）

本住居跡は、2次調査区東端に位置する。保存状態の悪い住居で豎穴は残らず、かろうじて周溝、柱穴、埋甕炉が検出された。3号、5号、7号、8号ビットなどが柱穴と思われるが、浅かったり、深さが一定しなかつたりと、不明瞭である。炉跡は焼土化した床面に深部が埋設された埋甕炉である。

出土した土器の総量は3,418gで、前期の土器30gが混入する。小破片が多く、炉体土器のみを図示した。石器は磨石1点のみである。これらの出土品から本住居は縄文時代中期前葉、洛沢式期に位置づけられる。

#### 14号住居跡（第31～38図、写真図版4～5）

本住居跡は、2次調査区北東部に位置する。北側を古墳時代の11号、13号住居に切られ、西側で19号住居と重複する。南東部でプランが乱れ、直線的な周溝が検出されたことから、別の住居が重複していることが判明した。大きな住居を14A号、南東側の方形プランと思われる住居を14B号住居とした。

14A号住居跡は長軸長6.5m、東西長6.2mのほぼ円形で、豎穴は最大で深さ35cmが残る。南壁側で2重に周溝がめぐるようにもみえ、拡張を経た可能性もある。方形の石圓炉が中央付近で検出されている。主柱穴は139号、141号、142号、143号、145号、146号、147号ビットが想定され、それぞれのビットに重複して別のビットが検出されている。2重の周溝のとおり建替えを経ていることが想定される。

本住居の埋土から多量の土器破片が出土した。いずれも細片で廃棄されたものと思われる。その総量は76,241gで、1,870gの前期土器を含む。14B号住居遺物との分別はできなかった。図示したとおり縄文時代中期中葉、藤内式土器が主である。第35図4、第35図5は平出3類Aである。第35図1、第35図6は五領ヶ台式、第34図6は洛沢式であろうか。土偶破片、土製円盤も出土した。石器類は127点、16,790gが出土し、石鏃8点、打製石斧46点、石匙3点、石錐1点、削器3点、磨石類20点、石皿2点、使用痕のある剥片などである。図示したのはその一部である。使用されている石材は、石鏃で黒曜石、チャート、打製石斧では頁岩、硬砂岩、砂岩、ホルンフェルスなどである。打製石斧の多さが際立っているが、土器とともに廃棄されたものが多く含まれていて、本住居の石器組成をそのまま反映したものではない。

これらの出土品から14A号住居は縄文時代中期中葉、藤内式に位置づけられる。14B号住居の帰属する時期は不明であるが、14A号住居埋土に廃棄された多量の土器は14B号住居プラン内にも分布していたため、14B号住居は14A号住居よりも古い段階の遺構と判断される。

#### 15号住居跡（第39図、写真図版6）

本住居跡は、2次調査区北東端に位置する。円形プランを想定させる周溝とビット、焼土跡が検出され、住居跡と認定したが、出土品もなく時期は不明である。前期として報告した16号住居と重複する。重複する235号土

坑には前期前葉と五領ヶ台式の土器破片が多く含まれている。

#### 18号住居跡（第39図、写真図版6）

本住居跡は、2次調査区中央北寄りに位置する。方形プランと周溝、ピットが検出され住居と認定したが、保存状態が悪く詳細は不明である。土器破片1,235gが出土し、166gの前期土器片を含む。図示したのは前期中越式の格子目文を施した口縁部破片、五領ヶ台式、藤内式と思われる破片である。このように本住居が帰属する時期ははっきりしないが、中期土器が主体であることからここに報告する。

#### 19号住居跡

本住居は、2次調査区中央北東寄りに位置する。14号住居、古墳時代の11号住居と重複し、周溝などから住居と認定したもの、中期の土器85gが出土したに過ぎず、詳細は不明である。

#### 20号住居跡（第40～41図、写真図版3）

本住居跡は、2次調査区中央北東寄りに位置する。住居跡は南北長4.9m、東西長4m、壁内側の床面積は推定17.7m<sup>2</sup>のほぼ方形で、竪穴は最大で深さ18cmが残る。住居内で土坑、ピットが多数検出されているが、主柱穴は178号、179号、180号、190号の4基である。この主柱穴内に環状に小ピットがめぐらしている。この住居の構造に関わるピット群なのか、重複して失われた別構造のピットなのか、判断できなかった。炉跡ははっきりしない。252号土坑の北側に浅いくぼみが検出されており、これが炉跡である可能性がある。ただし焼土は少量である。178号ピットと179号ピットの間で深鉢が倒立して出土している。深鉢内の土壤には少量の焼土が含まれており、本住居より新しい遺構の埋甕戸である可能性も考えられるが、これに伴う柱穴、床面は検出されていない。

出土した土器の総量は4,879gで、前期土器194g、中期4,685gである。集合沈線で文様を描いた五領ヶ台式土器がある。石器類は石鏃、打製石斧が出土している。これらの出土品から本住居は縄文時代中期初頭、五領ヶ台式期に位置づけられる。

#### 21号住居跡（第42～43図、写真図版4）

本住居跡は、2次調査区中央に位置する。東側で20号住居、西側で23号住居と重複する。21A号住居と21B号住居とが検出された。AからBへ拡張建替えを経た結果なのか、同一地点で偶然重複した住居どおしなのかははっきりしない。遺構の保存状態が悪く、炉跡も不明であり、炉を核として拡張したものなのかも分からぬ。周溝でみると住居跡Aの規模は長軸長6.2m、短軸長は5.5m、壁内側の床面積は推定26.7m<sup>2</sup>のほぼ円形で、竪穴は最大で深さ27cmが残る。住居跡Bは長軸長9m以上、短軸長8.33m、壁内側の床面積は推定62.5m<sup>2</sup>のほぼ円形で、竪穴は最大で深さ19cmが残る。21A号住居の主柱穴は214号、216号、219号、343号ピットの4基、これに212号、217号ピットなどを加えてやや北側に拡張したプランも想定できる。21B号住居は210号、212号、215号、223号ピットなど6本程度が想定される。

出土した土器の総量は7,686gで、前期の土器587gが混入している。第43図1は床面出土の深鉢で口縁部に人面突起がつく。石器類は28点1,375gが出土している。内訳は石鏃5点、打製石斧10点、削器2点、磨石類1点、剝片などが出土している。これらの出土品から本住居の最新段階は縄文時代中期中葉、藤内式期に位置づけられる。

#### 25号住居跡（第44～48図、写真図版5）

本住居跡は、3次調査区南端に位置する。2次調査区にも及んでいたはずだが、2次調査区北端は切土されていて、保存されていなかった。住居跡の竪穴は最大で深さ90cmが残るが、正確な規模は不明である。硬くしまった床面は検出されず、柱穴を精査したが3基の浅いピットしか検出できなかつた。さらに埋土の中層で縄文時代中期の土器が、下層で前期の土器がそれぞれまとめて出土しており、調査時には確認できなかつたが、2軒の

住居が重複していたと判断される。

出土した土器の総量は 11,625 g である。前期の土器が 4,653g、中期が 6,704g、古墳時代以降の土器が 243g、焼成粘土塊 25g 含まれる。図示したとおり、土器は第 45 図 2、第 45 図 1 など中期中葉井戸尻式土器と、第 46 図 6、第 46 図 4 の前期前葉、中越式土器とに分かれる。第 47 図 2 は爪形文が乱雑に施され、東海地方の土器の影響が及んでいるものとみられる。石器類は 60 点 4,769g が出土している。内訳は石鏃 6 点、石匙 4 点、楔形石器 3 点、打製石斧 7 点、磨石類 7 点、剥片類である。石器も 2 時期に分離されるのであろうが、2 時期の造構の境界を正確に把握できなかったため、分別することはできない。

以上の出土品から、本住居は縄文時代中期中葉井戸尻式期に位置づけられ、プランは失われているが前期前葉中越式期に位置づけられる住居が重複していたと判断される。

## 26 号住居跡（第 49 ~ 54 図、写真図版 3）

本住居跡は、3 次調査区に位置する。北東部で古墳時代の住居 24 号住居に切られるが、床面レベルがほぼ同じであることから、周溝、柱穴等は破壊されることなく検出できた。北西側では 27 号住居と重複する。27 号住居も本住居とほぼ同時期であるが、理土堆積状況の観察から 27 号住居が新しいと判断される。住居跡は南北長 3.8 m、東西長 3.4 m、壁内側の床面積は 20.6 m<sup>2</sup> のほぼ円形で、豊穴は最大で深さ 26cm が残る。周溝が 2 重ないし 3 重に検出されていて、建替え拡張を経ていることがわかる。主柱穴も建替えにあわせて追加されている。もっとも内側、つまり古い段階と思われる柱穴は 272 号、276 号、286 号、292 号ビットの 4 基である。さらに 278 号、283 号、285 号ビットなどは、新しい段階の柱穴と考えられる。257 号ビットは古墳時代の 4 号掘立柱建物跡の柱穴であるが、ここにも新しい段階の柱穴が想定されてもよい。周溝内には小ビットが掘られている。小ビット 2 基が 1 対となって規則的に検出されている。住居中央で地床炉が検出された。床面をやや掘りくぼめ、炉底は被熱して硬化、焼土化している。

出土した土器の総量は 10,026 g である。27 号住居と重複しているため、両住居の土器が混在していると思われる。前期の土器 1,901g、古墳時代の土器 6g が混入している。本住居に帰属すると思われる土器は、いずれも縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器である。石器類は 86 点 4,664g が出土し、内訳は石鏃 7 点、石錐 1 点、石匙 1 点、楔形石器 4 点、打製石斧 8 点、磨石類 5 点、ハンマーと思われる棒状鍤 1 点、剥片類などが出土している。これらの出土品から本住居は縄文時代中期初頭、五領ヶ台式期に位置づけられる。

## 27 号住居跡（第 49 ~ 54 図、写真図版 3）

本住居跡は、3 次調査区に位置する。26 号住居を切り、古墳時代の 24 号住居に切られる。26 号住居より新しいが、造構の保存状態は不良で、造構確認面で 26 号住居との識別ができず、26 号住居の調査中に 27 号住居の存在に気がついた。そのため、壁、周溝は一部が確認されたに過ぎない。住居規模は不明である。柱穴は 281 号、282 号、287 号、288 号、289 号、290 号ビットと思われる。地床炉は 26 号住居埋土中、292 号ビットの上層で検出された。床面が円形に焼土化し、深鉢が埋設されている。焼けた甕 2 個が出土している。

27 号住居の存在に気がついてから、床面高さと位置から出土品を分別して取り上げた。また、およそ想定される 27 号住居プランの範囲と出土高さからも出土品を分別したが、26 号住居との混在は避けられていないと思われる。こうして 27 号住居分とした出土土器の総量は 7,186 g である。古墳時代の土器片 19g が混入している。27 号住居を認定して以後に取り上げた石器類は 9 点 1,843g で、内訳は石鏃 2 点、楔形石器 1 点、磨石 1 点、多孔石 1 点、剥片類である。板状の金属製品 2 点が出土したが、これは古墳時代以降の遺物の混入である。第 53 図には古墳時代住居 24 号住居から出土した縄文時代遺物も掲載した。これらは 26 号住居と 27 号住居のどちらかに帰属する可能性が高いと思われるが、分別できない。

以上の出土品から本住居は五領ヶ台式期に位置づけられると思われる。炉体土器の胴部文様は格沢式を思わせ、造構の重複関係どおり本住居がやや新相を示す。

#### 41号住居跡（第55図、写真図版5～6）

本住居跡は、4次調査区東端に位置する。北側を1号溝に切られ、東半分は調査区外である。住居跡は堅穴が最大で深さ12cmが残るが、規模は不明である。主柱穴は428号、429号の2基で、調査区外にさらに1基のビットが想定される。縄文時代中期末葉曾利V式段階の3本柱穴をもつ住居である。住居中央から北寄りで石開炉が検出された。奇妙なことに方形に埋め込んだ4枚の扁平鍍から知れる炉の位置と、炉底に広がる焼土の範囲が重複するが一致しない。奥壁柱穴と想定される429号ビットも焼土の一部を切るように掘り込まれている。炉を造り直した、あるいは住居を新築する際に炉の位置を予め決めておいて、地面を乾燥させるために火を焚いた後、柱穴と匂い石を設けたなどと解釈され得るが、調査の際、真相を突き止めるることはできなかった。住居プランの南端で埋甕1基を検出した。口縁部を上に、住居中央に向かって斜めに埋設された斜位の埋甕である。埋甕の周囲には人頭大の礫が乱雜に、しかし環状に配置されていて、礫の下から430号ビットが検出された。第55図の断面図では礫は床面上に置かれているように見えるが、本住居は床面が軟弱で掘りすぎてしまっている。断面図は掘りすぎた後の床面を表現している。写真図版6左上の写真でみると、これらの礫は住居の床面下に埋め込まれていて、住居が機能している段階では見えなかつたものと思われる。住居を新築し、埋甕を埋設する際にともに埋め込まれた可能性が高い。何らかの呪術的な行為であろう。

本住居から出土した土器の総量は2,846gである。埋甕のほかは目立った土器は出土しておらず、石開炉の掘り方から41-1が出土した程度である。石器は礫器1点が出土した。これらの出土品から本住居は縄文時代中期末葉曾利V式期に位置づけられる。

#### 45号土坑（第56図、写真図版14）

2次調査区、3号住居北壁を切って掘り込まれた土坑である。直径1.1mほどの円形で、埋土上層に礫が含まれる。図示していないが前期前葉、五領ヶ台式、中期中葉土器破片が出土している。

#### 56号土坑（第56図、写真図版14）

2次調査区、8号住居北側で検出された土坑で、隣接する57号土坑を切る。直径1mほどの円形で、浅い土坑の底近くで藤内式深鉢の大型破片が出土した。

#### 213号土坑（第57図、写真図版14）

2次調査区、7号住居北壁付近で重複する土坑で、長軸75cm、短軸65cmのやや梢円形である。縄文時代中期の器台破片が底部から出土している。

#### 235号土坑（第57図）

2次調査区北東角、15号住居に重複する土坑で、長軸132cm、短軸117cmのやや梢円形である。底面は平坦ではなく2段階に掘り込まれている。縄文時代前期、中越式土器の底部、五領ヶ台式の土器が出土している。

#### 274号土坑（第58図）

2次調査区北端、22号住居とした遺構に重複する土坑で、97cm×92cmのほぼ円形である。確認面で打製石斧1点が出土しているほか、中期中葉土器破片がある。

#### 277号土坑（第58図、写真図版14）

2次調査区中央、5号住居の西側で検出された直径90cmの円形の土坑である。土坑底面近くで礫と中期中葉の深鉢が出土した。

### 317号土坑（第59図、写真図版15）

3次調査区25号住居南で検出された1.2mの円形土坑で、中期中葉の深体が出土した。

### 330号土坑（第59・60図、写真図版14）

2次調査区中央北寄り、21号住居北側で検出された径80cmの円形土坑で、石棒破片、五領ヶ台式土器破片が出土している。

### 351号土坑（第60図、写真図版15）

3次調査区北西角で検出された土坑で、中期井戸尻式の深体底部、磨石が底面から出土した。

### 358号土坑（第60・61図、写真図版15）

3次調査区北西角で検出された土坑で、137cm×123cmのやや楕円形である。漏斗状の土坑の埋土下層から中期井戸尻式深体と繩が出土した。

### 373号土坑（第61図、写真図版15）

3次調査区、26号住居南で検出された土坑で、隣接する371号土坑に切られる。確認面で拳大の繩がまとまって出土し、そのなかに磨石類2点が含まれる。

### 262号ピット（第61図、写真図版16）

3次調査区で検出された105cm×88cmの土坑で、遺構確認面で繩がまとまって出土した。周囲の土坑の状況から縄文時代中期中葉に位置づけられると推測される。

## その他の土坑

2次調査区と3次調査区では径90cmから100cm程度の土坑が集中して検出されている。紙数の制約上、全ての土坑を詳細に報告できないが、表を参照していただきたい。特に土坑の時期を示すに足る出土品を図示した。9号土坑、204号土坑など多くが縄文時代中期中葉、藤内式から井戸尻式に属する。当該時期の住居跡の分布と重ねてみると、中期中葉段階では6号住居から25号住居、21号住居、14号住居、9号住居と弧を描きながら住居跡が分布し、それに囲まれる地点、すなわち7号住居、8号住居付近に土坑が特に集中する。中期では26号住居の五領ヶ台式段階、落沢式～井戸尻式、曾利V式段階と断続的に住居が営まれながら、中規模な環状集落を形成しているようにみえる。土坑はちょうど環状集落の広場を中心に分布しているとみることができよう。

## 第3節 古墳時代の遺構と遺物

西ノ原B遺跡では、10軒の古墳時代住居跡、5棟の掘立柱建物跡、1基の方形周溝墓が検出されている。

### 2号住居跡（第62～63図、写真図版6～7）

本住居跡は、第2次調査区南端に位置する。住居跡は南北長不明、東西長4.7m、壁内側の床面積は推定18.5m<sup>2</sup>のほぼ方形で、竪穴は最大で深さ62cmが残る。北西角を構造遺構に切られるが、住居跡が深いためプランが確認された。住居の南側2/3は、旧公営住宅の敷地造成工事がそれ以前の造成により削平されて失われている。埋土は自然堆積による埋没を示すレンズ状の断面を呈していた。

住居床面には焼土と炭化材が厚く堆積し、床面も広い範囲で焼土化していて、火災住居と思われる。

主柱穴は15号ビットと16号ビットの2本が検出され、炭化材が混じる太さ15cmほどの柱痕も確認された。本来は4本主柱穴であったと思われる。2本の主柱穴の間には、浅いくぼみに扁平な石を立てた地床炉が検出された。火災により床面まで焼土化しているため、地床炉に伴う焼土の範囲は不明瞭である。

床面で検出された炭化材は、太さ10cmほどで、柱、梁などの建材と思われる。

床面を剥ぎ取ったところ下部から172号土坑と小さなビットが検出された。土坑は浅く、この住居の掘り方と思われる。

出土した土器の総量は2210gである。古墳時代前期の土器破片377gのほかに縄文時代前期前葉の土器破片118g、中期の土器破片1,715gがある。第63図に土器を示したが、器形を復元できた破片は僅かであった。

石器類は総量2点68.9gで、内訳は、石鏃1点0.6g、打製石斧1点68.3gである。いざれも縄文時代遺物の混入と思われる。

#### 4号住居跡（第64～66図、写真図版7）

本住居跡は、第2次調査区の南寄りに位置する。縄文時代中期の7号住居跡を切る。住居跡は南北長6.5m、東西長6.2m、壁内側の床面積は16.2m<sup>2</sup>のほぼ方形で、堅穴は最大で深さ30cmが残る。

主柱穴は59号、60号、61号、62号ビットの4本で、これらの主柱穴の脇に24号、25号、26号、30号ビットの4本の主柱穴が検出された。これは、住居の建替によるものであろう。後者のビット群は柱痕が確認されている。住居の東壁沿いには、28号、31号、32号ビットが検出され、出入口施設と推測される。

153号土坑は、やや四角張った上端と梢円形の下端の土坑で、底面から土器破片と小型土器が出土した。位置からみて本住居の貯蔵穴と思われる。144号土坑などは底面の凹凸が多く、掘り方であろう。

埋土下層と床面で焼土と炭化材が検出された。その量は限定的であるため火災住居とは断定できない。

住居中央の北寄りに立てた扁平な石と焼土を伴う地床炉を検出した。

出土した土器の総量は5190gである。縄文時代前期の土器破片57g、中期の土器破片2,979g、古墳時代前期の土器破片2,154gである。保存状態のよい土器個体は、住居北東角の埋土上層から出土した小型壺（第65図8）のみで、ほかは破片ばかりである。

出土した石器類は総量9点890.6gで、縄文時代石器の混入である。内訳は、石鏃1点0.6g、打製石斧3点537.2g、磨石類1点304g、剥片・石核等3点47g、滑石製垂飾1点1.8gである。

以上の調査所見から、本住居は古墳時代前期に属すると思われる。

#### 11号住居跡（第67～68図、写真図版7）

本住居は2次調査区北東角付近に位置する。一部を溝跡で切られて破壊されている。南北長4.4m、東西長3.9mのやや小型の住居跡で、堅穴はほとんど残っていない。周溝、4基の柱穴、地床炉、南壁沿いで貯蔵穴が検出されている。床面で多量の炭化材が検出され、焼失住居と思われる。南壁沿いで検出された227号土坑は長方形の底部をもつ貯蔵穴と思われる施設で、埋土下層に焼土が入っていたことから、焼失時には開口していた土坑であろう。床面下から土坑が検出されていて、これらは浅く不整形であることから本住居の掘り方と推測される。S字口縁台付甕、高杯脚部破片のほか、縄文時代の土器破片、石鏃が出土している。

以上の調査所見から、本住居は古墳時代前期に位置づけられる。

#### 13号住居跡（第69～71図、写真図版7）

本住居は、2次調査区北東角付近に位置する。11号住居と西側で接していて、縄文時代の14号住居を切る。南側1/3は本来、遺構が保存されていたものであろうが、14号住居が重複していたため本住居のプランを明確に捉えることができなかつた。それでも周溝、4基の主柱穴、地床炉が検出され、北西角と南東角で貯蔵穴と思われる土坑が発見されている。本住居も床面上に焼土と炭化材が出土し、焼失住居であることが分かる。北西角の

230号土坑は埋土上層と最下層に炭化材と焼土が入り込んでいて、焼失時には開口していたと推測される。土坑底面は長方形で、11号住居の227号土坑によく似た形態である。南東角の232号土坑も230号土坑に似た状況が観察され、焼失時には開口していた貯蔵用施設と推測される。S字口縁台付甕、広口壺口縁部、高环破片、金属製品、縄文時代の石礫、打製石斧などが出土している。

以上の調査所見から本住居は古墳時代前期に位置づけられる。

#### 24号住居跡（第72～75図、写真図版7～8）

本住居は、3次調査区に位置する。南西角で縄文時代の住居26号住居を切っている。北辺は調査区外である。保存状態は良好で南北長6m以上、東西長6.3m、竪穴は深さ30cmが残る。周溝、4基の主柱穴、地床炉が検出されている。住居の北西角と東壁沿いの床面は、わずか数センチ程度だが、長方形に一段高くなっている。裏返せば地床炉周辺が一段低く下がっているとみることもできる。南壁沿いの253号、256号の2基のピットは出入り口施設と思われる。4号掘立柱建物が本住居に重複している。本住居の確認面で掘立柱建物が認識できたのでなく、床面で掘立柱建物の存在に気づいたが、掘立柱建物の柱穴上に本住居の床面が貼られておらず、したがって掘立柱建物が新しいと判断された。遺構の保存状態は良好であったが、図示できる土器は出土していない。したがって本住居の時期は特定できないのだが、住居の構造から古墳時代前期に位置づけられると思われる。

#### 30号住居跡（第76図、写真図版8）

本住居は、4次調査区北東角に位置する。北西角を平安時代の29号住居に切られる。保存状態の悪い遺構でプランと地床炉、貯蔵穴と思われる390号ピットがかろうじて検出された。長軸4.2m、短軸3.4mの長方形プランで、竪穴は5cmほどが残る。住居の中央とやや北西寄りに焼土跡が検出され、これが地床炉と思われる。柱穴は検出されなかった。北東角に390号ピットがあり、古墳時代の壺胴部破片がまとまって出土した。住居床面から高环脚部、甕口縁部破片が出土し、これから本住居は古墳時代前期に位置づけられる。

#### 32号住居跡（第77～78図、写真図版8）

本住居は、4次調査区北端に位置する。保存状態は不良でプランの一部がかろうじて検出されるにとどまった。しかし、主柱穴4基、地床炉、貯蔵穴が検出され、住居の構造は把握できる。柱穴は303号、304号、305号、306号ピットの4基で、住居中央北寄りに礫を伴う地床炉が検出されている。住居の北東角の386号土坑、南壁沿いの312号ピットは貯蔵穴と思われる。南壁沿いの311号ピットは出入り口施設であろうか。埋土中で局所的だが焼土が検出されており、焼失住居の可能性もある。S字口縁台付甕破片、高环脚部、壺胴部が出土し、古墳時代前期に位置づけられる住居跡と推測される。

#### 33号住居跡（第79図、写真図版9）

本住居は、4次調査区中央に位置する。西壁を380号土坑に切られるが、保存状態は良好で、南北長3.8m、東西長4.1mの方形プラン、竪穴は深さ15cmが残る。住居中央北寄りで焼土跡が検出され、これが地床炉と思われる。地床炉の周辺で土器、礫が出土している。住居内でピットが検出されているが、これらは本住居を切る掘立柱建物跡を構成するピットであり、本住居の柱穴は確認されていない。以上の調査所見から本住居は古墳時代前期に位置づけられる。

#### 34号住居跡（第80図、写真図版9）

本住居は、4次調査区南東角に位置する。西側半分でプランが確認されたが、東側は削平により失われ、2号溝に切られている。住居中央と推測される地点の北西に焼土跡が検出され、地床炉と思われる。他の施設は検出されていない。古墳時代の土器破片、鉄製品が出土した。鉄製品は2次調査区13号住居で出土した鉄製品と同

型である。以上の調査所見から本住居は古墳時代前期に位置づけられる。

#### 40号住居跡（第80図、写真図版9）

本住居は、4次調査区中央やや南寄りに位置する。遺構の大半を搅乱で破壊され、北東角から南壁にかけて遺構が残るに過ぎない。地床炉等は不明である。住居南東角の床面で鉢が出土している。この鉢から本住居は古墳時代前期に位置づけられる。

#### 1号掘立柱建物跡（第81図、写真図版13）

2次調査区中央北東寄りで検出された建物跡で縄文時代の17号、20号住居を切る。1間×2間で、ピットが重複することから同一地点での建替えが想定される。建物跡を構成する87号ピットから古墳時代前期の高坏破片が、89号ピットからS字口縁台付甕破片が出土していて、古墳時代前期に位置づけられると思われる。

#### 2号掘立柱建物跡（第81図、写真図版13）

2次調査区中央南西寄りで検出された1間×2間の建物跡である。188号ピットからハケメ調整の古墳時代前期と思われる甕破片が出土している。

#### 3号掘立柱建物跡（第81図）

2次調査区中央北寄りに位置する。縄文時代の18号住居、20号住居、21号住居を切り、1号掘立柱建物跡の北西に並ぶ。1間×2間と思われ、1号掘立柱建物跡に近く、規模、構造も類似する。210号ピットから古墳時代前期の土器破片が出土している。

#### 3次調査区4号掘立柱建物跡（第82～83図、写真図版13）

3次調査区に位置し、古墳時代前期の24号住居を切る2間×2間の建物跡である。24号住居より新しい時期の遺構で、246号ピットから古墳時代前期の台付甕破片1点、250号ピットから甕脚部小破片1点が出土している。遺物は小破片で時期決定には不十分であるが、4次調査区の平安時代の建物跡と構造が異なること、周間に平安時代の遺構がないことから、古墳時代の遺構の可能性があり、ここに報告しておく。

#### 4次調査区4号掘立柱建物跡（第82図、写真図版13）

4次調査区中央、33号住居と重複して検出された2間×2間と推定される建物跡である。保存状態が悪く、検出できない柱穴が想定される。33号住居を切ってピットが掘り込まれていて、古墳時代前期かそれ以後の遺構としか分からぬが、3次調査区4号掘立柱建物跡と構造が類似することから、ここに報告する。

#### 1号方形周溝墓・382号土坑（第84～87図、写真図版9～10）

本遺構は、4次調査区北東角に位置する。南北11.5m、東西12.8m、幅1～2mの周溝が検出された。北西角で周溝が途切れる。周溝東辺の上端と南東角は搅乱で破壊されている。周溝埋土から散漫に遺物が出土したが、南辺周溝の埋土上層で遺物がまとまって出土した。また西辺周溝内に382号土坑が掘り込まれ、小型甕が出土している。382号土坑は周溝の調査中に小型甕が出土したことで確認されたもので、周溝埋土と土坑の重複関係を埋土断面で確認することはできなかった。小型甕が土坑の中央で出土していることから、小型甕が土坑に伴い、したがって周溝埋土中に土坑が掘り込まれたものと推測した。周溝南辺でまとめて遺物が出土したが、遺物は赤彩された精製品で、細かな破片状態で出土している。遺物の集中地点のすぐ横で周溝埋土断面を観察し図化（第85図）したが、地山由來の黄褐色土と黒褐色土が交互に堆積する状況がみてとれる。方形周溝墓の墳丘部は、墓道開削後、周溝底部にわざかに6層、8層が堆積した時点で周溝内に崩れ落ち、さらに3層までが形成された時点

で土器が周溝内に廃棄されているようである。1層の黒褐色土が土器の集中廃棄に関わる可能性もある。その場合には埋没した周溝内に穴を掘り、土器を廃棄して埋めたと考えられる。いずれにしてもこの土器の集中は、墓造営から一定の期間を経て廃棄されたものと理解されよう。この点は、382号土坑も同様に解釈される。

第87図1は382号土坑出土の小型壺。第87図3-4と第87図2は南辺に一括廃棄された土器である。第87図3-4はその破損状態から胴部側面を打撲して割られたことが分かる。周溝内から縄文時代の土偶陶破片、石器も出土している。以上の調査所見から本遺構は古墳時代前期に位置づけられる。

#### 第4節 平安時代の遺構と遺物

西ノ原B遺跡では6軒の平安時代住居跡、3棟の掘立柱建物跡が検出されている。

##### 28号住居跡（第88図、写真図版10）

本住居は、4次調査区南端で検出された。本住居が検出された地点は公営住宅の建替えにあわせて道路改良工事を実施した箇所にあたる。削平されて保存状態が悪い住居跡が確認された。方形プランの南壁沿い両端に378号土坑と379号土坑が検出され、古墳時代の住居跡かと考えたが、出土したのは底部に糸切痕の残る平安時代の土師器壺であった。カマドなどの施設は検出されなかった。本住居は平安時代、9世紀後半から10世紀頃に位置づけられると思われる。

##### 29号住居跡（第89～90図、写真図版10）

本住居は、4次調査区北東角付近に位置する。古墳時代の30号住居を切り、1号方形周溝墓に北西で接する。南北3.4m、東西3.3mの方形プランで竪穴は深さ30cmが残る。周溝が全周し、北壁東寄りにカマドが設けられ、北東角部に貯蔵穴と思われる313号ピットがある。住居を東西に水道管を埋設した搅乱が横断し、遺構を破壊している。柱穴は検出されなかった。

埋土中層から床面にかけて多量の焼土と炭化材が出土した。炭化材は住居中央から四方の壁に向かって放射状に検出され、焼失した上屋建材が落ち込んだものと見られる。焼土は炭化材を覆うように住居内で満遍なく検出されている。土葺き屋根であったことを思わせる。出土した炭化材20点の樹種同定分析を委託して実施した。その結果、1点がコナラ属コナラ亜属クヌギ節、19点がコナラ属コナラ亜属コナラ節とに同定された。乾燥した山麓丘陵部の植生を利用した用材選択が行われたものと推測される。

カマドは左右の袖石が残るが、破壊されている。住居中央に大きな扁平磧4枚が集積していたが、解体されたカマドの構築材と思われる。カマド脇の313号ピットは床面を切って掘り込まれ、埋土中に少量ながら炭化材、焼土が含まれていた。焼失跡には開口していた貯蔵穴と思われる。住居南壁沿いで検出された411号ピットは出入り口に関わる施設であろうか。床面から411号ピットにやや落ち込むように大きな扁平磧が出土した。

出土遺物は少ない。カマド南側の床面で第90図1の土師器壺が出土したほか、ロクロ甕破片、甕破片、磁石、金属製品が出土したに過ぎない。計画的、意図的な住居の焼失廃棄であったことを思わせる。以上の調査所見から本住居は平安時代、9世紀後半に位置づけられると思われる。

##### 31号住居跡（第91～93図、写真図版10～11）

本住居は、4次調査区中央東寄りに位置する。南北4.6m、東西4.6mの方形プランで、南東角にカマドを設けている。カマド西側に貯蔵穴と思われる295号ピットが検出された。293号ピットと294号ピットの2基、南壁沿いの308号ピットは柱穴であろう。295号ピットは底が2段階に掘り込まれていて、柱穴と貯蔵穴を兼ねたピットであった可能性もある。南壁沿い、295号ピットと296号ピットのあいだの床面には扁平な棒状磧が横たえられていて、

出入り口施設に関わる可能性がある。

南東角に設けられたカマドは、袖石の一部が原位置を留め、カマド底から焼土、灰が検出されている。カマド周辺には被熱した礫が多数散在しており、解体されたカマド構築材であろう。床面下から掘り方のくぼみが検出されている。

出土遺物は少ない。鍔が小型化した刃釜破片のみで、ほかに縄文時代早期の押型文土器破片が出土している。カマド位置と刃釜からみると、本住居の時期は平安時代、11世紀後半にまで下るものと思われる。

### 35号住居跡（第94～96図、写真図版11～12）

本住居は、4次調査区中央南西寄りに位置する。木道管により搅乱され、中世以降の道路跡が埋土上層で検出されている。5号掘立柱建物跡に切られる。一辺5mのほぼ方形で、竪穴は最大で深さ21cmが残る。南西角にカマドを設け、柱穴4基、周溝、貯藏穴と思われるピットが検出されている。

南西角部に設けられたカマドは、構築材の礫の一部が立った状態で検出され、一見したところ袖石が原位置を保っているかに見えるが、カマド底の焼土から離れており、かつカマド横の貯藏穴と思われる419号ピットに礫が立てられているなど不自然な点が見受けられた。419号ピット埋土には焼土粒子、炭化物、地山由来の黄褐色土ブロックが混じり、カマドを解体する際に人为的に埋め戻された痕跡がうかがえ、このことから、カマドは解体廃棄されつつ、419号ピットなどにカマド構築材の礫を立てたと判断された。手の込んだカマドの廃棄行為が想定される。

柱穴は424号、425号、426号、427号ピットの4基である。柱穴のうち2基は南壁沿いにあり、住居竪穴の主軸から南にずれる。このような構造は当地域の平安時代住居によくみられ、竪穴と上屋構造は単純な相関がないことがうかがえる。

南東角の424号土坑は浅く、上面に床が貼られていないこと、埋土に少量だが焼土粒子が混じることから、住居廃絶時に掘られた廃棄土坑と推測される。ただし、遺物、礫などは出土していない。

刃釜、土師器、灰釉陶器底部破片、419号ピットから高台破片が出土した。第96図1の刃釜はカマド礫に混じって出土したもの、第96図3は424号土坑脇、東壁沿いの床面で出土し、第96図4は住居埋土中に出土した。北壁沿いの埋土下層から完形の鉄鏃が出土している。

以上の調査所見と出土品から本住居は平安時代、11世紀後半に位置づけられると思われる。

### 37号住居跡（第97図、写真図版12）

本住居は、4次調査区南端に位置する。南北3.5m程度、東西2.9mの小型の住居で、竪穴は深さ15cmほどが残る。南壁の一部は搅乱により明確に検出されなかつた。3号掘立柱建物跡と重複する。住居中央部に硬くしまった床面が検出された。カマド、貯藏穴と思われるピット、東壁沿いに小溝が検出されたが、柱穴は確認されなかつた。南東角に設けられたカマドはくぼみと焼土、数個の焼けた小礫が検出されたのみである。北西角の埋土中に焼土が出土したが局所的で、焼失住居と判定できるほどではなかつた。298号、413号ピット、425号土坑は床面から掘り込まれていて、貯藏穴と思われる。

埋土下層から床面で遺物が出土している。第97図1と第97図2は北壁沿いの埋土下層で、第97図3は東壁沿いの埋土下層で出土している。第97図5は縦方向の粗雑なナデ調整の焼か刃釜の口縁部である。

以上の調査所見と出土品から本住居は平安時代、11世紀後半に位置づけられる。

### 39号住居跡（第97図）

本住居は、4次調査区南端に位置する。南側1/3は調査区外で、削平され失われている。搅乱で一部が破壊され、また出土遺物がなく時期が特定できないが、かたくしまった床面が検出されていることから住居であることはまちがいない。遺構の形状、貯藏穴と思われる297号ピットから37号住居と似た構造がうかがえ、平安時代、

11世紀後半に位置づけられようか。主軸方向は31号住居と一致し、かつ37号住居と近接して同時に並存したとは考えにくいくから、11世紀後半においても31号住居と39号住居、35号住居と37号住居の2時期の居住期間が想定されよう。

#### 4次調査区1号・2号掘立柱建物跡（第98図、写真図版13）

4次調査区中央で検出された建物跡で、2間×3間と想定されるが、ピット列が整合しない。出土遺物がなく時期が特定できないが、4次調査区3号掘立柱建物と類似している点から平安時代の遺構の可能性があり、ここに報告しておく。

#### 4次調査区3号掘立柱建物跡（第98図、写真図版13）

4次調査区南端で37号住居と重複して確認された2間×3間の建物跡である。37号住居に切られることから平安時代、11世紀後半かそれ以前の遺構である。

### 第5節 時期不明の遺構と遺物

掘立柱建物跡、道路跡、柵列、溝跡、土坑などが検出されている。

#### 22号住居跡

2次調査区北端で周溝らしい小溝とピットが検出され、22号住居と命名したが、調査区境界でもあり全容を把握できず、時期、性格ともに不明である。保存状態が悪い縄文時代前期か中期の住居跡であろうか。

#### 5号掘立柱建物跡（第98図、写真図版14）

4次調査区西南角付近、35号住居と重複して確認された1間×1間の建物跡である。35号住居内の424号土坑に切られることから、平安時代、11世紀後半より以前の遺構である。遺物がなく時期が特定できない。

#### 6号掘立柱建物跡（第98～99図、写真図版14）

4次調査区西端、3号溝をまたぐように検出された1間×2間の建物跡である。柱痕が検出され保存状態もよいか、遺物を伴わず時期が特定できない。柱間距離は2次調査区の1号掘立柱建物跡に類似し、古墳時代前期に位置づけられるかもしれない。

#### 道路跡（第100図、写真図版12）

4次調査区南端で、南西角から北東方向に延びる帶状の硬化面を断続的に検出した。平安時代の35号住居の埋土上層で検出され、平安時代、11世紀後半以降の道路跡と推測される。3号溝との重複関係は不明である。調査区西南角では比較的保存状態が良好で、幅1m、深さ7cmほどの浅い溝状に検出されている。埋土の黒褐色土下の地山面は硬くしまって光沢があり、これが路面である。硬化面は35号住居検出面でも確認され、断続的に40号住居の北東側にまで延長しているが、その先は削平されて失われている。道路跡の時期は不明である。

#### 溝跡（第101～102図、写真図版12～13）

2次調査区と4次調査区で溝跡が検出されている。2次調査区南端を東西に横切る溝跡は、確認されていないがおそらく分岐して4次調査区の西端を南北に延びる3号溝に連続するのであろう。3号溝は4次調査区西南角部で直角に屈折して東に延び、1号溝に連続する。ちょうど4次調査区を囲うような溝跡である。4次調査区東

端に2号溝が検出されている。これらの溝跡は、縄文時代中期、古墳時代よりも新しいことは確認できるが、正確な時期、性格、ともに不明である。

#### 柵列（第100図）

4次調査区南端、1号溝跡に沿うように東西方向に柵列が検出された。杭を打ち込んだような直径10cmに溝たない小ビットが連続して検出されている。1号溝と重複するが、遺物を伴わず時期は不明である。

#### 380号土坑・381号土坑・421号土坑（第103・104図、写真図版15～16）

形状がよく似た3基の土坑はいずれも4次調査区で検出されている。380号土坑は、33号住居と重複して、381号土坑は33号住居南で、421号土坑は32号住居南西でそれぞれ検出された。381号土坑では平安時代の土師器破片9点が出土しているが、当地域の平安時代土坑の調査事例が限られ、出土土器をそのまま遺構の時期と判断してよいか躊躇する。380号土坑は33号住居地床炉を切って掘り込んでいることから、古墳時代前期より新しい遺構と判断され、平安時代の土師器壺破片2点が出土している。421号土坑は1/3を搅乱により破壊されているが、底面から焼土と炭化材が出土している。

#### 383号土坑（第103図、写真図版15）

4次調査区南東角付近、41号住居南で検出された土坑で、2号溝に切られる。166cm×102cmの不整形の土坑で、底面も平坦ではない。礫がまとめて出土している。出土遺物がなく時期は特定できない。

#### 396号土坑（第104図、写真図版16）

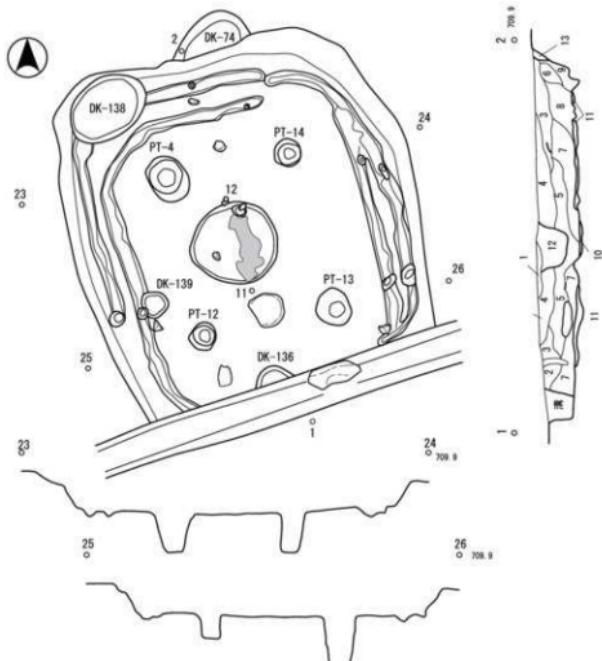
4次調査区南東角付近で検出された129cm×118cmのほぼ円形の土坑である。埋土上層に礫を伴うが、出土遺物がなく時期は特定できない。

#### 412号土坑（第104図、写真図版16）

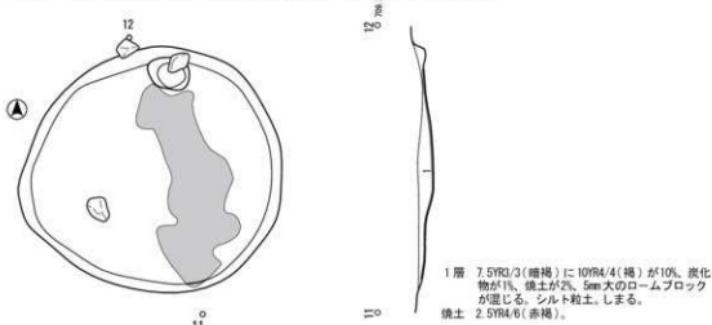
4次調査区西端で検出された144cm×132cmの円形の土坑である。出土遺物がなく時期は特定できない。

#### 422号土坑（第104図）

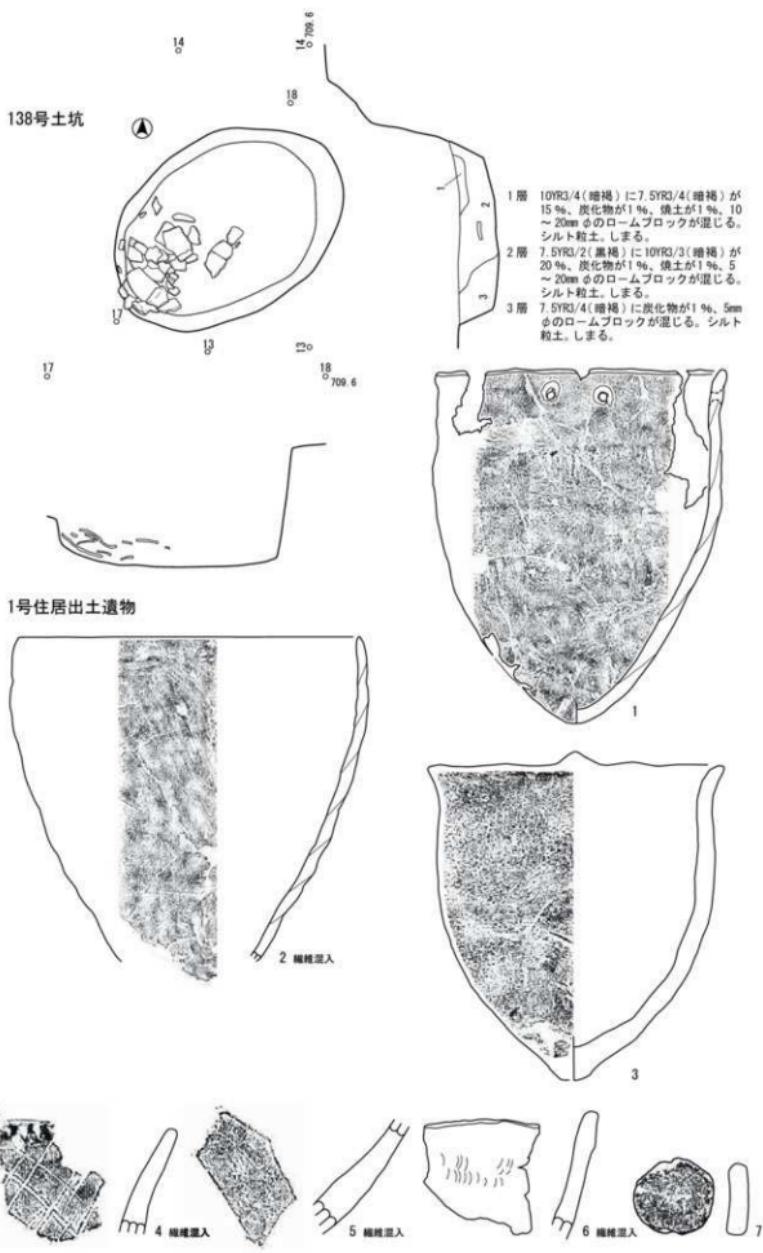
4次調査区35号住居南東、5号掘立柱建物跡と重複して検出された、88cm×77cmのやや小ぶりの浅い土坑である。



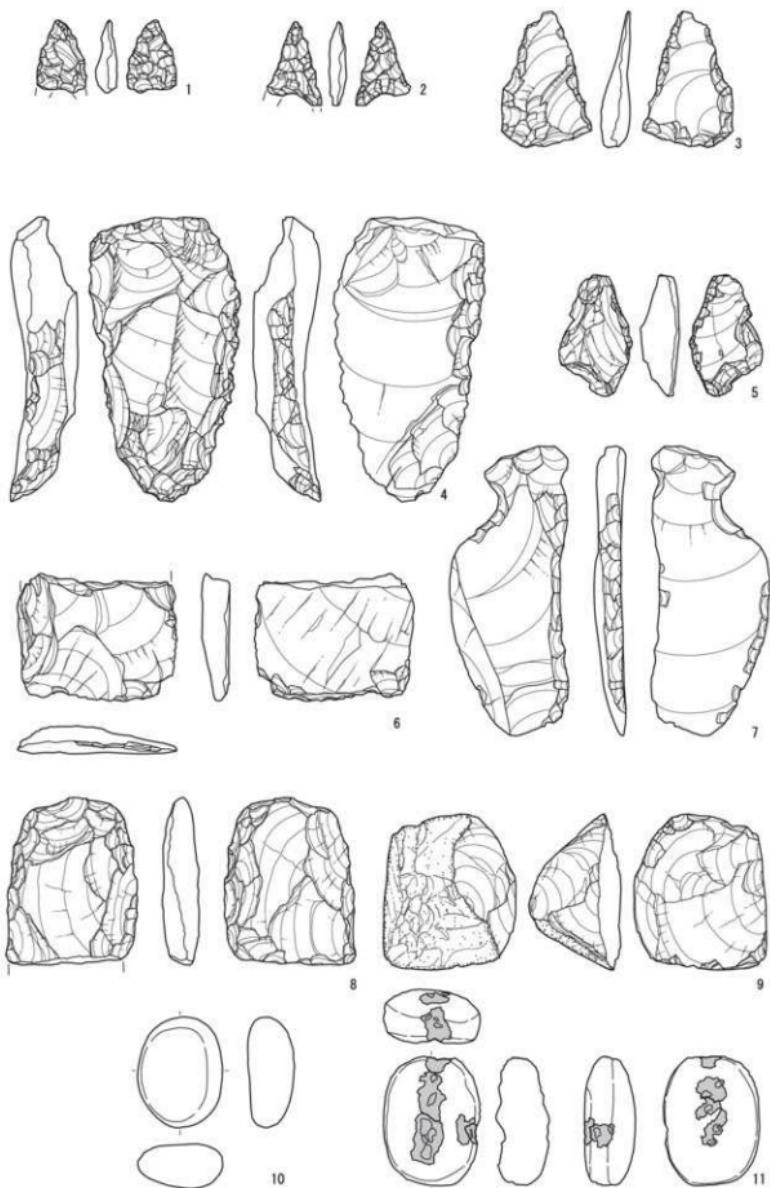
- 1層 10YR2/3(黒褐)に7.5YR2/3(暗褐)が5%、炭土が2%混じる。シルト粒土。しまる。
- 2層 10YR2/3(暗褐)に炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 3層 10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(暗褐)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 4層 10YR2/3(黒褐)に10YR2/4(暗褐)が2%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 5層 10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(暗褐)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 6層 10YR2/4(暗褐)に10YR4/4(暗褐)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 7層 10YR2/4(暗褐)に炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 8層 10YR2/4(暗褐)に炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 9層 10YR2/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 10層 (被熱硬化層) 7.5YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%、炭化物が1%、焼土(5YR4/8(赤褐))が20%混じる。シルト粒土。しまる。
- 11層 (貼り床下層) 7.5YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%、炭化物が1%、1cm大のロームブロックが1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 12層 (DK-77) 10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 13層 (DK-74) 10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。



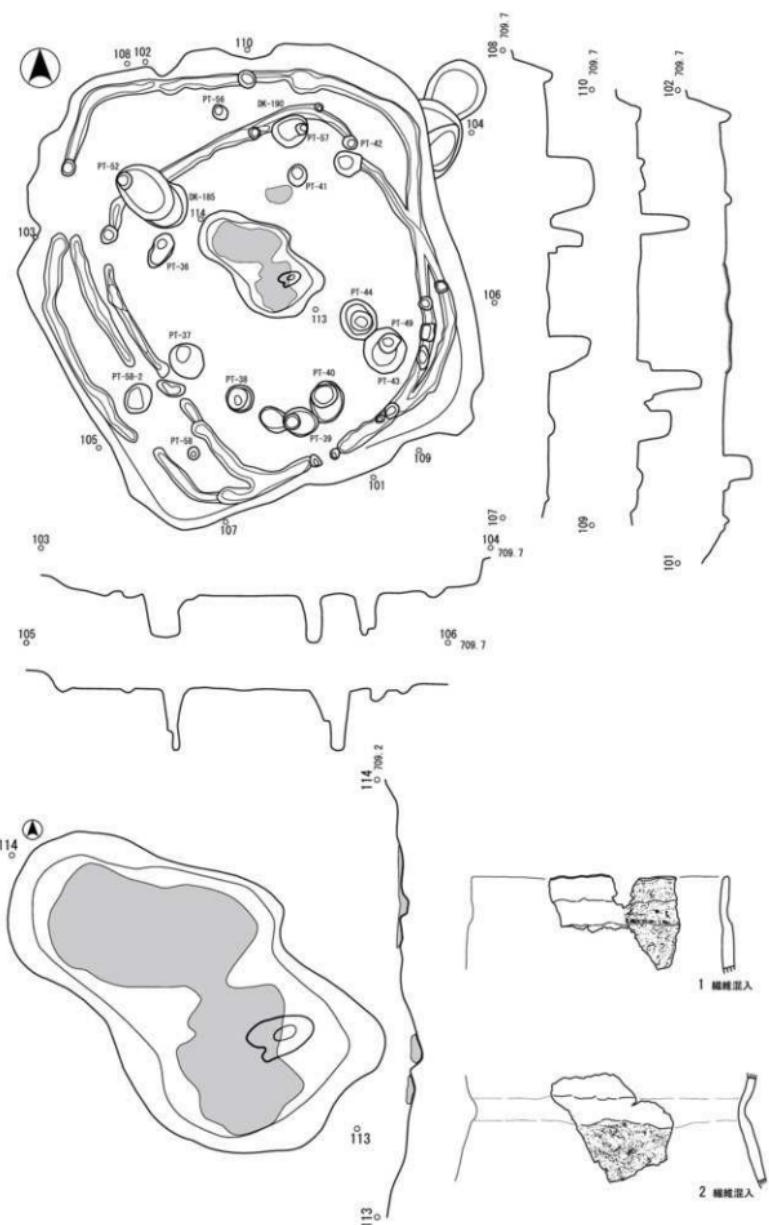
第7図 1号住居跡(1/60)、1号住居炉跡(1/20)



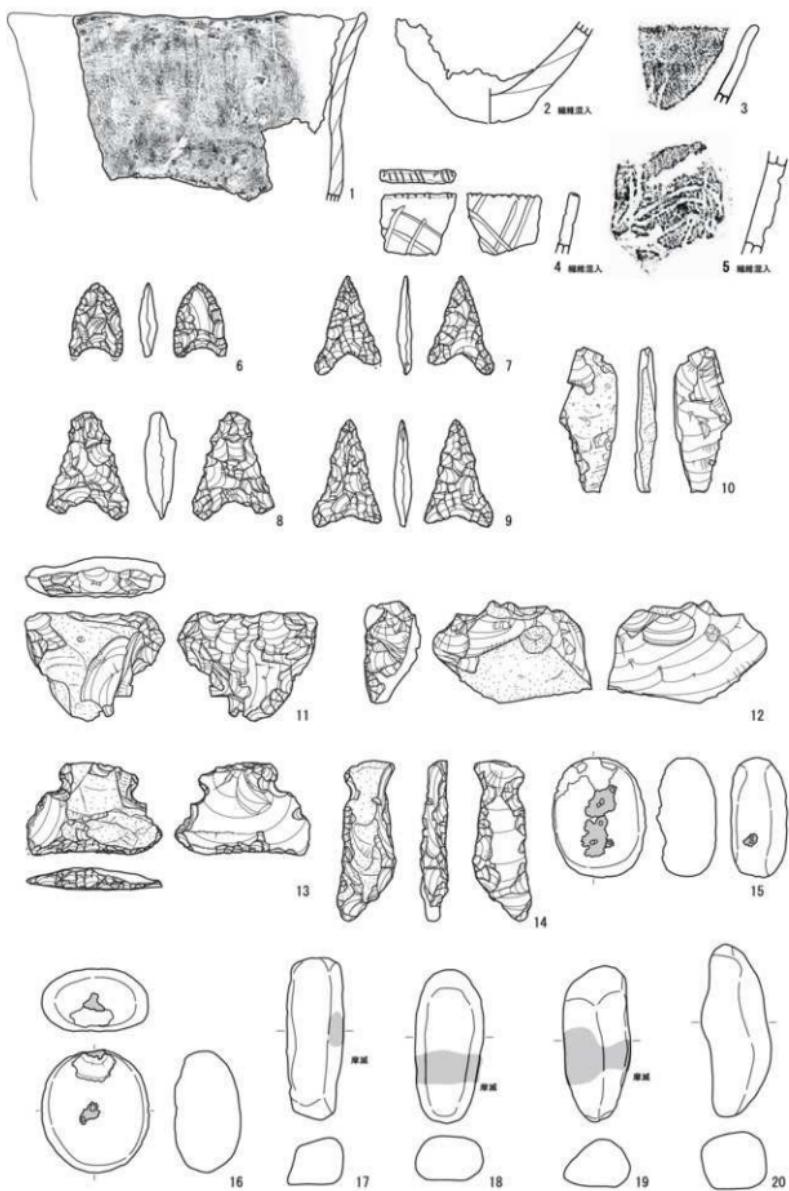
第8図 138号土坑(1/20)・出土遺物(1/4)、1号住居出土遺物(1/2、2は1/4)



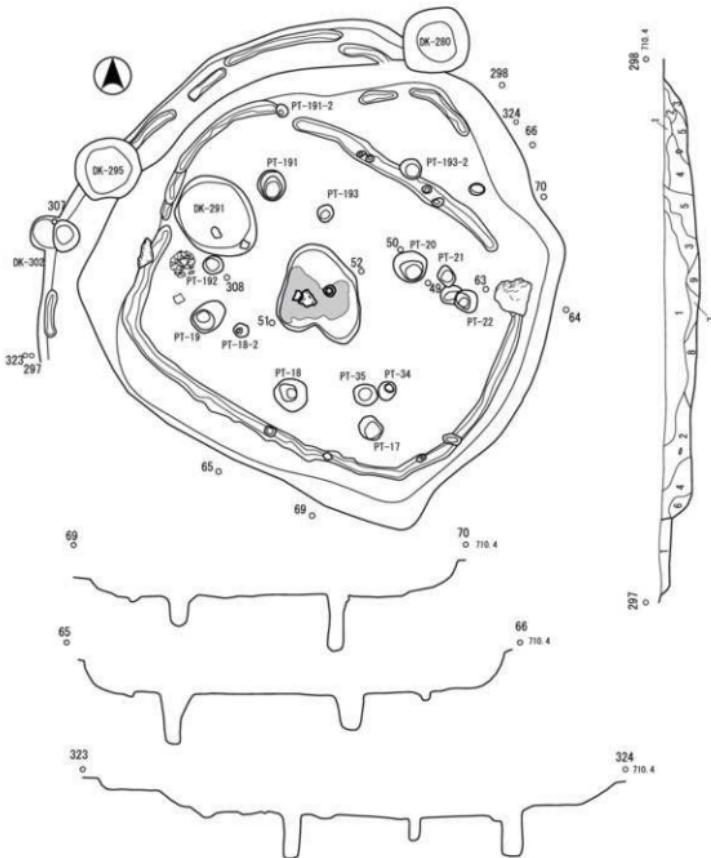
第9図 1号住居出土遺物(1/2、1～3・7は1/1、10・11は1/4)



第10図 3号住居跡(1/60)、3号住居炉跡(1/20)、3号住居出土遺物(1/4)



第11図 3号住居出土遺物(1/1、3・5・13・17～20は1/2、1・2・4・15・16は1/4)



5号住居 A・B. 積穴状造構

5号住居 A

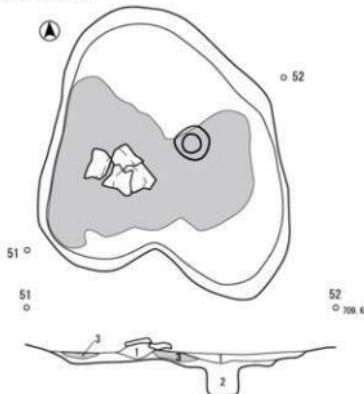
- 1層 10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗緑色)が20%、炭化物が1%、焼土が1%、が3%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 2層 10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗緑色)が30%、7.5YR3/4(暗緑色)が2%、炭化物が1%、焼土が1%、ローム粒子が2%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 3層 10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗緑色)が20%、炭化物が1%、焼土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 4層 10YR3/4(暗緑色)に炭化物が1%、焼土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 5層 10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗緑色)が10%、炭化物が1%、焼土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 6層 10YR4/4(褐色)に10YR4/6(褐色)が10%、10YR4/4(暗緑色)が10%、炭化物が1%、10~20mm大のロームブロックが5%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 7層 10YR2/3(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が15%、炭化物が1%、焼土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。やわらしまる。
- 8層 10YR2/3(暗緑色)に10YR2/3(黒褐色)が3%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 9層 10YR3/4(暗緑色)に10YR3/3(暗緑色)が3%、炭化物が1%、ローム粒子が2%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 10層 10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗緑色)が10%、炭化物が1%、焼土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 11層 10YR3/4(暗緑色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 12層 10YR3/4(暗緑色)に10YR4/4(褐色)が30%、炭化物が1%、10~20mm大のロームブロックが5%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 13層 10YR2/3(暗緑色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%、焼土が1%、ローム粒子が2%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 14層 10YR3/4(暗緑色)に10YR3/3(暗緑色)が3%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

5号住居 B

- 15層 10YR4/4(褐色)に炭化物が1%、5~10mm大のロームブロックが5%混じる。シルト粒土。やわらしまる。

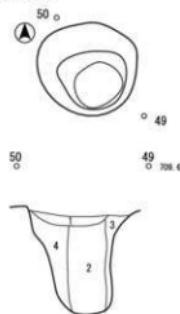
第12図 5号住居跡(1/60)

5号住居炉跡



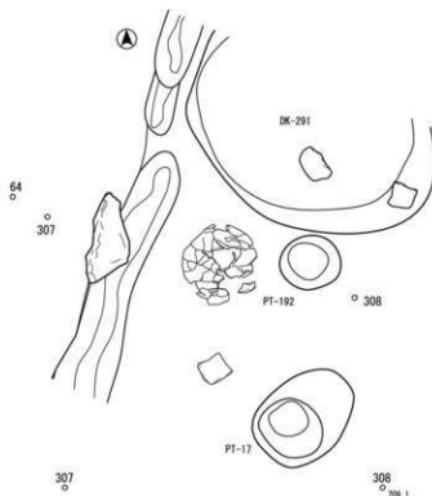
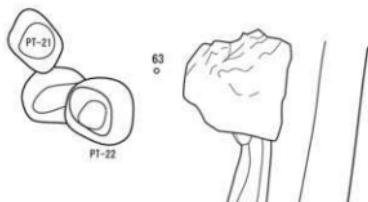
- 1層 10YR2/3(黒褐色)に炭化物が2%、鐵土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 2層 10YR4/6(褐)に炭化物が1%、鐵土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 3層 (鐵土層)5YR4/8(赤褐)。

20号ピット

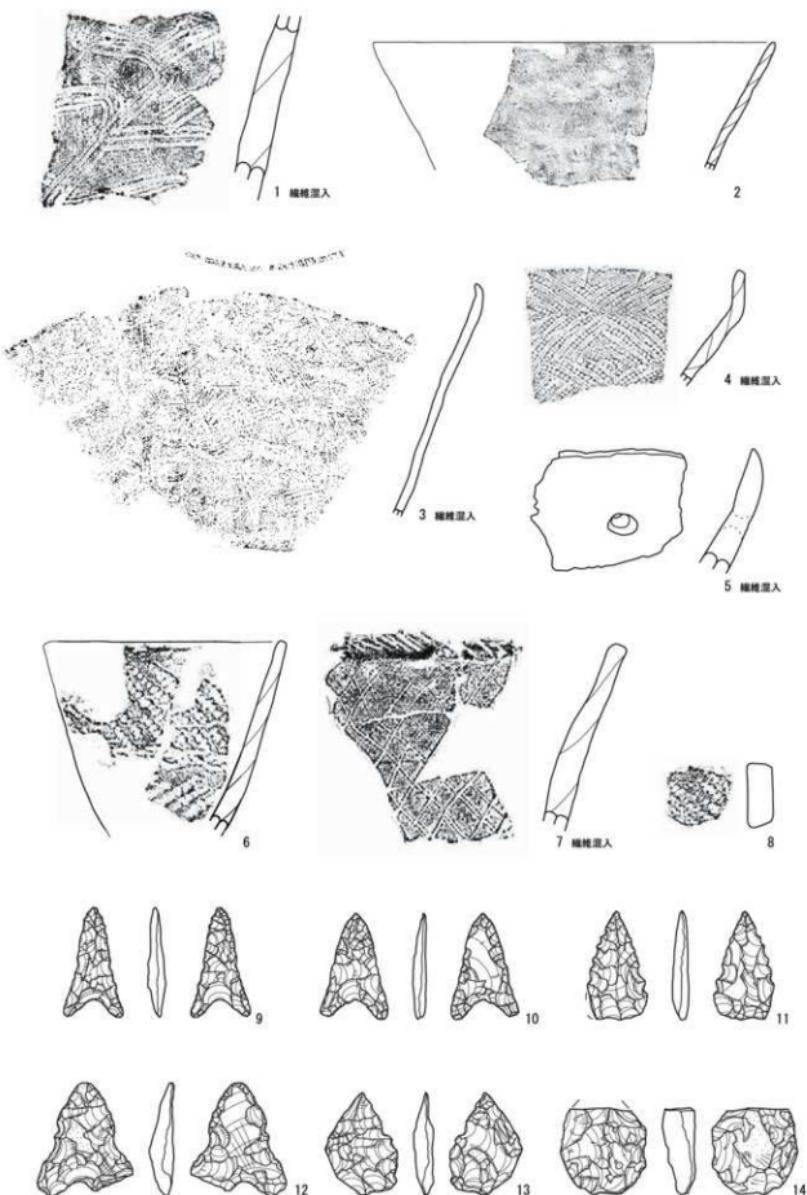


- 1層 10YR4/6(褐)に炭化物が1%、3cm大のロームブロックが層中央部に集中して混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 2層 7.5YR4/4(暗褐)に炭化物が1%、2~3mm大のロームブロックが層全体に散って混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 3層 7.5YR4/4(褐)に炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 4層 7.5YR4/6(褐)に炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。

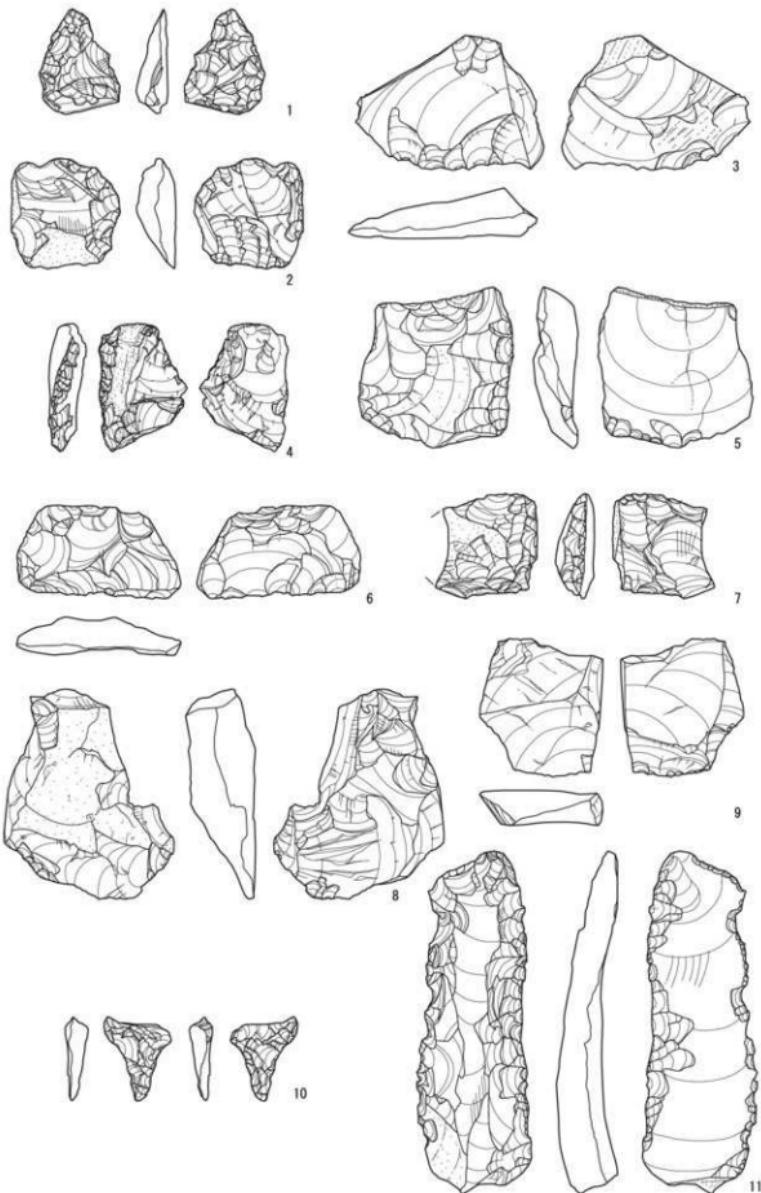
遺物出土状況



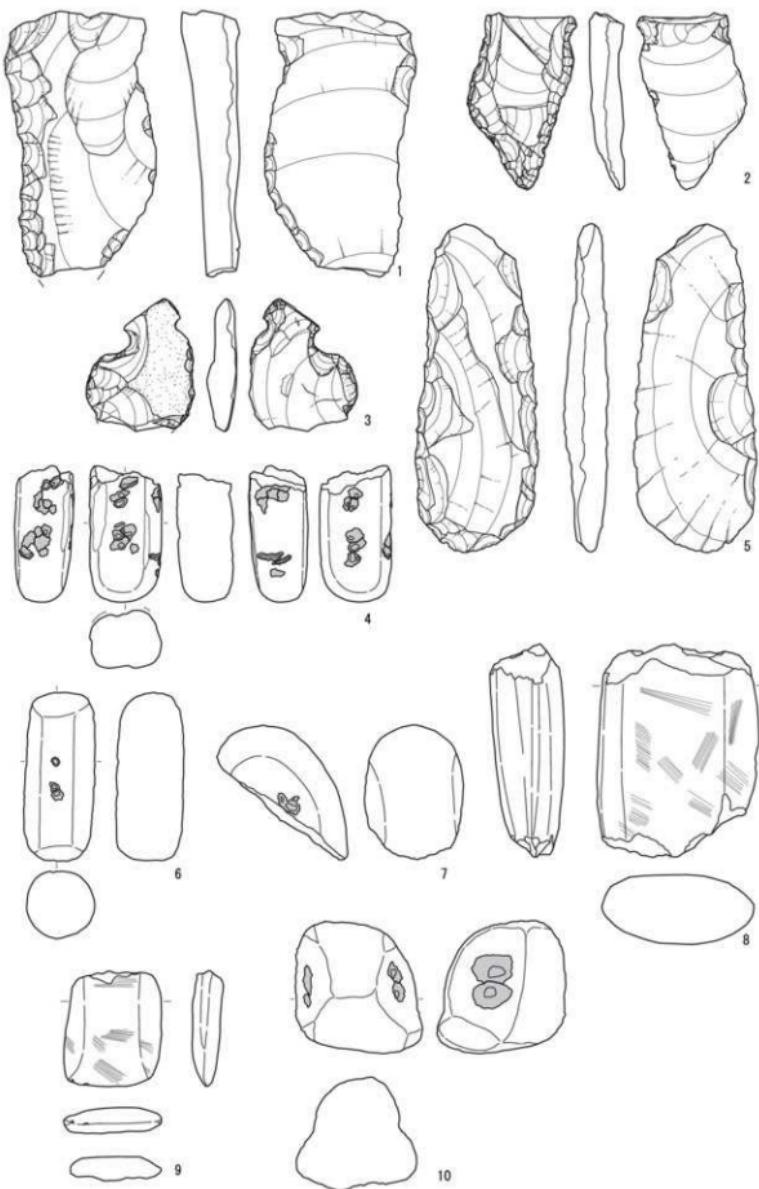
第13図 5号住居炉跡(1/20)、20号ピット(1/20)、遺物出土状況(1/20)



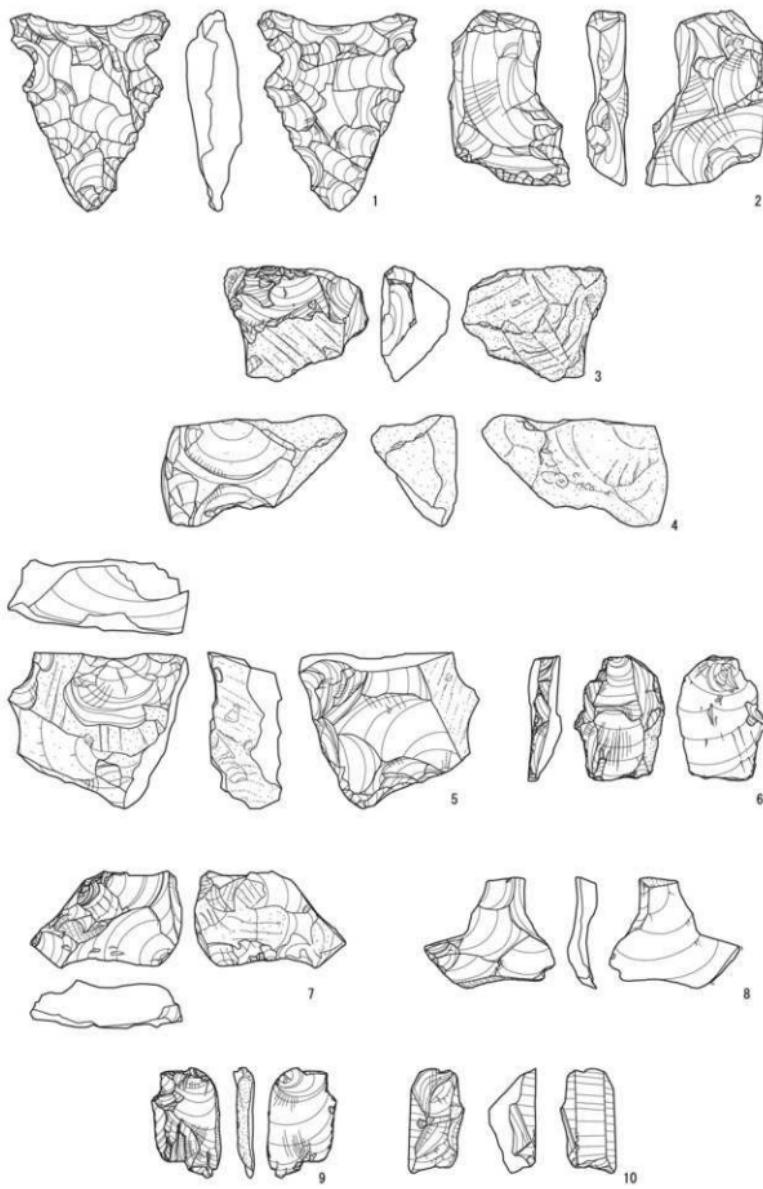
第14図 5号住居出土遺物(1/1、1・5～8は1/2、2～4は1/4)



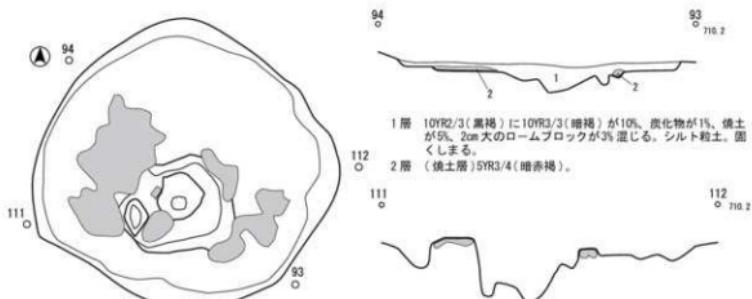
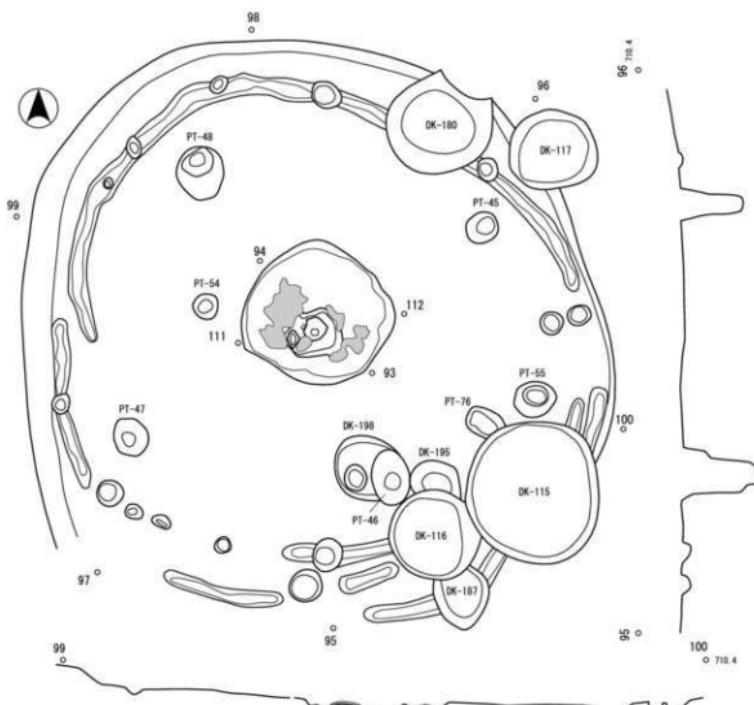
第15図 5号住居出土遺物(1/1、4は1/2)



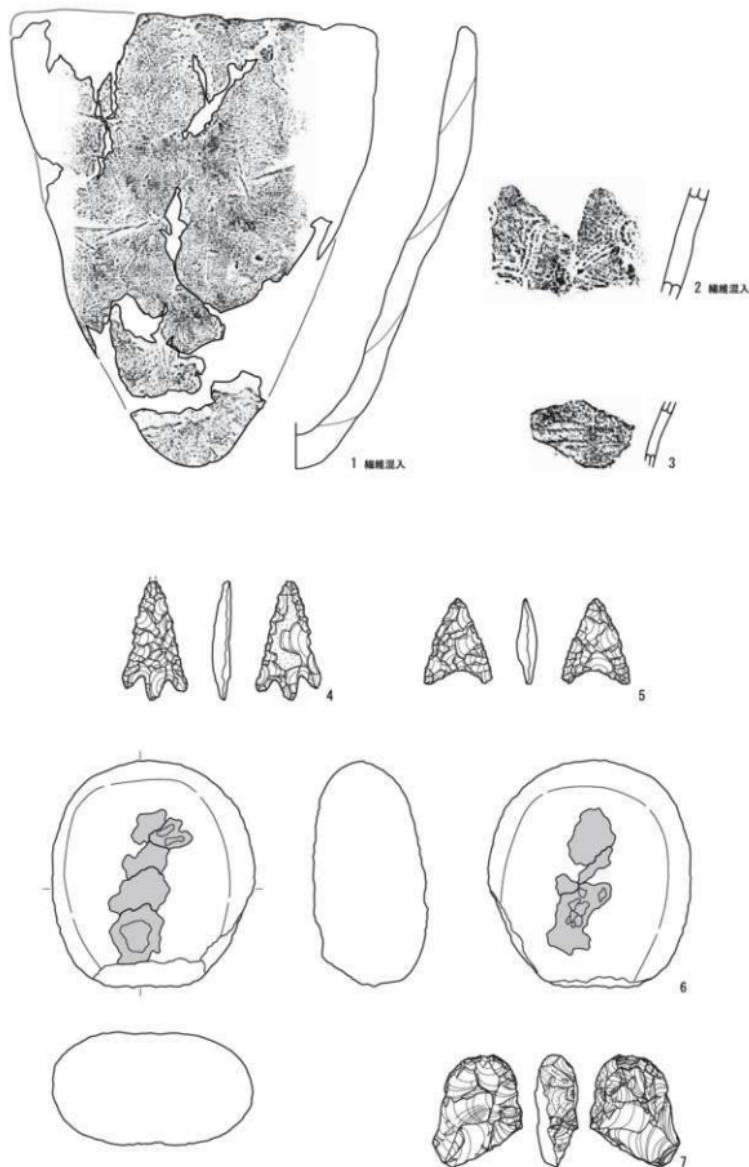
第16図 5号住居出土遺物(1/2、1は1/1、4・10は1/4)



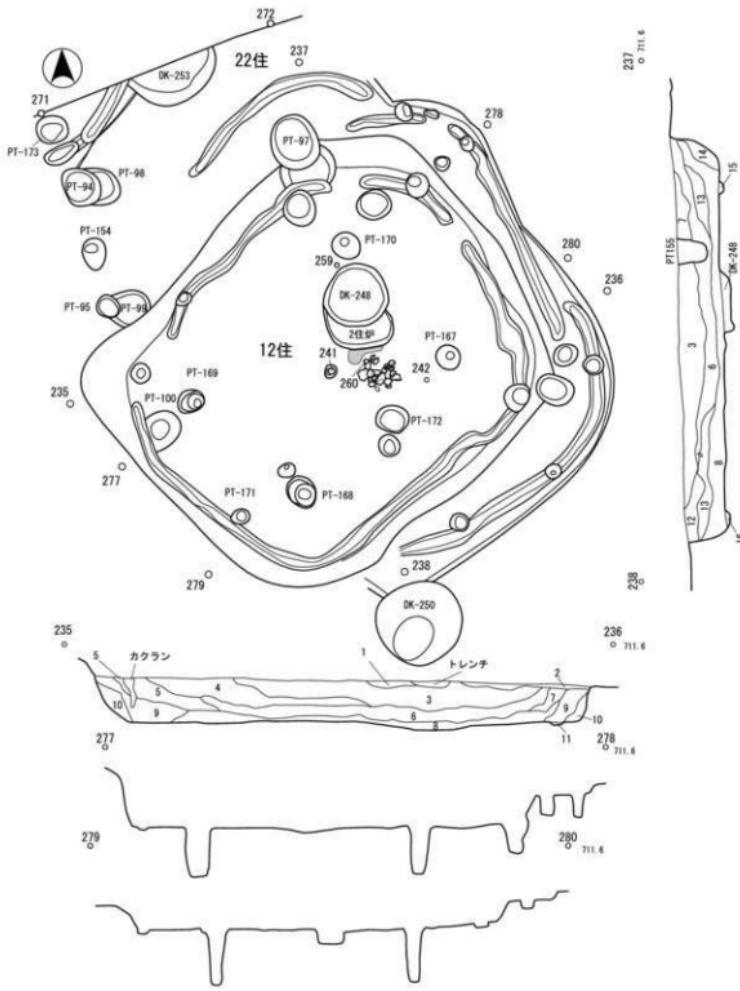
第17図 5号住居出土遺物(1/1、3・6～9は1/2)



第18図 10号住居跡(1/40)、10号住居炉(1/20)

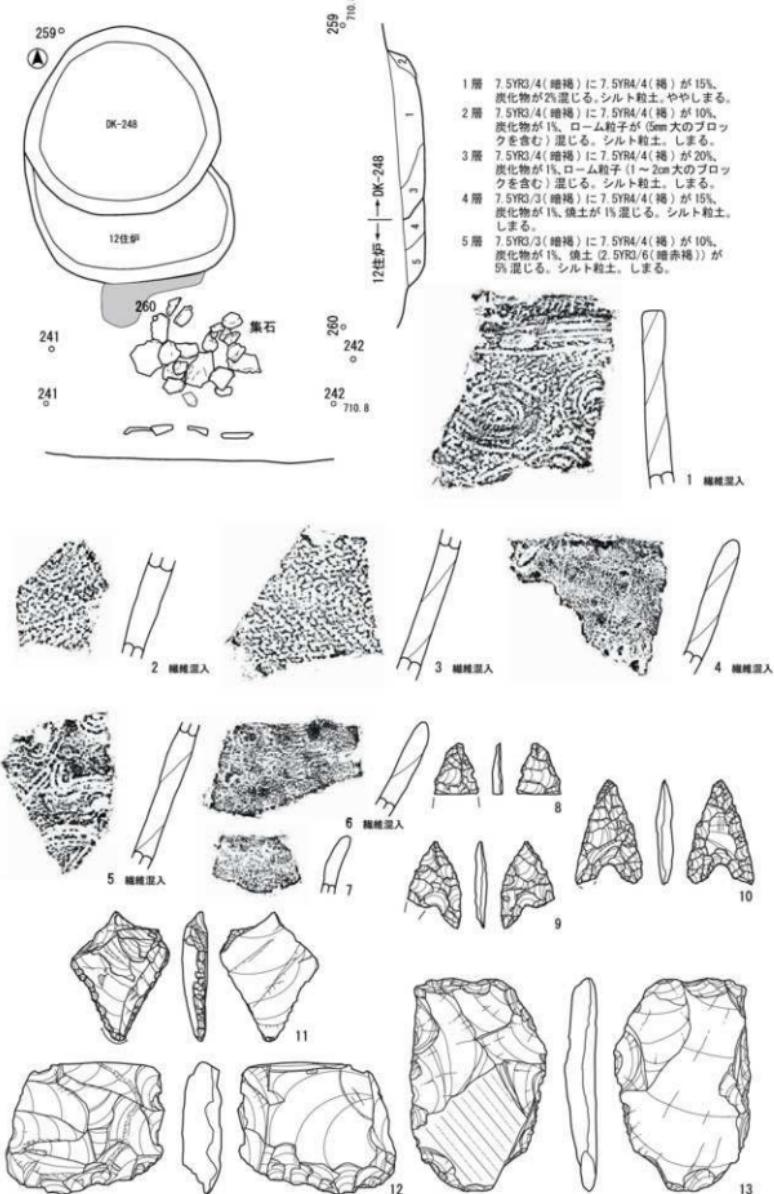


第19図 10号住居出土遺物(1/2、4・5は1/1)

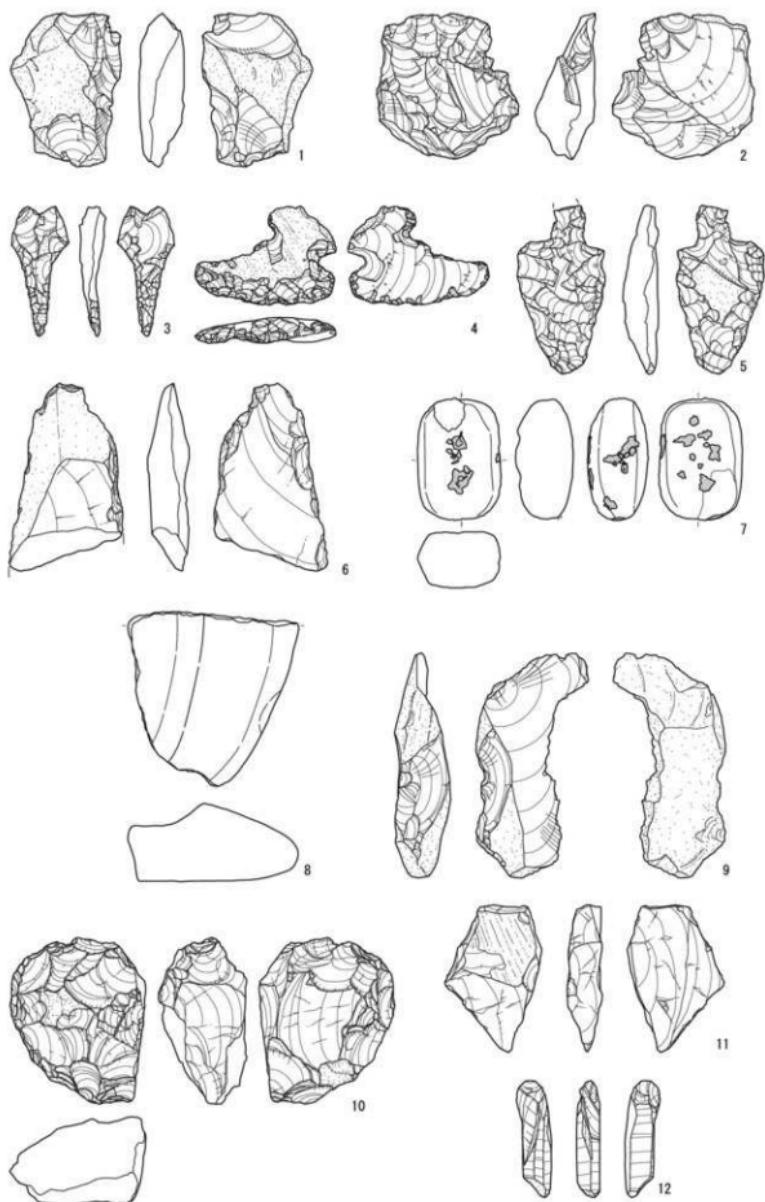


- 1層 10YR2/3(黒褐色)に10YR2/3(暗褐色)が30%、炭化物が1%、後土が2%、ローム粒子が5%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 2層 10YR2/3(暗褐色)に10YR2/4(暗褐色)が10%、10YR4/4(褐)が10%、炭化物が1%、後土が1%、ローム粒子が5%混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 3層 10YR2/3(黒褐色)に10YR2/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%、後土が2%、ローム粒子が10%混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 4層 10YR2/3(暗褐色)に10YR2/4(暗褐色)が15%、炭化物が1%、後土が2%、ローム粒子が5%混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 5層 10YR2/3(暗褐色)に10YR2/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%、後土が1%、ローム粒子が15%（1～5mmの大いのブロックを含む）混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 6層 10YR2/4(暗褐色)に10YR2/3(暗褐色)が25%、炭化物が2%、後土が1%、ローム粒子が20%（5mmの大いのブロックを含む）混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 7層 10YR2/4(暗褐色)に10YR4/4(褐)が20%、炭化物が1%、後土が1%、ローム粒子が15%混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 8層 10YR2/4(暗褐色)に10YR2/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%、後土が1%、ローム粒子が15%（5mm～10mmの大いのブロックを含む）混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 9層 10YR2/4(暗褐色)に10YR2/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%、後土が1%、ローム粒子が15%（5mmの大いのブロックを含む）混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 10層 10YR2/4(暗褐色)に10YR4/4(褐)が5%、炭化物が1%、後土が1%、ローム粒子が5%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 11層 (黒素) 10YR2/4(暗褐色)  
 12層 10YR2/3(暗褐色)に10YR2/3(暗褐色)が15%、後土が1%、ローム粒子が5%混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 13層 10YR2/4(暗褐色)に10YR4/4(褐)が10%、炭化物が1%、後土が1%、ローム粒子が15%（5mm～10mmの大いのブロックを含む）混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 14層 10YR4/6(褐)に10YR4/4(褐)が10%、炭化物が1%、ローム粒子が5%（2～3mmの大いのブロックを含む）混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 15層 (黒素) 10YR4/4(褐)  
 16層 (黒素) 10YR2/4(暗褐色)  
 17層 10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(暗褐色)が3%、炭化物が1%、後土が1%、ローム粒子が5%（5mmの大いのブロックを含む）混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 18層 10YR2/3(暗褐色)に10YR2/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%、ローム粒子が5%混じる。シルト粘土。ややしまる。

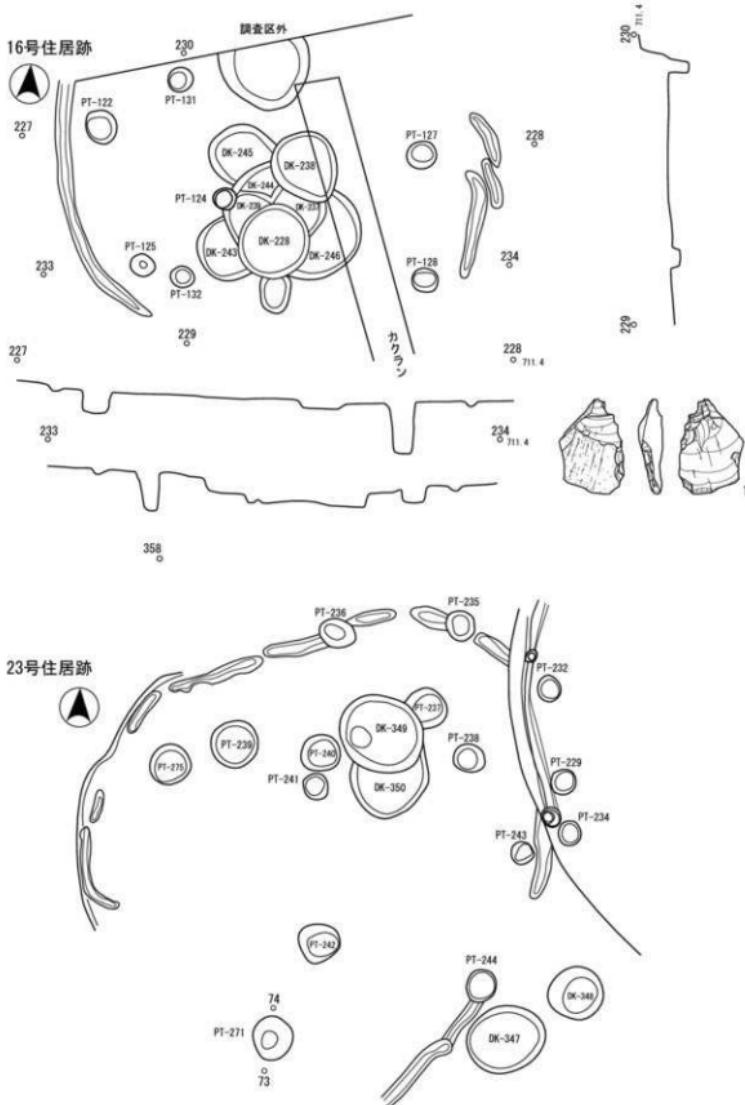
第20図 12号住居跡(1/60)



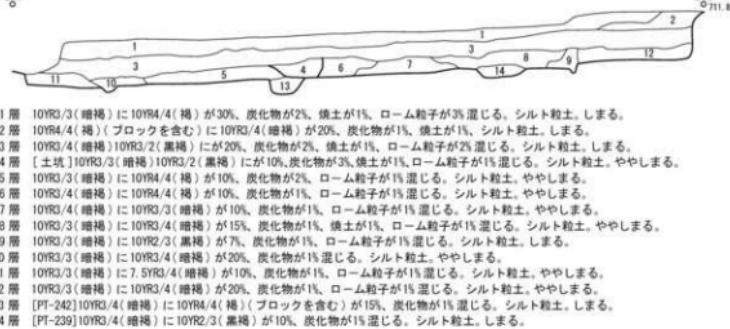
第21図 12号住居跡(1/20)、12号住居出土遺物(1/2、8~10・12は1/1)



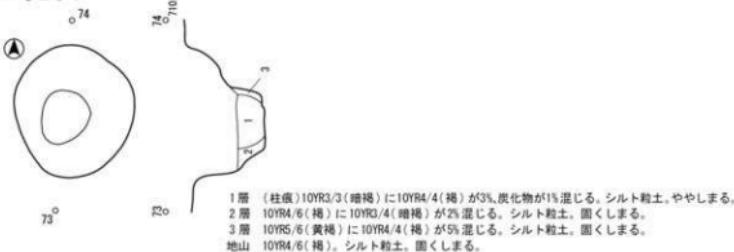
第 22 図 12 号住居出土遺物(1/1、4・6・10 は 1/2、7・8 は 1/4)



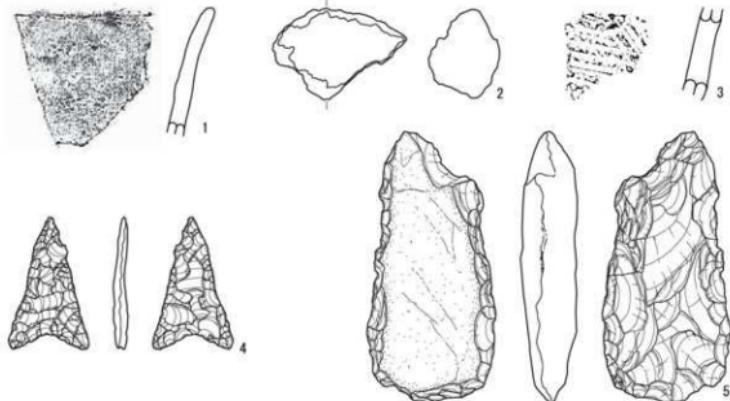
第 23 図 16 号住居跡(1/60)・出土遺物(1/1)、23 号住居跡(1/60)

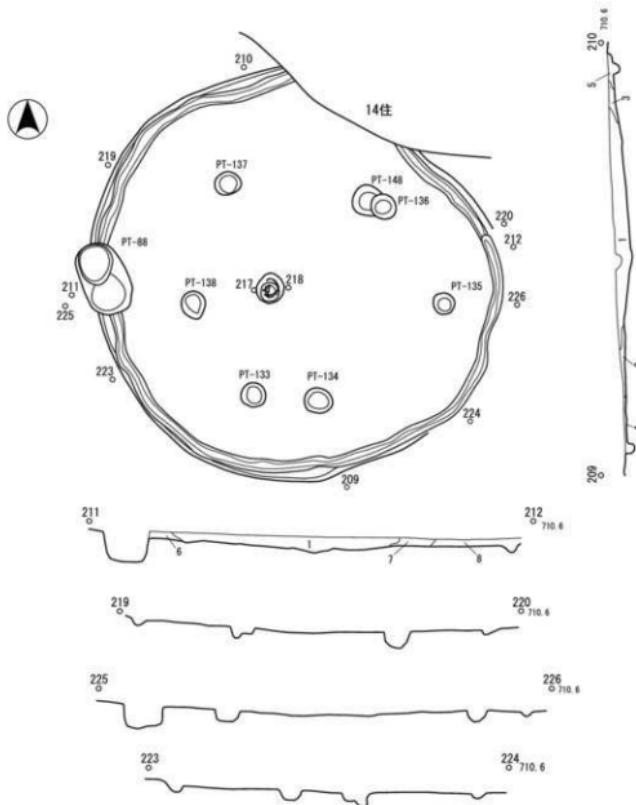
- 
- 1層 10YR2/3(暗褐色)に10YR4/4(褐)が30%, 腐化物が2%, 硫土が1%, ローム粒子が5%混じる。シルト粘土。しまる。  
 2層 10YR4/4(褐) (ブロックを含む)に10YR/4(暗褐色)が20%, 腐化物が1%, 硫土が1%, シルト粘土。しまる。  
 3層 10YR2/4(暗褐色)10YR3/2(黒褐)に)が20%, 腐化物が2%, 硫土が1%, ローム粒子が2%混じる。シルト粘土。しまる。  
 4層 (土塊)10YR3/3(暗褐色)10YR3/2(黒褐)に)が10%, 腐化物が3%, 硫土が1%, ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 5層 10YR2/3(暗褐色)に)10YR4/4(褐)が10%, 腐化物が2%, ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 6層 10YR2/4(暗褐色)に)10YR4/4(褐)が10%, 腐化物が3%, 硫土が1%, ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 7層 10YR2/4(暗褐色)に)10YR2/3(黒褐)が10%, 腐化物が1%, ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 8層 10YR2/3(暗褐色)に)10YR2/4(暗褐色)が7%, 腐化物が1%, 硫土が1%, ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 9層 10YR2/3(暗褐色)に)10YR2/3(黒褐)が7%, 腐化物が1%, ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 10層 10YR2/3(暗褐色)に)10YR3/4(暗褐色)が20%, 腐化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 11層 10YR2/3(暗褐色)に)7.5YR3/4(暗褐色)が10%, 腐化物が1%, ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 12層 10YR2/3(暗褐色)に)10YR3/4(暗褐色)が20%, 腐化物が1%, ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 13層 [PT-242]10YR3/4(暗褐色)に)10YR4/4(褐) (ブロックを含む)が10%, 腐化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 14層 [PT-239]10YR3/4(暗褐色)に)10YR2/3(黒褐)が10%, 腐化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。

271号ピット

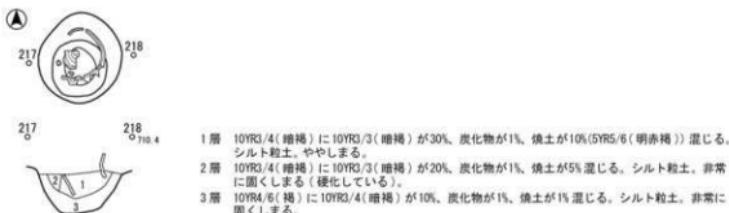


23号住居出土遺物

第24図 23号住居セクション図(1/60)、271号ピット(1/20)  
23号住居出土遺物(1/2、4は1/1)

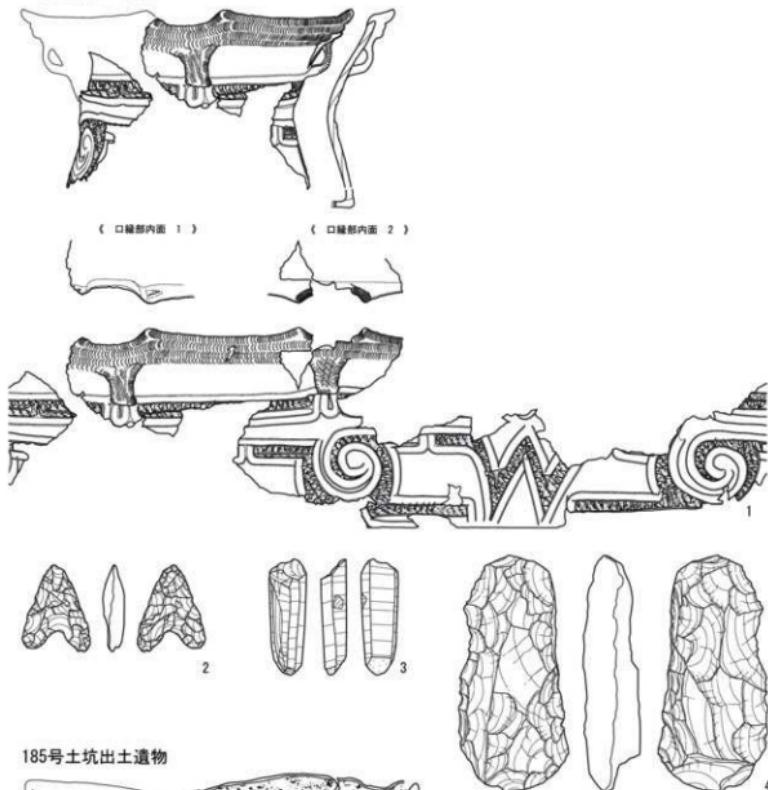


- 1層 10YR3/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が15%、炭化物が2%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 2層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 3層 10YR4/4(褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 4層 10YR4/6(褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粒土。やわまる。  
 5層 10YR4/6(褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。  
 6層 10YR4/4(褐色)に10YR3/4(暗褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 7層 10YR4/4(褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。やわまる。  
 8層 10YR4/6(褐色)の10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。やわまる。



第25図 17号住居跡(1/60)、17号住居炉跡(1/20)

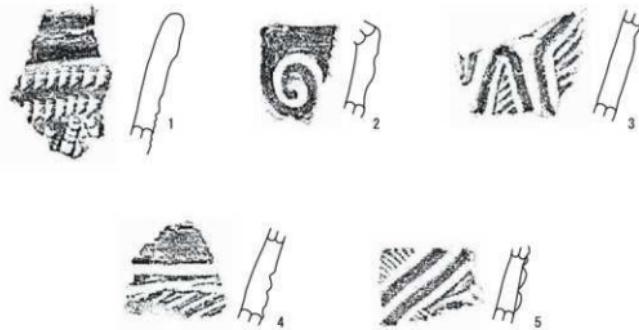
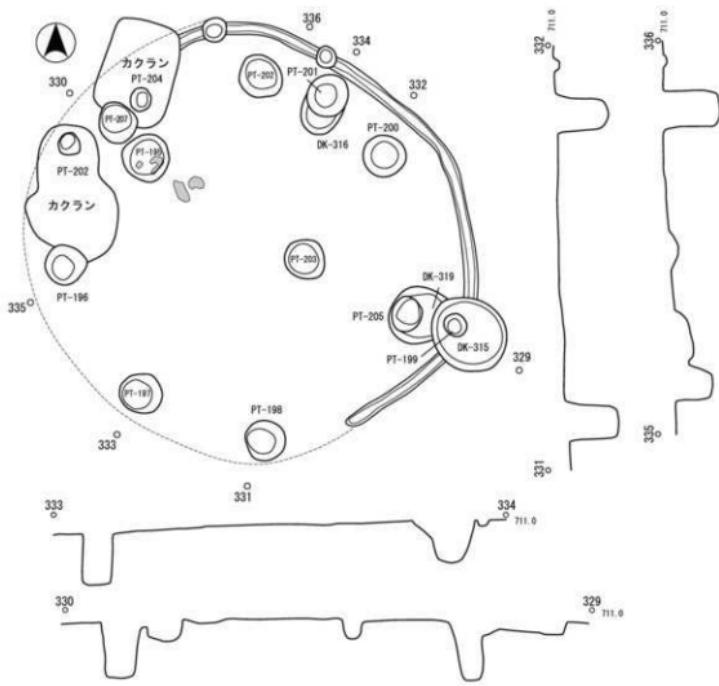
17号住居出土遺物



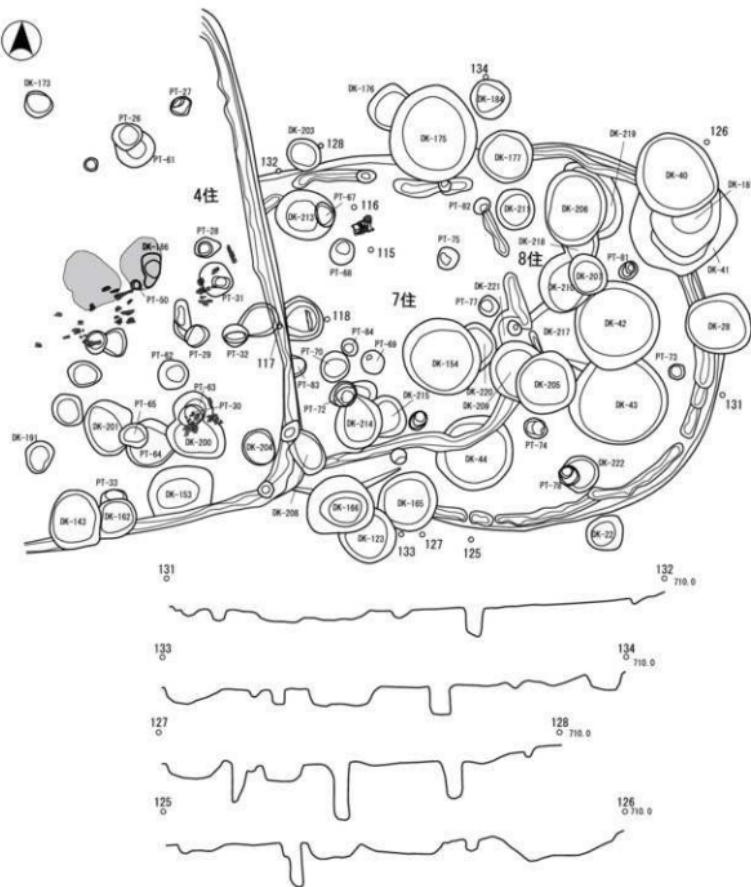
185号土坑出土遺物



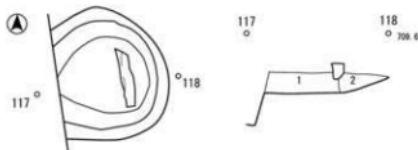
第26図 17号住居出土遺物(1/1, 1は1/4, 4は1/2)、185号土坑出土遺物(1/2)



第27図 6号住居跡(1/60)、6号住出土遺物(1/2)



### 7号住居炉跡



1層 7.SYR 3/4(暗褐色)に7.SYR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%、燒土が1%、ローム粒子が3%混じる。シルト粘土。固くしまる。

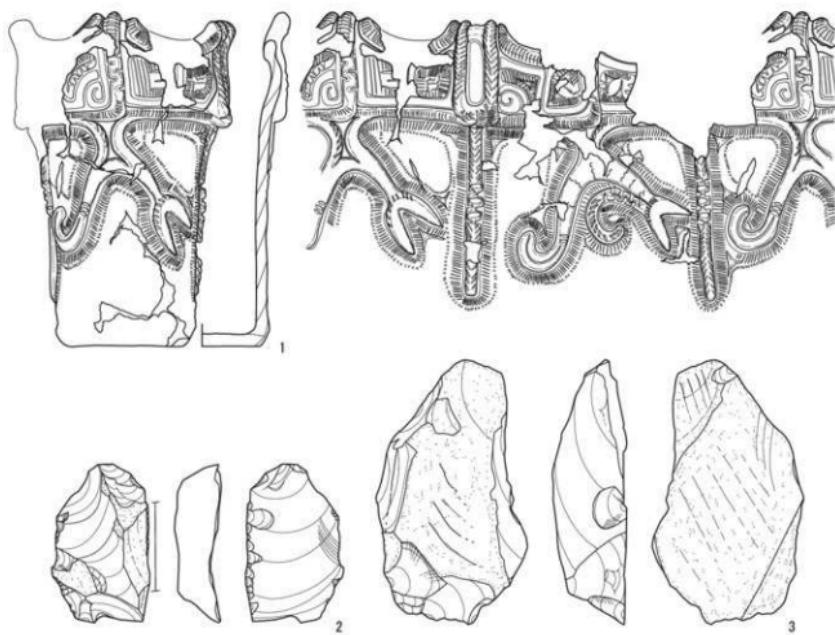
2層 7.SYR4/4(褐色)に7.SYR3/4(暗褐色)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。

第28図 7・8号住居跡(1/60)、7号住居炉跡(1/20)

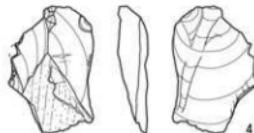
遺物出土状況



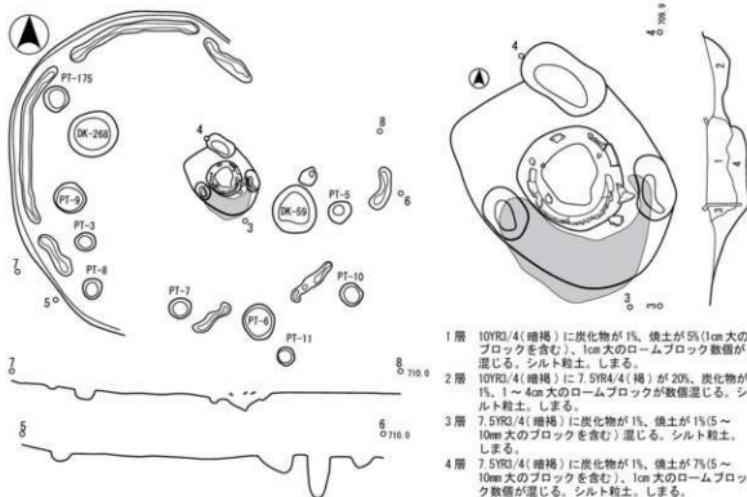
7号住居出土遺物



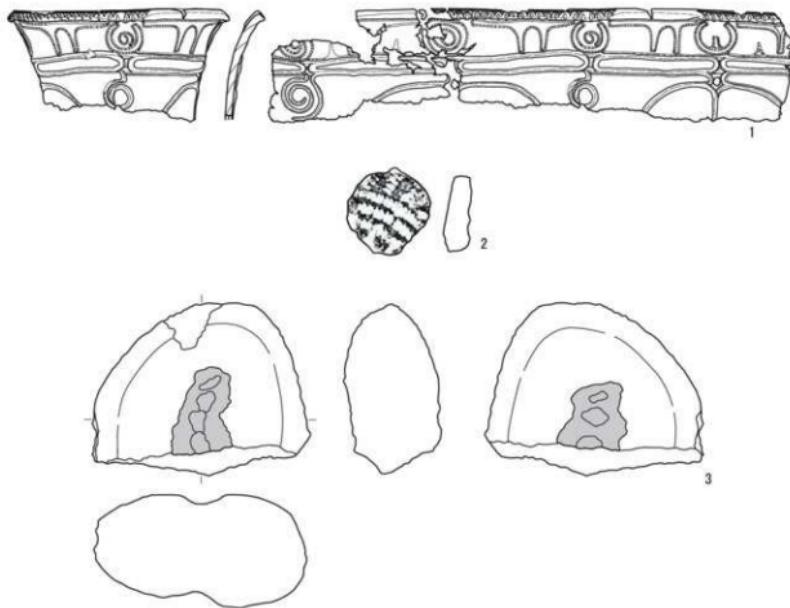
8号住居出土遺物



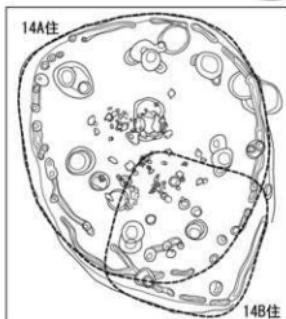
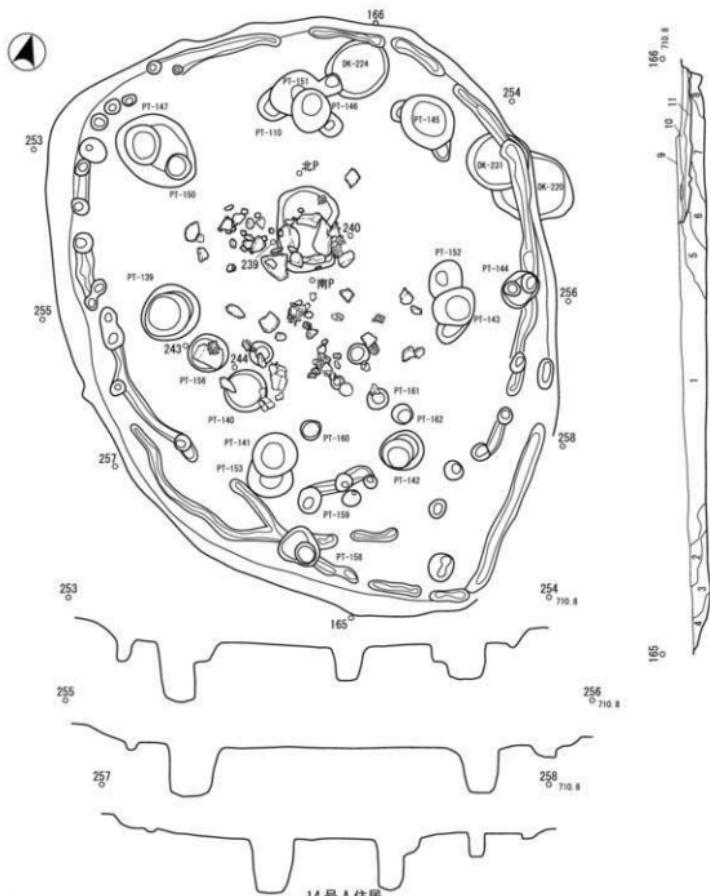
第29図 遺物出土状況(1/20)、7号住居出土遺物(1/1、1は1/4)  
8号住居出土遺物(1/1)



- 1層 10YR4/4(縹拂)に炭化物が1%、燒土が5% (1cm 大のブロックを含む)、1cm 大のロームブロック数個が混じる。シルト粒土。しまる。
- 2層 10YR4/4(縹拂)に7.5YR4/4(褐)が20%、炭化物が1%、1~4cm 大のロームブロックが数個混じる。シルト粒土。しまる。
- 3層 7.5YR3/4(縹拂)に炭化物が1%、燒土が1% (5~10mm 大のブロックを含む) 混じる。シルト粒土。しまる。
- 4層 7.5YR3/4(縹拂)に炭化物が1%、燒土が7% (5~10mm 大のブロックを含む)、1cm 大のロームブロック数個が混じる。シルト粒土。しまる。



第30図 9号住居跡(1/60)、9号住居炉跡(1/20)  
9号住居出土遺物(1/2、1は1/8)



#### 14号 A住居

- 1層 10R2/3(黒褐)に10R3/3(暗褐)が20%、炭化物が4%、燒土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 2層 10R3/4(暗褐)に10R3/3(暗褐)が20%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 3層 10R3/4(暗褐)に10R4/3(暗褐)が5%、炭化物が3%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 4層 10R3/4(暗褐)に10R4/4(褐)が10%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 5層 10R2/3(黒褐)に10R3/3(暗褐)が20%、炭化物が3%、燒土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
- 6層 10R2/4(暗褐)に炭化物が4%、燒土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 7層 10R2/4(暗褐)に炭化物が2%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 8層 10R2/4(暗褐)に10R4/4(褐)が20%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。

#### 14号 B住居

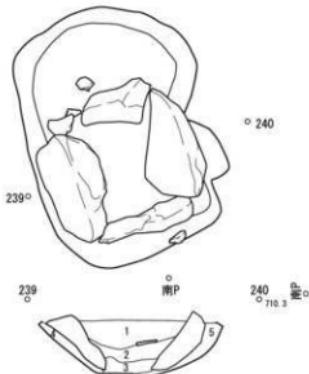
- 9層 (覆土層) 10R2/3(黒褐)に10R3/2(黒褐)が10%、炭化物が1%、燒土が5%混じる。シルト粒土、ややしまる。
- 10層 (貼り土層) 10R3/4(暗褐)に10R4/4(褐)が40%、炭化物が1%、燒土(5YR4/6赤褐)が10%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 11層 (振り土層) 10R2/3(黒褐)に10R3/4(暗褐)が30%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。

第31図 14号住居跡(1/60、1/120)

## 14号住居炉跡

北P。

Ⓐ



## 156号ピット

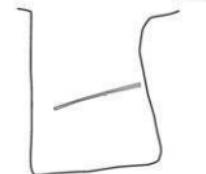
Ⓐ



243o 244

243o 244

244 710.3



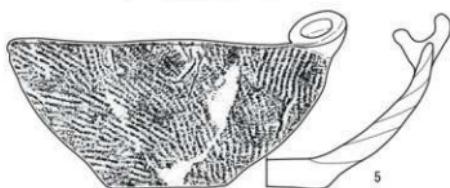
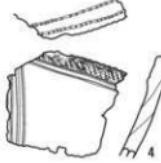
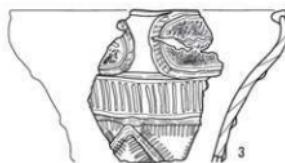
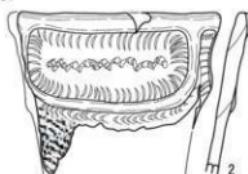
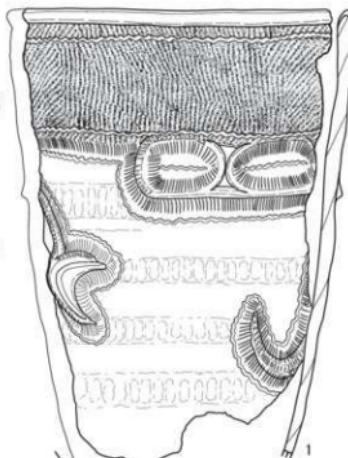
1層 10YR3/4(緑褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、10YR2/3(黒褐色)が3%、炭化物が3%、陶土が5%、ローム粒子が2%～10mm大のブロックを含む。混じる。シルト粒土。ややしまる。

2層 10YR2/2(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が15%、炭化物が5%、陶土が3%、ローム粒子が2%混じる。シルト粒土。固くしまる。

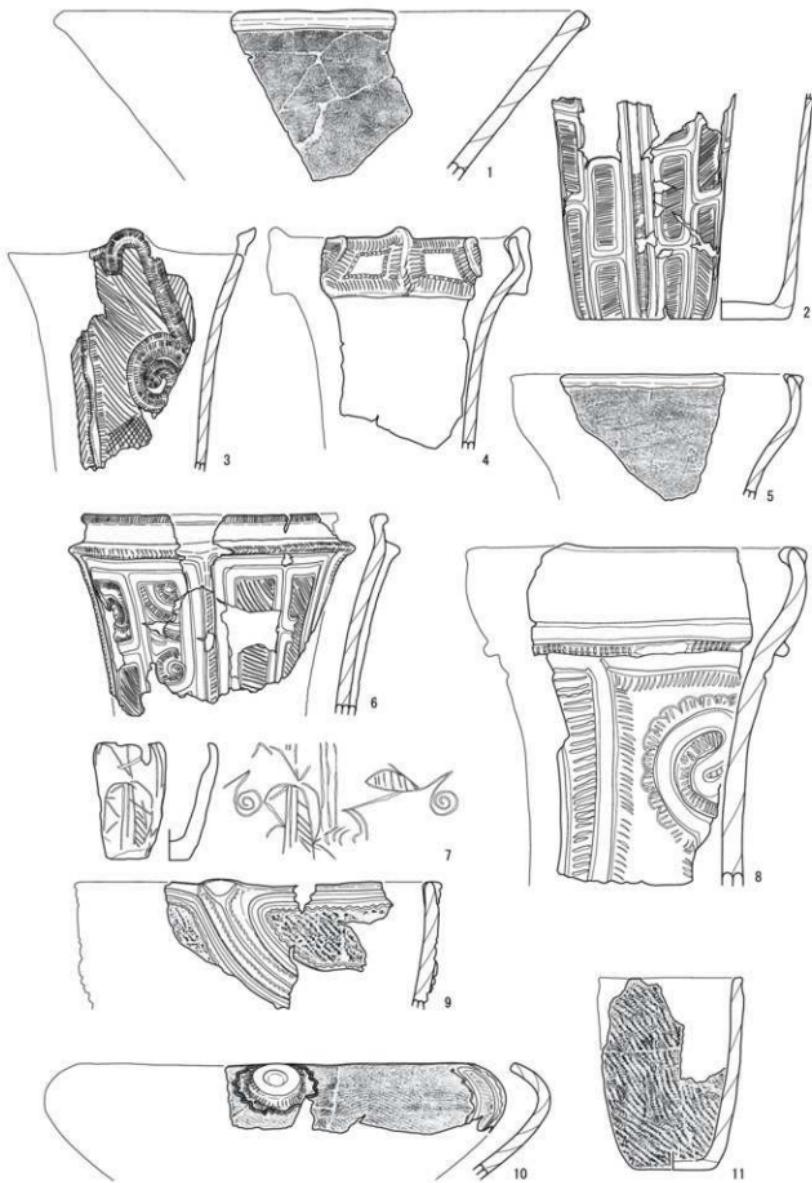
3層 10YR2/2(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が7%、炭化物が3%、陶土が3%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

4層 (振り方層) 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/6(褐色)が30%、炭化物が2%、陶土が1%、2～3cm大のロームブロックが混じる。シルト粒土。固くしまる。

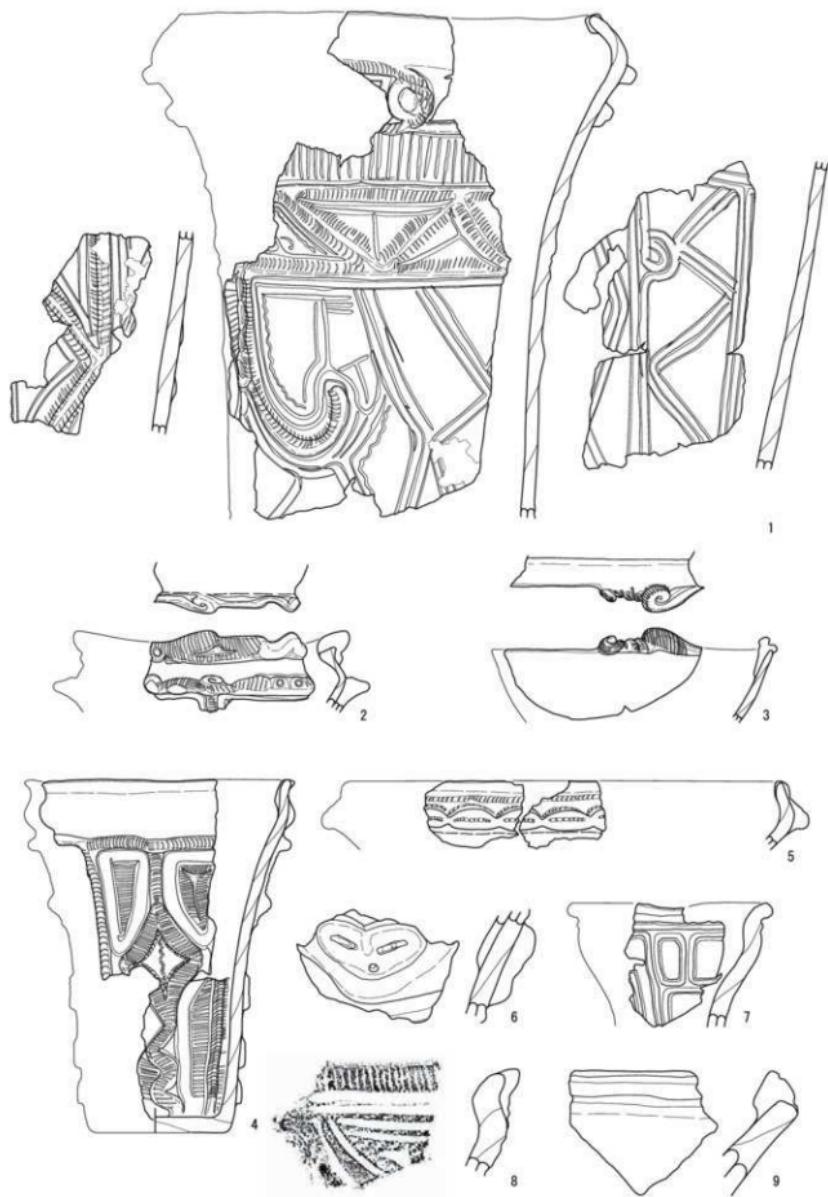
5層 (振り方層) 10YR3/2(黒褐色)に10YR4/6(褐色)が15%、炭化物が2%、陶土が1%、5～10mm大のロームブロックが混じる。シルト粒土。固くしまる。



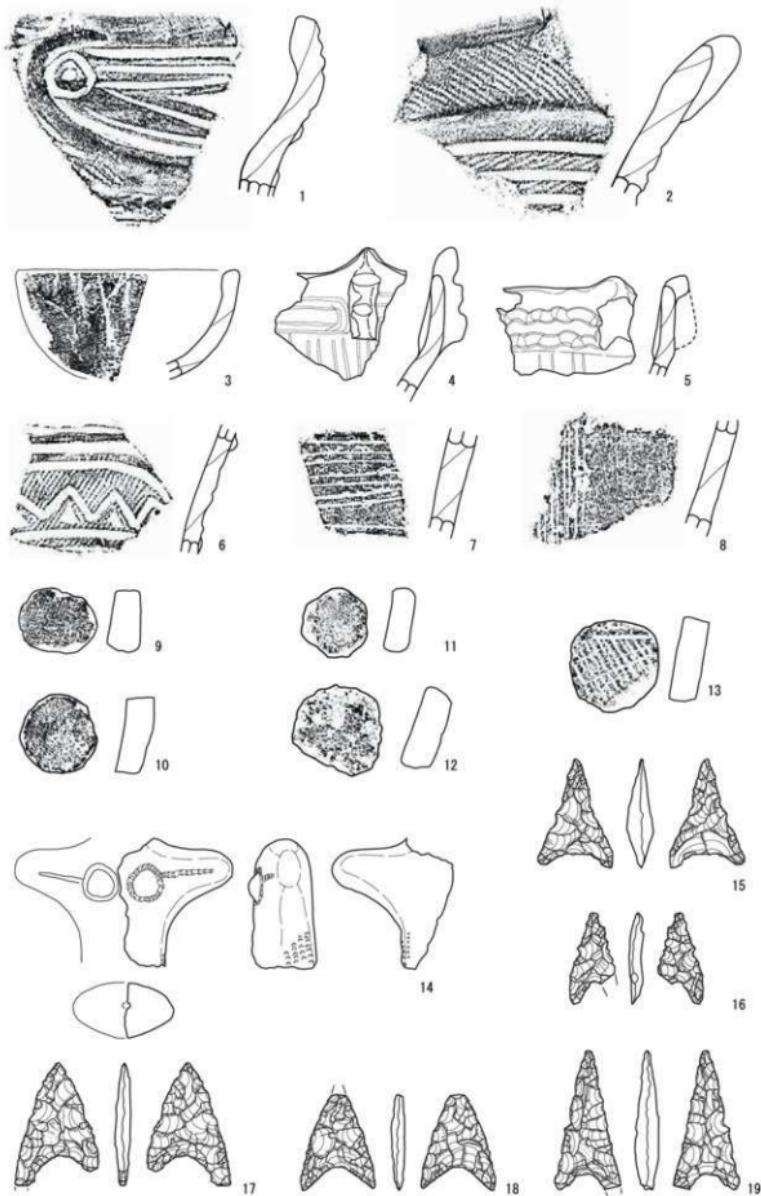
第32図 14号住居炉跡(1/20)、156号ピット(1/20)  
14号住居出土遺物(1/2、1・3・4は1/4)



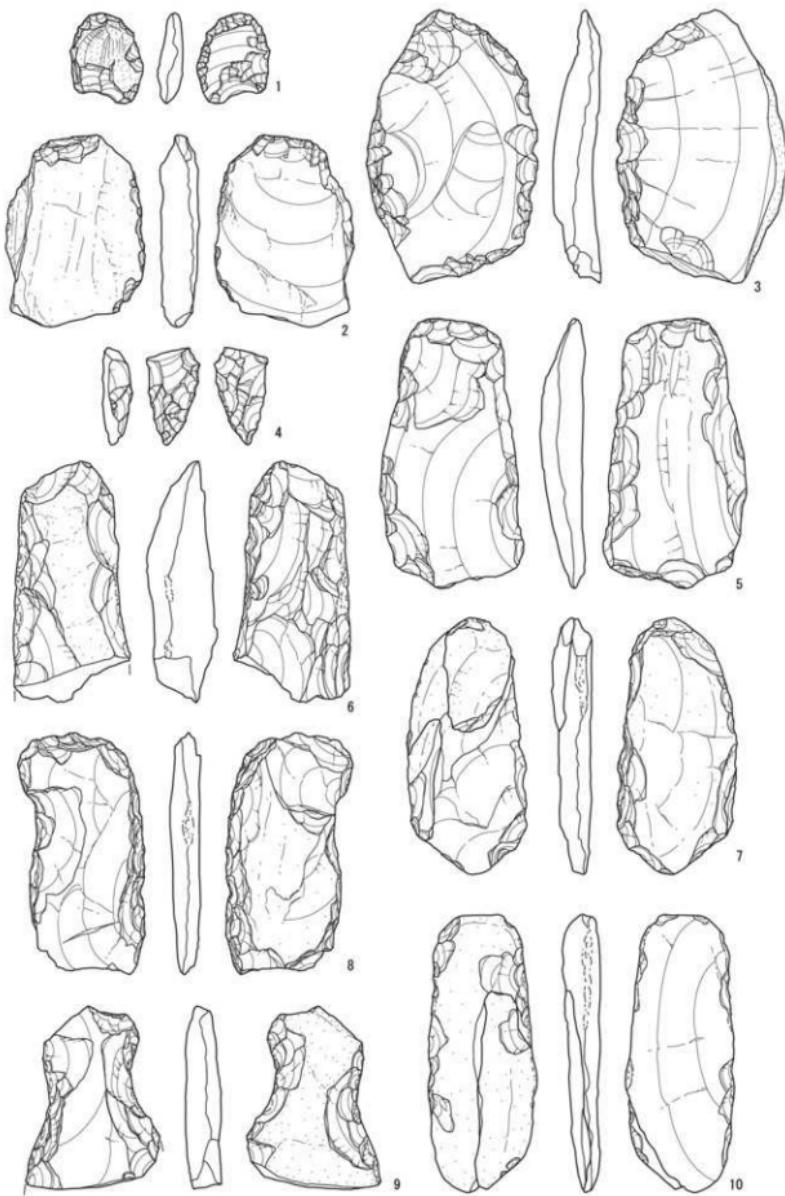
第33図 14号住居出土遺物(1/4、1・7・8は1/2)



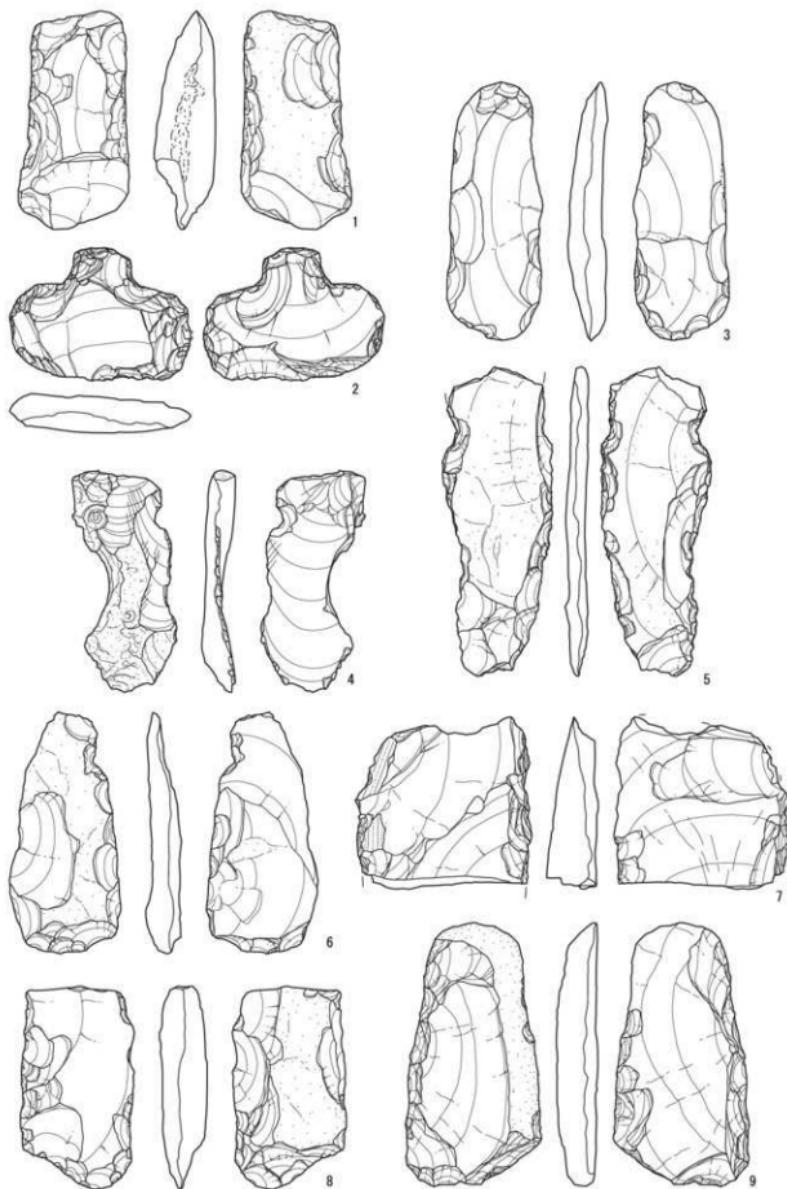
第34図 14号住居出土遺物(1/4、6~9は1/2)



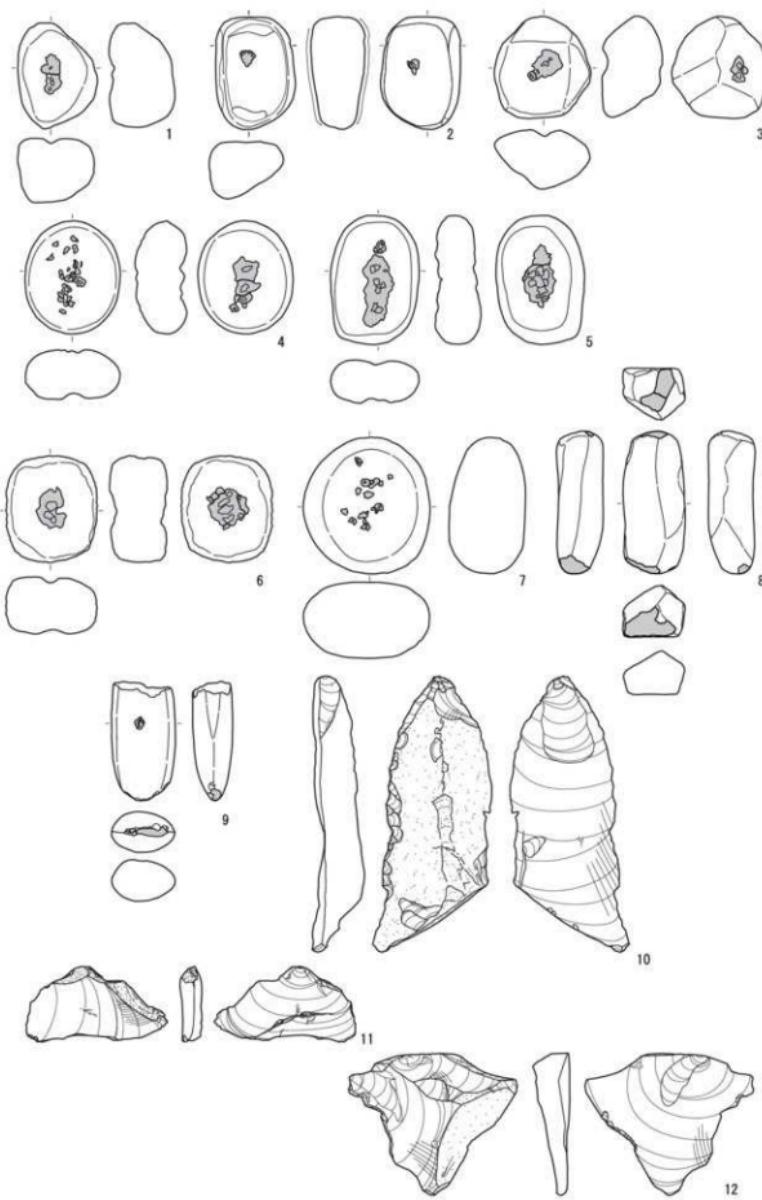
第35図 14号住居出土遺物(1/2、15~19は1/1)



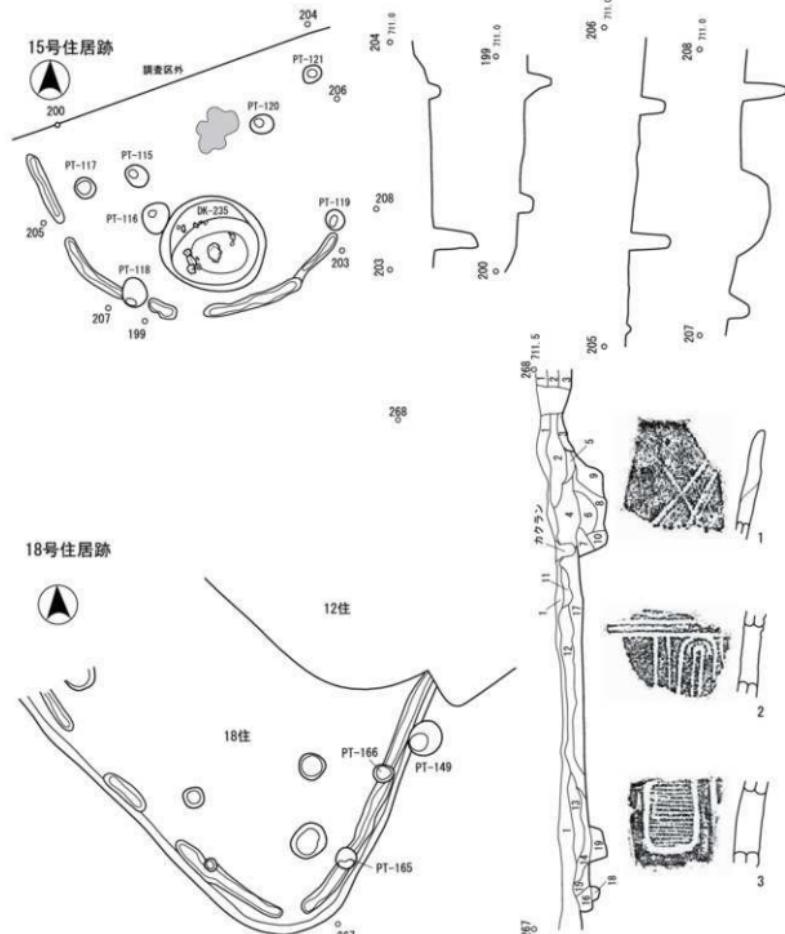
第36図 14号住居出土遺物(1/2、1・4は1/1)



第37図 14号住居出土遺物(1/2、4は1/1)



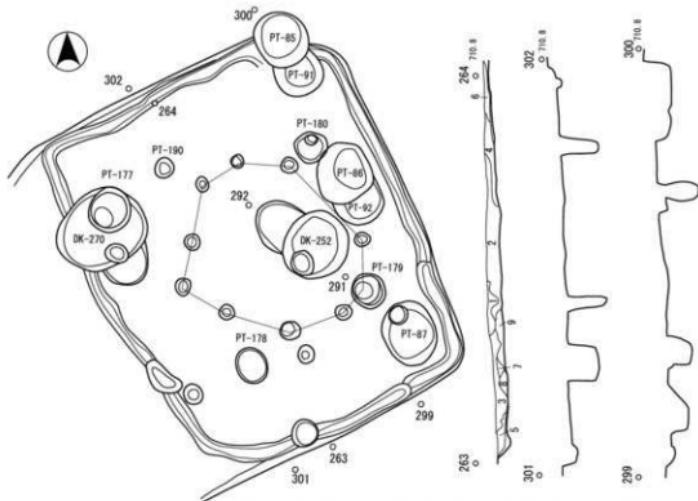
第38図 14号住居出土遺物(1/4、10・12は1/1、11は1/2)



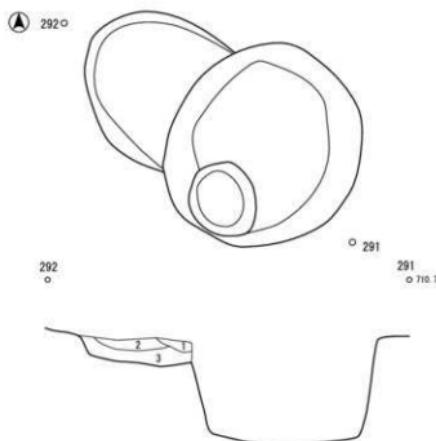
- 1層 (表土層) 7.SYR3/2(黒褐) に炭化物が1%混じる。しまりなし。  
 2層 7.SYR3/4(暗褐) に7.SYR3/2(黒褐) が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、やわらぎます。  
 3層 7.SYR4/4(褐) に7.SYR3/4(暗褐) が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 [12号住居 A]  
 4層 7.SYR3/4(暗褐) に7.SYR3/2(黒褐) が30%、炭化物が1%、焼土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 5層 7.SYR3/4(暗褐) に7.SYR3/2(黒褐) が7%、炭化物が1%、ローム粒子が1%、5~10cm 大のブロックを含む) 混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 6層 7.SYR3/2(黒褐) に7.SYR3/4(暗褐) が5%、炭化物が1%、焼土が1%、ローム粒子が3% (5~10cm 大のブロックを含む) 混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 7層 7.SYR3/4(褐) に7.SYR3/4(暗褐) が5%、炭化物が1%、ローム粒子が2% (5~10cm 大のブロックを含む) 混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 8層 7.SYR3/3(暗褐) に7.SYR3/2(黒褐) が5%、炭化物が1%、ローム粒子が2% (5~10cm 大のブロックを含む) 混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 9層 7.SYR3/4(褐) に7.SYR3/2(黒褐) が20%、炭化物が1%、ローム粒子が3% (5~10cm 大のブロックを含む) 混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 10層 7.SYR3/4(褐) に7.SYR3/4(暗褐) が7%、炭化物が1%、ローム粒子が2% (5~10cm 大のブロックを含む) 混じる。シルト粒土、固くしまる。

- [18号住居 ]  
 11層 7.SYR3/2(黒褐) に7.SYR3/3(暗褐) が10%、炭化物が1%、ローム粒子が1% (5~10cm 大のブロックを含む) 混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 12層 7.SYR4/4(褐) に7.SYR3/2(黒褐) が20%、7.SYR3/3(暗褐) が10%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 13層 7.SYR3/2(黒褐) に7.SYR3/4(暗褐) が10%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 14層 7.SYR3/4(褐) に7.SYR3/4(暗褐) が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 15層 7.SYR4/4(褐) に7.SYR3/4(暗褐) が30%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 16層 7.SYR4/4(褐) に7.SYR3/4(暗褐) が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 17層 7.SYR4/4(褐) に7.SYR3/4(暗褐) が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 18層 7.SYR3/4(褐) に7.SYR3/4(暗褐) が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。  
 19層 [尋奇寺 P] 7.SYR4/4(褐) に炭化物が1%、ロームプロックが5%混じる。

第39図 15号住居跡(1/60)、18号住居跡(1/60)・出土遺物(1/2)

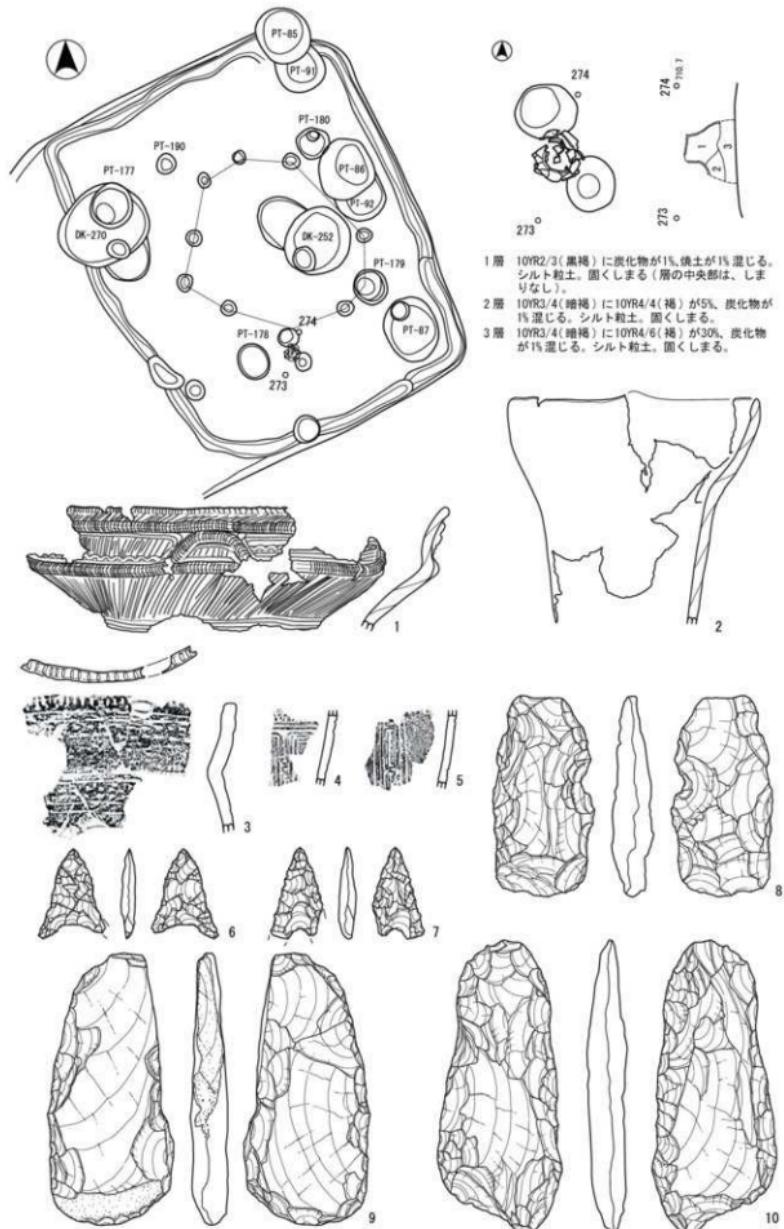


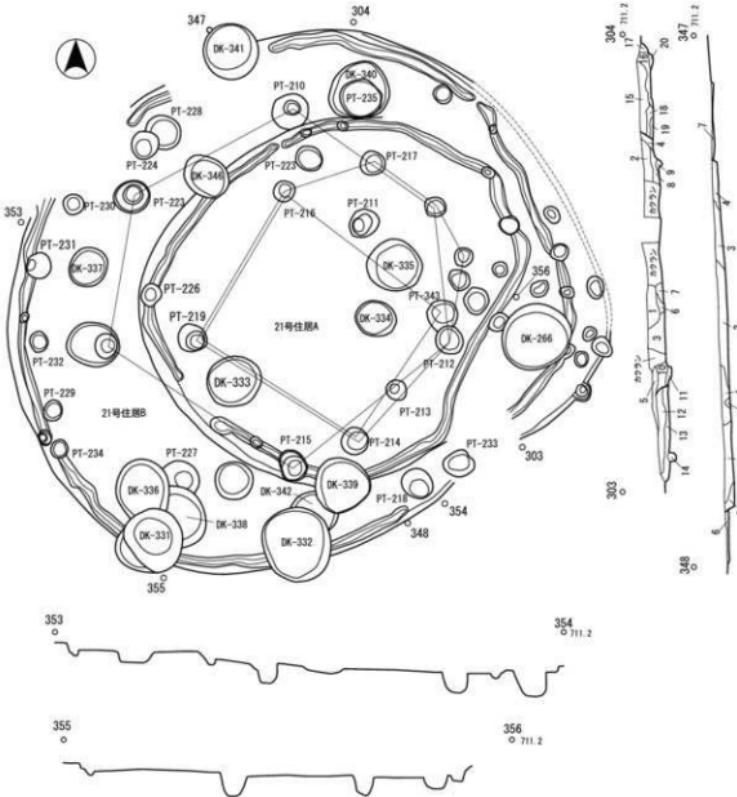
1層 10YR3/4(暗褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
2層 7.5YR2/2(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
3層 10YR3/4(暗褐色)に7.5YR3/4(暗褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
4層 10YR3/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が2%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
5層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が40%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
6層 10YR4/4(褐色)に10YR4/6(褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
7層 7.5YR3/2(黒褐色)に7.5YR4/4(褐色)が30%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
8層 10YR4/6(褐色)に7.5YR4/4(褐色)が30%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
9層 7.5YR3/3(暗褐色)に7.5YR4/4(褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。



1層 10YR2/3(黒褐色)に炭化物が1%、鐵土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。(層の中央部は、しまりなし)。  
2層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
3層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/6(褐色)が30%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

第40図 20A号住居跡(1/60)、20A号住居炉跡(1/20)





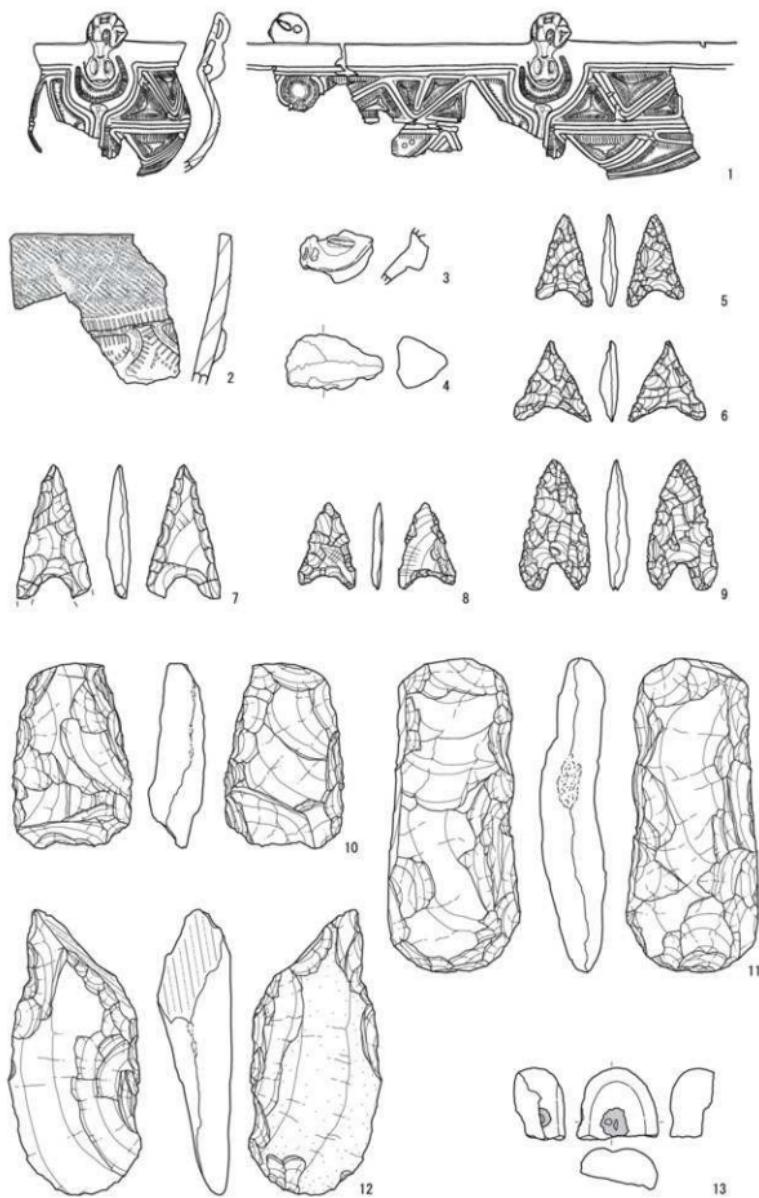
### 21号住居 A

- 1層 7.SYR2/3(暗褐色)に7.SYR3/3(暗褐色)が15%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまりなし。
- 2層 7.SYR2/3(暗褐色)に7.SYR3/4(暗褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 3層 7.SYR2/4(暗褐色)に7.SYR4/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 4層 7.SYR2/4(暗褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 5層 7.SYR2/3(暗褐色)に7.SYR3/4(暗褐色)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 6層 7.SYR3/4(暗褐色)に7.SYR3/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 7層 7.SYR4/4(暗褐色)に7.SYR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 8層 7.SYR4/4(暗褐色)に7.SYR3/4(暗褐色)が25%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 9層 (崩壊)10YR4/6(褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 10層 10YR3/4(暗褐色)に7.SYR3/4(暗褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 11層 (崩壊)10YR4/6(褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。

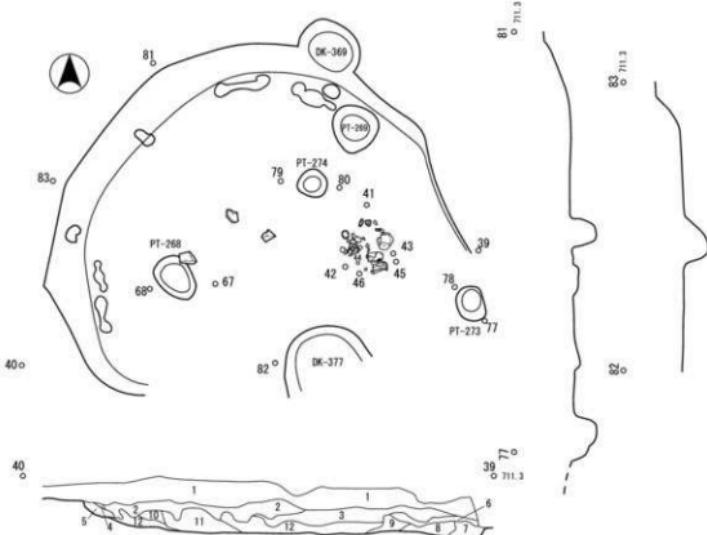
### 21号住居 B

- 12層 10YR3/4(暗褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 13層 7.SYR4/4(褐色)に7.SYR3/4(暗褐色)が15%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 14層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/6(褐色)が7%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 15層 10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 16層 7.SYR2/4(暗褐色)に7.SYR3/3(暗褐色)が20%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 17層 7.SYR4/4(褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 18層 10YR3/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が15%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 19層 (崩壊)10YR4/6(褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 20層 (崩壊)10YR4/6(褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。

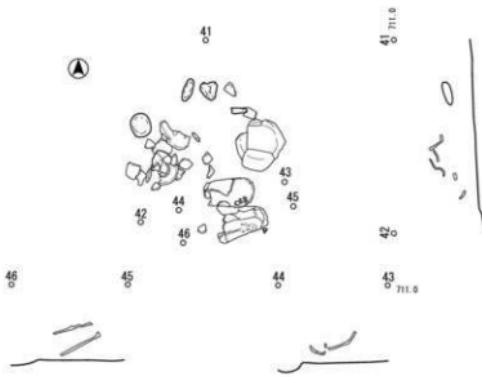
第42図 21号住居跡(1/80)



第43図 21号住居出土遺物(1/2、5～9は1/1、1は1/6、2は1/4)

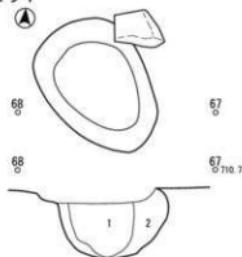


- 1層 (耕作土) 10YR3/2(黒褐色)に10YR4/4(暗褐色)が10%、底化物が2%、煙土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 2層 10YR2/2(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%、底化物が1%、煙土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 3層 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(暗褐色)が7%、底化物が1%、煙土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 4層 10YR3/3(暗褐色)に底化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 5層 10YR4/4(褐色)に10YR3/3(暗褐色)が15%、底化物が1%、煙土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 6層 10YR3/2(黒褐色)に10YR4/4(暗褐色)が15%、底化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 7層 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が3%、底化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 8層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が5%、底化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 9層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、底化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 10層 10YR4/4(褐色)に10YR3/2(黒褐色)が5%、底化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。
- 11層 10YR3/4(暗褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%、底化物が2%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 12層 10YR2/2(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、底化物が2%、煙土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。



第44図 25号住居跡(1/60)、遺物出土状況(1/20)

268号ピット

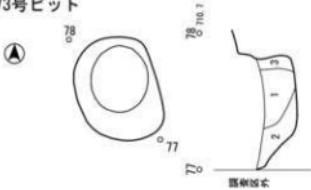


1層 (柱底) 10YR3/4(暗褐色) に 10YR4/4(褐) が5%、炭化物が2%、燒土が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。

2層 10YR4/6(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が2%、炭化物が1%混じる。  
シルト粒土、固くしまる。

地山 10YR5/6(黄褐)。シルト粒土、固くしまる。

273号ピット



1層 (柱底) 10YR3/4(暗褐色) に 10YR4/4(褐) が5%、炭化物が2%、燒土が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。

2層 10YR4/6(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が2%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。

地山 10YR5/6(黄褐)。シルト粒土、固くしまる。

274号ピット



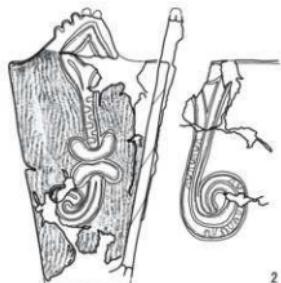
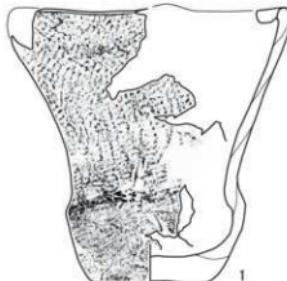
1層 (柱底) 10YR3/4(暗褐色) に 10YR4/4(褐) が7%、炭化物が1%混じる。  
シルト粒土、しまる。

2層 10YR4/4(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が5%、炭化物が1%混じる。シルト  
粒土、しまる。

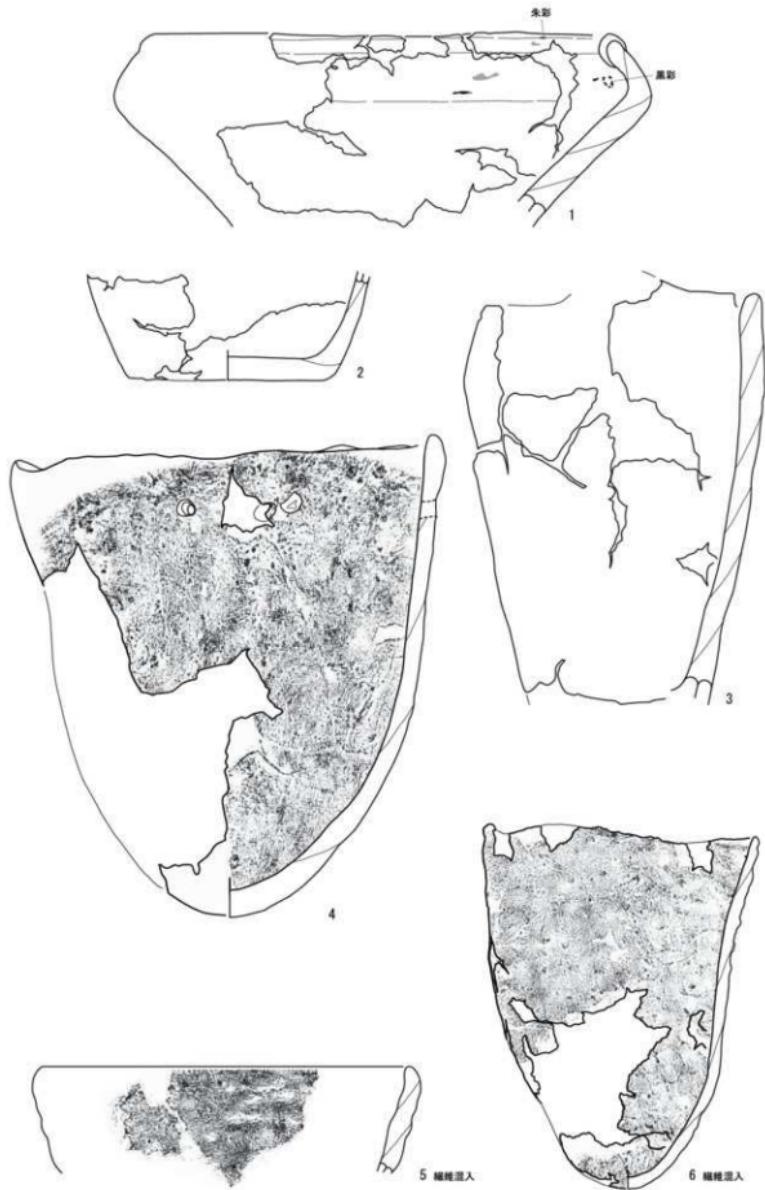
3層 10YR4/6(褐) に 10YR3/4(暗褐色) 3%混じる。シルト粒土、固くしまる。

地山 10YR5/6(黄褐)。シルト粒土、固くしまる。

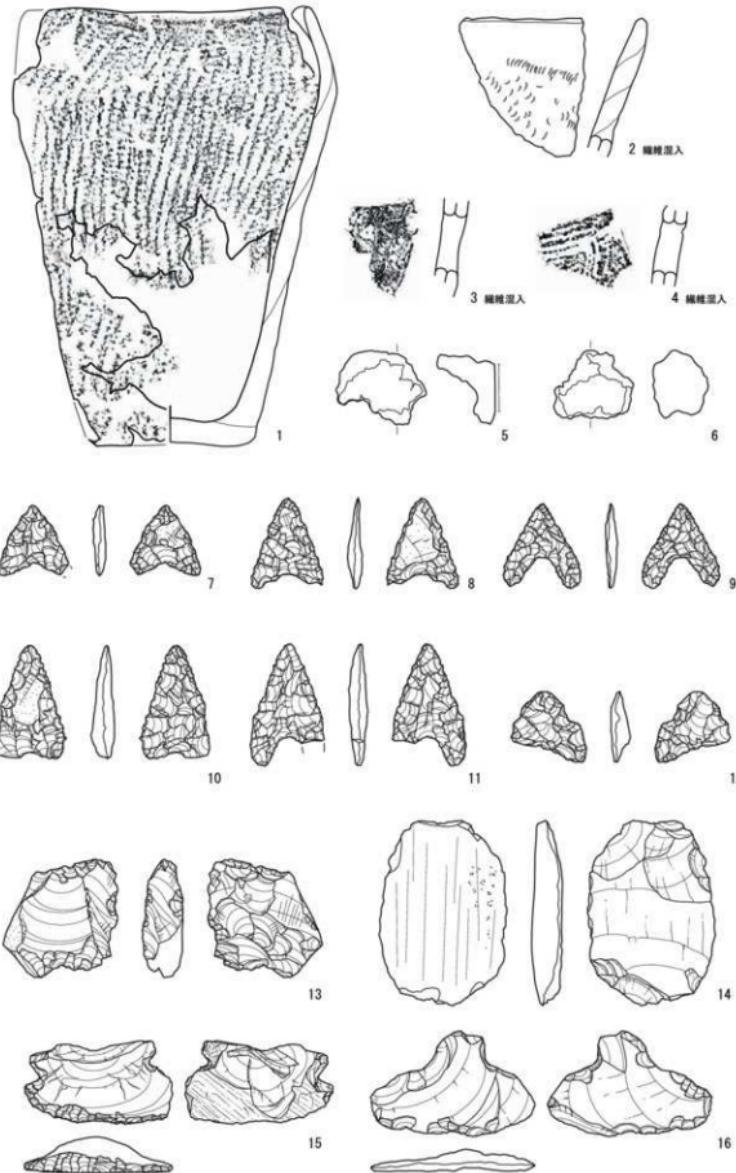
25号住居出土遺物



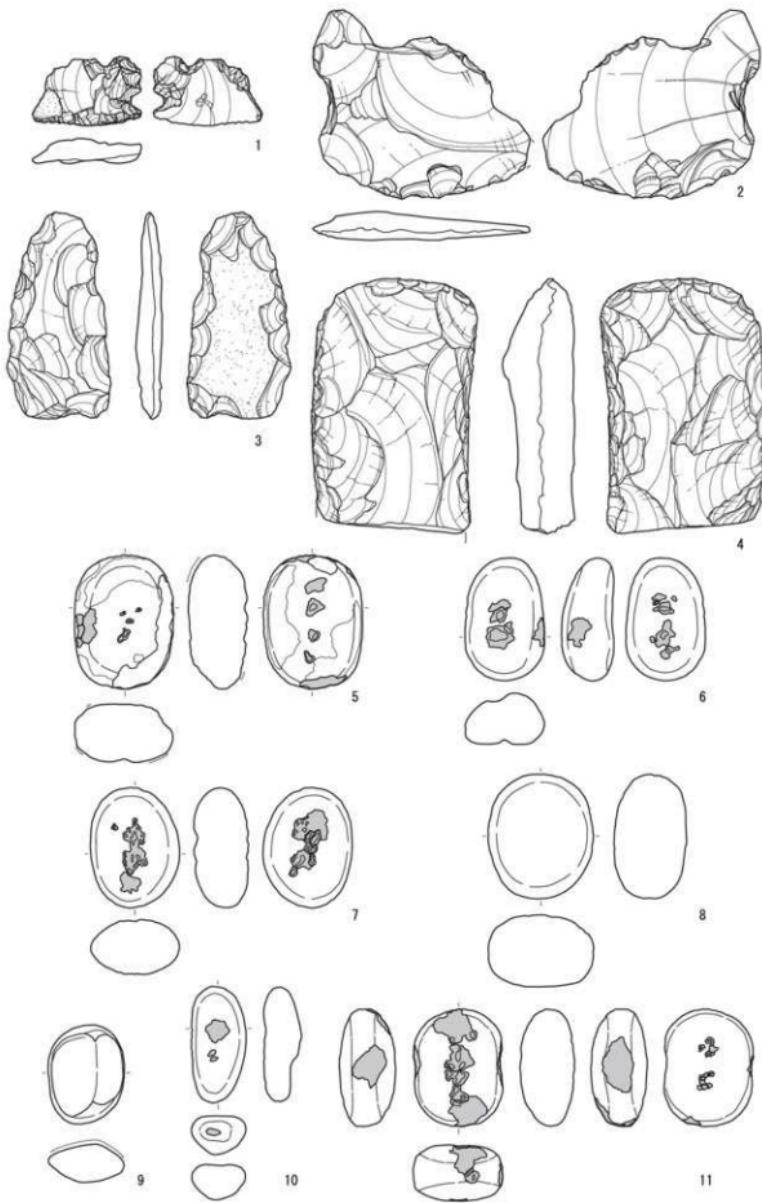
第45図 268、273、274号ピット(1/20)、25号住居出土遺物(1/2、2は1/4)



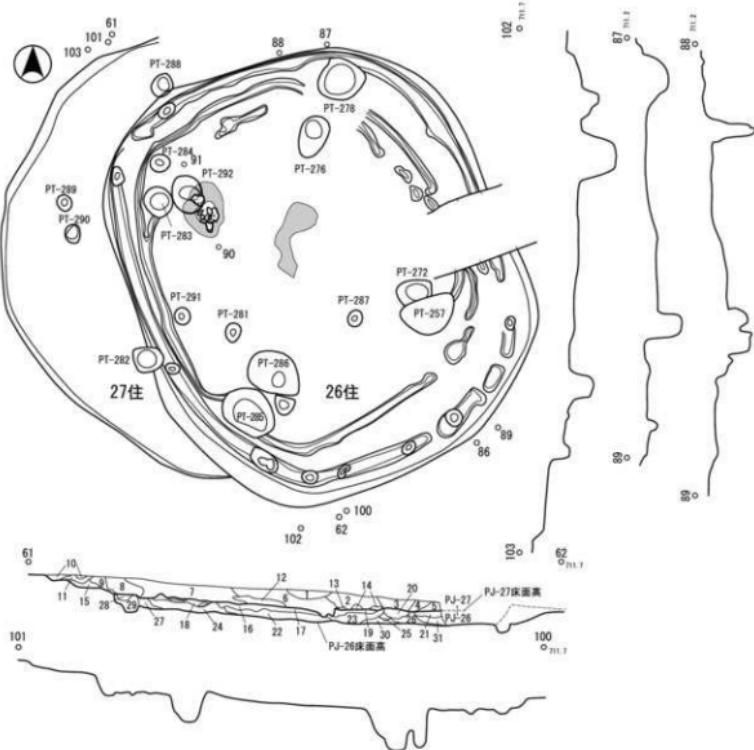
第46図 25号住居出土遺物(1/2、2・5・6は1/4)



第47図 25号住居出土遺物(1/2、7~13は1/1)

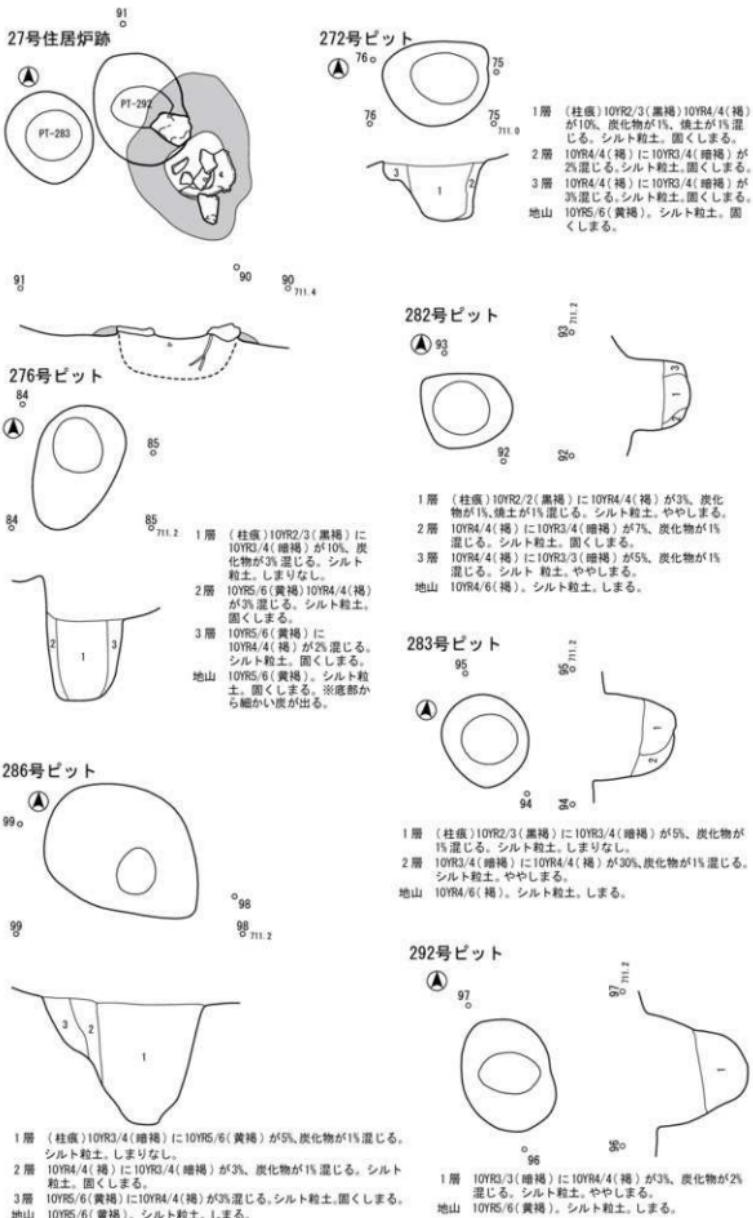


第48図 25号住居出土遺物(1/4、1~4は1/2)

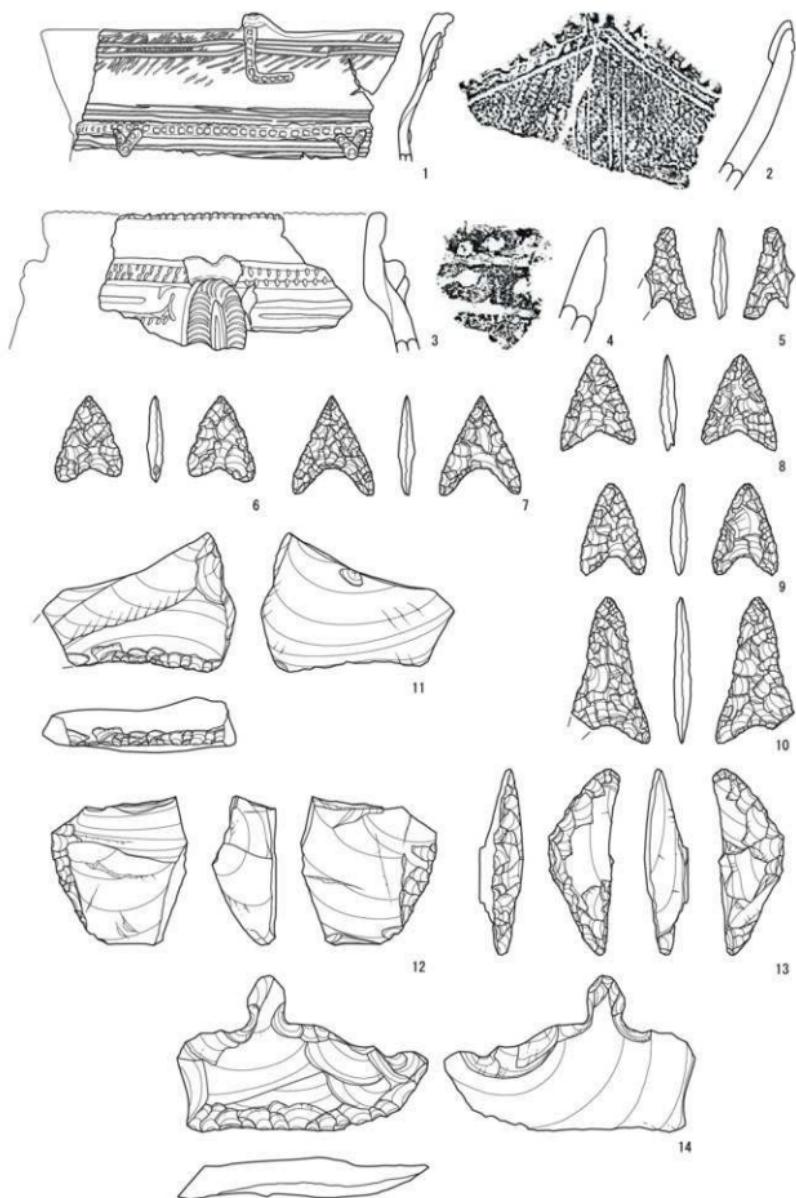


- 1層 (カクラン) 10RG/2(黄褐) に 10RG/2(黒褐) が3%、炭化物が2%、焼土が5% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 2層 10R3/4(暗褐) に 10R2/3(黒褐) が10%、炭化物が2%、焼土2% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 3層 10R3/2(黒褐) に 10R3/4(暗褐) が10%、炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 4層 10R3/4(暗褐) に 10R2/3(黒褐) が5%、炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 5層 10R2/4(黒褐) に 10R3/4(暗褐) が5%、炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 6層 10R3/2(黒褐) に 10R3/4(暗褐) が5%、炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 7層 10R2/2(黒褐) に 10R3/4(暗褐) が5%、炭化物が3%、焼土が5% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 8層 10R3/2(黒褐) に 10Y4/4(褐) が5%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 9層 10R3/2(黒褐) に 10Y4/6(褐) が5%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 10層 10Y4/3(にふい黄褐) に 炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 11層 10Y4/4(褐) に 10Y4/3(にふい黄褐) が5%、炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 12層 10Y4/2(黒褐) に 10Y4/4(暗褐) が5%、炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 13層 10R3/4(暗褐) に 10Y4/4(暗褐) が1%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 14層 10Y4/4(暗褐) に 炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 15層 10Y3/3(暗褐) に 10Y4/5(褐) が3%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 16層 10Y4/4(暗褐) に 10Y2/2(黒褐) が10%、炭化物が1%、焼土が5% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 17層 10Y4/3(暗褐) に 10Y4/4(暗褐) が10%、炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 18層 10Y4/2(黒褐) に 10Y4/4(4.1) が1%、炭化物が1%、焼土(5Y8/4)が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 19層 10Y4/2(黒褐) に 炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 20層 10Y3/2(黒褐) に 10Y4/4(暗褐) が5%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 21層 10Y4/4(暗褐) に 10Y2/3(黒褐) が1%、炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 22層 10Y3/4(暗褐) に 10Y2/3(黒褐) が10%、炭化物が1%、焼土が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 23層 10Y4/3(にふい黄褐) に 10Y2/3(暗褐) が20%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 24層 10Y4/3(暗褐) に 10Y4/4(にふい黄褐) が5%、炭化物が1%、焼土が2% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 25層 10Y3/3(暗褐) に 炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 26層 10Y4/4(暗褐) に 炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 27層 10Y3/3(暗褐) に 10Y2/3(黒褐) が10%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 28層 10Y3/3(暗褐) に 10Y4/4(褐) が5%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 29層 10Y3/3(暗褐) に 10Y4/4(4.1) が15%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 30層 10Y4/3(にふい黄褐) に 10Y2/3(暗褐) が5%、炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。(カクランを受けている。)  
 31層 10Y4/4(暗褐) に 炭化物が1% 混じる。シルト粘土、固くしまる。  
 地山 10Y5/8(黄褐)。シルト粘土、固くしまる。  
 床面 10Y4/4(褐)。シルト粘土、固くしまる。

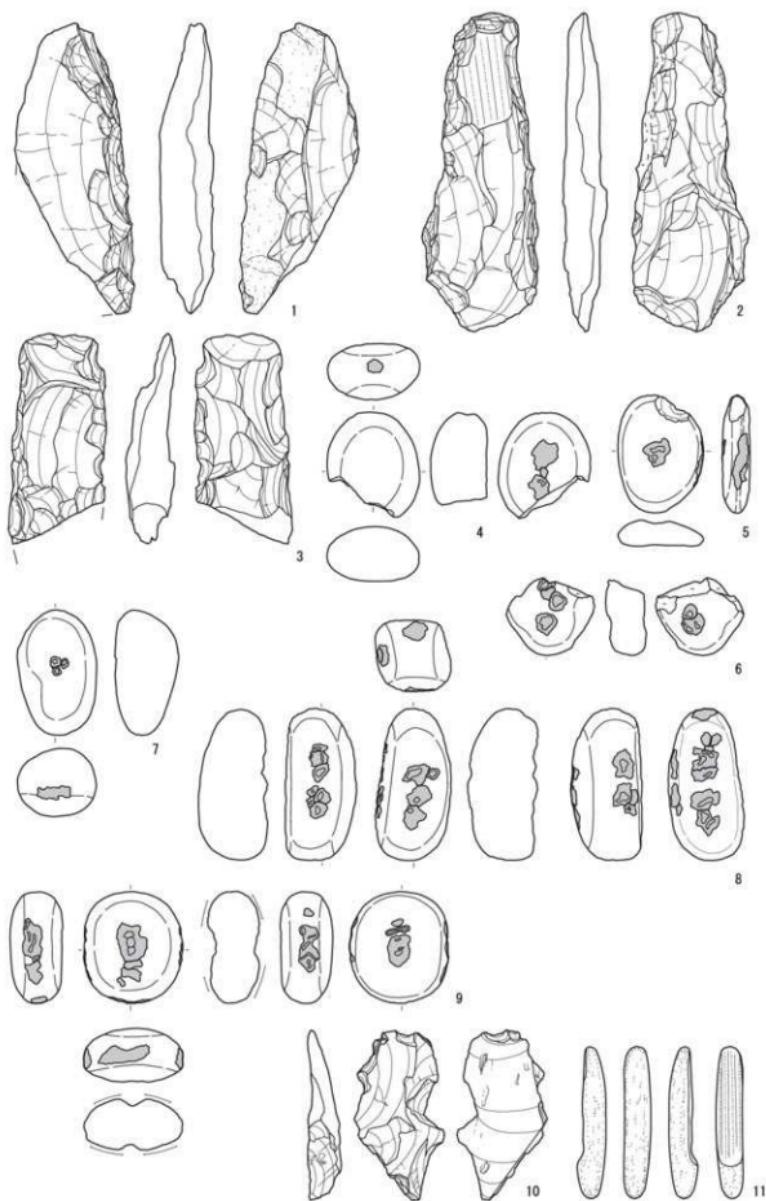
第49図 26・27号住居跡(1/60)



第50図 27号住居炉跡(1/20)  
272、276、282、283、286、292号ピット(1/20)

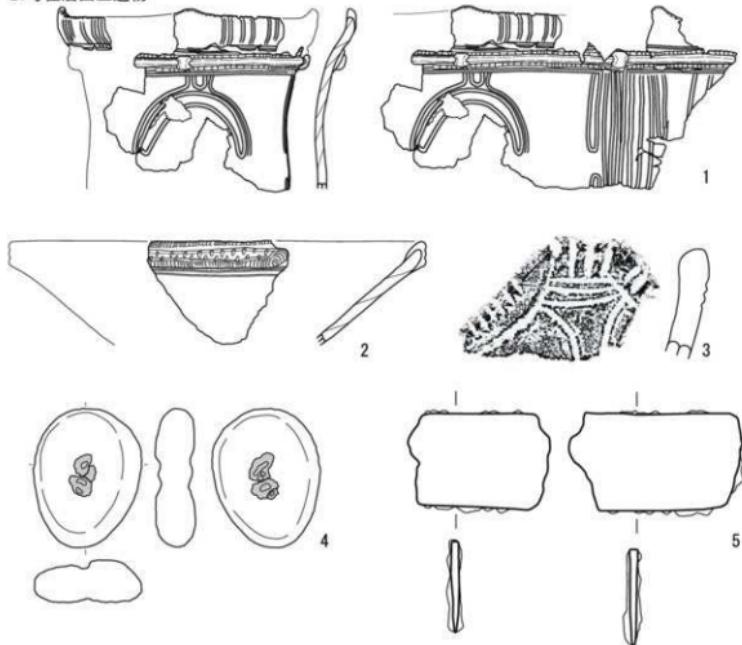


第 51 図 26 号住居出土遺物(1/1、2 ~ 4 は 1/2、1 は 1/4)

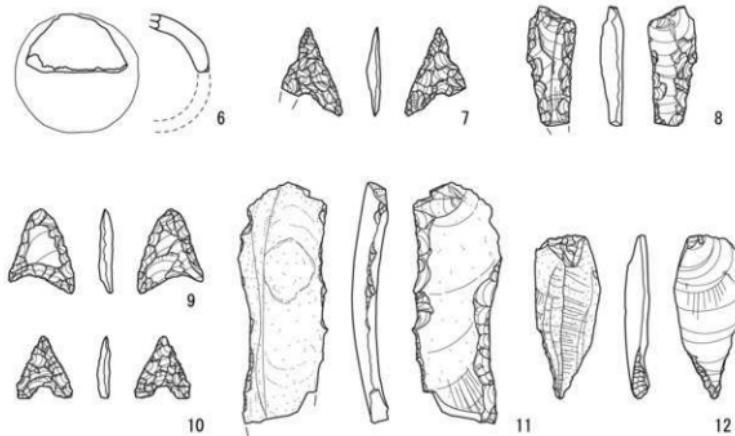


第 52 図 26 号住居出土遺物(1/2、6・8・9 は 1/4、11 は 1/1)

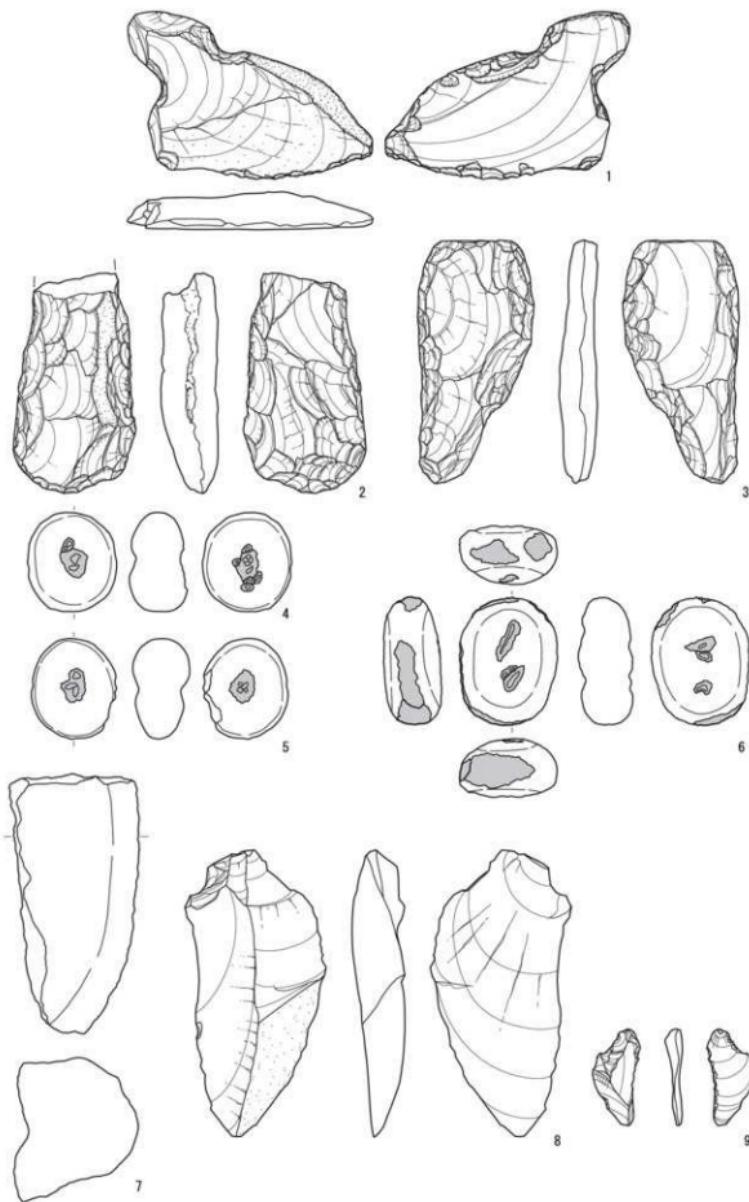
27号住居出土遺物



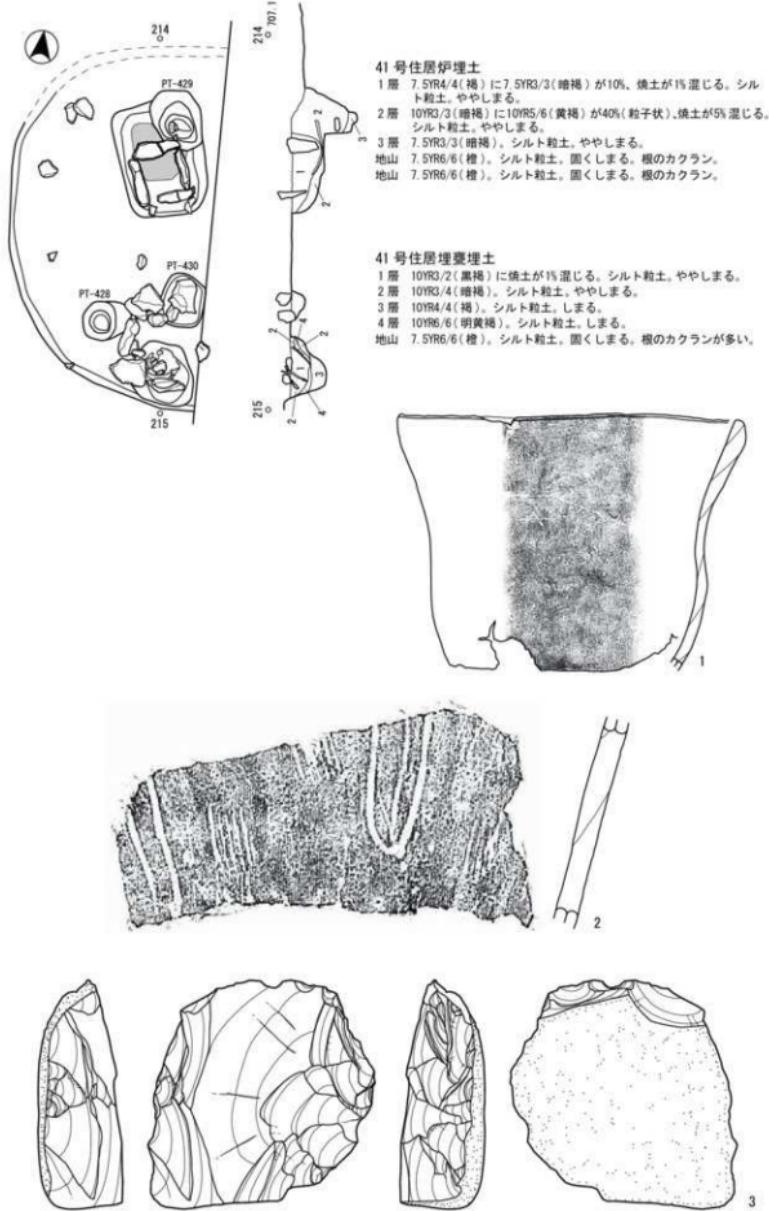
26・27号住居出土遺物



第53図 27、26・27号住居出土遺物(1/1、3・6は1/2、2・4は1/4、1は1/6)

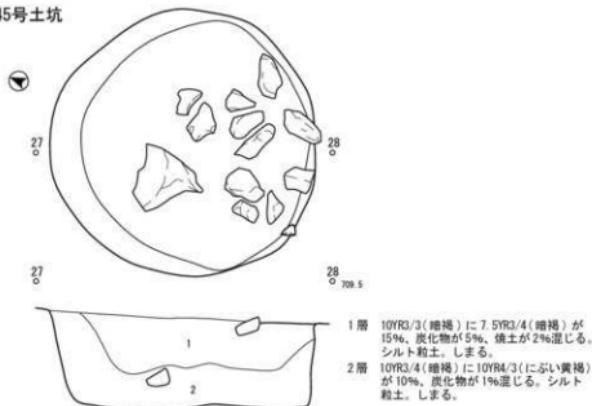


第 54 図 26・27 号住居出土遺物(1/2、4~6 は 1/4、8・9 は 1/1)

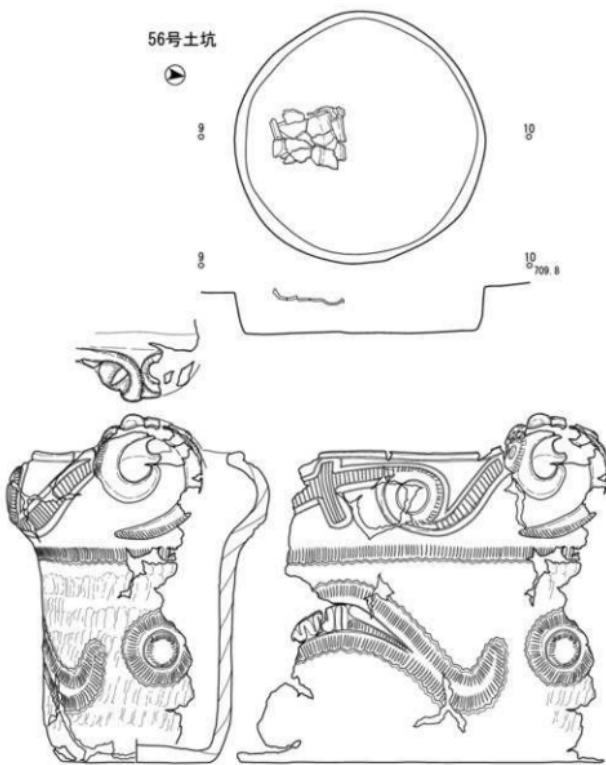


第55図 41号住居跡(1/40)、41号住居出土遺物(1/2、1は1/4)

45号土坑

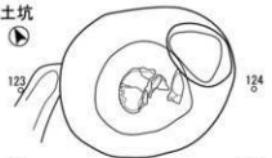


56号土坑



第 56 図 45 号土坑(1/20)、56 号土坑(1/20)・出土遺物(1/4)

## 213号土坑

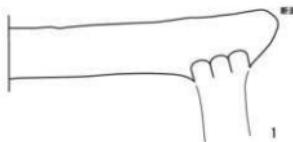
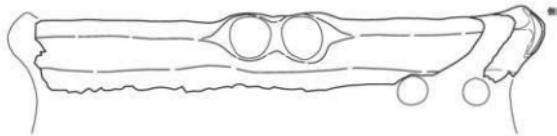


123

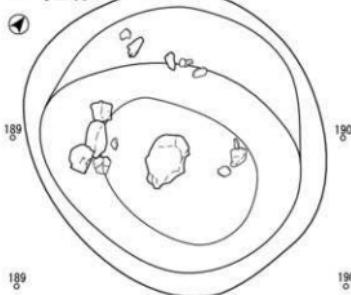
124

124  
124 708.6

1層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐色)、炭化物が2%混じる。シルト粒土。しまる。

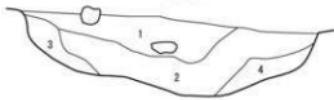


## 235号土坑

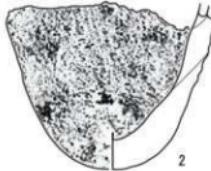


189

190

190  
708.7

- 1層 10YR3/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が20%、炭化物が2%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 2層 10YR3/4(暗褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 3層 10YR2/4(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。やわらか。
- 4層 10YR2/4(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が15%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。



2



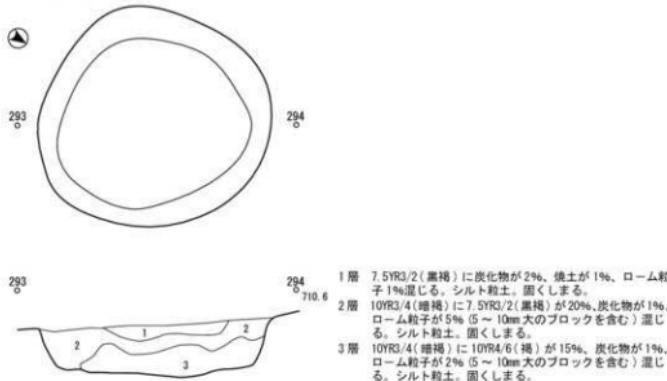
3



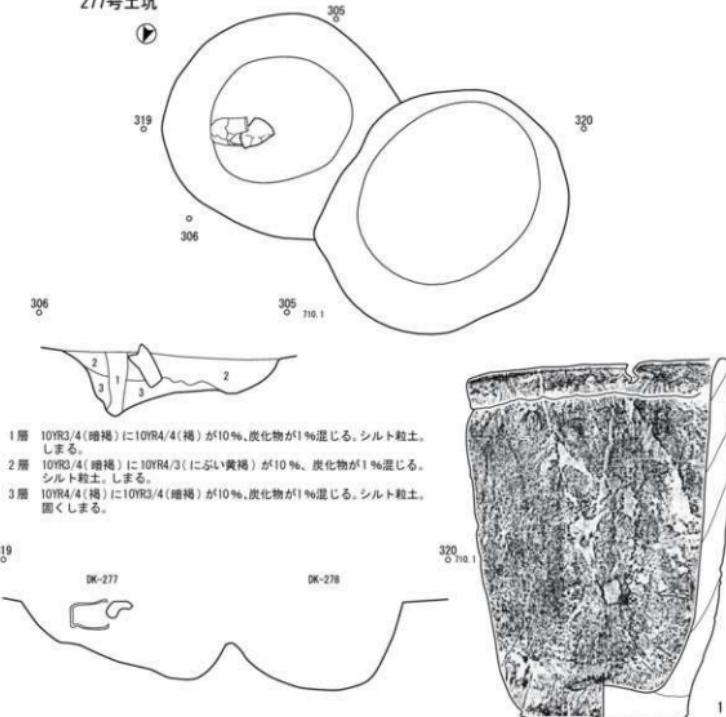
4

第57図 213、235号土坑(1/20)・出土遺物(1/2)

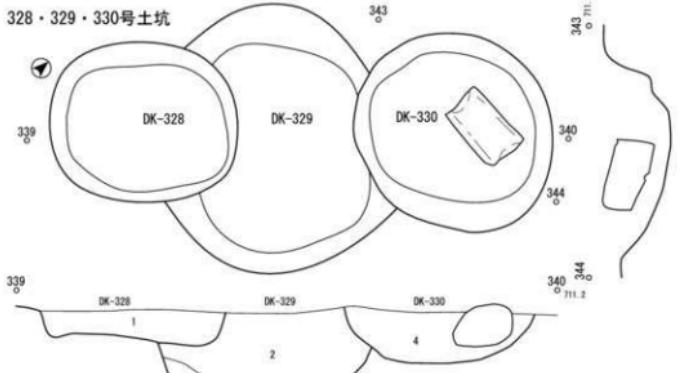
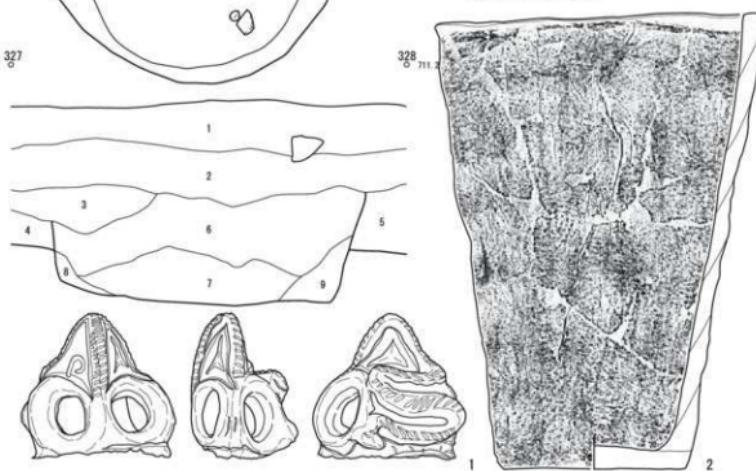
274号土坑



277号土坑



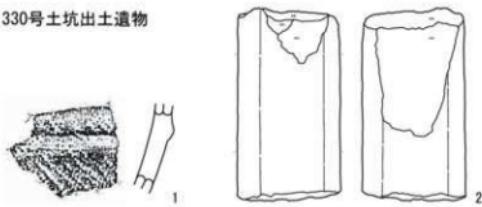
第58図 274、277号土坑(1/20)・出土遺物(1/2)



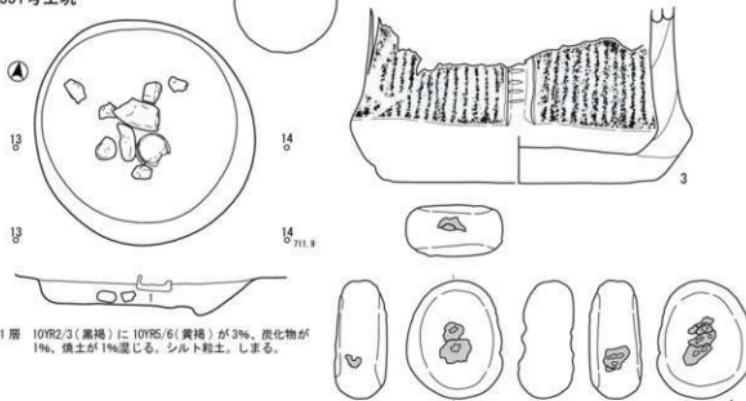
- 1層 10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%シルト粘土、しまる。
- DK-329
- 2層 10YR4/4(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が7%、炭化物が2%混じる。シルト粘土、しまる。

第 59 図 317、328・329・330 号土坑(1/20)・出土遺物(1/2)

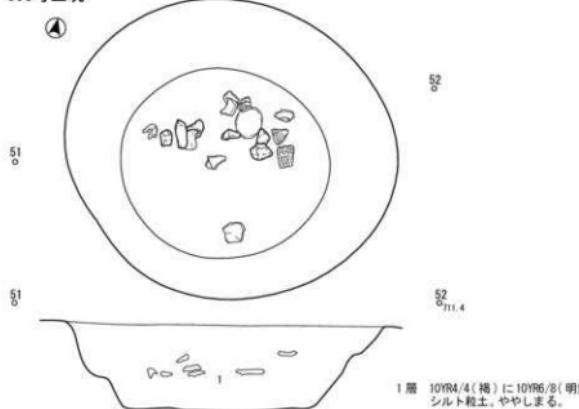
330号土坑出土遺物



351号土坑

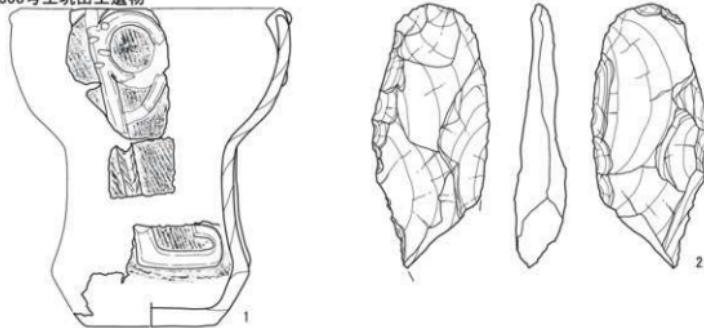


358号土坑

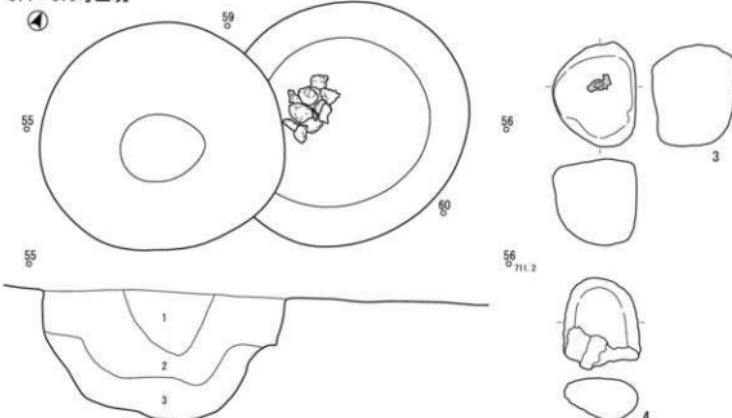


第 60 図 330 号土坑出土遺物(1/2,3 は 1/4,2 は 1/8)、351、358 号土坑(1/20)

358号土坑出土遺物



371・373号土坑



DK-371

1層 10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(暗褐)が7%、炭化物が1%混じる。  
シルト粒土。しまる。

2層 10YR3/2(暗褐)に10YR4/4(褐)が15%、炭化物が1%混じる。  
シルト粒土。しまる。

3層 10YR2/4(暗褐)に10YR4/4(褐)質10%、炭化物が1%混じる。  
シルト粒土。固くしまる。

※1層～3層まで埋め戻し土で、1層、2層は沈下した層と思われる。

地山 10YR4/4(褐)。シルト粒土。固くしまる。

59

59  
711.2

1

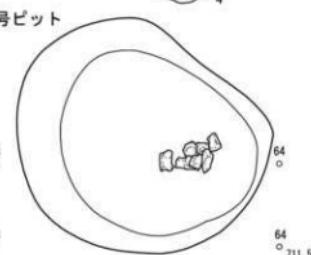
DK-373

1層 10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が2%混じる。シルト粒土。  
しまりなし。

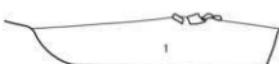
262号ピット

63  
○  
63  
○

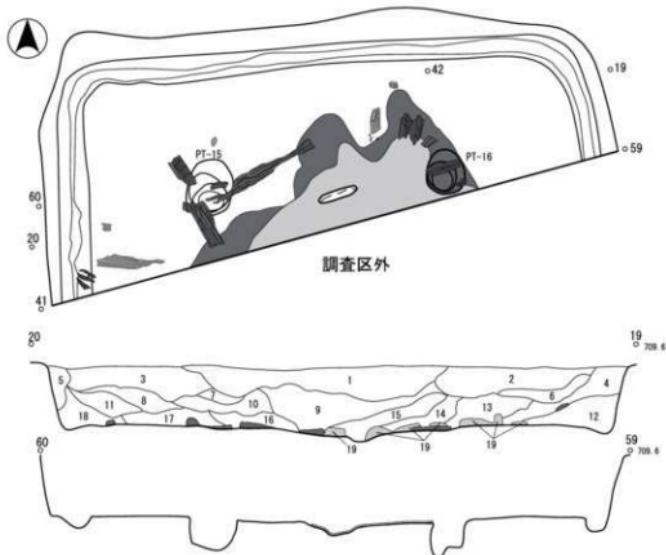
63  
○



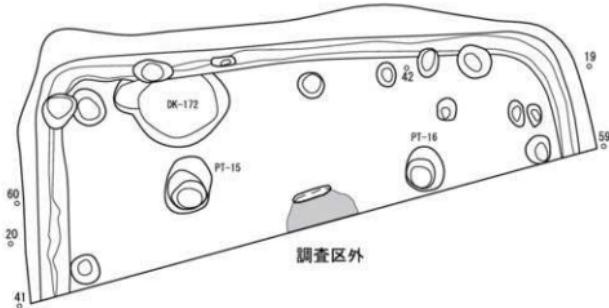
1層 10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR4/6(褐)が40%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。



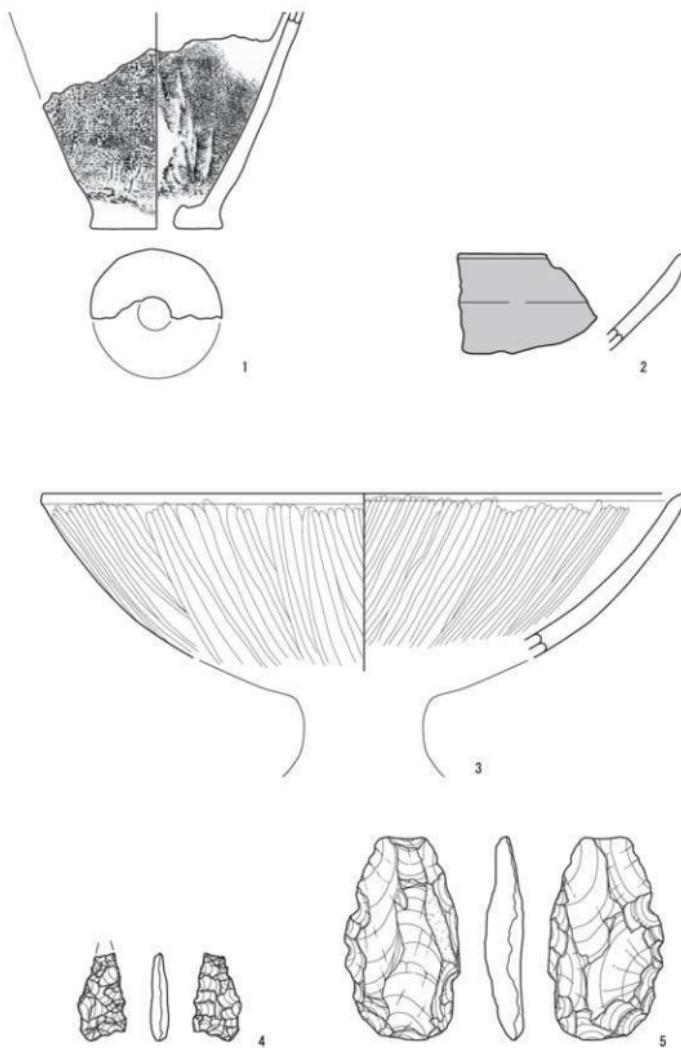
第61図 358号土坑出土遺物(1/4、2は1/2)  
371・373号土坑(1/20)・出土遺物(1/4)、262号ピット(1/20)



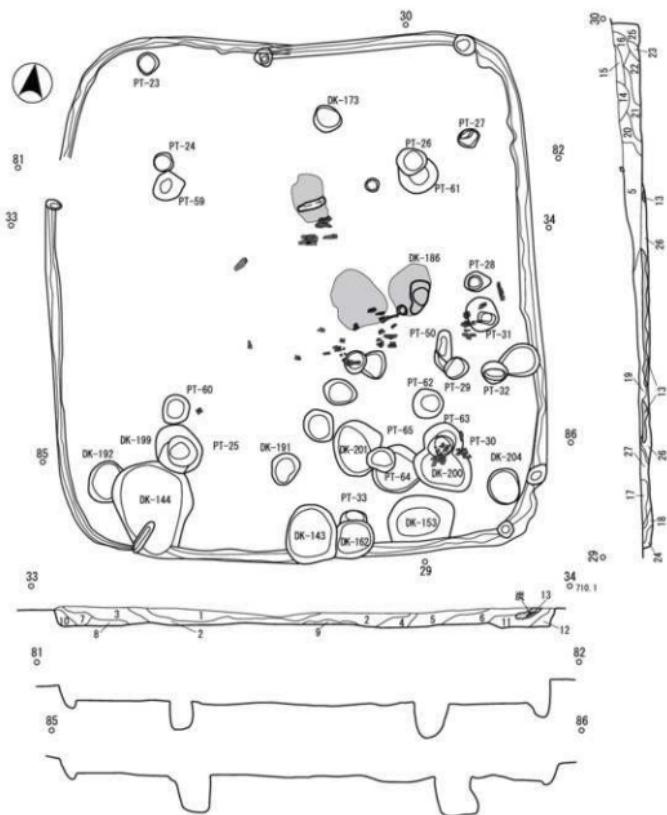
- 1層 7.SYR2/3(極暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が20%、炭化物が1%、1~5mmの大ロームブロックが5%混じる。シルト粒土。しまる。  
 2層 7.SYR2/3(極暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が15%、炭化物が1%、1~5mmの大ロームブロックが5%混じる。シルト粒土。しまる。  
 3層 10YR3/4(暗褐色)に7.SYR2/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%、1~5mmの大ロームブロックが5%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 4層 10YR3/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が7%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。  
 5層 10YR3/4(暗褐色)に7.SYR2/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。  
 6層 10YR3/4(暗褐色)に7.SYR2/4(暗褐色)が7%、炭化物が1%、5~10mmの大ロームブロックが1%混じる。シルト粒土。しまりなし。  
 7層 10YR3/4(暗褐色)に7.SYR2/3(極暗褐色)が3%、炭化物が1%、混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 8層 7.SYR2/4(暗褐色)に7.SYR2/3(極暗褐色)が15%、炭化物が1%、1~5mmの大ロームブロックが1%混じる。シルト粒土。しまる。  
 9層 10YR3/3(暗褐色)に7.SYR2/4(暗褐色)が30%、炭化物が3%、5~10mmの大ロームブロックが1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 10層 7.SYR2/3(暗褐色)に7.SYR2/4(暗褐色)が15%、炭化物が1%、1~5mmの大ロームブロックが1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 11層 10YR3/4(暗褐色)に7.SYR2/4(暗褐色)が5%、炭化物が1%、1~5mmの大ロームブロックが1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 12層 7.SYR2/3(暗褐色)に7.SYR2/4(暗褐色)が5%、炭化物が1%、1~5mmの大ロームブロックが1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 13層 7.SYR2/3(暗褐色)に7.SYR2/4(暗褐色)が30%、炭化物が1%、5~10mmの大ロームブロックが5%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 14層 10YR3/4(暗褐色)に10YR2/3(黒褐色)が15%、炭化物が1%、10mmの大ロームブロックが5%混じる。シルト粒土。しまる。  
 15層 10YR3/4(暗褐色)に7.SYR2/4(暗褐色)が15%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 16層 10YR3/4(暗褐色)に7.SYR2/3(極暗褐色)が20%、炭化物が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 17層 7.SYR2/4(暗褐色)に7.SYR2/3(暗褐色)が15%、炭化物が3%、焼土が2%混じる。シルト粒土。しまる。  
 18層 7.SYR2/4(暗褐色)に7.SYR2/3(暗褐色)が10%、炭化物が2%、5mmの大ロームブロックが1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 19層 (焼土層)5YR6/6(赤褐色)。固くしまる。



第62図 2号住居跡(1/40)

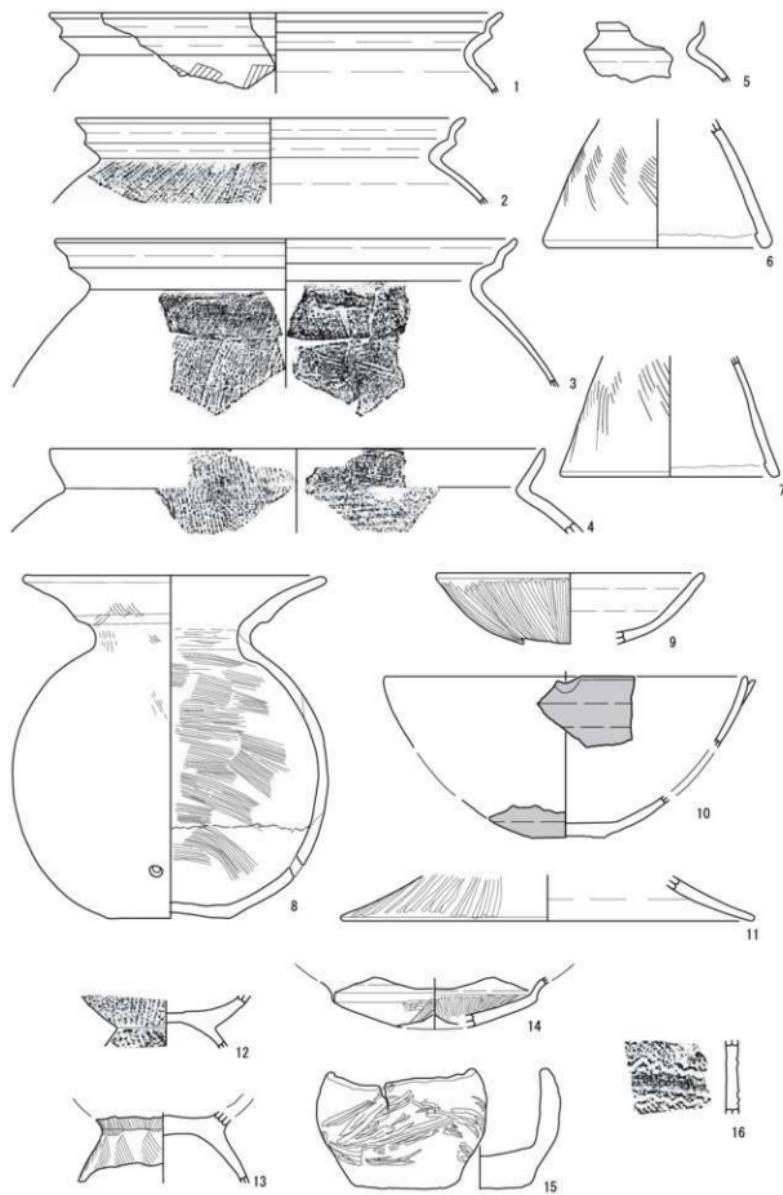


第63図 2号住居出土遺物(1/1、1・5は1/2)

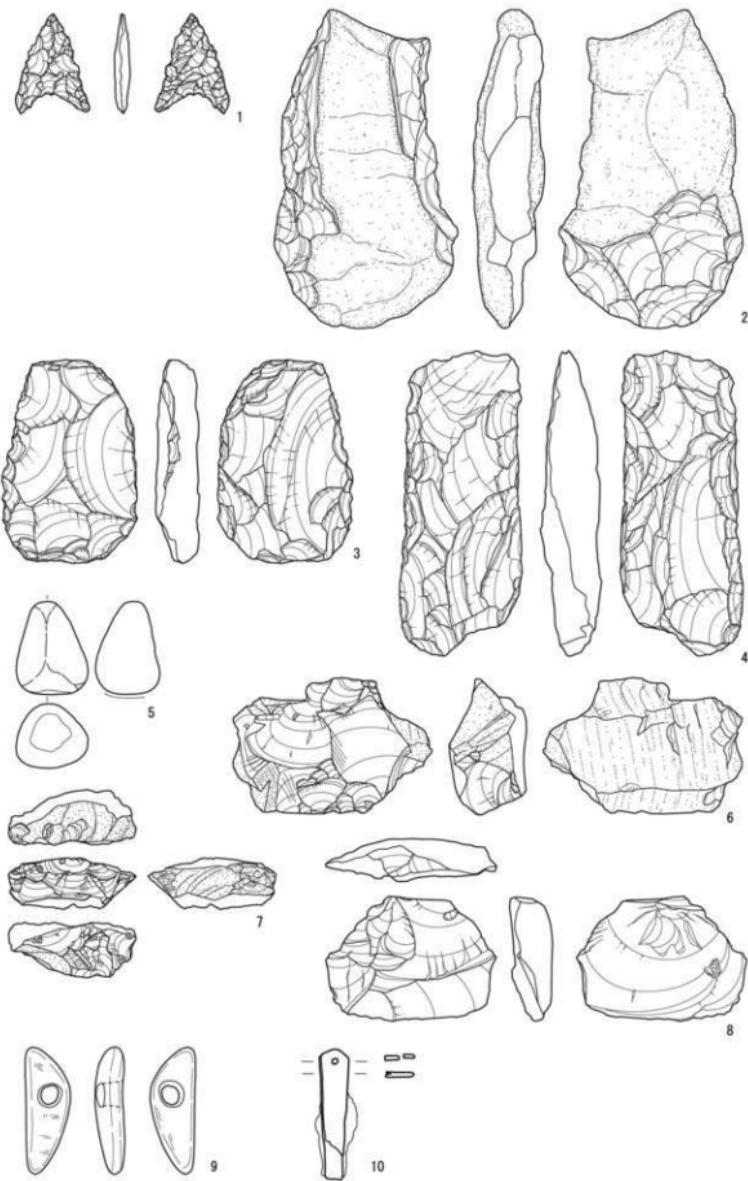


- 1層 10YR2/3(黒褐色)に10YR2/4(暗緑褐)が20%、炭化物が2%混じる。シルト粘土。しまる。  
 2層 10YR2/3(黒褐色)に10YR2/4(暗緑褐)が30%、炭化物が5%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 3層 10YR2/3(暗緑褐)に10YR2/3(黒褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 4層 10YR2/4(暗緑褐)に7.5YR3/2(黒褐色)が7%、炭化物が1%、鐵土が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 5層 10YR2/4(暗緑褐)に炭化物が2%、鐵土が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 6層 10YR2/3(黒褐色)に10YR2/4(暗緑褐)が15%、炭化物が1%、鐵土5YR2/6(暗赤褐)が20%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 7層 10YR2/3(暗緑褐)に10YR2/3(黒褐色)が9%、炭化物が2%、5~10mmの大ロームブロックが1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 8層 10YR2/3(暗緑褐)に10YR2/3(黒褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 9層 10YR2/3(暗緑褐)に炭化物が10%、鐵土が10%混じる。シルト粘土。しまる。  
 10層 10YR2/3(暗緑褐)に10YR2/4(暗緑褐)が15%、炭化物が1%、10mmの大ロームブロックが1%（下端附近に集中）混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 11層 10YR2/4(暗緑褐)に炭化物が1%、鐵土が1%混じる。シルト粘土。しまりなし。  
 12層 10YR2/4(暗緑褐)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまりなし。  
 13層 (鐵土層) 5YR4/8(赤褐色)  
 14層 10YR2/3(暗緑褐)に10YR2/4(暗緑褐)が30%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 15層 10YR2/3(黒褐色)に10YR2/3(暗緑褐)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 16層 10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(暗緑褐)が15%、炭化物が1%、鐵土が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 17層 7.5YR3/3(暗緑褐)に7.5YR3/4(暗緑褐)10%、炭化物が2%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 18層 7.5YR2/3(暗緑褐)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 19層 7.5YR3/3(暗緑褐)に7.5YR3/4(暗緑褐)が5%、炭化物が1%、鐵土が3%混じる。シルト粘土。しまる。  
 20層 10YR2/3(暗緑褐)に10YR2/3(黒褐色)が15%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 21層 10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(暗緑褐)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 22層 10YR2/4(暗緑褐)に10YR2/3(暗緑褐)が15%、炭化物が1%、鐵土が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 23層 (埋蔵物) (黒褐色)に10YR2/4(暗緑褐)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 24層 7.5YR2/3(暗緑褐)に7.5YR3/4(暗緑褐)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 25層 10YR2/3(暗緑褐)に7.5YR3/3(暗緑褐)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 26層 10YR2/4(暗緑褐)に7.5YR3/4(暗緑褐)が15%、炭化物が1%、鐵土が2%、5~10mmの大ロームブロックが1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 27層 7.5YR3/3(暗緑褐)に7.5YR3/4(暗緑褐)が10%、炭化物が2%混じる。シルト粘土。ややしまる。

第 64 図 4 号住居跡(1/60)

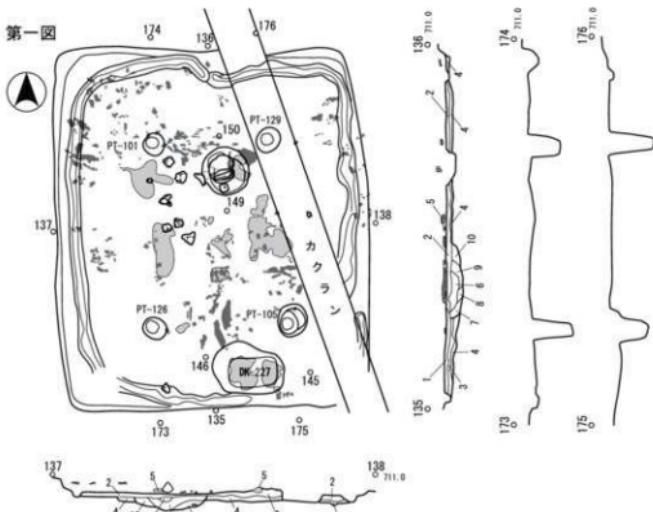


第 65 図 4 号住居出土遺物(1/2)



第 66 図 4 号住居出土遺物(1/1、2 ~ 4・7 は 1/2、5 は 1/4)

第一図



11号住居

- 1層 (柱立床) 10YR3/3(暗褐色) に 10YR4/6(赤褐色) が5% (ブロックを含む)、炭化物が2% 混じる。シルト粒土。非常に固くしまる。  
2層 (柱立床) 10YR3/2(黒褐色) に 10YR3/4(暗褐色) が15%、10YR4/6(赤褐色) が15%、炭化物が2% 混じる。シルト粒土。非常に固くしまる。  
3層 10YR3/4(暗褐色) に 10YR4/6(赤褐色) が10%、炭化物が2% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
4層 (掘り方) 10YR4/6(赤褐色) に 10YR2/4(暗褐色) が10%、炭化物が1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
5層 (底土層) 2 SYR4/6(赤褐色)。

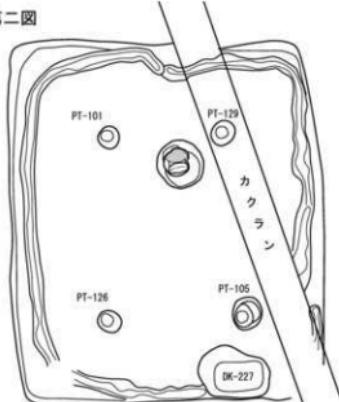
DK-234

- 6層 10YR2/3(黒褐色) 10YR2/3(暗褐色) が5%、炭化物が2% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
7層 10YR4/4(赤褐色) に 10YR2/4(暗褐色) が20%、炭化物が1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
8層 10YR4/6(赤褐色) に 10YR2/3(暗褐色) が5%、炭化物が1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
9層 10YR2/3(暗褐色) に 10YR4/4(赤褐色) が3%、炭化物が2% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
10層 10YR2/4(暗褐色) に 10YR4/4(赤褐色) が2%、炭化物が1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

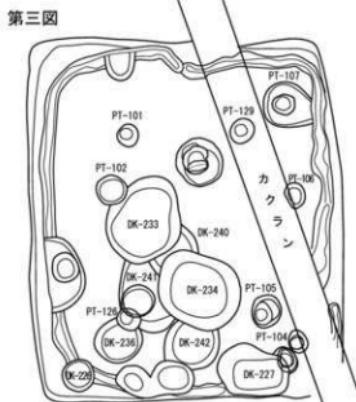
DK-233

- 11層 10YR2/4(暗褐色) に 炭化物が1%、ローム粒子が20% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
12層 10YR2/3(暗褐色) に 10YR2/4(暗褐色) が25%、炭化物が2%、ローム粒子が2% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
13層 10YR2/4(暗褐色) に 10YR4/6(赤褐色) が40%、炭化物が1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
14層 10YR2/4(暗褐色) に 10YR2/3(暗褐色) が15%、炭化物が1%、ローム粒子が3% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

第二図

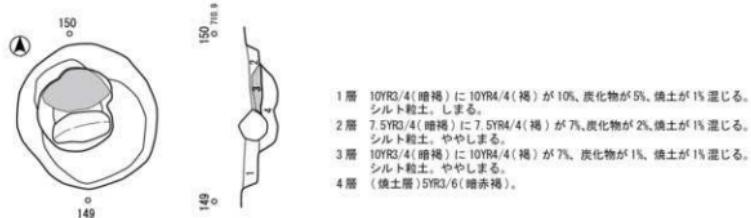


第三図

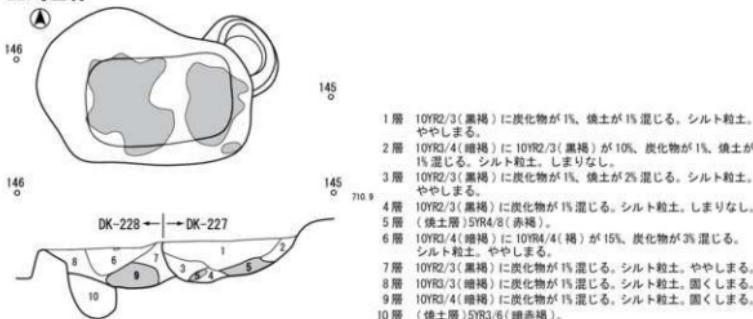


第67図 11号住居跡(1/60)

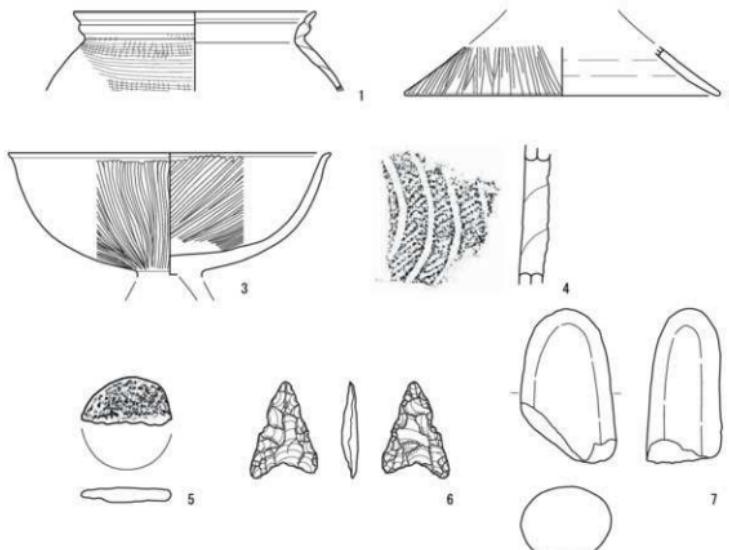
11号住居炉跡



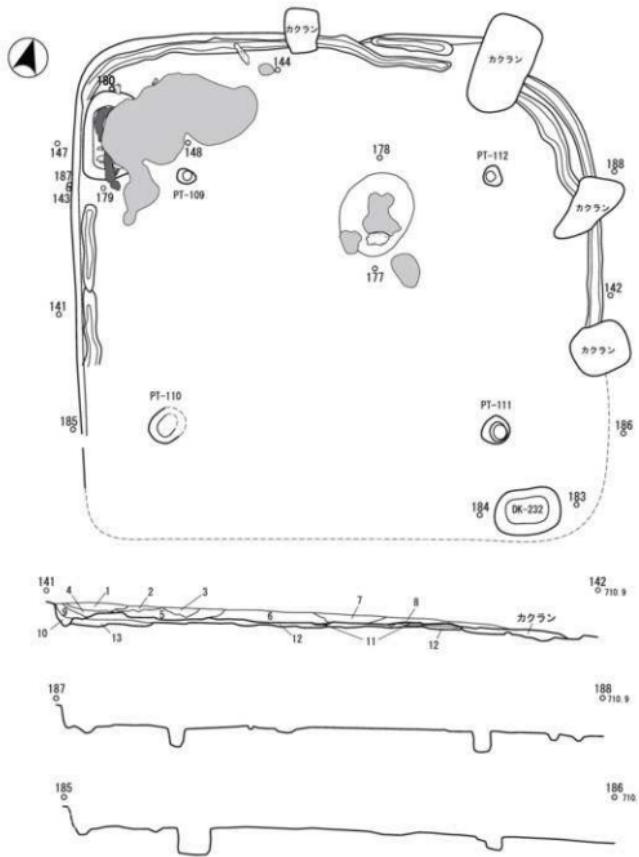
227号土坑



11号住居出土遺物



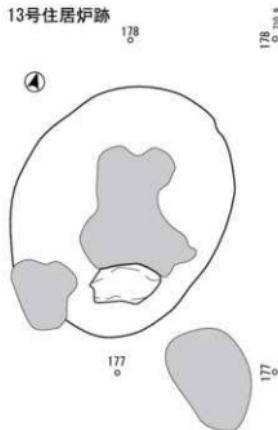
第 68 図 11 号住居炉跡(1/20)、227 号土坑(1/20)  
11 号住居出土遺物(1/2、6 は 1/1)



- 1層 10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が20%、炭化物が1%、焼土が2%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
- 2層 10YR3/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%、焼土が3%、ローム粒子が1%(2cm大のブロックを含む)混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 3層 10YR3/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 4層 7.5YR4/4(褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
- 5層 10YR4/4(褐色)に10YR4/4(褐色)が3%、炭化物が2%、焼土が1%、ローム粒子が1%(1cm大のブロックを含む)混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 6層 10YR3/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 7層 10YR3/4(暗褐色)に炭化物が2%、ローム粒子が3%5mm~1cm大のブロックを含む)混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 8層 10YR3/4(暗褐色)に10YR3/3(暗褐色)が30%、炭化物が1%、焼土が5%混じる。シルト粒土、固くしまる。
- 9層 10YR2/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、しまりなし。
- 10層 10YR3/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、ややしまる。
- 11層 (焼土層)10YR4/4(褐色)に10YR4/6(赤褐色)が30%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、非常に固くしまる。
- 12層 (貼り床層)10YR4/4(褐色)に10YR4/6(赤褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、非常に固くしまる。
- 13層 (貼り床層)10YR4/4(褐色)に10YR4/6(赤褐色)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土、非常に固くしまる。

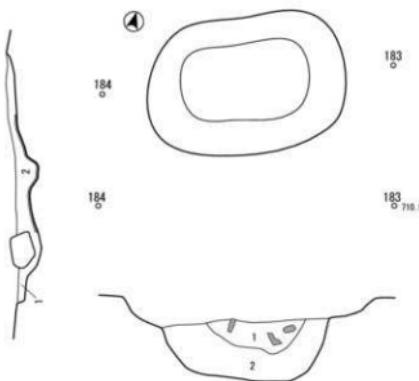
第69図 13号住居跡(1/60)

13号住居炉跡



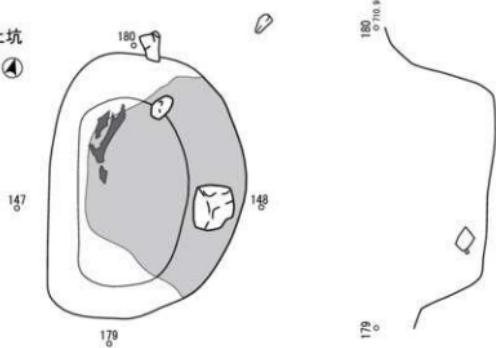
- 1層 10YR2/3(黒褐色)に炭化物が1%、燒土が2%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
- 2層 10YR2/3(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が15%、炭化物が2%、燒土(2.5YR4/6(赤褐色))が10%、ローム粒子が2%混じる。シルト粒土。固くしまる。

232号土坑



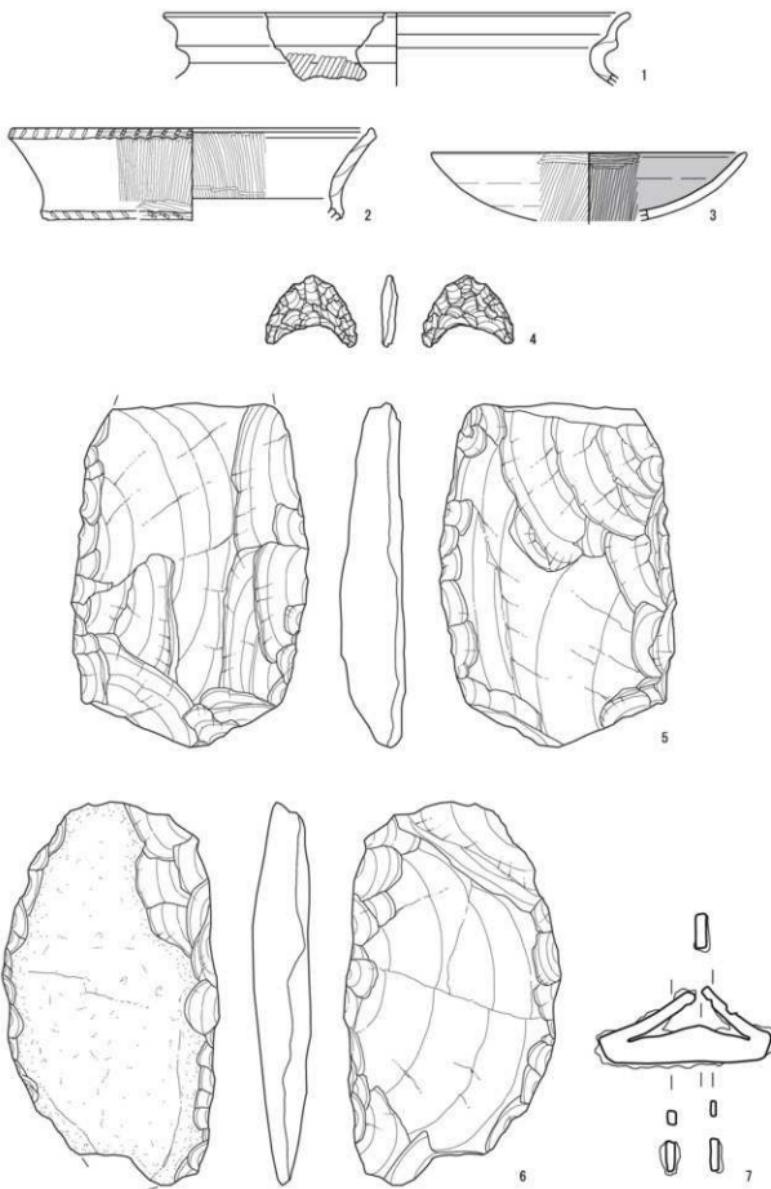
- 1層 10YR2/3(暗褐色)に10YR3/4(褐色)が7%、炭化物が2%、燒土が5%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 2層 10YR3/4(褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が2%、燒土が2%、ローム粒子が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。

230号土坑

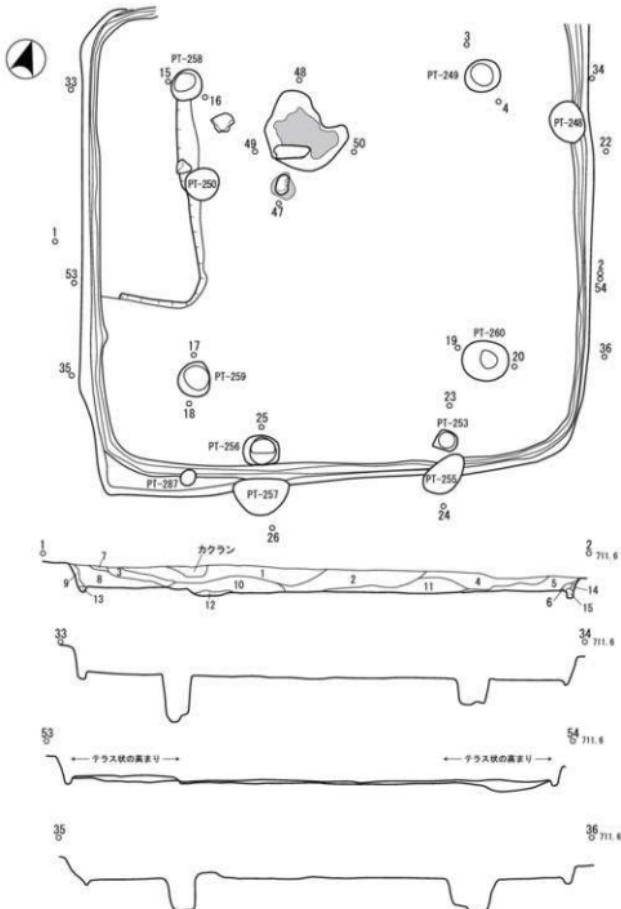


- 1層 10YR0/3(暗褐色)に炭化物が1%、燒土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 2層 10YR1/3(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%、炭化物が10%、燒土が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 3層 10YR3/4(暗褐色)に炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 4層 10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 5層 (燒土層) 5YR2/6(暗赤褐色)に10YR3/4(暗褐色)が30%、炭化物が1%混じる。燒土以外、ややしまる。
- 6層 10YR3/4(暗褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%、ローム粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。

第70図 13号住居炉跡(1/20)、232、230号土坑(1/20)

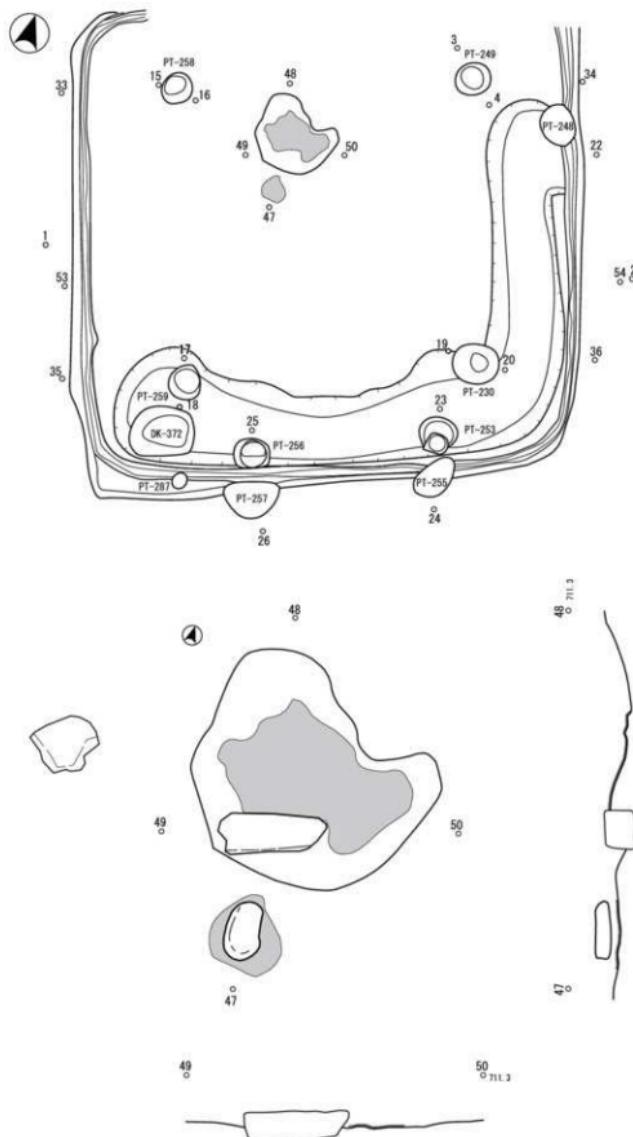


第 71 図 13 号住居出土遺物(1/1、1 ~ 3 は 1/2)



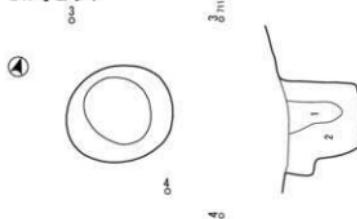
- 1層 10YR3/2(黒褐色)に炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 2層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 3層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 4層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が15%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 5層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が5%、炭化物が1%、燒土が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 6層 10YR2/4(暗褐色)に10YR4/6(褐色)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 7層 10YR3/2(黒褐色)に炭化物が1%、燒土が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 8層 10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまりなし。  
 9層 10YR3/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまりなし。  
 10層 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 11層 10YR3/3(暗褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が3%混じる。シルト粘土。しまる。  
 12層 10YR4/6(褐色)、シルト粘土。固くしまる。(底下一握りすぎ)  
 13層 10YR4/6(褐色)、シルト粘土。ややしまる。  
 14層 10YR4/6(褐色)、シルト粘土。固くしまる。  
 15層 10YR4/4(褐色)、シルト粘土。ややしまる。  
 地山 10YR4/6(褐色)、シルト粘土。しまる。  
 床面 10YR5/6(黄褐色)、シルト粘土。固くしまる。

第72図 24号住居跡(1/60)



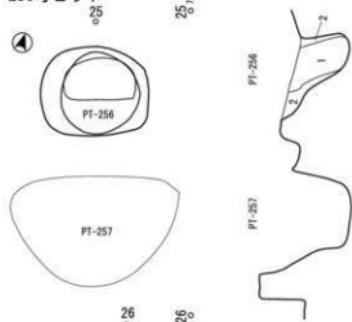
第 73 図 24 号住跡(1/60)、24 号住居炉跡(1/20)

249号ピット



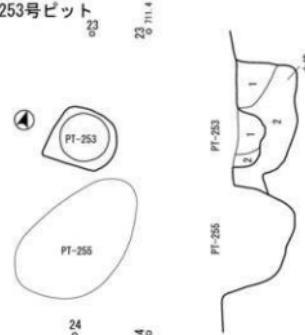
1層 (柱底) 10YR2/2(黒褐色) に 10YR4/6(褐) が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。  
2層 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。  
地山 10YR5/4(にぶい黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

256号ピット



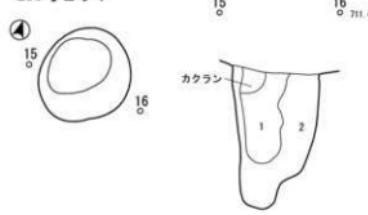
1層 (柱底) 10YR2/2(黒褐色) に 10YR3/3(暗褐色) が 3%、炭化物が 1%、食土が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。  
2層 10YR3/3(暗褐色) に 10YR4/4(褐) 質 10%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
地山 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。

253号ピット



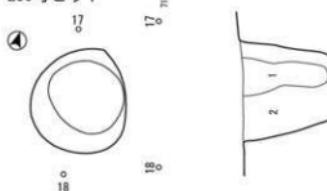
1層 10YR2/3(黒褐色) に 10YR3/3(暗褐色) が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
2層 10YR4/4(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

258号ピット



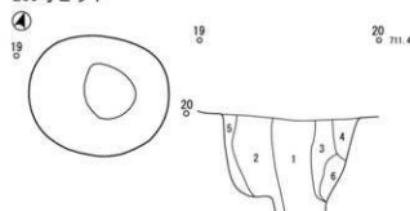
1層 (柱底) 10YR2/2(黒褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまりなし。  
2層 10YR5/6(黄褐色) に 10YR3/3(暗褐色) が 10% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
カクラン 10YR2/2(暗褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 20%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。  
地山 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

259号ピット



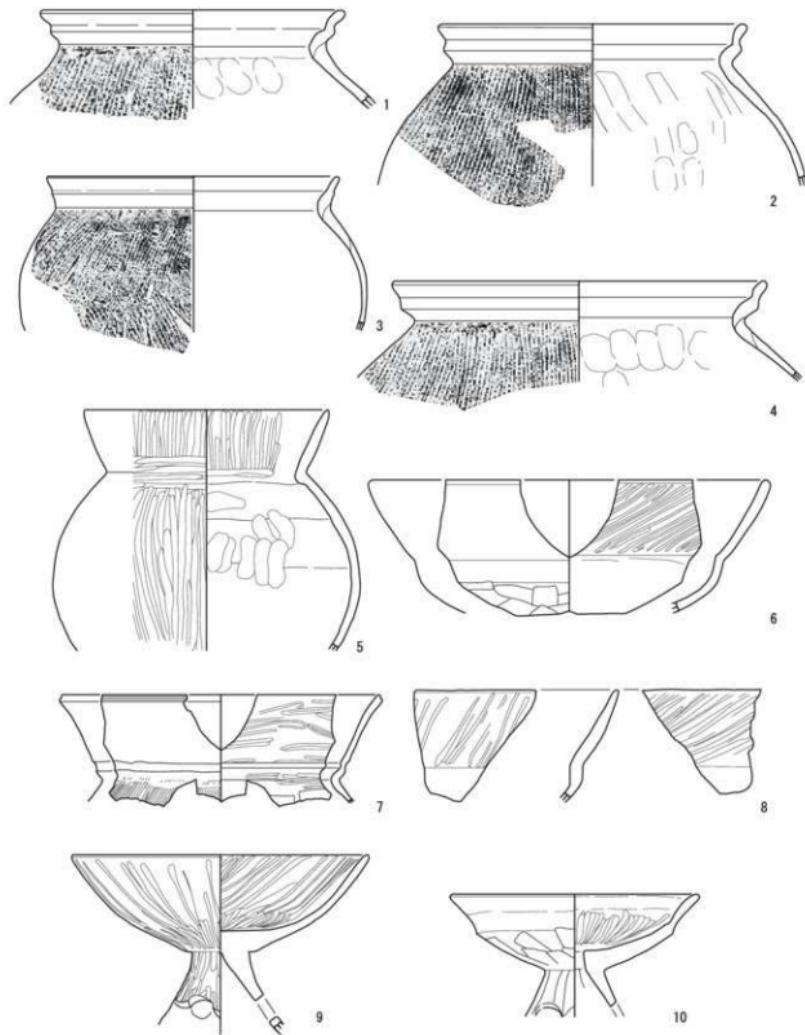
1層 (柱底) 10YR2/3(黒褐色) に 10YR4/4(褐) が 3%、炭化物が 2% 混じる。シルト粒土。しまりなし。  
2層 10YR3/3(暗褐色) に 10YR4/4(褐) が 15% (1cm 大のブロックを含む)、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
地山 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。

260号ピット

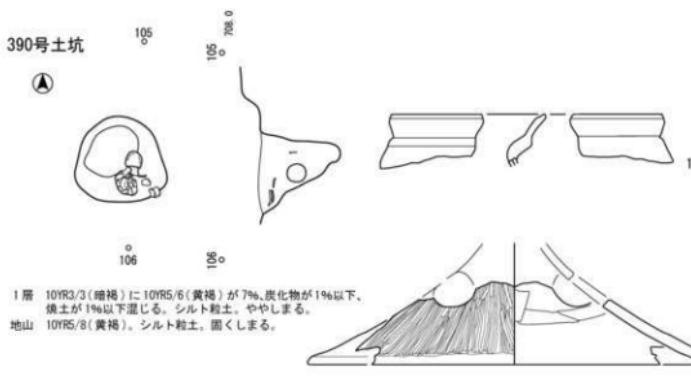
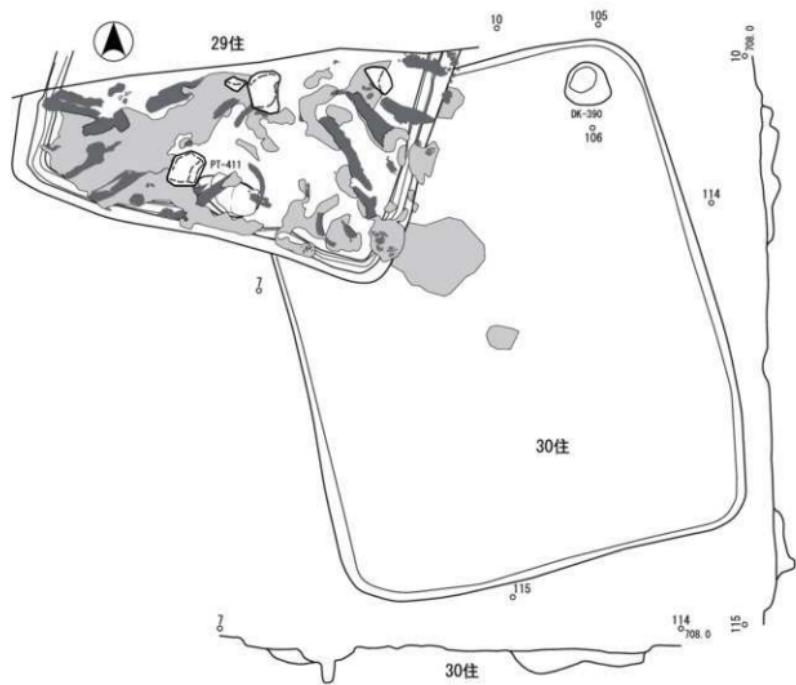


1層 (柱底) 10YR3/3(暗褐色) に 10YR4/4(褐) が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。ややしまる。  
2層 10YR3/4(暗褐色) に 10YR4/4(褐) が 15%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
3層 10YR4/4(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が 5% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
4層 10YR3/3(暗褐色) に 10YR4/4(褐) が 5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。  
5層 10YR4/6(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が 5% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
6層 10YR4/6(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が 5% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
地山 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。

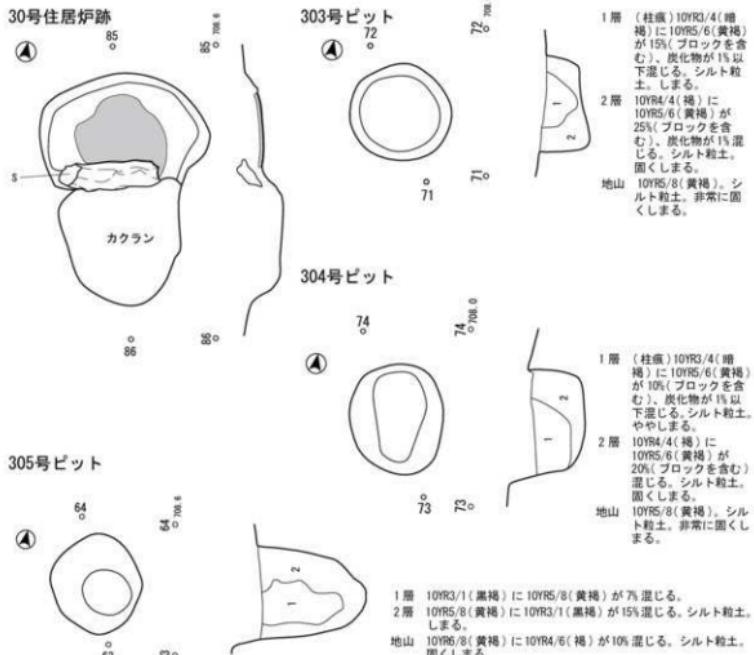
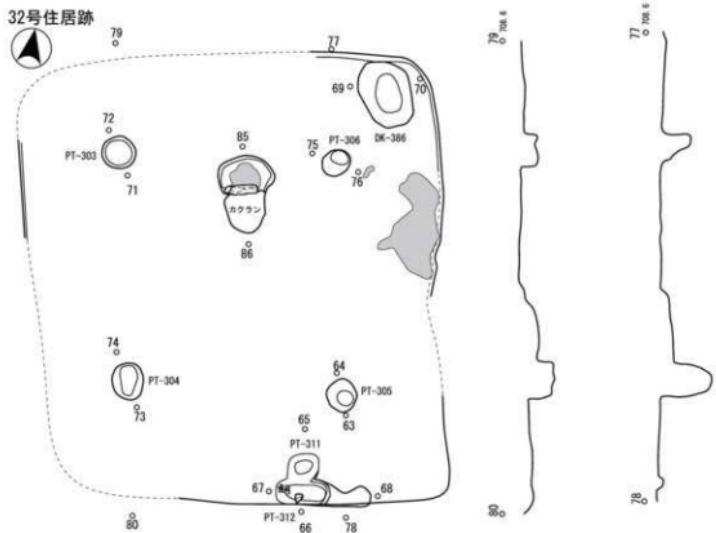
第 74 図 249・253・256・258・259・260 号ピット (1/20)



第75図 24号住居出土遺物(1/2、7は1/4)

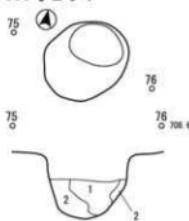


第76図 30号住居跡(1/40)、390号土坑(1/20)、30号住居出土遺物(1/2)

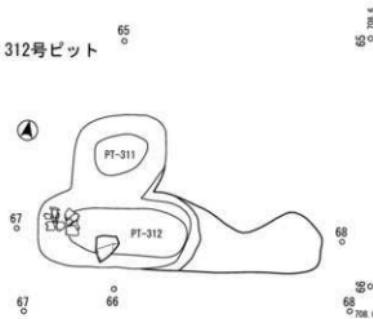


第 77 図 32号住居跡(1/60)、32号住居跡(1/20)、303、304、305号ピット(1/20)

## 306号ピット



## 312号ピット

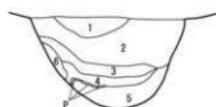
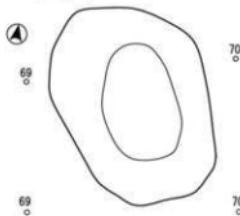


1層 (柱底) 10YR3/3(暗褐色)に  
10YR5/6(黄褐色)が7% (ブロックを含む)、炭化物が1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

2層 10YR4/4(褐)に 10YR5/6(黄褐色)が15% (ブロックを含む)、炭化物が1% 以下混じる。シルト粒土固くしまる。

地山 10YR5/8(黄褐色)。シルト粒土。非常に固くしまる。

## 386号ピット



1層 10YR3/3(暗褐色)に 10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化物が1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
2層 10YR3/4(暗褐色)に 10YR5/6(黄褐色)が10% (0.5 ~ 1cm 大のブロックを含む)、炭化物が1%、土塊が1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

3層 10YR3/3(暗褐色)に 10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化物が1% 混じる。シルト粒土。しる。

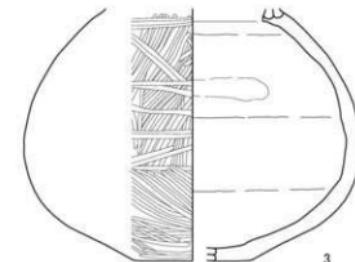
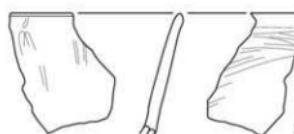
4層 10YR4/4(褐)に 10YR5/6(黄褐色)が10%、炭化物が1% 以下混じる。シルト粒土。ややしまる。

5層 10YR3/4(暗褐色)に 10YR5/6(黄褐色)が5% 混じる。シルト粒土。ややしまる。

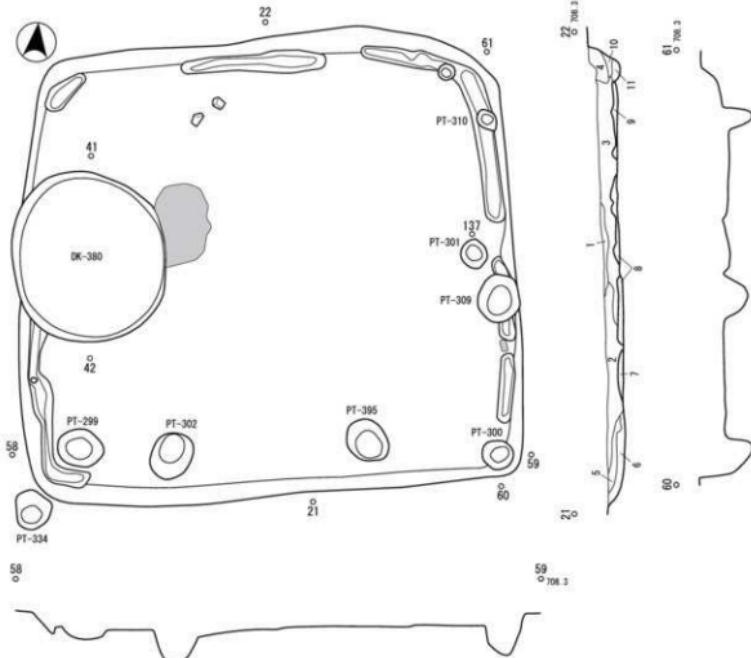
6層 (地山) 10YR5/8(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

地山 10YR5/8(黄褐色)。シルト粒土。非常に固くしまる。

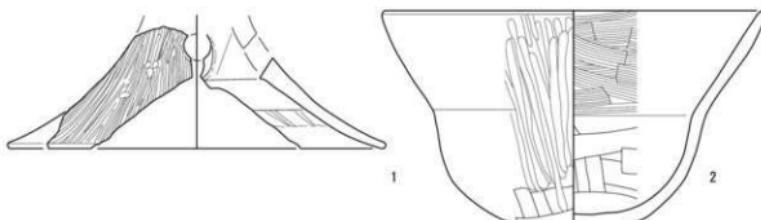
## 32号住居出土遺物



第 78 図 306、312、386 号ピット(1/20)、32号住居出土遺物(1/1、1は1/2)

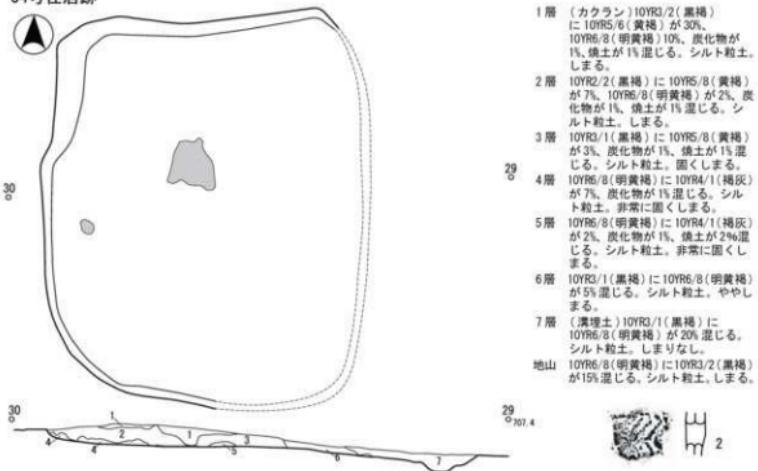


- 1層 (カクラン) 10YR3/3(暗褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 1%、炭化物が 1% 以下混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 2層 10YR3/4(暗褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 2%、炭化物が 1% 以下混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 3層 10YR2/3(黒褐色) に 10YR3/4(暗褐色) が 7%、10YR5/6(黄褐色) が 2%、炭化物が 1%、鐵土が 1% 以下混じる。シルト粒土。しまる。  
 4層 (カクラン) 10YR3/3(暗褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 1%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 5層 10YR3/3(暗褐色) に 10YR4/4(褐) が 2%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまる。  
 6層 10YR3/4(暗褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 10% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 7層 (床面) 10YR4/4(褐) に 10YR5/6(黄褐色) が 10% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 8層 (床面) 10YR5/6(黄褐色) に 10YR2/3(暗褐色) が 7% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 9層 (床面) 10YR5/6(黄褐色) に 10YR4/4(褐) が 7% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 10層 10YR2/3(黒褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 2% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 11層 (底溝) 10YR4/4(褐) に 10YR3/3(暗褐色) が 7% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 地山 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。  
 床面 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。  
 ※床が軟弱の為、掘り過ぎてしまい掘り方まで埋ってしまった。

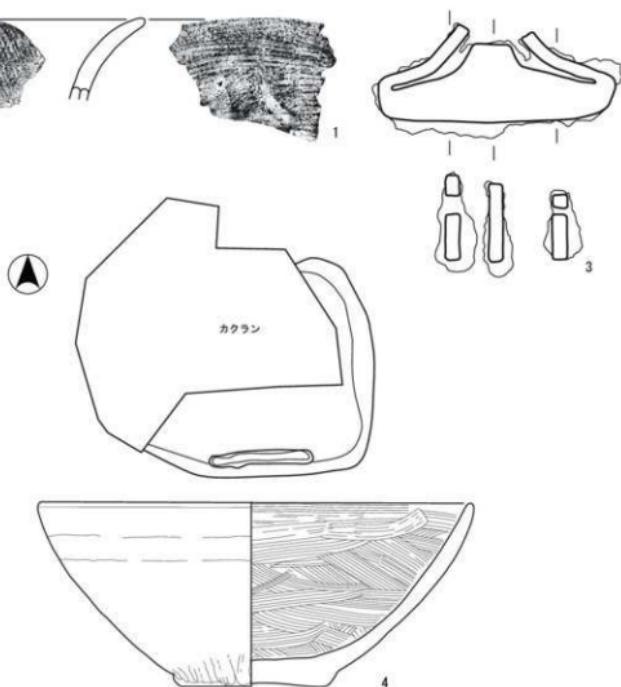


第 79 図 33 号住居跡(1/40)・出土遺物(1/2)

34号住居跡

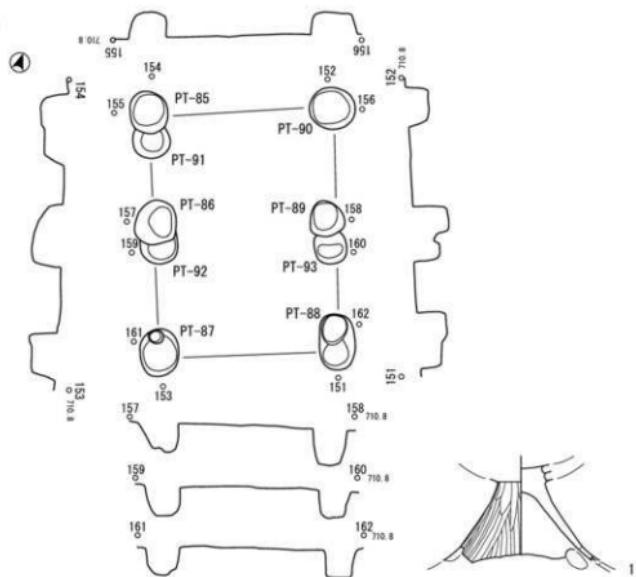


40号住居跡

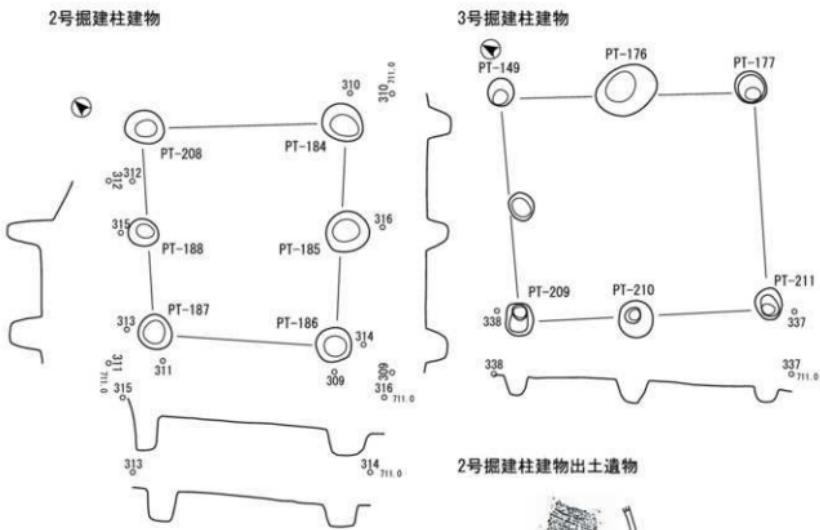


第 80 図 34、40 号住居跡(1/60)・出土遺物(1/2、3 は 1/1)

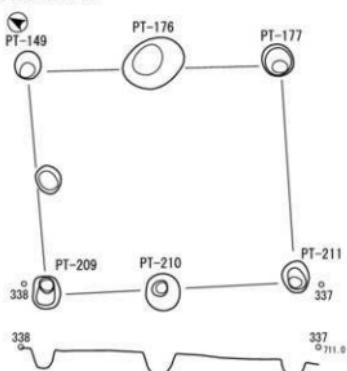
1号掘建柱建物



2号掘建柱建物



3号掘建柱建物

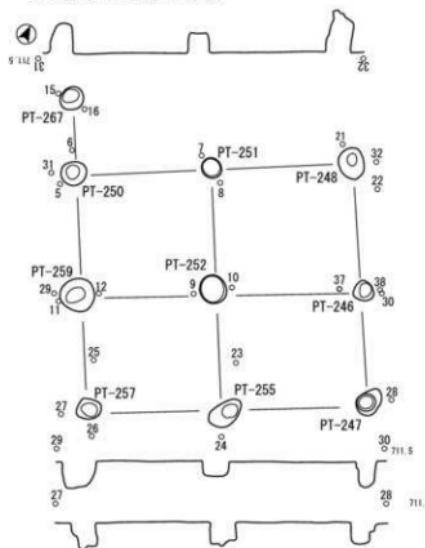


2号掘建柱建物出土遺物

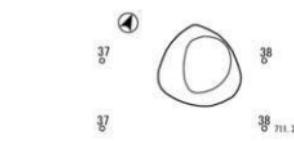


第 81 図 1、2、3 号掘建柱建物跡(1/80)・出土遺物(1/2)

3次調査区4号掘建柱建物

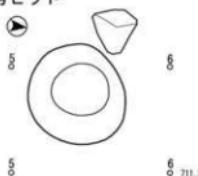


246号ピット

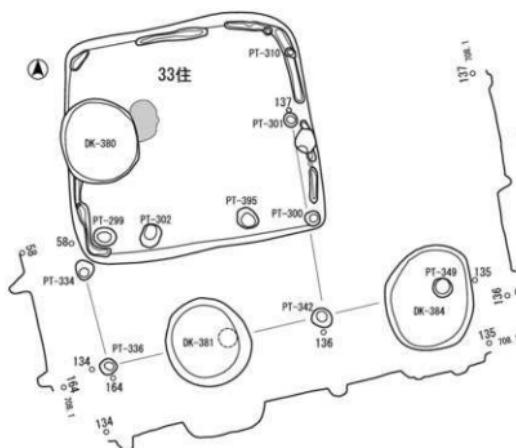


1層 (柱底) 10YR2/3(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が7%、堆土が1%混じる。シルト粘土。固くしまる。  
地山 10YR4/6(褐)。シルト粘土。固くしまる。

250号ピット



4次調査区4号掘建柱建物



1層 (柱底) 10YR2/2(黒褐色)に 10YR3/3(暗褐色)が5%、炭化物1%混じる。シルト粘土。しまりなし。(ロームブロックは、10YR5/6(黄褐色))  
2層 10YR5/6(黄褐色)。シルト粘土。固くしまる。  
地山 10YR4/4(にふい黄褐色)。シルト粘土。固くしまる。

第 82 図 3、4 次調査区 4 号掘建柱建物跡(1/80)、246、250 号ピット(1/20)

### 251号ピット

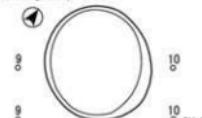


1層 (柱痕) 10YR2/2(黒褐色) に 10YR4/6(褐) が 2%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

2層 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。

地山 10YR4/4(褐)。シルト粒土。固くしまる。

### 252号ピット

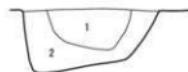
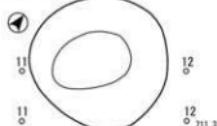


1層 (柱痕) 10YR2/2(黒褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 2%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

2層 10YR5/6(黄褐色) に 10YR3/3(暗褐色) が 15% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

地山 10YR4/4(褐) シルト粒土。固くしまる。

### 254号ピット

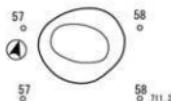


1層 (柱痕) 10YR2/2(黒褐色) に 炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。やわらまる。

2層 10YR4/4(褐) に 10YR2/2(黒褐色) が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

地山 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。

### 267号ピット

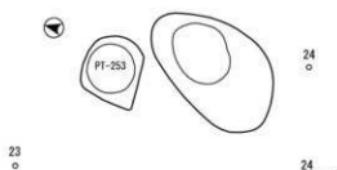


1層 (柱痕) 10YR2/3(黒褐色) に 10YR4/6(褐) が 7%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

2層 10YR4/6(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が 3% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

地山 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。

### 255号ピット

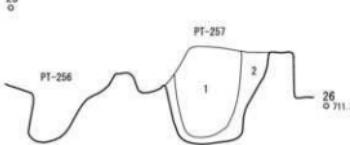
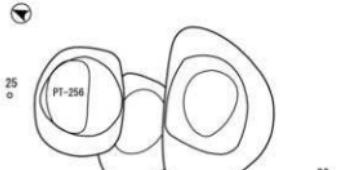


1層 10YR3/3(暗褐色) に 10YR4/4(褐) が 15%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

2層 10YR4/6(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が 3% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

地山 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。

### 257号ピット

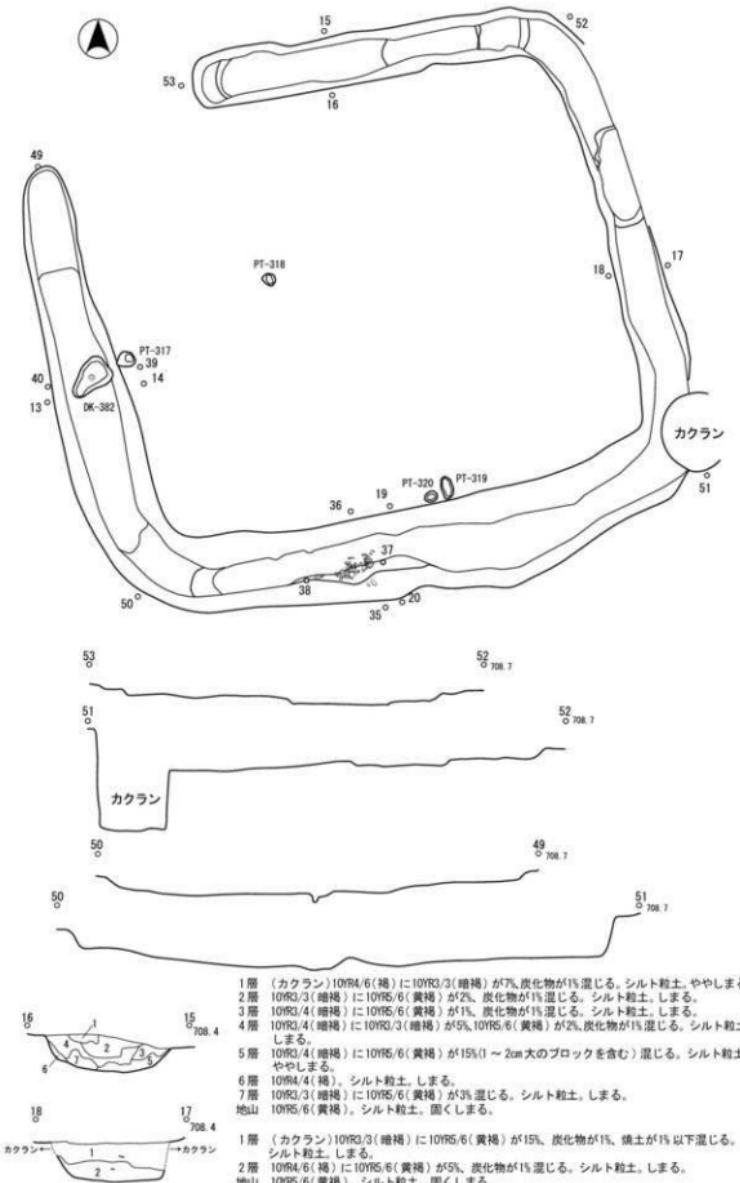


1層 (柱痕) 10YR2/3(黒褐色) に 10YR3/4(暗褐色) が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。やわらまる。

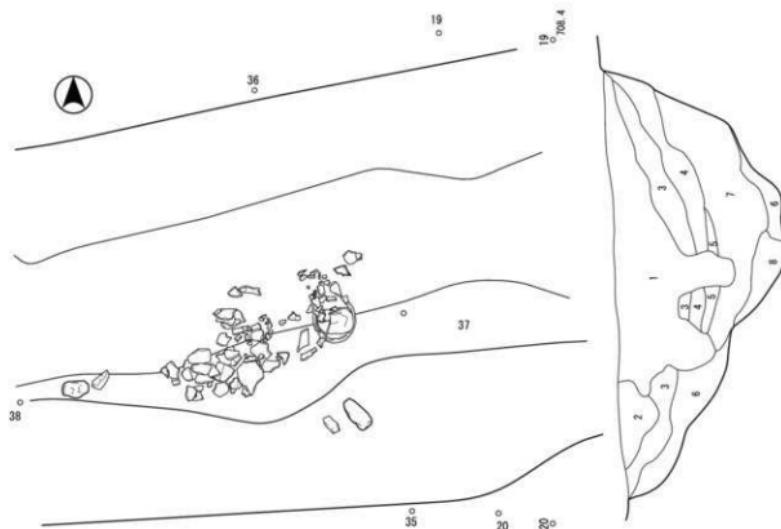
2層 10YR4/6(褐) に 10YR3/4(暗褐色) が 10%、炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。固くしまる。

地山 10YR4/6(褐)。シルト粒土。固くしまる。

第 83 図 251、252、254、267、255、257 号ピット(1/20)



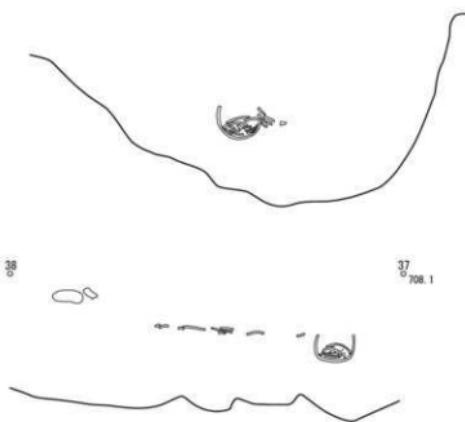
第 84 図 1 号方形周溝墓(1/100、セクション図は 1/40)



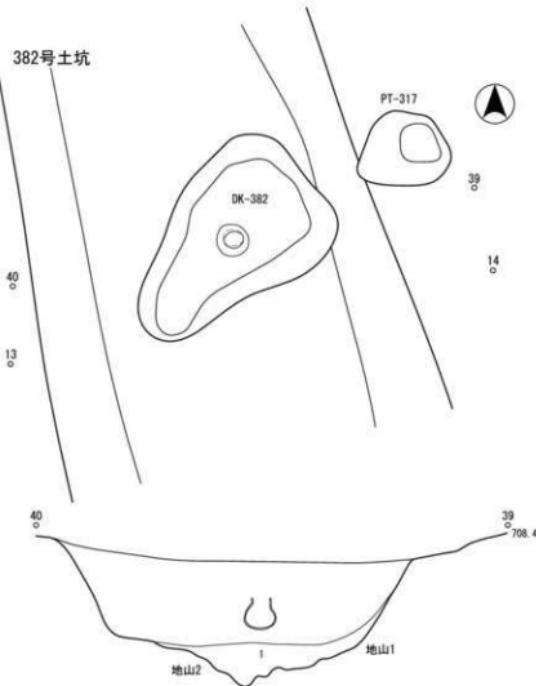
- 1層 10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が5%。炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 2層 10YR3/4(褐褐)に10YR2/3(黒褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が2%。炭化物が1%以下混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 3層 10YR4/4(褐)に10YR0/3(暗褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が2%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 4層 10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が2%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 5層 10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%。炭化物が1%以下混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 6層 10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が7%混じる。シルト粘土。しまる。  
 7層 10YR2/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3% (1cm大のブロックを含む)混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 8層 10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が40% (3~5cmのブロックを含む)混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 9層 10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が2%混じる。シルト粘土。しまる。

地山 10YR5/6(黄褐)。シルト粘土。固くしまる。

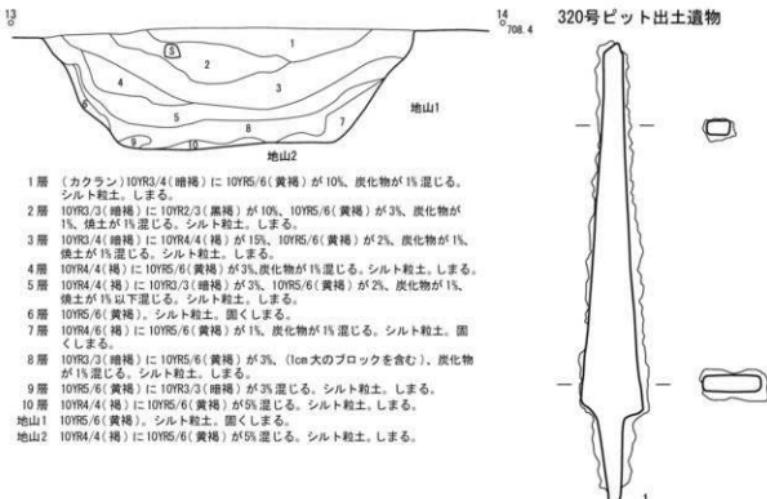
35 ° 36 °  
○ ○ 708.4



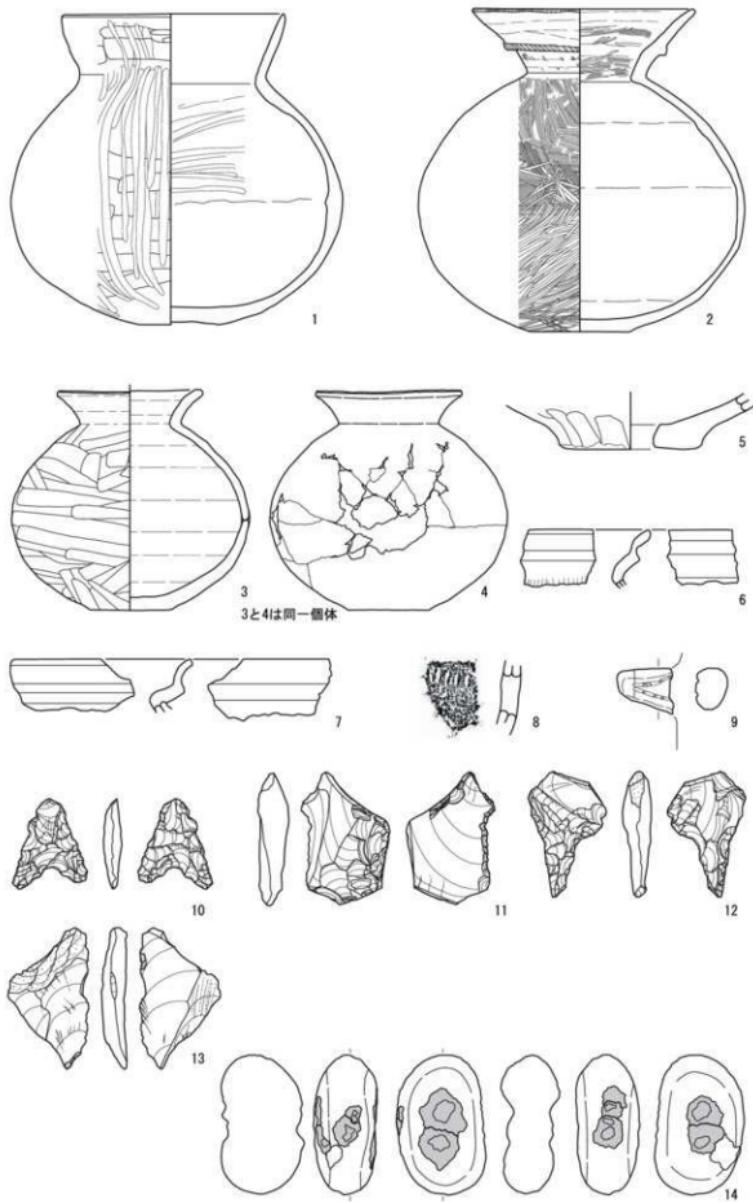
第85図 1号方形周溝墓遺物出土状況(1/20)



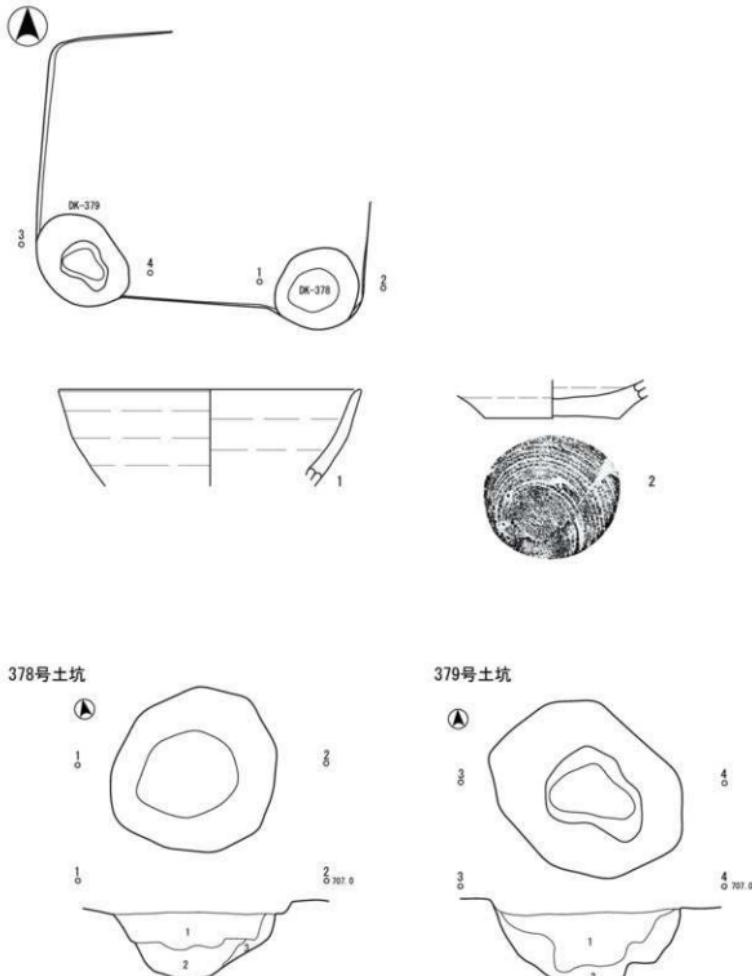
1層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が20%混じる。シルト粒土。しまる。  
地山 10YR5/6(黄褐色)に10YR4/6(褐色)が10%混じる。シルト粒土。固くしまる。



第 86 図 382 号土坑(1/20)、320 号ピット出土遺物(1/1)

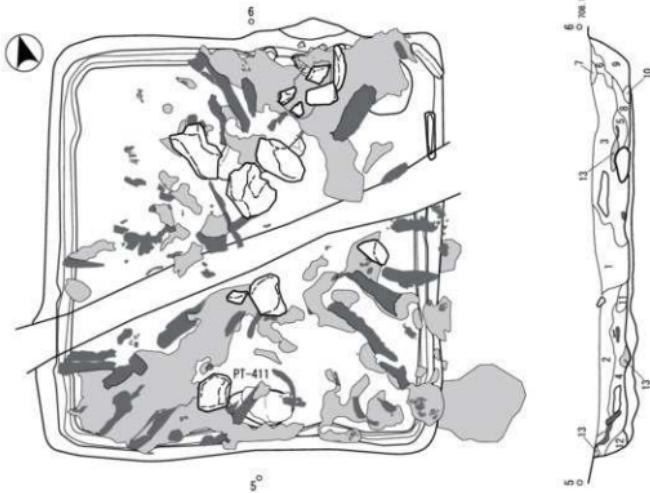


第 87 図 1号方形周溝墓出土遺物(1/2、2・3・13は1/4、9・11は1/1)

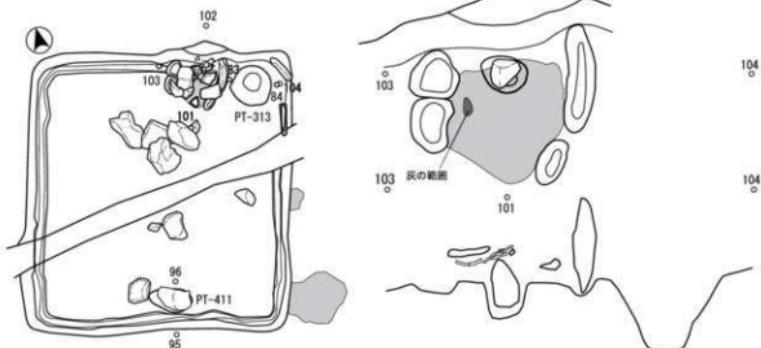


- 378号土坑
- 1層 10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(褐色)が30%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。やわらか。
  - 2層 10YR3/3(褐色)に10YR4/4(褐色)が40%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。やわらか。
  - 3層 10YR4/4(褐色)に10YR3/3(褐色)が1%混じる。シルト粘土。しまる。
  - 地山 10YR4/4(褐色)。粘質のシルト粘土。固くしまる。
- 379号土坑
- 1層 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。
  - 2層 10YR4/6(褐色)に10YR3/2(黒褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。
  - 地山 10YR4/4(褐色)。粘質のシルト粘土。固くしまる。

第 88 図 28 号住居跡(1/40)・出土遺物(1/2)、378、379 号土坑(1/20)

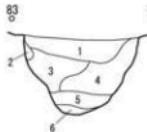
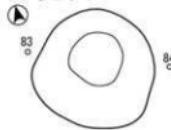


- 1層 (カクラン) 10YR3/4(緑褐色) に 10YR4/6(褐) が10%、炭化物が2%混じる。シルト粘土。しまる。  
 2層 10YR4/6(緑褐色) に 10YR4/6(褐) が5%、炭化物2%混じる。  
 シルト粘土。しまる。  
 3層 10YR2/1(黒褐色) に 10YR4/4(褐) が3%、炭化物が2%混じる。  
 シルト粘土。しまる。  
 4層 10YR2/1(黒褐色) に 10YR4/6(褐) が5%、炭化物が5%、燒土が2%混じる。シルト粘土。しまる。  
 5層 10YR2/1(黒褐色) に 10YR4/6(褐) が3%、炭化物が3%混じる。  
 シルト粘土。しまる。  
 6層 10YR4/3(にぶい黄褐色) に 10YR4/6(褐) が10%、燒土が1%混じる。シルト粘土。しまる。  
 7層 10YR5/6(にぶい黄褐色) に 10YR3/3(暗褐色) が15%、炭化物が1%、燒土が2%混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 8層 10YR4/4(褐) に 10YR5/6(黄褐色) が3%、炭化物が1%、燒土が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 9層 10YR4/6(褐) に 10YR5/6(黄褐色) が7%、炭化物が1%混じる。  
 シルト粘土。しまる。  
 10層 10YR4/6(褐) に 10YR5/6(黄褐色) が20%混じる。シルト粘土。しまる。  
 11層 10YR2/2(黒褐色) に 10YR4/4(褐) が7%、炭化物が2%、燒土が5%混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 12層 10YR3/3(暗褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が9%、炭化物が1%混じる。  
 シルト粘土。しまる。  
 13層 (燒土層) SYR5/8(明赤褐色)。固くしまる。  
 地山 10YR5/6(黄褐色)。シルト粘土。しまる。  
 床面 10YR5/8(黄褐色)。シルト粘土。固くしまる。



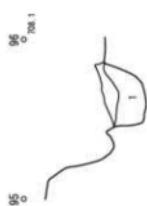
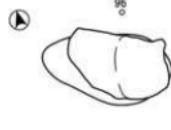
第89図 29号住居跡(1/40、1/60)、29号住居炉跡(1/20)

313号ビット



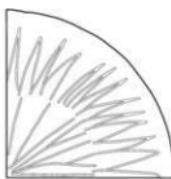
83  
84  
97.8  
97.0  
1層 10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%、炭化物が1%、鐵土が1%混じる。シルト粒土。しまる。  
2層 10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が1%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。  
3層 10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。  
4層 10YR4/3(にじみ黄褐)に10YR5/6(黄褐)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
5層 10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が7%、炭化物が1%、鐵土が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。  
6層 10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
地山 10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

411号ビット

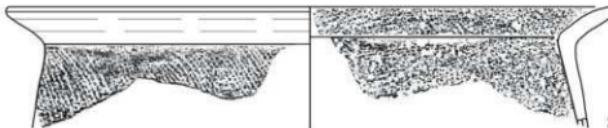


1層 10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(褐)が20%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。  
地山 10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

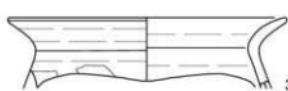
29号住居出土遺物



1



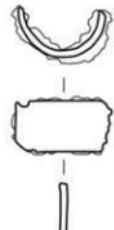
2



3

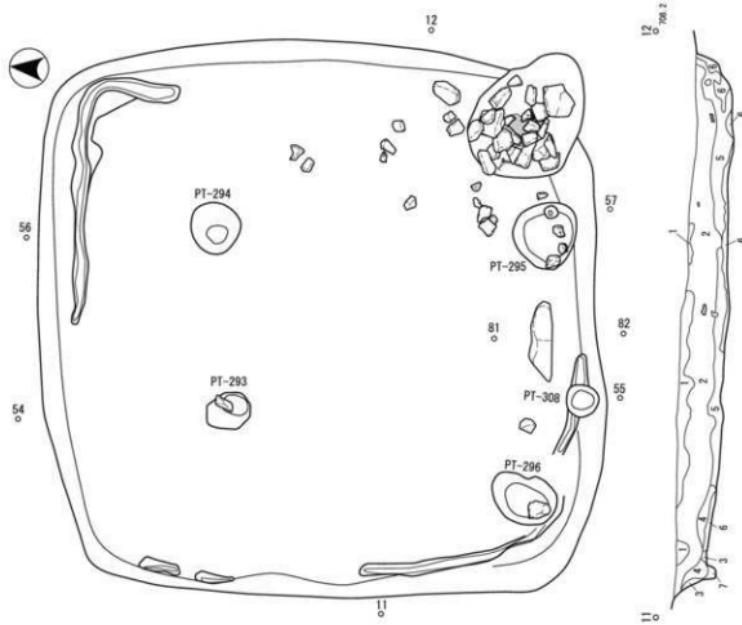


4

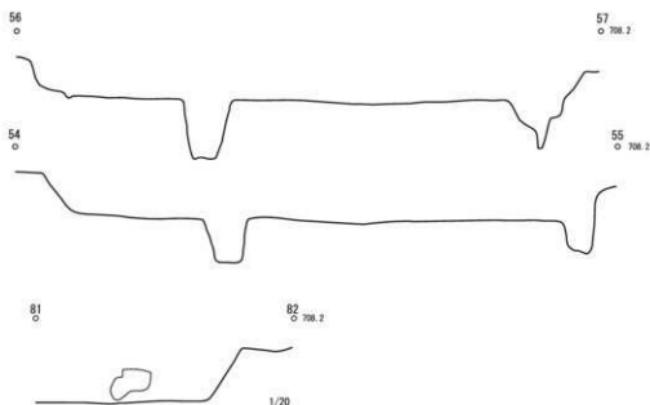


5

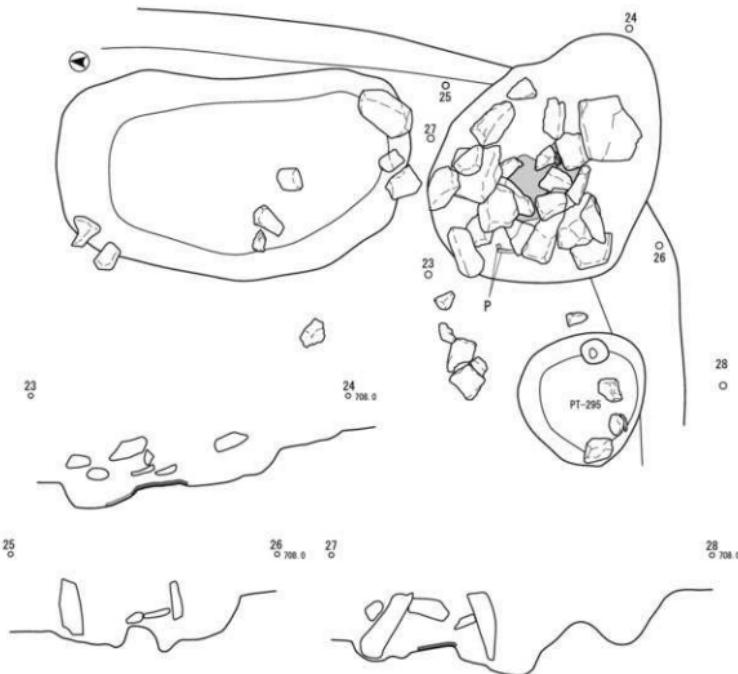
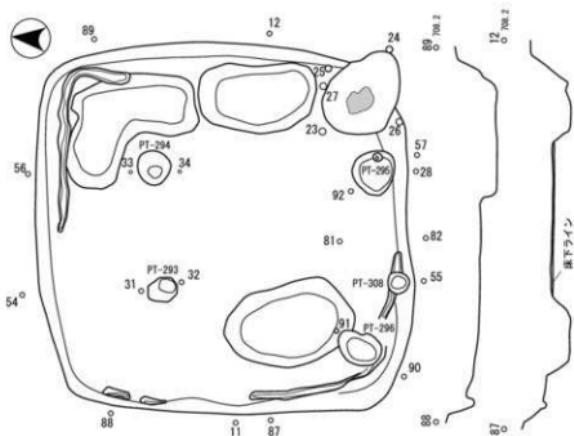
第90図 313、411号ビット(1/20)、29号住居出土遺物(1/2、5は1/1)



- 1層 (カクラン) 10YR3/3(暗褐)に10YR2/1(黒)が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 2層 10YR17/1(黒)に10YR3/3(暗褐)が3%、炭化物が1%、鐵土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 3層 10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が1%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。  
 4層 10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。  
 5層 10YR2/2(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が3% (ロームブロック 1cm~1.5cmを含む)、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 6層 10YR2/2(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 7層 (周溝) 10YR5/8(黄褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 地山 10YR4/6(褐)に10YR5/3(にぶい黄褐)が3%混じる。シルト粒土。固くしまる。

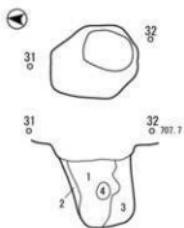


第91図 31号住跡(1/40)、エレベーション図(1/40、1/20)



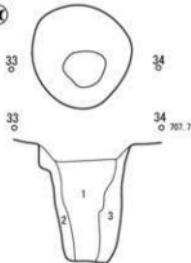
第92図 31号住居跡(1/60)、31号住居カマド跡(1/20)

## 293号ピット



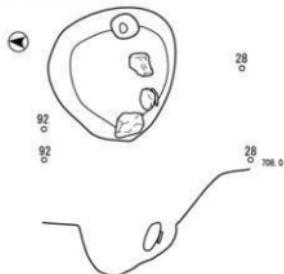
- 1層 (柱底) 10YR2/3(黒褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 10%。炭化物 1%。燒土が 1% 以下混じる。シルト粒土。ややしまる。  
 2層 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。しまる。  
 3層 10YR4/5(にぶい黄褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 40% (ブロックを含む) 混じる。シルト粒土。しまる。  
 4層 10YR5/6(黄褐色) (ブロックを含む) に 10YR3/4(暗褐色) が 5% 混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 地山 10YR5/8(明黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

## 294号ピット

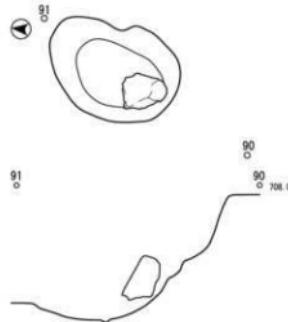


- 1層 (柱底) 10YR2/3(黒褐色) に 10YR5/6(黄褐色) が 10%。炭化物が 1% 混じる。シルト粒土。しまりなし。  
 2層 10YR5/6(黄褐色) に 10YR2/3(黒褐色) が 3% 混じる。シルト粒土。しまる。  
 3層 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。しまる。  
 地山 10YR6/8(明黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。

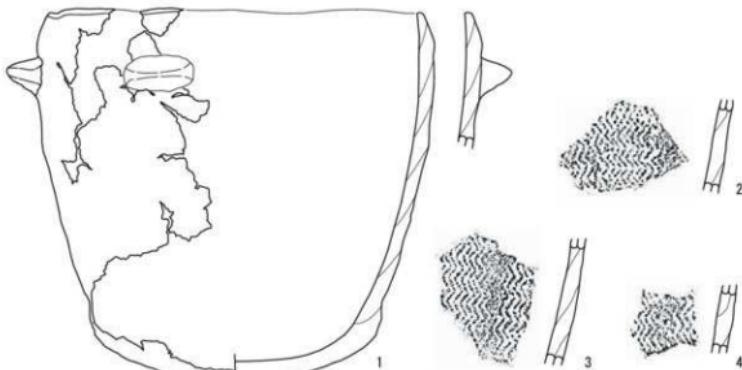
## 295号ピット



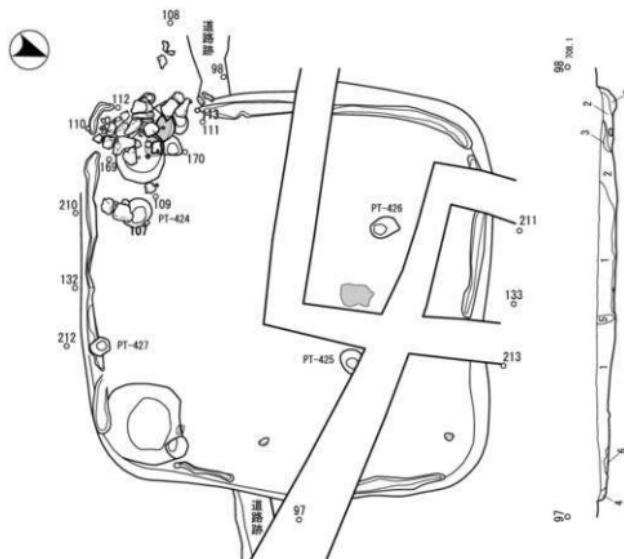
## 296号ピット



## 31号住居出土遺物



第93図 293、294、295、296号ピット(1/20)、31号住居出土遺物(1/2、1は1/4)

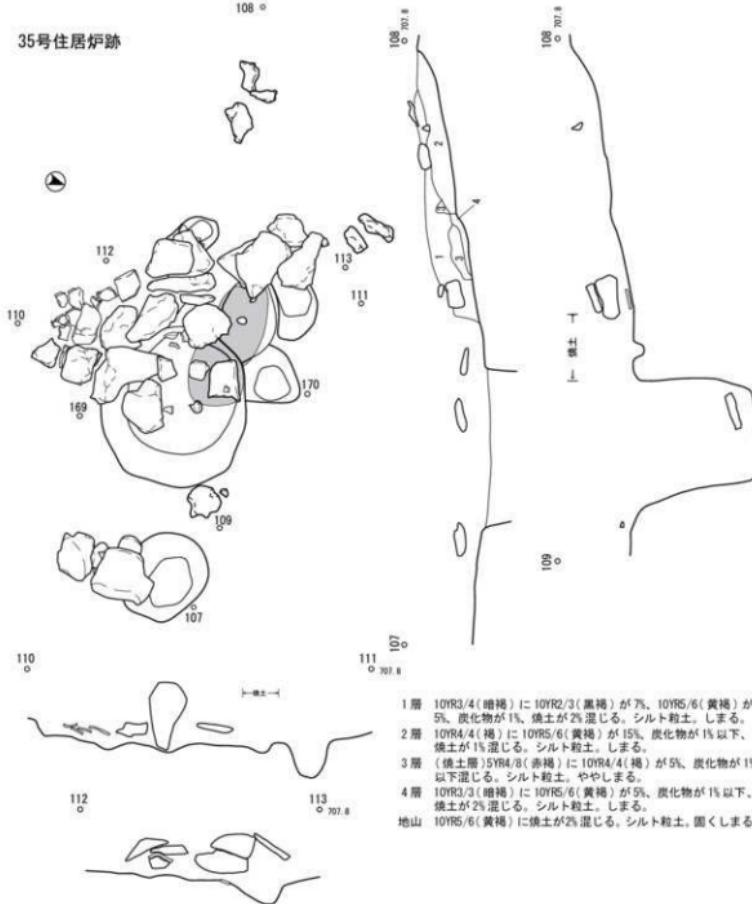


1層 10YR2/3(黒褐色)に10YR4/6(褐)が5%、炭化物1%混じる。シルト粒土。しまる。  
 2層 10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が10%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。  
 3層 10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。  
 4層 (カクラン)10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐色)が30%混じる。シルト粒土。しまる。  
 5層 (カクラン)10YR5/6(黄褐色)に10YR3/4(暗褐色)が30%混じる。シルト粒土。しまる。  
 6層 10YR4/6(褐)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が3%、炭化物が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 地山 10YR3/4(暗褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%混じる。シルト粒土。固くしまる。  
 床面 10YR5/6(黄褐色)。シルト粒土。固くしまる。



第94図 35号住居跡(1/60)

## 35号住居炉跡

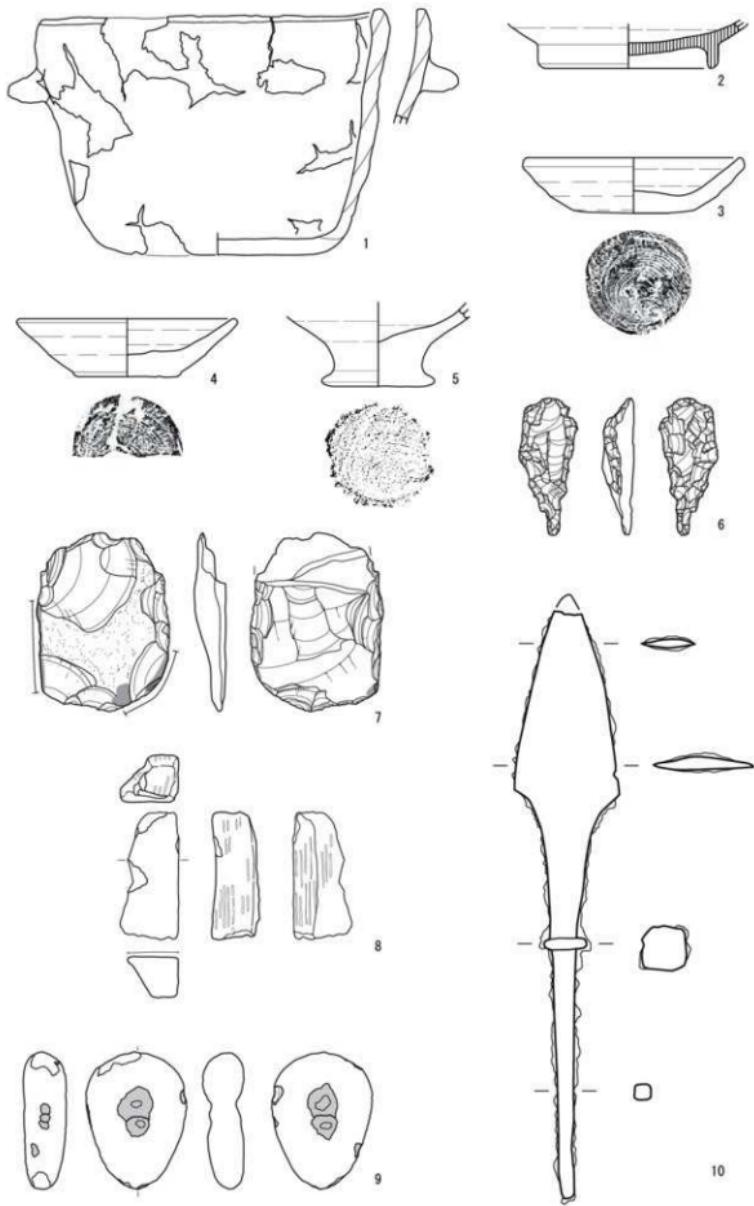


## 419号ピット

169  
°170  
° 707.8

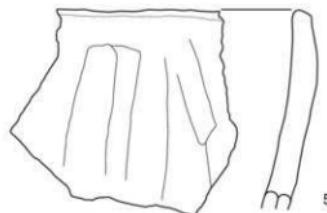
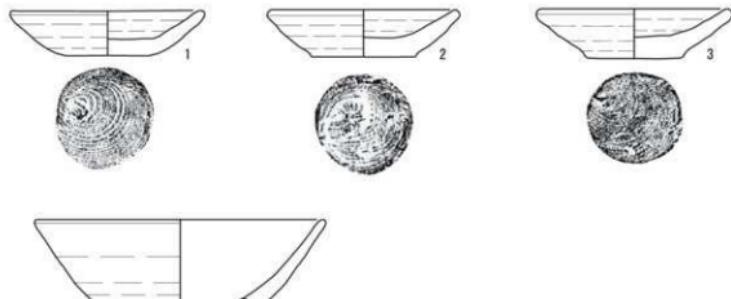
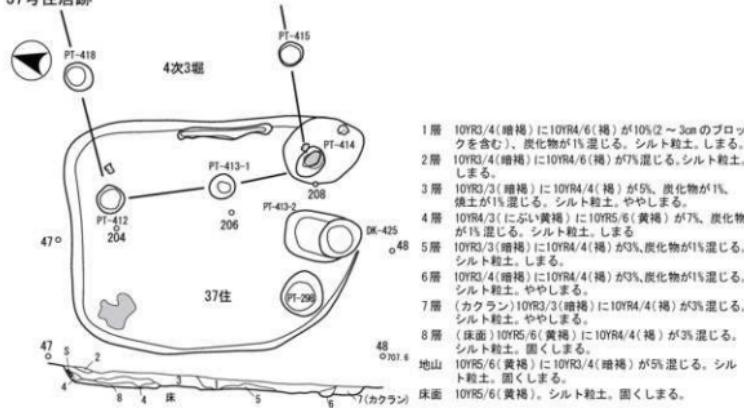
- 1層 10YR2/3(黒褐)に10YR4/5(にぶい黄褐)が1%、炭化物が1%、僕土が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
- 2層 10YR4/4(暗褐)に10YR4/5(にぶい黄褐)が1%、炭化物が1%、僕土が2%混じる。シルト粒土。しまりなし。
- 3層 10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が2%、僕土が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
- 4層 10YR5/6(黄褐)(ブロックを含む)に10YR2/3(黒褐)が5%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 5層 10YR2/1(黒)に10YR5/6(黄褐)が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
- 6層 10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化物1%以下、僕土が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
- 7層 10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が15%(ブロックを含む)混じる。シルト粒土。しまりなし。
- 地山 10YR5/8(黄褐)、シルト粒土。非常に固くしまる。

第95図 35号住居カマド跡(1/20)、419号ピット(1/20)

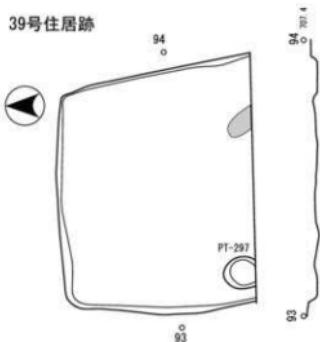


第 96 図 35 号住居出土遺物(1/2、1・8 は 1/4、5・9 は 1/1)

37号住居跡

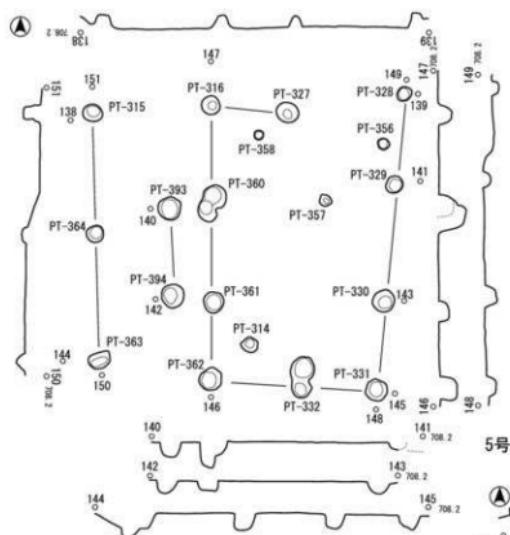


39号住居跡

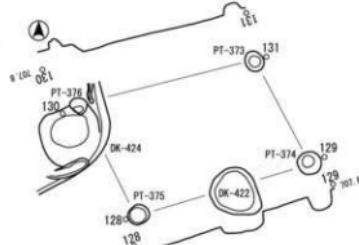


第 97 図 37 号住居跡(1/60)・出土遺物(1/2)、39 号住居跡(1/60)

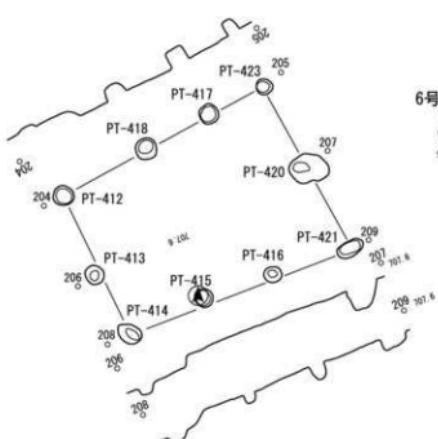
4次調査区1・2号掘建柱建物



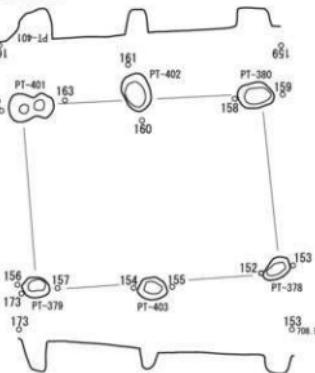
5号掘建柱建物



4次調査区3号掘建柱建物



6号掘建柱建物



第98図 4次調査区1・2、3、5、6号掘建柱建物(1/80)

### 378号ピット

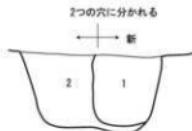
152  
○  
153  
○  
708.5



- (柱底) 10YR2/3(黒褐色)に 10YR5/6(黄褐)が 5%、炭化物が 1%混じる。シルト粘土。しまりなし。
- 10YR5/6(黄褐) 10YR2/3(黒褐色)に 5%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR4/4(褐)。シルト粘土。しまりなし。
- 10YR2/3(黒褐色)に 10YR5/6(黄褐)が 15%、炭化物が 1%以下混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/6(黄褐)。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/6(黄褐)。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/8(黄褐)。シルト粘土。固くしまる。

### 380号ピット

158  
○  
159  
○  
708.5

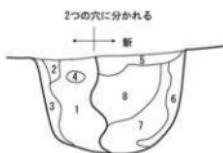


- (柱底) 10YR2/3(黒褐色)に 10YR5/6(黄褐)が 5%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- (柱底) 10YR2/3(暗褐)に 10YR5/6(黄褐)が 15%混じる。シルト粘土。ややしまる。

地山 10YR5/8(黄褐)。シルト粘土。しまる。

### 402号ピット

160  
○  
161  
○  
708.5



- (柱底) 10YR2/3(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が 10%、10YR5/6(黄褐)が 2%、炭化物が 1%混じる。シルト粘土。しまる。
- 10YR4/4(褐)に 10YR5/6(黄褐)が 30%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/6(黄褐)に 10YR4/4(褐)が 30%混じる。シルト粘土。固くしまる。
- 10YR5/8(黄褐)。シルト粘土。しまる。
- 10YR2/3(暗褐)に 10YR5/6(黄褐)が 7%混じる。シルト粘土。しまる。
- 10YR5/6(黄褐)に 10YR3/3(暗褐)が 2%混じる。シルト粘土。しまる。
- 10YR4/4(褐)に 10YR5/6(黄褐)が 15%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- (柱底) 10YR2/3(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が 15%、10YR5/6(黄褐)が 2%混じる。シルト粘土。しまる。

地山 10YR5/8(黄褐)。シルト粘土。固くしまる。

### 379号ピット

156  
○  
157  
○  
708.5



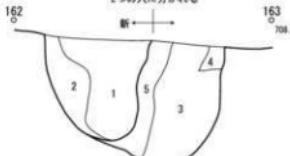
- (柱底) 10YR2/3(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が 15%、10YR5/6(黄褐)が 3%、炭化物が 1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR4/4(褐)。シルト粘土。ややしまる。
- (柱底) 10YR2/3(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が 15%、10YR5/6(黄褐)が 7%、炭化物が 1%以下混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR4/6(褐)に 10YR3/3(暗褐)が 7%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/6(黄褐)。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/6(黄褐)に 10YR5/6(黄褐)が 10%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR3/3(暗褐)に 10YR5/6(黄褐)が 10%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/8(黄褐)。シルト粘土。しまりなし。

### 401号ピット

162  
○  
163  
○  
708.5

2つの穴に分かれる

新



- (柱底) 7.5YR3/2(黒褐色)に 10YR2/3(黒褐色)が 20%、10YR5/6(黄褐)が 5%、炭化物が 1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/4(にぶい黄褐)に 10YR5/6(黄褐)が 3%、10YR2/3(黒褐色)が 9%混じる。シルト粘土。しまる。
- 7.5YR3/2(黒褐色)に 10YR2/3(黒褐色)が 15%、10YR5/6(黄褐)が 3%混じる。シルト粘土。しまる。
- 10YR4/3(にぶい黄褐)に 10YR2/3(黒褐色)が 7%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/4(にぶい黄褐)に 10YR2/3(黒褐色)が 7%混じる。シルト粘土。しまる。

地山 10YR5/6(黄褐)。シルト粘土。しまる。

### 403号ピット

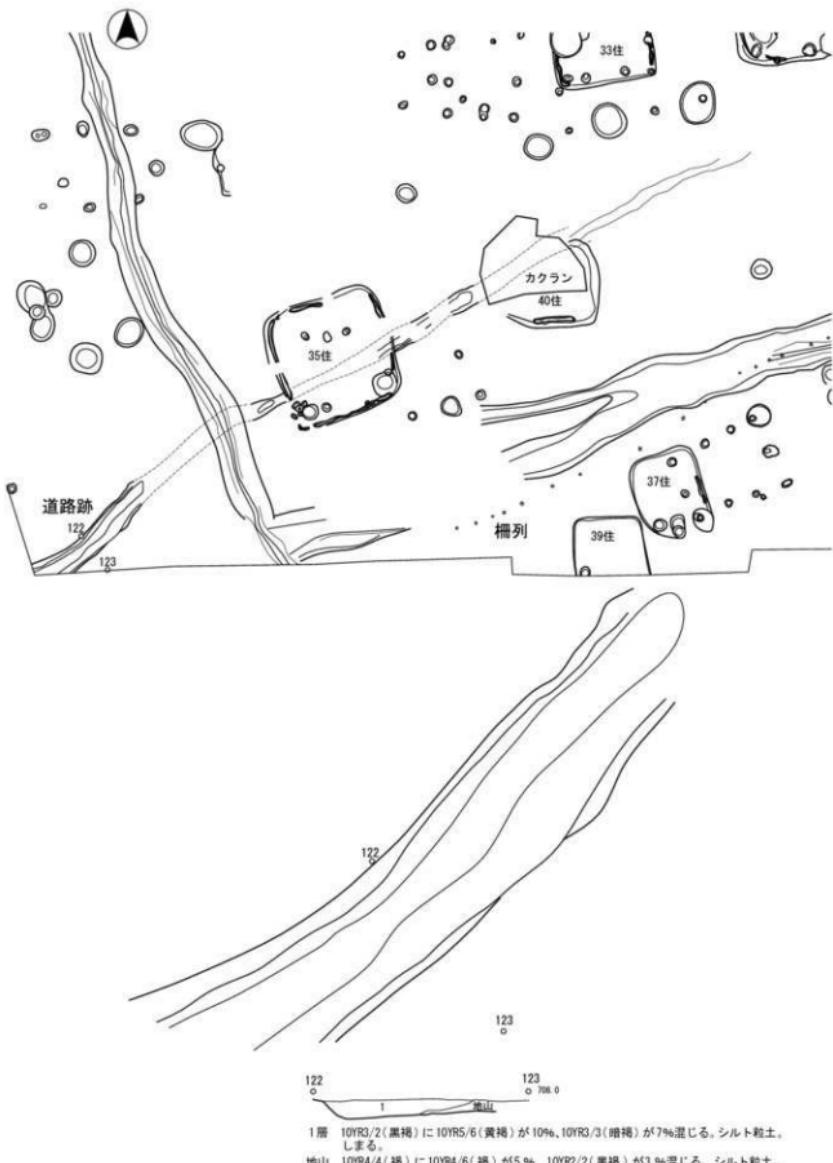
154  
○  
155  
○  
708.5



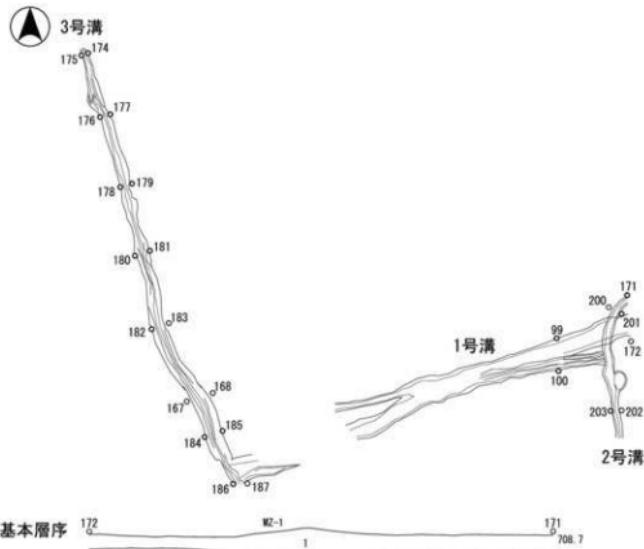
- (柱底) 10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/3(暗褐)が 10%、10YR5/6(黄褐)が 7%、炭化物が 1%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR3/3(暗褐)に 10YR5/6(黄褐)が 10%、炭化物が 1%以下混じる。シルト粘土。しまる。
- 10YR3/3(暗褐)に 10YR2/3(黒褐色)が 5%、10YR5/6(黄褐)が 5%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 10YR5/6(黄褐)。シルト粘土。しまる。
- 10YR5/6(黄褐)に 10YR2/3(黒褐色)が 10%、炭化物が 1%以下混じる。シルト粘土。しまる。
- 10YR5/6(黄褐)。シルト粘土。固くしまる。

地山 10YR5/8(黄褐)。シルト粘土。非常に固くしまる。

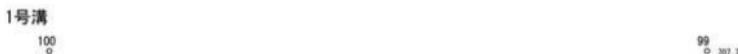
第 99 図 4 次調査区 6 号掘立柱建物跡柱穴(1/20)



第100図 道路跡(1/200、1/40)

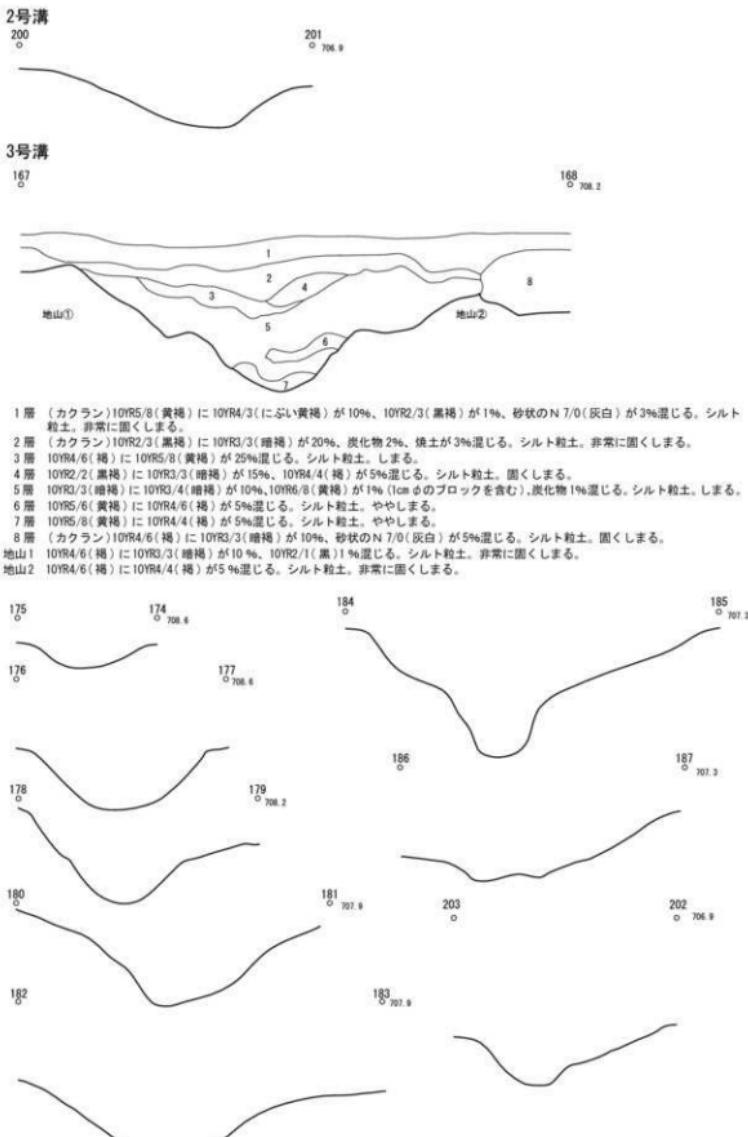


- 1層 (表土) 10YR4/4(緑褐色) に 10YR4/6(褐) が 5%、2mm ~ 5mm の礫が 30% 混じる。しまりなし。  
 2層 (盛土) 10YR4/4(褐) に 10YR5/6(黄褐) が 30% 混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 3層 (盛土) 10YR3/4(緑褐色) に 10YR5/6(黄褐) が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。固くしまる。  
 4層 (煙か田の土) 10YR3/2(黒褐色) に 10YR5/6(黄褐) が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。しまる。  
 5層 (酸化鉄層) 10YR4/3(にぶい黄褐) に 10YR4/6(褐) が 3%、炭化物 1% 混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 6層 (耕土) 10YR3/4(緑褐色) に 10YR5/6(黄褐) が 7%、炭化物 1% 混じる。シルト粘土。しまる。  
 7層 (M-2) 10YR4/4(褐) に 10YR5/6(黄褐) が 15%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 8層 10YR3/2(黒褐色) に 10YR5/6(黄褐) が 2%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。しまる。  
 地山 10YR5/6(黄褐) に 炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。固くしまる。

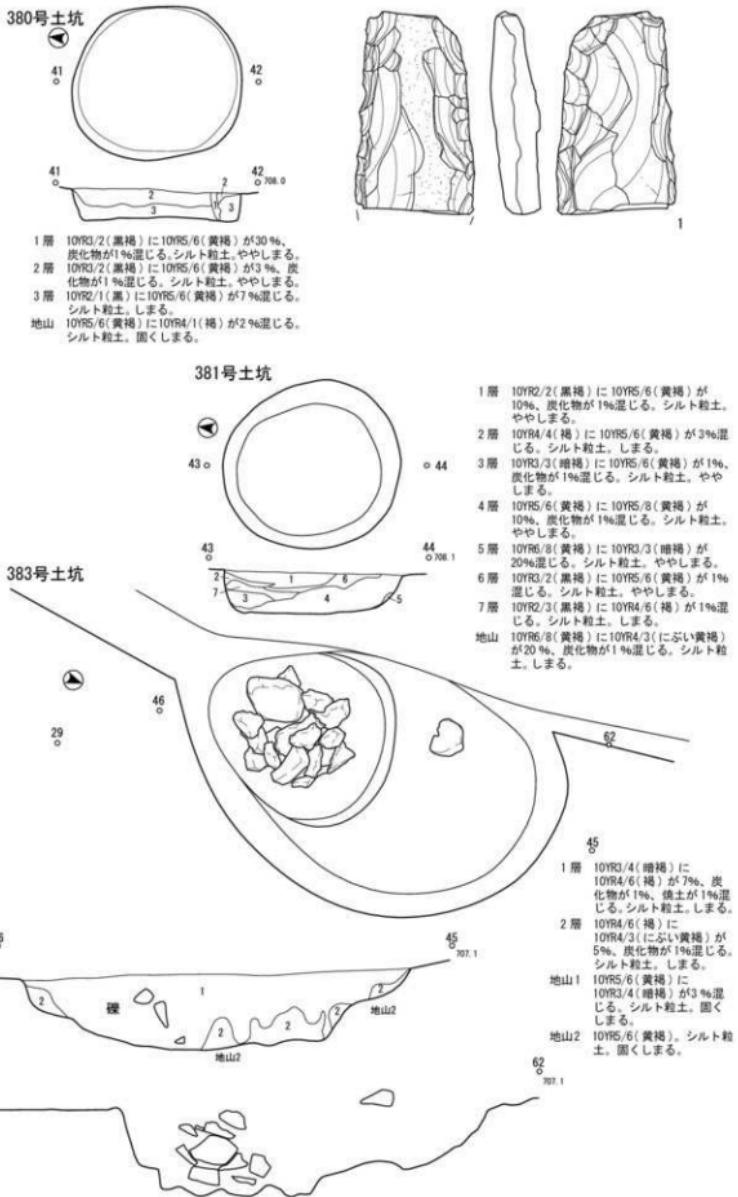


- 1層 10YR4/3(にぶい黄褐) に 10YR0/1(黒褐色) が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 2層 10YR2/3(緑褐色) に 10YR4/4(褐) が 30%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 3層 10YR4/4(褐) に 10YR5/6(黄褐) が 1%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 4層 10YR3/3(緑褐色) に 10YR5/6(黄褐) が 40% 混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 5層 10YR5/6(黄褐) に 10YR3/3(緑褐色) が 20%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。ややしまる。  
 6層 10YR4/6(褐) に 10YR3/4(緑褐色) が 20%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。しまる。  
 地山 10YR6/8(黄褐) に 10YR4/4(緑褐色) が 30%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。しまる。

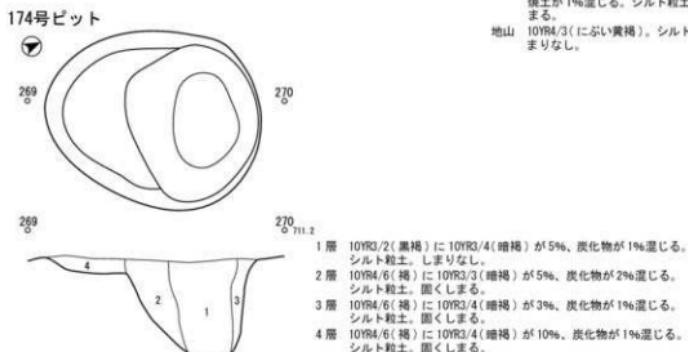
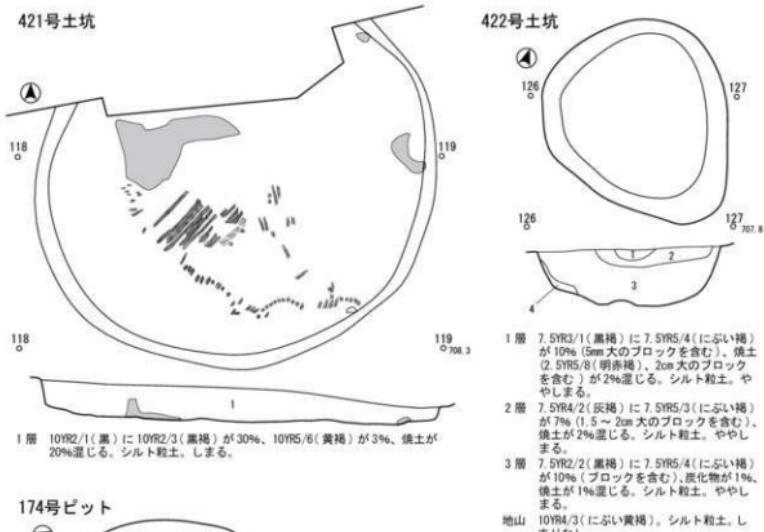
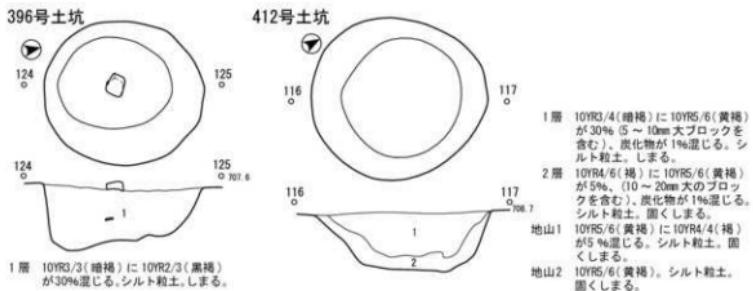
第 101 図 溝跡(1/400)、基本層序(1/40)、1号溝(1/20)



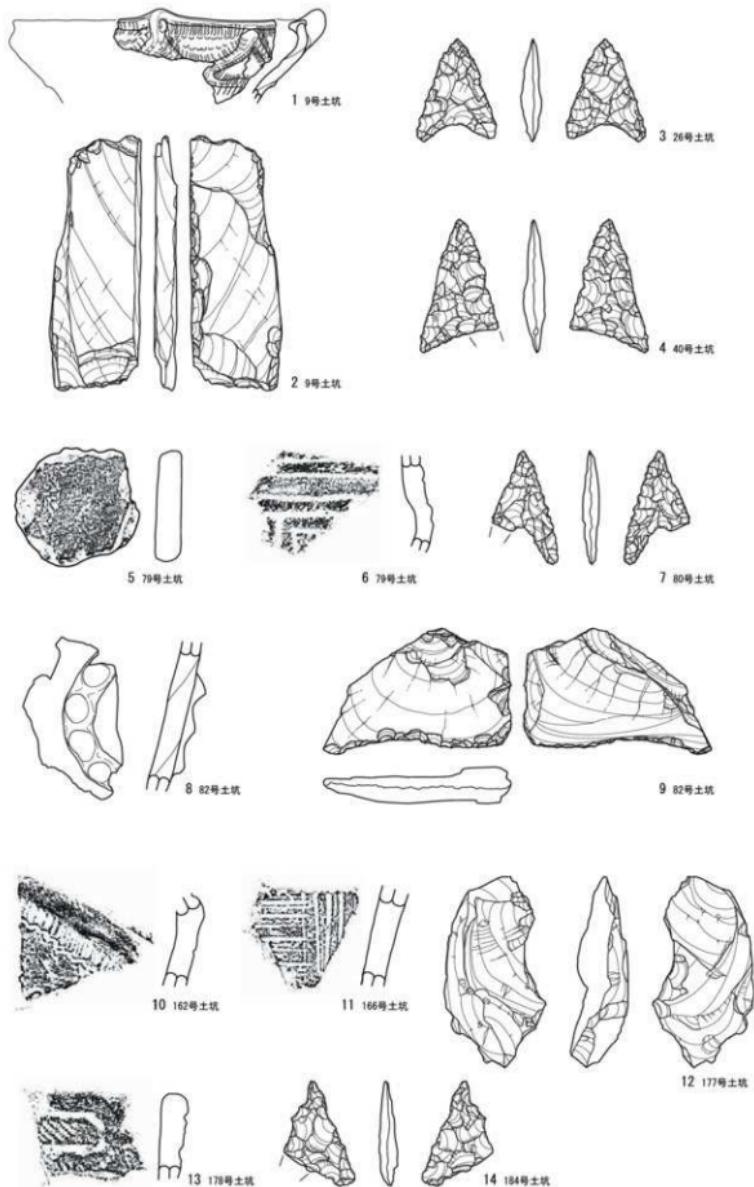
第 102 図 2、3 号溝(1/20)



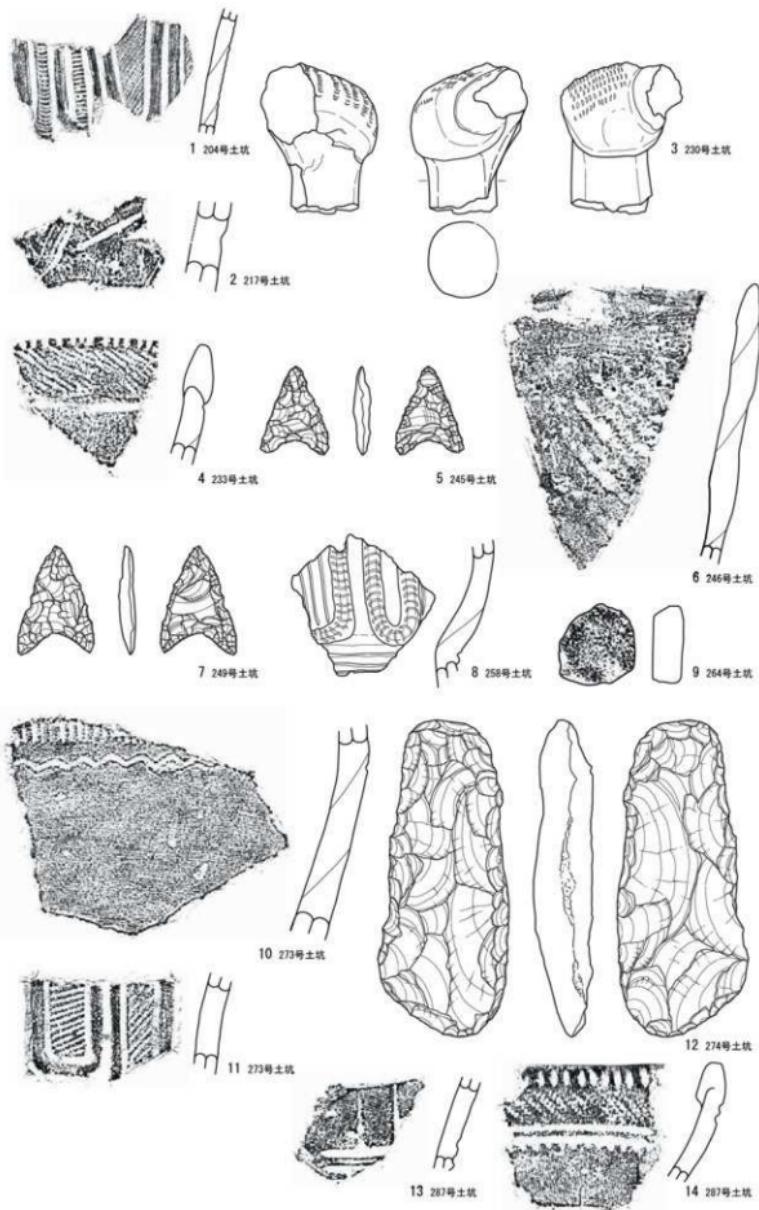
第 103 図 380、381 号土坑(1/40)・出土遺物(1/2)、383 号土坑(1/20)



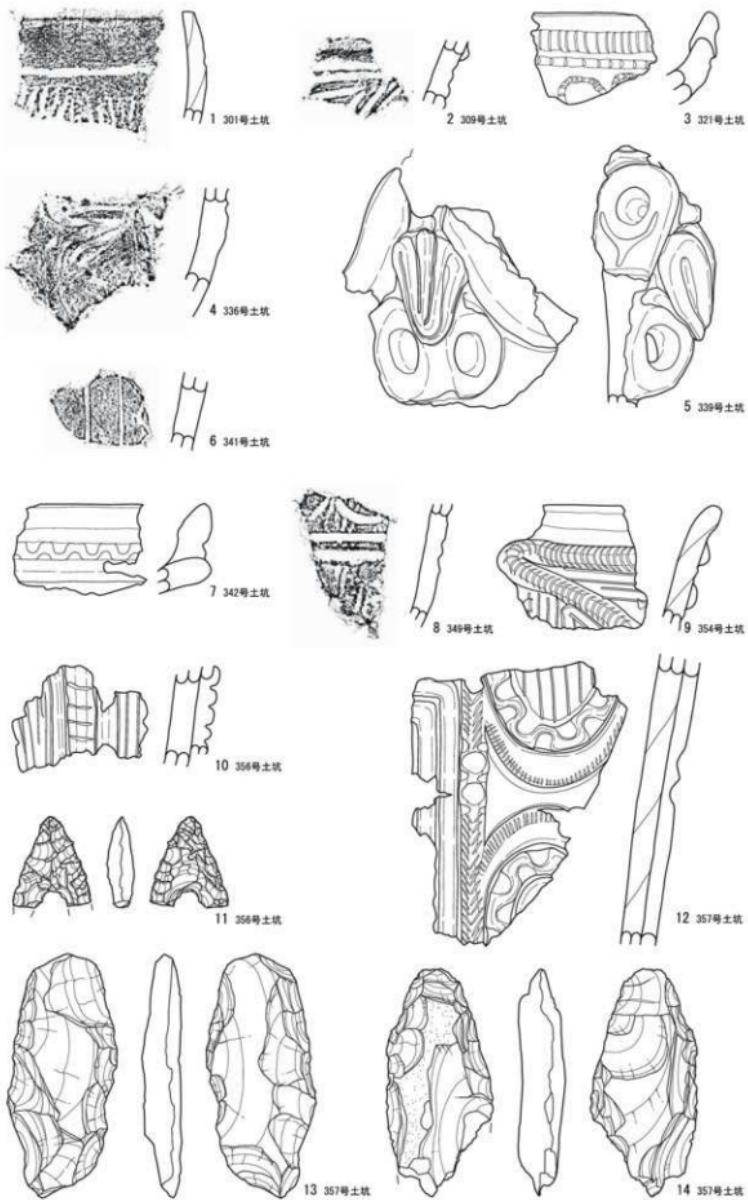
第104図 396、412号土坑(1/40)、421、422号土坑(1/20)、174号ピット(1/20)



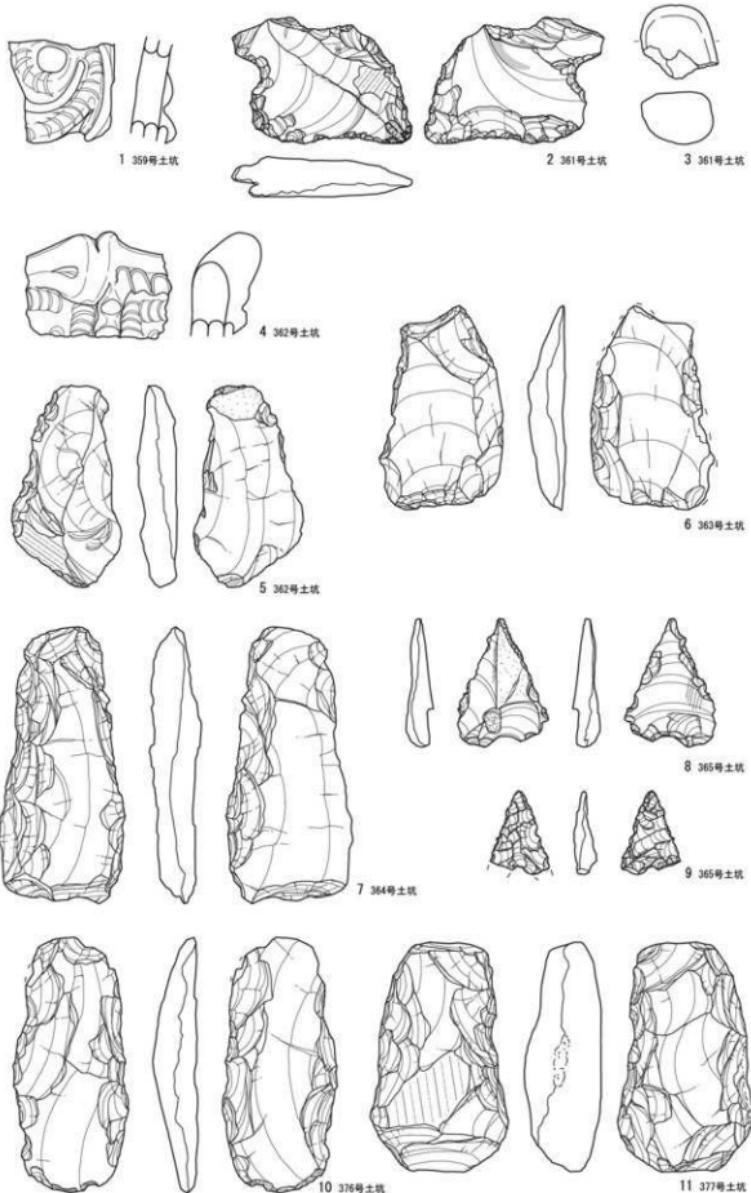
第105図 土坑出土遺物(1/2、3・4・7・12・14は1/1、1は1/4)



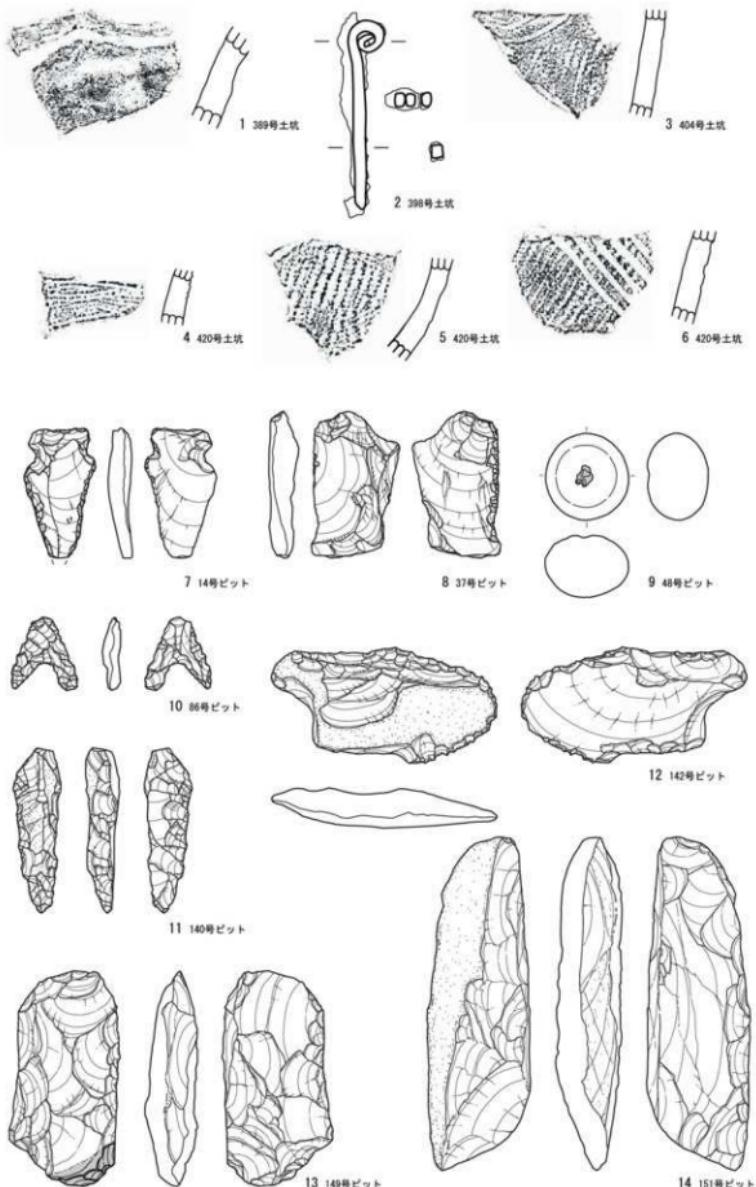
第106図 土坑出土遺物(1/2、5・7は1/1、1は1/4)



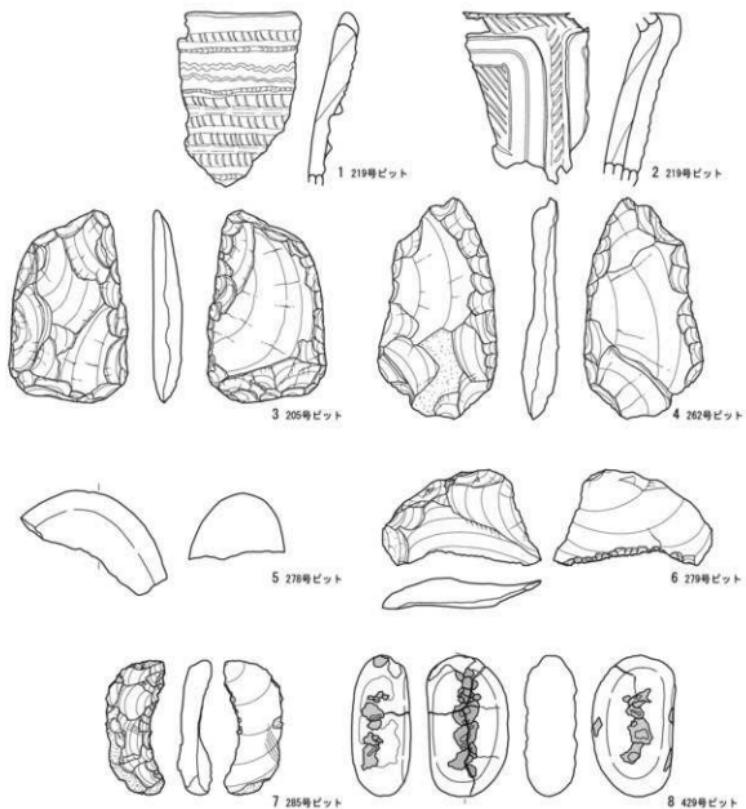
第107図 土坑出土遺物(1/2、11は1/1)



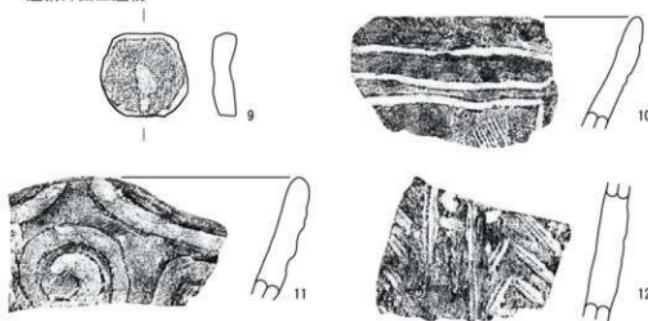
第108図 土坑出土遺物(1/2、8・9は1/1)



第109図 土坑、ピット出土遺物(1/2、3・7・8・10・11は1/1、9は1/4)



遺構外出土遺物



第 110 図 ピット、遺構外出土遺物(1/2、8 は 1/4)

## 第1節 石器の選択と整理の方法

### 石器の選択と整理の方法

遺構内の石器を中心に、二次加工のしっかりとした形態の明瞭な石器を選択した。縄文時代の住居で出土した石器と遺構外出土等から選択した遺物については、全点の属性表を作成した。また、剥離技術については、次のような記述とした。

### 剥離技術の記述方法

はじめに石器の「技術」とは、石を剥ぐ手法であり、「剥離技術」と同じ意味で用いる。そして「剥離技術」とは「工具（ハンマーの種類）とその身振り」と定義できる。

次に「技法」とは「技術」・「素材」・「デザイン」の規則的な関係のことである。言うならば「製作者の文化に埋め込まれている石器製作の規則」のことである。「技法」を記述するためには、「技術」を明らかにすることが必要である。それは石器の剥離面の役割とデザインの規則的関係は技術によって結ばれているからである。技術の記述なしに「技法」の記述はありえない（角張 2003）。

よって、石器を技法で記述するときには、属性として「素材形態」のほかに「素材技術」・「二次加工技術」の記述が必ず必要である。その技術の記述には、ハンマーの種類と身振りの組合せが簡便である。以下にそれを述べる。

ハンマーの種類は、「圧縮力」と「変形の有無」による組合せが妥当と思われ、4種類に整理される。

ハードハンマーとソフトハンマーは、従来はその材質によって理解されてきたが、物理的な属性としてハンマーを考えるときに、対象物に当たった瞬間に変形するか、変形しないかというハンマー物性による理解が適切である。

次の属性は、高い圧縮力を生ずるか、ほとんど圧縮力を生じないかという属性である。

変形の有無や程度は、コーンに表現され、圧縮力の高さはコーンの面積やバレルの面積に対応する。圧縮力のない場合は、主に引張応力によって剥片剥離が生ずるので、ソフトハンマーの場合は、ハンマーを寝かせた状態（石核を立てた状態）で剥離作業が行われない（剥片は剥がれない）。したがって、圧縮力の属性は、ハンマーの振り（もしくは石核の持ち方）に大きな影響を与える（角張 2003）。

さて、2つの属性によって、ハンマーの種類は4種類に分類される。第一は「高い圧縮力」と「変形無」の真正ハードハンマーである。この材質はチャートなどの硬度のある石が該当する。技術論の表記では「H」とする。こうしたハンマーの場合は、石核打面に垂直に打撃しても、コーンタイプの剥離の開始部をもつ剥片は容易に剥がれる。また非常に強い垂直打撃を与えると、剥離の開始部は楔タイプとなる。剥離の開始部の状態で打撃の様相が理解できよう。

次に「低い圧縮力」と「変形有」の真正のソフトハンマーがある。材質は木などで、それは「S」と表記する。このハンマーの場合、ハンマーを相当に寝かせて振り抜かないと剥片は剥がれない。主に引張応力で剥片は剥がれるので剥離の開始部は曲げタイプである。

「高い圧縮力」をもちろん、「変形有」のハンマーは、ソフトハンマーでありながらハードハンマーに極めて近い剥離面を産み出すハンマーもある。材質は鹿角などで、表記は「S'」とする。しばしば黒曜石に対しては、鹿角ハンマーリでしか剥離面が形成できないハンマーで、その材質は柔らかい石などである。このハンマーは引張応力で剥片を剥がすが、その剥離の開始部に明瞭なコーンが形成されるのが特徴である。ベルグラン教授はソフトハンマーとして認識しているが、物理的にはハードハンマーの範疇である。表記は「H'」としよう。

ハンマーの身振りは、直接打撃（D）、間接打撃（I）、押圧剥離（P）とする。これらをハンマーと組合せてハンマー技術を表記すると、HD、S' Pなどのように技術を記述できるのである。（角張 2007）

## 第2節 各時期の石器の特徴

### 1 縄文時代前期の石器

#### 1号住居

##### 実測図のある石器

打製石斧・石鎌・石匙・削器の構成である。打製石斧は通常のハードハンマーの加工であり、垂直打撃ではない。削器はチャートで製作され、裏面側に平坦な剥離で形態形成加工をなし、反対側邊に刃部を形成する。第9図4の削器の刃部は径の小さなハードハンマー直接打撃で鋸歯線を作り出し、9図5の削器は径の小さなソフトハンマーの押圧剥離で刃部を形成している。石匙は燧灰岩製の縦形石匙で、急角度の押圧剥離で背部を形成し、反対側邊に刃部が形成され、それは径の小さなソフトハンマーの押圧剥離が部分的に施されている。石鎌は、チャートの未製品はやや大形だが、黒曜石製は非常に小さい。形態としては脚部が小さいことが特徴である。それらの押圧剥離はいずれも幅広の貝殻状の不整押圧剥離で、おそらく手のひらの中で工具を押し当てられた押圧剥離である。後述する3号住居の石鎌11図7の押圧剥離とは異なる。時期的には前期の中頃に相当すると思われる。

##### 実測図のない石器

黒曜石の剥片・残核・チップが35点出土している。剥片は大きなもので2.5センチ程度である。残核は1点で、長さ3センチの剥片の背面に作業面をもち、素材剥片の側邊から間接打撃で剥離を行っている。小形の石鎌の素材剥片の剥離であろう。

#### 3号住居

##### 実測図のある石器

石鎌・削器・石匙の構成である。石鎌は端正な細長い押圧剥離の加工(11図7)や貝殻状でも規則的な押圧剥離(11図8・9)の加工がみられる。後者は1号住居・2号住居の押圧剥離と同じである。石鎌未製品(11図11)は、間接打撃で石鎌ブランクを形成している。削器(11図12)は横長剥片素材の打面裏面部に平坦剥離で形態を形成する。間接打撃の可能性があるが、判然とはしない。石匙は横形石匙(11図13)と縦形石匙(11図14)があり、横形石匙の刃部は搔器状である。縦形石匙は小形であり、実際に使用可能であるのか疑わしい。デフォルメされた松原型のミニチュア石匙の可能性もあるだろう。

この住居の加工の特徴は、押圧剥離に端正な細長い加工、そして裏面の間接打撃、ミニチュア縦形石匙である。これらはいずれも異系統土器文化(おそらく関山式)とのつながりを連想させるものである。

##### 実測図のない石器

黒曜石の剥片類が57点(125グラム)出土している。この中には長さ2.5センチ程度の剥片を素材にした間接打撃の石核が3点含まれている。作業面の剥離幅は5ミリ程度なので、細石刀よりも一回り大きなサイズである。剥片は打面を残すものが3点ほどあり、長さが2センチ強で、剥離角は90度から100度である。打面幅が小さく、間接打撃の可能性がある。

#### 5号住居

##### 実測図のある石器

多くの石器が残されている住居である。住居を拡張しているので、繰り返しの居住が行われた住居であろう。ここに残されている石器の多くに、使用痕光沢及び線状痕がみられた。また、チャートの石鎌は黒曜石とは形態が異なり、黒曜石で箇みのある両面加工の異形石器、松原型石匙の変形した黒曜石製の縦形石匙もみられる。この住居には、異系統石器を多く含む可能性があり、広域な地域を結ぶネットワークがあることを石器から読み取れる。

## **実測図のない石器**

黒曜石の剥片類が 172 点 (508 グラム) 出土している。それらの剥片類はハードハンマーの直接打撃で生産されているが、「剥がされる」というより、むしろ「石核が壊されている」という様相に近い。これは、ハンマーの硬度と打撃のエネルギーに石核が耐えられない様相をしめしており、黒曜石の扱いに不慣れな結果とも思われる。

## **10号住居**

### **実測図のある石器**

3 点の石器が出土している。凹基鑿と有茎鑿、及び多面体の石核である。有茎鑿は弥生時代の石器であるが、覆土中に混入したものであろう。

## **12号住居**

### **実測図のある石器**

石鑿、石錐などの小形の石器と、石匙、削器の中形の石器がある。また石核も多い。石匙は縦形の両面加工と横形の周縁加工であるが、これらが共存していることが重要で、おそらく縦形両面加工の石匙が異系統石器であろう。この石匙に使用痕・線状痕はみられない。一方、横形石匙には線状痕がみられる。

### **実測図のない石器**

チャートの剥片、チャートの楔形石器、黒曜石の剥片・碎片類である。黒曜石は 341 グラム 142 点である。長さは 2 センチ前後もしくはそれ以下であるので、碎片ともいえる。いずれも剥片剥離のときに飛び散ったと推定され、二次加工の剥片などは明らかではない。

## **16号住居**

### **実測図のある石器**

垂直打撃の剥片に部分的に押圧剥離の付く石器。押圧剥離は不整。この住居は、この石器のみの出土である。

## **23号住居**

### **実測図のある石器**

完形の石鑿 1 点と打製石斧 1 点を実測した。石鑿は五角形鑿に近い形態で、押圧剥離がやや不整でありながら細長い。これは五角形鑿の貝殻状剥離の押圧剥離ではない。

打製石斧は背面に自然面を大きく残しており、刃部にやや摩耗がみられる。刃部も垂直打撃で加工されている。

### **実測図のない石器**

ホルンフェルスの剥片 1 点と、黒曜石の石核・剥片・碎片類である。いずれも小形で、剥離技術は垂直打撃を基調とする。

## **17号住居（十三菩提期）**

### **実測図のある石器**

石鑿 1 点、水晶の原石 1 点、打製石斧 1 点である。石鑿は完形品で貝殻状の押圧剥離。水晶は結晶体である。打製石斧は砂岩で、裏面に大きな刃部欠損面がみられるが、これは衝撃による折れとみられる。

### **実測図のない石器**

黒曜石の剥片・碎片が 4 点出土しているのみである。

## 2 縄文時代中期の石器

### 20号住居（五領ヶ台期）

#### 実測図のある石器

石鎚2点、打製石斧3点である。石鎚は五角形石鎚に近い形態と、細長い形態の2種類あり、前者の押圧剥離形態が貝殻状、後者が規則正しい四角形である。後者は側縁が小さな鋸歯縁になっているが、これは小さな径の工具の径の影響であろう。

打製石斧3点は、いずれも側縁加工である。硬砂岩の側辺加工は垂直打撃、残りの2点が通常の剥離となっている。刃部の損傷は大きなホルンフェルスのものが衝撃剥離で欠損している。硬砂岩は刃部に垂直打撃の加工痕と若干の摩耗があり、小さなホルンフェルスの石斧は加工をそのまま残している。

#### 実測図のない石器

打製石斧の断片、打製石斧の製作剥片、砂岩の剥片、黒曜石の碎片12点18グラム、黒曜石の剥片と小形の石核である。

### 26号住居（五領ヶ台期）

#### 実測図のある石器

石鎚、石匙、石錐、削器、打製石斧の器種構成である。石鎚は数種類の形態があり、この住居で製作された可能性がある。横形石匙は摘み部分を間接打撃で加工し、やや急角度の押圧剥離で刃部を形成している。石錐の素材は、やや厚い剥片であるが、楔形石器の可能性も否定できない。素材折れ面に加工のある手前が刃部である。打製石斧はやや大形が2点、中形が1点で、折れているものがある。削器は素刃のものと押圧剥離が刃部の2種類が残されている。他に小形の頁岩の棒状縫があり、間接打撃の工具とも思われる。この住居の石器群様相は前期に近い。

#### 実測図のない石器

ほとんどが、剥片・碎片、打製石斧の製作剥片である。図化しなかった石器に、削器が1点ある。素材は不整平坦打面で、石核底面が末端辺に残るS' D剥片。打面脇の鋭い辺に反S' Pで刃部を形成している。剥片類の剥離技術は直接打撃であるが、垂直打撃と通常の打撃の2種類がみられる。垂直打撃はハードハンマー(H)、通常の打撃は圧縮力のあるソフトハンマー(S')の傾向がみられる。通常の打撃の剥片類は、やや厚い削器類などの素材剥片であるが、垂直打撃の剥片類は薄く剥げるため、小さい剥片は主に石鎚の素材剥片を、やや大きな剥片類は使用痕剥片などにも利用されるようである。

打製石斧の断片などが残されているため、この住居の石器は住居内に廃棄されたものと理解したほうが自然であろう。

### 27号住居（五領ヶ台～貉沢期）

#### 実測図のある石器

床下から出土した石鎚を図化した。貝殻状の押圧剥離で丁寧に作られている。完形品。実測図のない石器

すべて覆土一括の資料である。黒曜石の石鎚未製品、楔形石器、碎片とホルンフェルスや頁岩の剥片などが出土している。

### 6号住居（藤内期）

#### 実測図のない石器

黒曜石の楔形石器断片1点、剥片類・チップが5点（計8グラム）出土している。剥片は垂直打撃である。全て実測図なし。

## 14号住居（藤内期）

### 実測図のある石器

石鏨は6点出土しており、そのうち5点を図化した。いずれの石鏨の押圧剥離も貝殻状の押圧剥離であり、技術的には同じである。石鏨未製品は1点図化した。この未製品は素材の加工がうまくいかないために放棄されたものであるが、周辺加工と脚部の抉りを最初に作る点で、加工作業の経過がよくわかる資料である。石鏨はチャート製が1点出土。基部は折れているが、さらに折れをきって押圧剥離がなされているので、繰り返し使われたのかかもしれない。削器類は、やや大形のホルンフェルス製の鋸齒縫削器が1点、使用痕剥片が2点、形態の明瞭でない縫形石匙が2点、形態の整った横形石匙が1点出土している。

この住居で特徴的なことは打製石斧が大量に出土していることである。完形品はほとんどなく、断片もある。大きさも多様である。製作技術は側辺加工に垂直打撃を基調すること、刃部は直接打撃で加工されるものが多いことなどである。

### 実測図のない石器

実測図のない石器のほとんどが、打製石斧とその関連石材の剥片類である。剥片よりも打製石斧の数量が多いので、主に打製石斧の破損品が出土しているといえる。その他に、黒曜石が590グラム出土している。

## 25号住居（井戸尻期）

### 実測図のある石器

石鏨は6点図化のうち、5点に素材面が残されている。押圧剥離は鱗片状に重なる押圧剥離で、手のひらのなかで何度も繰り返して押圧剥離を行ったことがわかる。石匙は4点出土しており、すべて横形石匙である。砂岩やホルンフェルスなどの粗質の石材の石匙のほかに、チャート・頁岩などの劈開性をもつ石材もつかわれている。チャートの石匙には使用痕光沢がみられた。打製石斧は2点と少ない。大形と小形がある。その他は楔形石器で、黒曜石の小形の楔形石器と、磨製石斧を壊した剥片が楔形石器となっているものがある。

### 実測のない石器

打製石斧、二次加工剥片、剥片、碎片など、器種組成に偏り無く出土している。打製石斧が最も多いのは井戸尻期の特徴ともいえる。

## 7号住居（藤内期）

### 実測図のある石器

黒曜石の原石1点と素刃削器である。原石は試し打ちがある。素刃削器は左側辺にHPの加工、右側辺裏面にMFがみられる。

### 実測のない石器

黒曜石の剥片25点(58グラム)。この中に楔形石器の断片1点がある。

## 8号住居（藤内期か）

### 実測図のある石器

赤チャートの剥片(稀少石材)を図化した。打面は点状の小打面。

### 実測図のない石器

黒曜石の剥片類19点(26グラム)がある。間接打撃の剥片(16.3ミリ、打面厚4ミリ、剥離角100度)と垂直打撃の剥片3点が含まれる。

### 9号住居（猪沢期）

#### 実測図のない石器

剥片が3点9グラム出土しているのみである。

### 18号住居（五領ヶ台～藤内期）

#### 実測図のない石器

チャートの剥片と黒曜石の剥片・碎片が少量出土しているのみである。

### 19号住居（中期）

#### 実測図のない石器

黒曜石の楔形石器の断片が1点出土しているのみである。

### 21号住居（藤内期）

#### 実測図のある石器

遺物量の多い住居址で8点の図化を行った。石鎌は5点出土で、すべて完形品である。凝灰岩製の石鎌が含まれている点は興味深い。残りは黒曜石である。

打製石斧は完形品で刃部が潰れたもの、刃部が折れてしまったもの、未製品というように、ライフヒストリーが多様な打製石斧が集まつた。

#### 実測図のない石器

打製石斧関連の石器が多い。打製石斧の製作剥片、もしくは再生剥片、刃部断片などがある。その他にはホルンフェルスの削器、黒曜石の剥片・碎片などである。

### 41号住居（曾利V期）

#### 実測図のある石器

ホルンフェルスの石核を図化した。礫器もしくは打製石斧の未製品かとも思われるが、素材が背面に自然面を残す剥片であること、その自然面から打撃が行われ、素材の主要剥離面側に剥片が剥がされていることなどから石核とした。

#### 実測図のない石器

ホルンフェルスや安山岩の剥片及び黒曜石の楔形石器1点と剥片類である。

## 3 土坑・ピット出土の石器

土坑・ピットの石器は多様で、黒曜石の剥片・碎片や、打製石斧の断片、打製石斧の剥片などがある。このうち、形態が明瞭な石器を選択し、またそれらの石器以外に複多な剥片類を含まない土坑・ピットを選択して図化を行つた。

#### 実測図のある石器

9号土坑：凝灰岩の楔形石器。打製石斧のブランクともみられるが、凝灰岩製の打製石斧はこの遺跡では出土していない。

404号土坑：完形の石鎌。黒曜石。

40号土坑：脚部が部分的に折れている石鎌。黒曜石。

82号土坑：横長剥片の打面部をおりとて成形し、素材の末端辺に押立て剥離で刃部を形成している削器。

177号土坑：剥片素材の残核。黒曜石。

184号土坑：脚部が部分的に欠損している石鎌。黒曜石。

- 245号土坑：完形の石鎌。黒曜石。
- 249号土坑：完形の石鎌。
- 274号土坑：硬砂岩の完形打製石斧。刃部は潰している。
- 339号土坑：ホルンフェルスの打製石斧基部と周縁加工の打製石斧。
- 341号土坑：硬砂岩の打製石斧。刃部欠損。
- 345号土坑：ホルンフェルスの打製石斧。刃部欠損。
- 357号土坑：ホルンフェルスの打製石斧2点。ともに刃部が大きく欠損している。
- 368号土坑：ホルンフェルス。基部欠損の打製石斧。
- 26号土坑：完形の石鎌。
- 361号土坑：チャートの横形石匙。HDで摘み部を形成、側縁もHD。刃部はHD/平坦で薄くし、そこにMFが付いている。
- 362号土坑：二次加工は正面左側辺の細かい剥離とその付く大きな剥離面。この剥離面はボジ面なので、器体を打撃した際に剥がれたものと思われる。
- 364号土坑：ホルンフェルスの打製石斧。刃部は複数の階段状剥離で、MFであろう。
- 365号土坑：周縁加工の石鎌。おそらくこれで完成品であろう。土坑に埋納された模造石鎌であろうか。小さな石鎌も出土している。こちらは両脚欠損。ともに黒曜石。
- 377号土坑：分厚い打製石斧で本来の刃部は欠損しているが、裏面側から再加工がなされており、刃部を再生する可能性もあったことを示す。ホルンフェルス製。
- 380号土坑：頁岩製の打製石斧。刃部欠損。
- 389号土坑：硬質頁岩製の削器。垂直打撃で不規則に割れた剥片を素材にして、裏面に押圧剥離で刃部を形成している。
- 14号ピット：硬質頁岩製の縱形石匙。両側辺に押圧剥離で加工がみられるが、刃部は左側辺で、使用痕沢がみられる。右側辺は成形加工であろう。
- 37号ピット：硬質頁岩製の削器。垂直打撃に近い打撃による縱長剥片素材。裏面右側辺に押圧剥離で刃部を形成している。
- 86号ピット：黒曜石の石鎌。押圧剥離は貝殻状。
- 140号ピット：黒曜石の石鎌。両極剥片が素材。右側辺と刃部背面裏面に押圧剥離で加工がなされている。
- 142号ピット：横形石匙。頁岩製。摘み部から背部にかけては直接打撃で成形。刃部は素材末端辺にHP/鋸歯で加工。
- 149号ピット：硬砂岩製の打製石斧。刃部は潰している。
- 151号ピット：大形打製石斧。刃部は折れているが、石斧ブランクの可能性もある。
- 205号ピット：ホルンフェルスの打製石斧。剥離面の風化が進んでいる。
- 262号ピット：ホルンフェルスの打製石斧。剥離面の風化が進んでいる。
- 279号ピット：珪質頁岩製の削器。HDで剥離された横長剥片の末端辺に押圧剥離で刃部を形成している。
- 285号ピット：垂直打撃の剥片を素材にして、右側辺に押圧剥離で刃部を形成している。黒曜石。

#### 4 その他の時期の遺構出土の石器

縄文時代以外の遺構については、石器形態の明瞭なものを選択した。

#### 2号住居

打製石斧と石鎌未製品の構成である。両者とも、ほぼ1号住居と同じ石材・加工技術・形態の石器である。

#### 4号住居の石器

打製石斧3点、石鎌1点、石核・残核2点、垂飾1点を図化した。図化しない石器には床下から黒曜石の剥片

1点や黒曜石50点53グラムなどが出土している。9号住居を切っているのが4号住居であるので、これらは9号住居の石器の可能性がある。なお、9号住居では図化した石器類はない。

### 11号住居

石鏃1点を図化した。その他は黒曜石の剥片・碎片類が57点70グラム出土しているのみである。

### 13号住居

石鏃1点と打製石斧2点を図化した。この他の遺物は出土していない。

### 24号住居

26住と27住を切る住居なので、26、27住居の石器とみなしてもよいだろう。石鏃3点、石錐2点、横形石匙1点、打製石斧2点、削器1点、剥片1点を図化した。

## 5 平安時代の竪穴住居と方形周溝墓出土の石器

平安時代の竪穴(PH-35)からは黒曜石の石錐と土づれ痕の顕著な打製石斧が出土している。方形周溝墓(HB-1)は、黒曜石の石鏃と石錐、チャートの削器と剥片を図化した。

### 6 遺構外の石器

遺構外の石器は石鏃5点、縦形石匙(黒曜石)1点、チャートの残核1点、打製石斧6点が出土している。

### 第3節 石器の同時性及び廃棄の問題

住居の石器の数量をみると、多くの石器が出土している住居と極めて少量の石器のみ残されている住居がある。これは廃棄行為を視野にいれると、2つの仮説がたてられる。ひとつは、多くの石器は廃棄行為の結果であり、少量の石器は廃棄の行為の結果である仮説。もうひとつは逆の仮説である。

ところで、前期の住居址の中に有茎鐵を含む住居址(10号住居址)があるが、これは明らかに有茎鐵の混入であるので、この点においては少量の石器が廃棄もしくは、住居を意図的に埋めた際に混在したものと推定される。有茎鐵があるのだから、住居の埋め戻し行為は有茎鐵よりも新しくなるだろう。

さて、中期初頭から中葉段階の住居である6、7、8、9、17、21の遺物は極めて少量で、かつ石器断片である。このことは先の10号住居址と同じ様相であるかもしれない。

そして興味深いことに、7、8、21号住居を切るように多数の土坑がほりこまれている。

これらの住居から遺物が少なく、土坑が掘りこまれる状況は、7、8、21号住居がすでに廃絶された古い村で、そこが新たに土坑墓群が構築されたとみなせるかもしれない。

また、6号住居と9号住居は土坑からはずれるように東南ラインで一致している。これは、新しい環状のムラが外側に築かれている際の住居の可能性もある。

一方で14号住居などは、大量の石器類が残されている。打製石斧の断片、剥片類・碎片類などの部分的な残存などであるが、この14号住居がここにのこされた本来の環状集落の一部なのであろうか。時期が藤内式にはほぼ限定できることも意味がありそうである。

こうした点から、遺物の残される住居と残されない住居の2種類には時期差があることがわかる。西ノ原B遺跡は、最初に洛沢式から新道式にかけての住居が構築され、それが土坑墓群の場に転換され、さらに土坑墓群と共に環状集落が藤内式に形成されたと考えられる。

つまり、使用された後に、再び同じ土地に戻って集落を形成する際には住居内に遺物は残されること、完全

に集落を廃絶する際には住居址に遺物を廃棄することという仮説がたてられないだろうか。また前期の 10 号住居址のように、少量の石器の残される住居は廃棄されたままであったので、かなり新しい時期に埋め戻されその際に別の時期の遺物が混入すること、という理解が得られよう。

こうした点から、住居の時期と遺物の時期については厳密な同時性は得られないものの、多量の廃棄住居については、出土土器との整合性はあるとみられるので、土器の時期にほぼ同時の石器とみなしてもよいであろうと思われる。この点からみると、前期中越期（5 号住居）、中期五頭ヶ台期（26、27、PK24 号住居）藤内期（14 号住居）の石器が、ここでは明らかになったと思われる。土坑の石器については、ほぼ藤内期として考えたい。

#### 第 4 節 黒曜石の原産地分析について

本遺跡においては、望月明彦氏（前沼津工業高等専門学校教授）によって原産地の分析が行われた。その結果は属性表と別稿に記載してあるが、ここでは若干の考古学的な所見を述べてみたい。

縄文時代の分析点数が 71 点とある程度まとまった点数なので、ここに  $\chi^2$  二乗検定をかけて統計分析を試みた。

縄文時代中期を、洛沢、洛沢～藤内、井戸尻の 3 期にわけ、前期とともに検定をかけると有意ではなかった。

次にこの結果をみながら、前期と中期という 2 期で統計検定をかけると有意という結果がでた。この結果は、中期が諫訪星ヶ台に片寄り、前期が若干和田鷹山群に片寄っているものの、和田群の多くの露頭の結果で有意が導かれていると思われる。

これらから、黒曜石を供給する集団が、中期にはいると諫訪星ヶ台の開発をすすませ、優先的に特定の露頭の黒曜石を供給したという仮説がたてられる。

#### 引用・参考文献

- 角張淳一 2000 「統石器研究の感想」『東京考古』18 東京考古談話会  
角張淳一 2000 「上ノ台遺跡の剥片石器群について」『上ノ台遺跡』いわき市教育委員会  
角張淳一 2002 「石器研究の展望」『利根川』23 利根川同人  
角張淳一 2003 「剥片剥離技術の検討及び石器実測図の評価」『平成 14 年度愛知県埋蔵文化財センター 年報』  
愛知県埋蔵文化財センター  
角張淳一 2007 「石器の製作」『考古学ハンドブック 小林達雄編』新書館  
角張淳一 2007 「先土器時代石器技法論」『渡辺誠先生古稀記念論文集』『渡辺先生古稀記念論文集刊行会  
小林達雄 1976 「型式論」『日本の旧石器文化』1 雄山閣  
大工原豊 1996 「石器」『考古学雑誌』第 82 卷第 2 号 日本考古学会  
大工原豊 2003 「模倣と模倣—硬質頁岩製石匙・石槍の流通と型式変容」『縄文時代』第 14 号 縄文時代文化研究会  
大工原豊 2008 「縄文石器研究序論」六・一書房  
竹岡俊樹 1984 「石器研究法」 言叢社  
竹岡俊樹 2002 「図説日本列島旧石器時代史」勉誠出版  
竹岡俊樹 2003 「石器の見方」勉誠出版  
竹岡俊樹 2004 「旧石器時代の型式学」学生社  
中島庄一 1980 「使用痕」『縄文文化の研究石器』10 雄山閣  
山中一郎 2009 「考古学における方法の問題」『郵政考古紀要』35 (通巻 44) 大阪・郵政考古学会

## 第6章 出土黒曜石の産地推定

沼津工業高等専門学校 望月明彦

向原遺跡出土の黒曜石産地推定を実施したので、以下に報告する。

分析法	エネルギー分散蛍光X線分析法 (EDX)		
分析装置	セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光X線分析計 SEA-2110L		
分析条件	管電圧 50kV	管電流 自動設定	
	測定時間 240sec	雰囲気 真空	
	照射径 10mm		
	検出器 Si (Li) 半導体検出器		
測定元素	AI (アルミニウム)、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Mn (マグネシウム)、Fe (鉄)、Rb (リビウム)、Sr (ストロンチウム)、Y (イットリウム)、Zr (ジルコニウム)		
分析法の特徴	長所 非破壊分析 多元素同時分析 前処理不要 → 洗浄は必要 迅速分析 操作が簡単		
	短所 微量分析は不得意 表面処理 → 試料を破壊せずに測定するため、分析結果は表面を測定したことになる。 → そのため、汚れた試料、風化した試料をおげし、風化を測定したことになり、正確ではない。		
	類似した組成の標準試料が必要		
試料の洗浄	5分間 (汚れがひどい場合は15分間) 超音波洗浄機で洗浄。 さらに汚れを拭き取ってから測定。		

### 産地推定法

得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表すとする。

下記の二つの方法とも以下の指標を用いる。

指標  $\text{Sum} = \text{Rb} + \text{Sr} + \text{Y} + \text{Zr}$  とする。  
Rb 分率  $= \text{Rb} / \text{Sum}$   
Sr 分率  $= \text{Sr} / \text{Sum}$   
Zr 分率  $= \text{Zr} / \text{Sum}$   
 $\text{Mn} * 100 / \text{Fe}$   
 $\text{Log} (\text{Fe} / \text{K})$

産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。

測定結果から上記の指標を算出する。

以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

下記の二つの方法で産地推定を行う。

#### ①半羽根図法 (判別図参照)

用いる指標 図1 横軸: Rb 分率、縦軸: Mn/Fe  
図2 横軸: Sr 分率、縦軸  $\log (\text{Fe} / \text{K})$

特徴 簡単な計算であり、誰にでも作成可能  
視覚的に確認でき、分かりやすい。

推定方法 遺跡出土試料を螢光X線分析し、指標を計算。

指標を図にプロットする。

重なった原石産地を推定結果とする。

## ②判別分析（推定結果表参照）

用いる指標 算出された指標全て

特徴 各産地との類似度を距離で算出

既知の産地のどれに類似しているかを判断する方法であり、未知の産地の判別はできない。

推定方法 判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とし、当該産地は試料と2次元的に最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。

試料と最も距離（マハラニ距離）が近い産地を推定結果とする。

この距離から、各産地に属する確率を計算する。

### 推定結果表の見方

判別基準群：判別図法によって推定された産地。  
判別分析と結果が異なるときは“\*”をつけて示す。

判別分析：第1候補産地…判別分析により推定された産地の第1候補  
第2候補産地…判別分析により推定された産地の第2候補

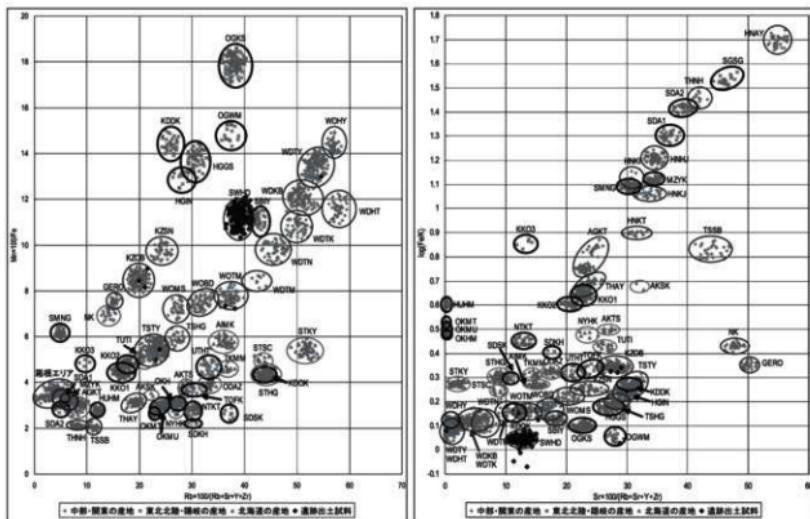
判別群 候補産地記号  
→ 判別図法による産地と通常は一致する。

距離 試料から候補産地までのマハラニ距離  
→ 値が小さいほど候補産地と類似性が高い。

確率 試料の候補産地に属する確率  
→ 1に近いほど類似性が高い。



推定結果群	記号	シリアル	新井地図	古河地図	新潟地図	福島地図	新潟県産地（参考集）		
							新潟県立歴史博物館	新潟市立歴史博物館	新潟市立歴史博物館
北陸	1	1	八日町		1346		新潟県立歴史博物館 (1), 八日町 (1), 八日町 (1)		
	2	2	糸魚川		1347		糸魚川 (1)		
	3	3	上越		1348		上越 (1)		
	4	4	長岡	新潟市立歴史博物館	1349		長岡 (1), 長岡市立歴史博物館 (1)		
	5	5	南魚沼		1350		南魚沼 (1)		
	6	6	柏崎		1351		柏崎 (1)		
	7	7	佐渡		1352		佐渡 (1), 佐渡市立歴史博物館 (1)		
	8	8	柏崎		1353		柏崎 (1)		
	9	9	十日町		1354		十日町 (1)		
	10	10	糸魚川		1355		糸魚川 (1)		
	11	11	高田		1356		高田 (1)		
	12	12	舟伏		1357		舟伏 (1)		
	13	13	新潟		1358		新潟 (1)		
	14	14	新潟		1359		新潟 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	15	15	新潟の山形	新潟市立歴史博物館	1360	1360	新潟の山形 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	16	16	新潟の山形	新潟市立歴史博物館	1361	1361	新潟の山形 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	17	17	新潟の山形	新潟市立歴史博物館	1362	1362	新潟の山形 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	18	18	新潟の山形	新潟市立歴史博物館	1363	1363	新潟の山形 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	19	19	新潟の山形	新潟市立歴史博物館	1364	1364	新潟の山形 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	20	20	新潟の山形	新潟市立歴史博物館	1365	1365	新潟の山形 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	21	21	新潟の山形	新潟市立歴史博物館	1366	1366	新潟の山形 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	22	22	新潟の山形	新潟市立歴史博物館	1367	1367	新潟の山形 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	23	23	新潟の山形	新潟市立歴史博物館	1368	1368	新潟の山形 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		
	24	24	新潟		1369	1369	新潟 (1)		
					1370	1370	新潟 (1), 新潟市立歴史博物館 (1)		



- 中部・関東の産地・東北北陸・隠岐の産地・北海道の産地・滋賀出土試料

- 中部・関東の産地・東北北陸・隠岐の産地・北海道の産地・滋賀出土試料

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WO)	ブドウ沢	WOBD	0	0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0
	高松沢	WOTM	6	5.56
和田(WD)	芙蓉ライ特	WDHY	0	0
	鷹山	WDTY	23	21.3
	小深沢	WDKB	2	1.85
	土屋橋北	WDTK	0	0
	土屋橋西	WDTN	10	9.26
	土屋橋南	WDTM	12	11.1
	古峰	WDTH	0	0
	星ヶ台	SWHD	51	47.2
	冷山	TSTY	4	3.7
	蓼科	TSHG	0	0
天城	擂鉢山	TSSB	0	0
	柏崎1	AGKT	0	0
箱根	畠宿	HNHJ	0	0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0
	黒岩橋	HNKI	0	0
	上多賀	HNKT	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0
神津島	恩馳島	KZOB	0	0
	砂糖崎	KZSN	0	0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0
	七尋沢	THNH	0	0
新津	金津	NTKT	0	0
	板山	SBYI	0	0
深浦	八森山	HUHM	0	0
	木造	KDDK	0	0
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0
	脇本	OGWM	0	0
羽黒	月山	HGGS	0	0
	今野川	HGIN	0	0

北上川	折居1群	KKO1	0	0
	折居2群	KKO2	0	0
	折居3群	KKO3	0	0
宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0
仙台	秋保1群	SDA1	0	0
	秋保2群	SDA2	0	0
色麻	根岸	SMNG	0	0
	塩竈港群	SGSG	0	0
小泊	折腰内	KDOK	0	0
	魚津月上野	UTHT	0	0
高岡	二上山	TOFK	0	0
佐渡	真光寺	SDSK	0	0
	金井ニッ坂	SDKH	0	0
隱岐	久見	OKMH	0	0
	岬地区	OKMT	0	0
	箕浦	OKMU	0	0
白滝	8号沢	STHG	0	0
	黒曜の沢	STKY	0	0
	赤石山頂	STSC	0	0
赤井川	曲川	AIMK	0	0
	豊浦	TUTI	0	0
	置戸	ODAZ	0	0
十勝	三股	TKMM	0	0
名寄	布川	NYHA	0	0
旭川	高砂台	AKTS	0	0
	春光台	AKSK	0	0
不明產地1	NK	NK	0	0
下呂石		GERO	0	0
	合計		108	100
	不可など			0
	総計		108	

## 第7章 総括

発掘調査の結果、西ノ原B遺跡は縄文時代前期前葉、中越式期、中期初頭五領ヶ台式期、貉沢式期、藤内式から井戸尻式期、曾利V式期、古墳時代前期、平安時代の集落跡であることが確認された。以下に時期ごとの遺跡の概要と調査成果を確認したい。

### 縄文時代前期前葉

第1章に記したとおり、北杜市内には中越式期の大小の集落跡が確認、調査されている。その分布は、大きく釜無川右岸の地域と八ヶ岳南麓とに分かれる。現時点で確認される両地域の特徴は、釜無川地域の遺跡は概して大規模で方形柱穴列を伴ない、黒曜石の保有量が豊富であること（長野県富士見町坂平遺跡は釜無川左岸に立地するが右岸と同様の立地傾向とみてよいと思われる）、八ヶ岳南麓地域の遺跡は複数住居が確認されるものの概して小規模で、今のところ方形柱穴列を伴わず、黒曜石の保有量もさほど多くないことである。

中越式土器は、東海地方の木島式土器を母胎とし天竜川中流域で地化する過程で成立したといわれ、諫訪湖地域を経由して釜無川と八ヶ岳南麓に分布を広げてくると思われる。そうした伝播の過程で、関東系の下吉井式の在地化した土器（坂平式など）の系統と、中越式の系統とが北杜市域で混合することも想定され、現に西ノ原B遺跡の前期前葉土器のなかには正統な中越式から離れた無文尖底、織維混入土器がある（たとえば1号住居の第8図3に対して25号住居の第46図6など）。こうした混合が釜無川地域と八ヶ岳南麓域で程度の差が会った可能性も考えられる。この点については、北杜市域の早期末から前期初頭の遺跡の様相は十分に把握されておらず、すぐに判断することはできない。詳細に時期差、土器形式と石器の組成比率などを比較すると興味深いが、記録保存の範囲を超えるため別の機会に検討したい。調査を担当して、両地域は同じ時期であっても遺跡の性格、土器の系統に若干の違いがあるようと思えることを記しておきたい。

### 縄文時代前期末葉

遺跡数がごく少ない当該時期の良好な住居跡、17号住居が検出され、注目される。北杜市域で当該時期の住居跡は数例に満たないのではないだろうか。円形、6本柱穴で、中央からやや壁寄りに埋甕炉を設ける構造は、前代の諸磯式、後続する五領ヶ台式段階の住居構造と共通する。遺跡数の減少は地域集団の人口減少、地域社会の解体と理解されることが多いが、こうした住居跡の発見から、小集団が分散して新たな環境適応を試みていた当該時期の行動が垣間見える。波状口縁、橋状把手をもつ炉体土器はすでに中期初頭の五領ヶ台式を思わせる要素を含み、この住居跡が前期末でも最終段階に位置づけられることを示している。複雑な土器様相の当該時期にこの炉体土器がどのように理解されるかも検討課題である。

### 縄文時代中期中葉

中期段階の西ノ原B遺跡の特徴は、五領ヶ台式、貉沢式、藤内式、井戸尻式と断続的ながら少数の住居が営まれている点、中期中葉には土坑群が形成される点、遺跡数が最大となる曾利式期の遺構はほとんどない点である。

前期末葉から中期初頭にかけて、北杜市域では遺跡数が急減するが五領ヶ台式II段階から大泉町寺所第2遺跡、長坂町酉春場遺跡、武川町実所遺跡、明野町桑森遺跡などで一定以上の住居を営む集落遺跡が回復していく。西ノ原B遺跡でも新たな環境適応として新天地に集落を形成する現象が確認された。

西ノ原B遺跡は、しかし、貉沢式期以降、大規模な環状集落に成長することなく井戸尻式期まで推移するようである。土坑群の性格は不明とするほかないが、それが一般にいわれるよう墓坑、あるいは貯蔵穴のどちらであっても、各時期、織維的に遺跡が利用されたことを物語っているように思われる。八ヶ岳南麓における中期集落の回復と発展、展開の検討が期待される。

曾利式期には41号住居1軒のみが確認された。南の神ノ前B遺跡、西の宮尾根C遺跡、東の藏原東久保遺跡など、

周囲には多数の曾利式期の中規模以上の集落が確認されている。西ノ原B遺跡で確認された曾利V式の住居は、土器をみる限り曾利V式でも最終末段階、加曾利E4式土器が支配的となる段階に近い遺構と思われる。当該時期にはいわゆる環状集落はほぼ消失し、少数の住居から構成される小規模遺跡が散見される程度になる。西ノ原B遺跡で検出された41号住居は、中期末葉の衰退現象を語る重要な知見をえたものである。

### 古墳時代前期

当該時期の西ノ原B遺跡の最大の調査成果は、高根町域ではじめての方形周溝墓の発見である。北杜市域の方形周溝墓は、明野町大日河原遺跡、長坂町北村遺跡、頭無A遺跡などで確認されたにすぎない。一方、高根町小池の神ノ前B遺跡、上黒沢宮尾根C遺跡、長坂町頭無遺跡、頭無A遺跡など、八ヶ岳南麓には古墳時代前期の集落遺跡がまとまって分布する地域があり、当該時期の山麓開発の拠点がそれぞれに置かれたものと推測される。西ノ原B遺跡の方形周溝墓は、本遺跡とその周辺がそうした拠点のひとつであることを示すものと理解できよう。

### 平安時代

西ノ原B遺跡調査以前、八ヶ岳南麓ではほとんど11世紀代の遺跡が知られていなかった。今般の調査で、11世紀代の集落が確認されたことの意義は大きい。

八ヶ岳南麓では、9世紀後半から集落が急増し、国家的な御牧経営などが契機となって開発が計画的に行われたとされている。ところがわずか100年程度のうちに集落数は減少し、12世紀広範に甲斐源氏の一族、逸見氏が台頭してくるとされるまでの間、人々の生活痕跡がほとんど確認されなかつた。南麓は逸見牧、逸見荘に比定されることもあるが、律令制崩壊期から在地開発領主（武士）層の台頭に至るまでの院政期の動向を考古学に把握することなくして、この比定の是非も解明しがたいところである。

西ノ原B遺跡は、院政期の庄园経営を語るには微証に過ぎないが、小屋敷遺跡、神ノ前B遺跡などとともに少しずつ、当該時期の様相が垣間見えてくるように思われる。

### 参考文献

- 秋山 敬 2003 『甲斐の荘園』甲斐新書5 甲斐新書刊行会  
長坂町教育委員会 2001 『小屋敷遺跡』  
佐野 隆 1998「桑森遺跡」『八ヶ岳考古 平成9年度年報』北巨摩郡文化財担当者会



遺跡遠景 南から



2次調査区 上空から



4次調査区遠景 南から



1号住居完掘状況 北から



3号住居完掘状況 北東から



5号住居南半完掘状況 南東から



5号住居北半完掘状況 南東から



5号住居南半遺物出土状況 西から



5号住居北半遺物出土状況



10号住居遺物出土状況



12号住居完掘状況 南から



23号住居完掘状況



17号住居完掘状況 南から



17号住居埋甕炉検出状況



20号住居完掘状況 南から



20号住居遺物出土状況 南から



26号住居完掘状況 南から



27号住居埋甕炉検出状況



9号住居南半完掘状況 南西から



9号住居埋壺炉検出状況



9号住居北半完掘状況 南から



21号住居東半完掘状況 南東から



21号住居西半分完掘状況 南東から



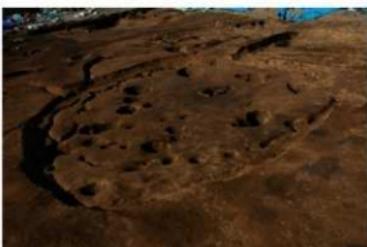
6号住居完掘状況 南から



7号・8号住居完掘状況 北東から



7号・8号住居遺物出土状況 北東から



14号住居完掘状況 南東から



14号住居遺物出土状況 南東から



14号住居炉検出状況



25号住居完掘状況 北西から



25号住居遺物出土状況 東から



41号住居遺物出土状況 南から



41号住居埋甕検出状況 南から



41号住居炉



41号住居内 429号ピット完掘状況



41号住居埋甕検出状況 西から



41号住居埋甕半截状況



41号住居完掘状況 南から



41号住居完掘状況



15号住居完掘状況 南から



16号住居完掘状況 南から



18号住居完掘状況 東から



2号住居完掘状況 東から



2号住居炭化材・焼土検出状況 南西から



4号住居完掘状況 南西から



11号住居完掘状況 南から



11号住居完掘状況 南から



11号住居内 227号土坑完掘状況



13号住居完掘状況 東から



13号住居内 230号土坑完掘状況



24号住居完掘状況 南から



24号住居地床炉検出状況



24号住居西壁沿いの床面



24号住居掘り方完掘状況 南から



24号住居内 372号土坑完掘状況



30号住居完掘状況 南から



30号住居掘り方完掘状況 南から



32号住居完掘状況 南から



32号住居内 312号ピット完掘状況 東から



33号住居完掘状況 南から



34号住居完掘状況 南から



40号住居完掘状況 南から



1号方形周溝墓検出状況 西から



1号方形周溝墓遺物出土状況 西から



1号方形周溝墓南溝遺物出土状況 西から



1号方形周溝墓南溝遺物出土状況 東から



1号方形周溝墓西溝遺物出土状況 北から



1号方形周溝墓完掘状況 左が北



29号住居完掘状況 南から



29号住居炭化材・焼土検出状況 南から



29号住居カマド



29号住居南壁沿いの礫検出状況 北東から



29号住居カマド周辺の遺物出土状況 東から



28号住居完掘状況 南から



31号住居完掘状況 西から



31号住居カマド周辺の礫検出状況



31号住居カマド



31号住居南壁沿いの状況 西から



31号住居掘り方 北西から



35号住居 東から



35号住居カマド検出状況



35号住居カマドと419号ピット



35号住居419号ピット半截状況



35号住居北壁沿いの鉄鎌出土状況



37号住居



37号住居遺物出土状況 北西から



37号住居 413号ピット



37号住居完掘状況 南東から



道路跡 南西から



1号溝 東から



2号溝 南から



3号溝 南から



基本層序



1号掘立柱建物 西から



2号掘立柱建物 東から



3次4号掘立柱建物 南から



4次1号掘立柱建物 南から



4次3号掘立柱建物 東から



4次4号掘立柱建物 西から



4次 5号掘立柱建物 東から



4次 6号掘立柱建物 東から



45号土坑



56号土坑



60号土坑と重複する埋壺炉



213号土坑



277号土坑



330号土坑



317号土坑



351号土坑



358号土坑



373号土坑



380号土坑



381号土坑



383号土坑



396号土坑



412号土坑



421号土坑



262号ビット



縄文時代前期前葉の土器



前期末葉から中期中葉の土器



古墳時代前期の土器



平安時代の土器



左：41号住居埋壺・右：平安時代の羽釜

## 報告書抄録

ふりがな	にしこはらびーいせき
書名	西ノ原B遺跡
副題	公営住宅整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告第29集
著者	坂口広太・佐野隆
発行機関	北杜市役所建設部・北杜市教育委員会
編集機関	北杜市教育委員会
所在地／電話	〒408-0115 山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1 0551(42)1375
印刷所	少國民社
発行日	2009年(平成21年)3月31日

ふりがな	やまなしけんほくとしたかねちょうむらやまにしわり
所在地	山梨県北杜市高根町村山西割1887-1番地ほか
位置	北緯35°49'56" 東経138°24'12"
調査原因	公営住宅建設
調査期間	平成17年10月18日から平成20年7月18日
調査機関	北杜市教育委員会
調査面積	7,601m <sup>2</sup>
時期	縄文時代(前期・中期)、古墳時代(前期)、平安時代
主な遺構	縄文時代前期の住居跡9軒、中期の住居跡14軒、古墳時代前期の住居跡10軒、掘立柱建物跡5棟、方形周溝墓1基、平安時代の住居跡6軒、掘立柱建物跡3棟
主な遺物	縄文時代前期前葉中越式、前期末葉十三菩提式併行、中期初頃五領ヶ台式～中期末葉曾利式の土器、石器、土偶、古墳時代前期と平安時代の土器、石器
特記事項	八ヶ岳南麓では希少な方形周溝墓を検出

北杜市埋蔵文化財調査報告第 29 集  
西ノ原 B 遺跡  
公営住宅整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告

---

2009 年 3 月 25 日印刷  
2009 年 3 月 31 日発行

発行 北杜市教育委員会  
山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1  
TEL (0551) 42-1373

印刷 少國民社  
山梨県甲府市丸の内 2-7-24  
TEL (055) 226-2125

---





## 北杜市埋蔵文化財調査報告書 西ノ原B遺跡 正誤表

頁	行／図／表	誤	正
39	第 11 図 -4	(1/4)	(1/2)
61	第 33 図 -1	(1/2)	(1/4)
88	第 60 図 -3	(1/4)	(1/2)
106	第 78 図 -2	(1/1)	(1/2)
106	第 78 図 -3	(1/1)	(1/2)
115	第 87 図 -9	(1/1)	(1/2)
124	第 96 図 -5	(1/1)	(1/2)
137	第 109 図 -3	(1/1)	(1/2)

北杜市教育委員会